Narimasu Juku

難関大学受験
成 増 塾



高 校 部
Guide Book

もくじ
CONTENTS

はじめに …… 1
秘密 その1 …… 2
秘密 その2 …… 4
秘密 その3 …… 6
秘密 その4 …… 10
秘密 その5 …… 11
秘密 その6 …… 13
成増塾によく寄せられる質問 …… 14

講師紹介

●英語科
門脇 渉 …… 18
【座談会】門脇講師と合格者 …… 34
甲斐英雄 …… 36
【座談会Ⅰ】甲斐講師と合格者 … 44
【座談会Ⅱ】甲斐講師と合格者 … 46
中島ひろや …… 49
【座談会】中島講師と合格者 …… 55
高島 穣 …… 60
真島信雄 …… 65
竹内啓介 …… 66
今村 尚 …… 69
安藤勝美 …… 70
加藤剛史 …… 71
中山洵一 …… 72
渡辺兼盛 …… 73
●数学科
押川定夏央 …… 74
高橋直人 …… 76
安田成来 …… 78
石川 学 …… 80
今城 一 …… 82
張ヶ谷守晃 …… 83
大北鑑哉 …… 84
岳野雅継 …… 86
富澤陽介 …… 88
平岡晃 …… 89
●国語科
国語総合 山下翔平 …… 90
【座談会】山下講師と合格者 …… 94
国語 岡村勇作 …… 100
古文・漢文 大友美知雄 …… 101
現代文 山田芳明 …… 102
●理科
物理 押川定夏央 …… 103
化学 森本恭彰 …… 104
化学 斉藤浩司 …… 107
生物 中嶋 寛 …… 108
●社会科
地理 尚光基政 …… 109
日本史 寺越慎介 …… 110
世界史 落合真也 …… 112

スタッフ紹介 …… 114
成増塾アラカルト …… 115
合格者の声 …… 116
直筆でお伝えする合格者の声Ⅰ … 118
直筆でお伝えする合格者の声Ⅱ … 120
合格実績 …… 121
入会金・授業料 …… 122
特待生制度 …… 123
成増塾 高卒部のご案内 …… 124
成増塾OB会＆講演会 …… 129
医学部セミナー …… 135
【座談会】現役医師と現役医学部生 … 136
合格祝賀会 特別講演会他 … 140
各メディア掲載誌紹介 …… 141

表紙・本文イラスト
齊木友美

はじめに

このガイドブックで成増塾の指導の秘密を完全公開します。



成増塾 塾長　高島 穣

都立戸山高校出身。早稲田大学法学部卒、同大学院修了。
学生時代より学習塾の講師をはじめ、英語教授歴は30年以上に及ぶ。
論理的で明快な説明が難関大学に合格した多くの生徒から支持されてきた。
大学での専門は憲法学で著書、論文多数。
2018年より千葉大学教育学部で非常勤講師として憲法を教える。

こんにちは、成増塾の塾長をしている高島です。思えば1996年に板橋区の成増でこの小さな塾をスタートしてから25年という長い年月が流れました。設立以来、多くの生徒がこの成増塾で力を伸ばし、志望する難関大学に合格し、現在、社会人、大学生として生き生きと力強く自分の人生を歩んでおられます。

私は最近、自分が尊敬しているある英語の先生（その方は、予備校界で知らない人はいないくらいの有名な英語の先生です）とお話をさせていただいたとき次のような質問をされました。それは「世間には、多くの予備校や塾があり、受験生は年々減り続けている。そんな厳しい状況の中、潰れていく予備校や塾もたくさんあるのに、なぜ成増塾は健全な経営を維持し、東大、医学部、早慶上智などの難関大学に多くの合格者をコンスタントに出し続けることができるのか」というものでした。

私は、その質問に対し、その場でとっさに適切に答えることができませんでした。成増塾が25年にわたり、難関大学に合格者を出し続けることができた理由について自分でもあまり深く考えたことがなかったからです。ですが、あとになってその理由を自分なりに考えてみると、非常に重要だと思えることがいくつかありました。

今回、成増塾のガイドブックを制作するにあたり、私がその時考えた「成増塾から難関大学にたくさんの生徒が合格できる」理由について、これからみなさまにありのままをお話したいと思います。

みなさまは、このガイドブックをお読みになれば「なぜ入塾テストさえ行っていない小さな無名の塾である成増塾から東大、医学部、早慶上智等の難関大学に続々と合格者を輩出することができるのか」という秘密の一端をご理解いただけることと思います。

なお、ガイドブックの中で使われている写真は原則として私が撮影したものです。プロのカメラマンに、実物よりきれいにとってもらうより、素人の私が撮影した写真のほうがよりリアルに成増塾の講師や学習環境の実態を伝えることができると考えたからです。

秘密その1

成増塾は、あえて、選抜テストを行わない。

成増塾は難関大学をめざす中学生・高校生のための塾です。しかし、成増塾では、多くの難関大学専門指導塾が行っているような、塾に入るための選抜試験を特に行っていません。私が説明会でこのように申し上げると、必ずと言ってよいほど「選抜テストもしないのにどうやって塾のレベルを維持することができるのですか」という質問を保護者のみなさまからいただくことになります。

まず、みなさまに知っていただきたいのは、成増塾では「あえて選抜テストを行っていない」ということです。

選抜試験をしないのにどうやって塾のレベルは維持できるのか。

成増塾では、選抜テストを行わない代わりに、受講を考えている生徒に、実際の授業を「体験授業」として受けてもらいます。そして、体験授業を受けた生徒本人が「この授業ならついていけそうだ」とか「この先生のもとでぜひ勉強したい」と思った場合だけ受講してもらっているのです。



授業では講師の解説だけでなく、生徒の理解を確認するために復習テストが行われます。

生徒が英語、数学の受講を考えている場合には、現在の大まかな学力を講師が把握するために「学力診断テスト」というものを受けていただきます。「学力診断テスト」のレベルはセンター試験と同程度です。それは「何点取れなければ塾に入れない」という選抜試験ではありません。仮にその「学力診断テスト」の点数がかなり低かったとしても（例えば、100点中20点くらいしか取れないこともあります）とりあえず体験授業を受けてもらいます。

一番大切なのは生徒本人のやる気。

では、成増塾はなぜあえて、このようなやり方をするのか。それは、私たちは「学力を伸ばすのに一番大切なのは生徒本人のやる気」であると考えているからです。これは、当たり前のことのように思われますが、しばしば見落とされてしまうことです。

どの塾にも「自分は勉強したくないが、親が塾に行けと言っているから塾に通っている」という生徒がいます。残念ながら、かつては成増塾にもそのような生徒が通っていたことがありました。私も実際にそのような生徒を指導したことがあります。しかし、そのような生徒を指導してすぐにわかるのは、自分から勉強をしたいと思わない限り、こちらがどんなに一生懸命指導しても、成績を伸ばすことはできない、ということです。そのような生徒は自分から勉強したいと思っていないので、入塾当初は多少成績が良くても、塾に入ってからも勉強に身が入りません。そ



授業の中で演習の時間が設けられることもあります。生徒は日ごろから時間の制約を意識して、入試問題に取り組むことを身体で覚えるのです。

のやる気のなさは自然と周囲の生徒たちにも伝わっていき、場合によってはクラスの雰囲気が台無しになる、ということもありうるのです。

本人が驚くほど成績が伸びることがある。

逆に、入塾当初の学力診断テストの点数があまり良くない生徒でも（むしろ相当悪い点数でも）本人のやる気さえあれば、短期間で、本人でもびっくりするほどのスピードで成績を伸ばしてくれることがしばしばあるのです。このようなことを私は成増塾でしばしば経験したため、私たちは「テストで多少点数が悪くても、やる気のある生徒の入塾を断るのはやめよう」という方針をとることになったのです。

それは、結果的に大正解でした。入塾当初は成績が振るわなかった生徒が、私たちの指導の下で急速に力をつけると、周囲の生徒に良い影響を与えます。そして、そのような生徒が、志望する難関大学に見事に合格した時、私たちは教師をやっていることに大きな喜びを見出すことが出来るのです。

合格者の声



東京慈恵会医科大学医学部合格
九島遼大さん
暁星高校

★大人数授業が苦手であった自分にとっては少人数制の成増塾はとても良かったです。先生自身が作った教材を使うのでオリジナリティがあって飽きなかったし筋の通った授業を受けられたので満足です。2年間ありがとうございました。



英語の授業をする門脇講師。門脇講師は東大をはじめとするあらゆる難関大学の問題に精通しており、その圧倒的な知識をもとに東大等の予想問題を作成します。

勉強方法を変えると成績が飛躍的に伸びる。

やる気はあるが成績が良くない、という生徒の場合、勉強の方法が根本的に間違っていることも多いのです。そのような場合、信頼できるプロ講師のアドバイスに従って勉強方法を根本的に見直すことで、短期間のうちにその生徒が劇的に成績をアップさせることも成増塾では、よくあることです。私は今までそのような事例を嫌というほどたくさん見てきました。

時には「ショック療法」も必要。

ちなみに、上でお話した「親に言われたから塾に来た」という、私が教えていた生徒については後日談があります。彼はいつもやる気がなさそうに遅刻して教室に入ってきて、授業中に寝てしまうこともありました。私はある日の授業後、彼にはっきりと「この塾は勉強したい人が来る場所だから君は、来るべきじゃない。君がやる気になるまで来ないでくれ」と言いました。本人はかなりショックを受けたようで自分なりに将来の進路などについて真剣に考えたようです。1ヶ月後、彼は私を訪ねてきて「心を入れ替えて勉強するのでもう一度授業を受けさせて欲しい」と言ってきました。彼の態度はそれ以前とは全く変わり、別人のように真剣に授業を受けるようになりました。その一年半後、彼は見事第一志望の大学に合格することができたのです。



押川講師の授業風景。授業は講師が一方的に説明するのではなく常に生徒に問いを発しながら進められます。生徒は能動的に勉強に取り組むことになります。

秘密 その2

成増塾からはいわゆる「受験名門校」以外の学校からも多数の生徒が東大や医学部等の難関大学に合格する。

ところで、みなさんは東大や医学部に現役で合格する生徒に対してどのようなイメージを持っていますか。みなさんのうちの何人かは「筑駒や開成、桜蔭等のいわゆる受験名門校に通っていて、すごく勉強ができる人たち」とか「部活や学校行事などあまりかえりみず勉強ばっかりやっている人たち」というイメージを持っているのではないでしょうか。

では、成増塾から東大、国立大医学部に合格しているのはそんな人たちばかりか、というと実は決してそうではありません。これは、私たちが「入塾のための選抜テストをあえて行っていない」こととも関係しています。成増塾には、筑駒や開成、桜蔭といった「受験名門校」以外の学校からも大勢の生徒が通っていますが、そのような生徒たちが東大、国立医学部、等の超難関大学に合格しているのです。

例えば、東大理科Ⅱ類に合格した巽厚都君は立教新座高校の出身です（彼は、中３の時から成増塾に通っていました。数学の石川講師等の授業を受けていました。彼は、ＯＢ講演会で東大でのキャンパスライフについて生き生きと語ってくれています。詳しくはＯＢ会のページをご覧ください）また同じく京都大学医学部に合格した符毅欣君は私立城北高校の出身です（彼は英語の門脇講師の「秘蔵っ子」でした。門脇講師のページでコメントがありますのでそちらをご覧ください）また、早稲田、慶応へも「その学校から合格できたらかなりすごい」という学校から続々と合格者が出ています。例えば、大妻高校出身の長澤茉由恵さんは成増塾に来る前は数学が大の苦手科目だったのに、成増塾の安田講師の指導で数学の成績を飛躍的に伸ばすことができ、見事に第一志望の慶応大学環境情報学部に合格されました。長澤さんは入試直前の模擬試験では数学でなんと全国一番の成績だったそうです。また、聖学院出身の高橋侑希君も成増塾の指導を受けることがきっかけで英語を得意科目にすることができ、第一志望の慶応大学経済学部に合格しました。（彼もＯＢ講演会でキャンパスライフについて熱く語ってくれています）

確かに、立教新座高校、私立城北高校、大妻高校、聖学院もコンスタントに立派な進学実績を出している進学校ですが、やはり、筑駒、開成といった「東大合格者上位校」ほどの目立つ存在ではありません。彼らの合格に成増塾での指導が大きく貢献していることはお分かりいただけるかと思います。

成増塾は「受験名門校」の生徒を躍起になって集めている塾ではない。

成増塾にももちろん、筑駒、開成、桜蔭といった「東大合格者上位校」の生徒は在籍しているのですが、特筆すべきことは、上にあげたような「東大合格者上位校」と比較すると「二番手」と見られている学校からも、続々と東大、国立大学医学部等の超難関大学に合格者が出ているという事実です。このことひとつをとっても、成増塾が、最初から「受験名門校」の生徒だけを躍起になって集めている塾ではないことがお分かりいただけることと思います。むしろ、成増塾では、東大合格者の数において「受験名門校」に遅れをとっている、いわば二番手、（あるいは三番手）ともいえる学校の生徒を、最大限に伸ばすことを特色としていると考えていただいて良いと思います。（ちなみに「東大合格者上位校」の一番手である筑駒、開成、桜蔭等の生徒にも成増塾の授業は大変満足していただいていることは言うまでもありませんが）

コラム

最近、比較的新しい塾の中に「急激に東大進学実績を伸ばした」と広告をする塾が現れました。私は「聞いたこともない塾が、そんなに急に東大進学実績をあげられるはずはないのに。何かおかしいな」と思いました。そこで、その塾のホームページを見てみると、その塾が「急激に東大進学実績を伸ばした」ことには「カラクリ」があることがわかりました。その塾は開成や筑駒といった「東大合格者上位校」の学校の敷地のそばに意図的に「自習室」と称するものを作り、それらの学校に通う生徒だけに無料でコピー機を使用させたり、ソフトドリンクを提供したりしているのです。この自習室に来たそれらの学校の生徒たちは、その塾の生徒として登録すれば、コピー機やソフトドリンクのサービスを受けられるので登録します。そして、登録した生徒たちが、東大に合格すると「進学実績」として人数にカウントしてしまうのです。そのような生徒も、その塾の生徒といえないこともないのでしょうが、これは、明らかに「急激に東大進学実績を伸ばした」と宣伝するためのカラクリであって「塾の指導内容がよいから東大合格者が増えた」わけではないことは否定できないでしょう。

「東大合格の進学実績をコンスタントにあげること」は正攻法でやろうとすると大変難しいことであり、一朝一夕にできることではありません。「急激に進学実績が伸びた」などと宣伝している塾の広告にはカラクリがあることも多いということに注意する必要があります。この点、成増塾で公表している東大合格者数等は、すべて成増塾で複数のタームにわたって実際に指導を受けた生徒であることは言うまでもありません。ここ数年の合格者数についてはガイドブックの合格実績ページをご覧ください。



成増塾で最も古い歴史を持つ、成増校の入り口風景。その年の難関大学合格者数を明示する、赤い看板がシンボルとなっています。



成増塾高田馬場本校の入り口付近。JR高田馬場駅戸山改札口（新宿寄りの小さな改札口）を出て徒歩1分の距離にあります。牛丼の「すき家」の奥のビルで2階は赤門クリニック、地下には美容室zingが入っています。

秘密その3

なぜ成増塾は設立以来、少人数クラスを徹底しているのか。

最近、成増塾以外の塾でも「少人数制」を謳う進学塾は増加しつつありますが成増塾は設立した24年前からすでに、最大でも定員20名以内、という少人数制指導を徹底してきました。ほとんどのクラスは10名前後で、中には定員6名という超少人数制のクラスもあります。

では、なぜ、成増塾はそれほどまでに少人数制にこだわっているのか。それは、難関大学受験指導は10名前後の人数で行う時、最も効果が上がることを私たちが今までの指導経験によって知っているからです。

大教室の授業では難関大学への効果的な対応を行うことはできない。

私は成増塾を立ち上げる前、約10年間、ある大手予備校で英語講師をしていました。私は、主として東大、医学部、等の上位クラスを担当していました。私がその時東大クラス等で教えていて思ったのは「この生徒たちは、この授業で本当に学力を伸ばせているのだろうか」ということです。大手予備校の多くでは今でもひとクラスに50人から100人、３年生の受験学年にもなると数百人の生徒が大教室に詰め込まれることさえあります。そのような授業では、受講生は講師が一方的に話すのを聞き、板書する内容を黙々とノートに写すのです。これは、予備校側からすると経営上最も能率のよいスタイルであるといえます。

ですが、その時私は「こういうやり方では教える側も教えられる側も決して満足することはできないのではないか」という疑問を抱きました。つまり、講師は、生徒がどのくらい理解しているか分からずに一方的に授業をするので、もしかしたら基礎的なことが全く抜けている生徒に、基礎を飛び越した発展的な内容を無理に押し付けていることがあるかもしれません。あるいは、逆に、基礎がしっかり出来ている生徒にわかりきっていることを延々と説明してしまうことになるかもしれません。これでは、講師にとっても、生徒にとっても悲劇というしかありません。しかし、そのような「悲劇」は今なお、大手の予備校の大教室の授業で毎日起こっているのです。そこで私は、成増塾を設立するにあたり、まず次の基本指針を決めました。

「教える人数は、一人の講師が完全に把握できる範囲にとどめる」

今までお話してきたことからもお分かりいただけると思いますが、講師は、授業をする前に、あるいは授業をしながら生徒の理解度を正確に把握することが、能率よく効果的な授業をするための前提条件となります。生徒にとっても自分がすでにわかっている箇所に関して、延々と説明を聞く必要はありませんし、また、よく理解していない箇所の説明を、わかっているものとして省略されても、全く効果は上がりません。

講師はあらかじめ生徒の弱点を把握した上で授業に臨む。

では、講師が生徒の理解度を正確に把握するにはどうすればよいか。例えば、成増塾の多くの講師は授業で扱う問題を予め生徒に解いてもらい、授業前に答案を提出してもらいます。そして、生徒全員の答案



高田馬場校舎の教室。20名の生徒が座れば満席になってしまう小さな教室。しかし、教室が小さいからこそ講師と生徒は密なコミュニケーションをとることができるのです。成増塾は設立当時から一貫してこのような小さな教室で授業を行ってきました。

に目を通した上で授業に臨むということを行っています。そのようなやり方をしているので、講師は生徒がどのくらい出来ているのかを正確に把握した上で授業をすることができるのです。つまり「A君はここを間違えている、Bさんはここを間違えている」ということを講師は頭の中に入れた上で授業をしているのです。当然、授業では、生徒がすでにわかっているところを延々と説明することはありませんし、逆に生徒が理解していない点を簡単に省略してしまうこともありません。

合格者の声



京都大学医学部合格
符 毅欣さん
城北高校

★僕がこの塾を選んだのは圧倒的なアットホーム感があったからです。高田馬場校では靴を脱いでスリッパを履けたり、校舎が空いていればいつでも自習できたりと、まあ、こんな感じです。先生と話していて夜遅くなったことも懐かしいです。そして何よりそこで生まれる友情は受験勉強を楽しくしてくれました。先生方、事務スタッフみなさん、本当にありがとうございました。

授業中にあてられることで、できなかった部分が記憶に鮮明に残る。

授業は講師が一方的にしゃべるのではなく、常に生徒に問いかけながら進められていきます。そして、講師が生徒に発する問いは、まさにその生徒が誤解している点であることが多く、あてられた生徒は、その場で自分の間違いに気づくことになるのです。

「あてられて、答えることができなかったり、間違った答えをいってしまったら恥ずかしいな」と思う生徒もいるかもしれません。

しかし、あてられて、答えることができなかったり、間違った答えを言ってしまった場合、その生徒は非常に強い印象が残るので、決して忘れることはありません。つまり、生徒は授業中にあてられればあてられるほど、記憶に鮮明に残るチャンスをたくさん得ていることになるのです。実際、合格した生徒に授業の何が良かったか聞いてみると多くの人が「授業中にあてられて答えられなかったところがすごく頭に残った」と答えてくれているのです。

以上のようなスタイルの授業は、手間はかかりますが生徒が本当に学力を付けることができる最善の指導法のひとつであると教育の現場では考えられています。そして、このようなスタイルの授業は、最大でも20名くらいまでの少人数クラスでしか成り立たないことをみなさまもご納得いただけるのではないでしょうか。

担当する講師は最高で最良の家庭教師の役割も果たしている。

また、授業後に（あるいは場合によっては授業中に）、生徒は講師にどんなことでも質問することができます。

生徒のみなさんは、授業を聞いただけでは納得できず、質問したいと思ったことが今まで必ずあると思います。成増塾では、どんなことでも講師に納得いくまで質問することができます。つまり、成増塾では、講師は、授業を担当するだけでなく、みなさんの家庭教師的な存在でもあるのです。

これが、ひとクラス50人以上の大教室の授業の場合、授業後に質問をすることはかなり難しくなります。そのような大教室での授業の場合、生徒はひとつ



特にレベルの高い生徒が受講することで有名な石川講師の授業。石川講師は生徒に実際に問題を解かせてから一人ひとりのノートチェックを行います。石川講師の実戦的な指導法で数学を得意科目にする生徒が数多くいます。

の質問をするために長い行列に並ぶことになります。また、自分の質問の順番が来ても質問の時間を５分くらいに制限されることもあります。ひどい場合には「大教室での授業では講師に質問することはできません」と事務員が平然と説明することさえあります（これは有名な予備校で実際にある話です）。

少人数クラスのメリットについて、最後にもうひとつ付け加えましょう。それは、近年の難関大学の入試問題の出題傾向と関連しています。



講師は自習をする生徒と、時には同じテーブルで椅子を並べます。生徒はいつでも疑問点を同じテーブルにいる講師に質問することができるのです。写真は懇切丁寧にどんな質問にも快く答えてくれることで定評のある甲斐講師。

少人数のクラスでしか効果的な対応ができない難関大学の入試問題例。

私は英語の授業を担当していますので、まず英語という科目でそのことを説明しましょう。東大、医学部、早慶などの難関大学では毎年、かなり本格的な英語の自由英作の問題が出題されます。例えば近年の実際の入試問題をいくつか見てみましょう。（実際の問題の指示は、東京大学以外は英語で書かれています）

【東京大学】

現在、全世界で約3,000から8,000の言語が話されていると言われている。もしそうではなく、全世界の人々がみな同じひとつの言語を使用しているとしたら、我々の社会や生活はどのようになっていたと思うか。

【一橋大学】

「次の与えられているトピックについて自由に自分の意見を書きなさい。」（ひとつ選択）

①無人島に行って暮らさなければならないとしたらあなたは何を持っていきますか。

②日本のアニメは世界の国々にどんなイメージを与えていると思いますか。

③あなたが尊敬している歴史上の人物について理由をあげて論じなさい。

【順天堂大学医学部】

遺伝子技術が社会や医療に与える影響について英語で自分の考えを述べなさい。

【慶応大学医学部】

屋外に出ることはあなたの健康にとって良いことかどうかを、理由をあげて論じなさい。

みなさんはこれらの問題を見てどんな感想をもたれましたか。

「今の自分の英語力ではとても歯が立たない」と思われた方も「この程度なら自分でもなんとか書けそうだ」と思われた方もいらっしゃるかと思います。

ただ、曲りなりにも自分なりの解答を書いたとして、一体それを誰が見てくれるのか、が気になった方もいらっしゃると思います。

常に身近に最高の指導者がいる環境。

英作文の勉強をする際、まさにそこが一番大きな問題となります。これは英語だけに限った話ではありません。数学は難関大学では記述式であることが多く、解答集に載っている以外の別解を思いつくこともあります。また、国語はもちろん、理科や社会でも難関大学の入試問題においては記述問題が非常に大きなウエイトを占めています。

もちろん、身近にそれらの問題を添削してくれる良い指導者がいればよいのですが、学校の講師に見てもらおうと思っても忙しそうで声をかけづらい、という人も多いのではないでしょうか。

通信添削の問題点。

通信添削等でこのような問題に対処すればよいのではないか、と考える人もいるでしょう。しかし、通信添削は、答案を提出してから返却されるまでかなりの時間がかかります。また、添削してある内容についてさらに質問がしたくても、添削した人はその場

にいないのだから自由に質問することもできません。

このようなことを考えたとき、やはり一番よいのは「いつでも自分の答案を見てくれる信頼できる指導者がそばにいる」ということであるということに行き着くのではないかと思います。

成増塾の指導の場では、まさにその理想的な環境が現実のものとして生徒全員に提供されているのです。講師は、授業の前後に質問の時間を十分とっているので、生徒はその際に自分の答案を見てもらうことができます。

講師と生徒が隣り合わせに机にすわる自習スペース。

また、成増塾では講師の控えの場所のすぐそばで生徒が予習・復習などをしている光景が見られます。予習・復習をしている生徒は場合によってはすぐとなりに座っている講師に質問することさえできるのです。

さらに、質問できる内容は塾の授業に関係することだけではありません。塾の教材以外のことでも、自分が受講している科目に関することはどんなことでも担当している講師に質問することができるのです。例えば、学校で今日やった問題がわからないとか、自分で買った問題集にわからない問題があるとか、どんなことでもオーケーです。大手予備校では、予備校の授業で使っている教材以外の質問は受け付けてもらえないのが原則であることとは大違いです。生徒は入試の前に、自分が受験する大学の問題を解いて講師に添削してもらうこともできます。



受験学年の生徒の質問に終電近くまで対応する甲斐講師。成増塾の講師は生徒の疑問が解消されるまで生徒に徹底的につきあいます。

成増塾の卒業生の多くは合格体験記の中で「成増塾の先生はいつも遅くまで質問に答えてくれた」とか「入試直前の時期に志望大学の過去問の添削をしてくれた」などといった感想を書いてくれます。これは、講師への質問への対応、添削指導などが、生徒たちにとって不可欠のものであることを物語っています。

合格者の声



東京大学文科Ⅱ類合格
高橋 健さん
海城高校

★僕はとにかく数学が苦手で。押川先生は、そんな僕に1対1でつきあい、根気よく抜けているところを埋めていってくださいました。受験に関する圧倒的な知識と情報量、そしてカリスマ性を持った先生方を信じて、ひたすらついていった結果が、合格に結びついたと思っています。



慶応義塾大学薬学部合格
桝田勇介さん
城北高校

★私は英語が苦手だったのですが、この塾に入ってからは英語の解き方を知ることができ英語の見方が変わりました。ありがとうございました。

★後輩のみなさまへ　これから大変だろうけど塾の先生方の言ったことをすれば伸びると思うので頑張って!



慶応義塾大学環境情報学部合格
長澤茉由恵さん
大妻高校

★私は高1の夏から成増塾に通いました。大学受験を終え、成増塾に最後まで通い、先生方の指導を受けることができ本当によかったと思います。成増塾はどの先生方もとても熱心で生徒とすごく向き合ってくれる方ばかりでした。先生方は、入試が始まった1月にも質問がしたいと連絡をすると都合をつけて必ず塾まで来て下さいました。本当にありがとうございました。

秘密その4

成増塾では なぜプロ講師しか 教えないのか。

成増塾で実際に授業を行う講師は、受験指導の経験が豊富なプロの講師です。成増塾では大学生の講師は教えていません。それは、難関大学の受験指導は豊富な指導経験があって初めてできるものだからです。これは、私自身の個人的な経験からもはっきりと申し上げることができます。私も大手予備校で教壇に立っていたとき、3年くらい講師の経験を積んで初めて自信をもって教えられるようになったことを覚えています。

学生が講師をつとめる塾は講師にアタリ、ハズレがある。

確かに学生の講師の中にも優秀な方はいます。現に、この成増塾でも、設立当初は東大理科Ⅲ類の学生さんに数学の授業を担当してもらっていた時期があります。しかし、自分で問題を解ける、ということと、人に教えることは全く別のことです。東大の問題を解けるだけで良い講師になれるとは限らないのです。学生が講師をつとめる塾はしばしば「講師にアタリ、ハズレがある」と言われる傾向があることはみなさまもご存知のことと思います。

プロ講師が教えるべき最大の理由は指導経験。

「学生よりもプロ講師のほうが難関大学受験の指導者として適している」と考えられるさらに大きな理由は指導経験の差ということです。

優秀な大学生は、自分が高校生だったときの経験だけで、指導をしようとする傾向があります。「自分は夏休みまで部活に明け暮れていたが、そのあと一気に集中して勉強して、東大に現役合格した」とか、「自分は数学が苦手だったが、この参考書をやっただけで偏差値が20も上がった」などといった自分の経験だけをもとに、指導してしまうのです。もちろん、その人にとってはそれでよかったのでしょう。

しかし、現実には、受験生はそれぞれ個性があり、学力の特性や理解力も当然のことながら全く異なるわけです。自分にあっていた方法だからといってそれがほかの人に合う方法であるとは限らないのです。ここで、指導経験の差がものを言うのです。真のプロ講師は、長年にわたる指導経験から「こういう方法が合う生徒もいるし、合わない生徒もいる。この生徒にはこっちのやり方のほうがいいだろう」と柔軟に、自分の頭の中のたくさんの引き出しから最善の方法を生徒に示すことができるのです。以上のようなこともあり、成増塾では、受験指導の経験が豊富なプロ講師だけが指導にあたっているのです。

合格者の声



慶応義塾大学法学部合格
濤岡星里奈さん
豊島岡女子学園高校

★私は高校1年生まではそれほど成績が良いわけではなかったのですが成増塾に入り山下先生と門脇先生に指導を受けるようになってからは成績が伸び、無事第一志望の大学に合格することができました。授業を受け自分のやらなければならないことを見極めてそれをしっかりこなしていけば合格をつかみとることができると思います!受験生の皆さん頑張ってください!



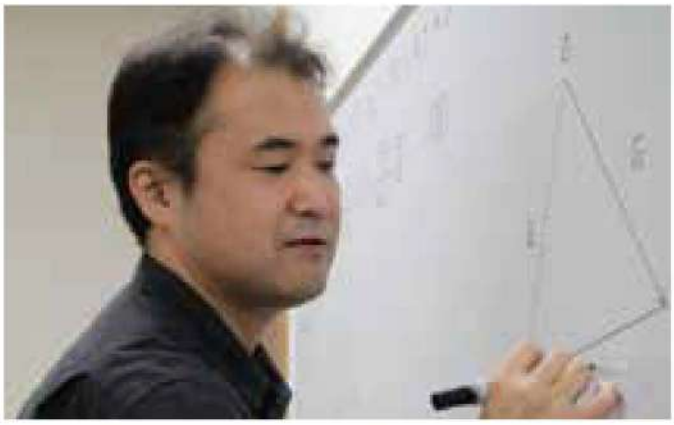
成増塾で教鞭をとる講師は、全員が受験界で最高水準にあるプロ講師です。成増塾の講師はマスコミに登場するタレント講師のような派手さはありませんが、その実力の高さは受験界でも一目おかれています。

秘密 その5

成増塾には なぜ受験界最高水準の 講師が集まるのか。

みなさんの中には、成増塾というほとんど無名の小さな塾に指導経験が豊富なプロの講師、中でも受験界最高水準の講師が集まることについて半信半疑の方もいらっしゃることと思います。なぜ、成増塾にそんなによい講師が集まると私が自信をもっていえるのか、その理由をこれから説明いたしましょう。

まず、成増塾は、講師の採用に際し「難関大学受験指導の経験が豊富なプロ講師でかつ情熱的に指導ができる人」という基準を掲げています。では、そのような厳しい基準を満たす受験界でも最高水準の講師が成増塾に集まってくるのはなぜなのか。



石川講師の授業風景。石川講師は東京理科大学で数学を教え、順天堂大学医学部の入試採点委員も歴任するほどの実力者です。成増塾の講師にはこのように大学で教鞭をとっている専門家も少なくありません。

もちろん、成増塾では講師を大手予備校以上の条件で待遇していることもひとつの要因なのかもしれません（これは以外に知られていないことです。この点に関してはホームページの講師採用の箇所をご覧いただければご納得いただけることと思います）しかし、経済的な待遇面だけでそんなによい熱心な講師が集まってくるわけではありません。それ以上に重要な理由があります。

成増塾は講師が自分の理想の教育を実現する場である。

それは一言でいえば「教師としてのやりがい」です。成増塾は、この塾で指導をしてくれる講師が最大限の「やりがい」を感じられるように様々な工夫をしているのです。

まず、各講師が担当する授業内容については、完全に講師の裁量に委ねています。どのような教材を使うかはもちろん、どのようなカリキュラムで生徒一人ひとりに入試本番までに学力をつけてもらうか、小テストや練習問題の添削をどのように取り入れるか等、まさに、講座運営の全責任は講座を担当する講師が負うことになります。

つまり、成増塾では、講座運営がすべて講師に任されるので、責任が重いのですが、反面でやる気のある講師は自分が思う通りの理想の授業を自由に実現することができるのです。講師にとってこれ以上やりがいのある場は考えられないのではないでしょうか。

成増塾以外の通常の塾、予備校では、講師が担当する講座のテキストはあらかじめ塾、予備校によって指定されています。つまり、講師はテキストの内容に不満があったり、担当している生徒とテキストのレベルが合わないと感じても、指定されたテキストを使い続けなければならない仕組みになっているのです。

私が以前教えていた大手予備校でも「こんなテキストで勉強しても生徒は力がつかない」とか「自分が担当している生徒とテキストのレベルが全く合ってない」などと文句を言う講師が多かったのを覚えています。現にその予備校では働いている講師に対して「使用しているテキストについて生徒のいるところで否定的な発言をすることは絶対やめてください」という注意がしばしばなされていました。

成増塾では、すべての講師が自分のテキストを自分で作成するので、そのような文句を言う講師はもちろんいないわけです。講師は、それまでの受験指導の経験の蓄積をもとに自分が最良と考えるテキストを作成し、最良と考える方法で生徒に教えることができるのです。

そして、成増塾で受講する生徒は、英語、数学等、複数の講師がいる場合には体験授業で実際に授業を受けた上で自分が一番教わりたいと思う講師の授業を受講することができるのです。生徒は、自分が一番受けたいと思う講師の授業を受けたとき、最も学力を伸ばすことができます。

講師は最高の授業を提供するために常に研鑽を積む。

講師のあいだでは、授業内容、教材、授業の方法に関して常に切磋琢磨が行われることになります。自分が担当している生徒がどのくらい実力を伸ばしたかは、年間三回行われる特待生試験の結果で、判明することになります。

いったん担当した生徒は合格するまで責任を持って指導する。

さらに、英語、数学等の場合、生徒はいったんある講師の授業を気に入って受講を始めると入試本番までその講師から授業を受けることができます。つまり、学年が上がっても生徒がその講師の授業を受けたいと思う限りは、持ち上がりで同じ講師の授業を受けることができるのです。

これは、成増塾以外の多くの予備校、塾では学年が変わるとせっかく気に入っていた講師の授業を受けられなくなってしまうことが多いのと大きく違っている点です。講師の側としてみれば、自分がいったん担当した生徒は、受験本番まで自分が全責任を負って指導することになるので、本当に一生懸命教える動機になるのです。講師としては「あの生徒は自分が手塩にかけて教えて東大に合格させた」と心からいうことができる仕組みが成増塾にはあるということです。学生の講師が卒業によってすぐ塾をやめることがあるのとは大きな違いです。

私は、今まで多くの保護者の方から「成増塾にはなんでこんなに熱心な先生が集まるのですか」とか「こんなに熱心な先生がいるなんて信じられません」というありがたいお言葉を頂いてきました。

私としては、講師がやりたいようにやってもらっているだけなのですが、それは、他の塾、予備校にはない大きな強みになっているわけです。



今日は、英語・数学の有志の講師が集まって「戦略会議」です。科目間の連携をとるために様々な意見が交わされます。講師はお互いに切磋琢磨するライバルであると同時に、生徒の学力を最大限に伸ばすためにはどうすればいいのか、知恵を出しあう「同士」でもあるのです。



化学の授業をする森本講師。森本講師は大手予備校の大教室でも授業を担当する人気講師です。その森本講師が成増塾では大手の5分の1の人数のクラスで授業をするのです。



個別指導をする安田講師。安田講師が一人ひとりの答案を直接チェックしています。答案構成や式の展開についてのコメントは言うまでもなく、字の大きさや配置など、どのようにしたら採点官に好印象を与え、1点でも多くとることができるまでアドバイスします。受験直前期になれば、このような指導は終電間際まで続くことも珍しくありません。

秘密その6

勉強の習慣、真の学力を十分につけられる授業時間の確保。

成増塾の特色のひとつに、年間を通してコンスタントに授業を受けてもらうことで能率よく安定した学力を身につけてもらうという工夫があります。

成増塾では、通常授業は原則として週１回あります。つまり、月に直すと４回、年間に直すと48回で、各回２時間ずつなので計96時間行われます。さらに季節講習が原則として春、夏、冬の年間３回行われ、各回8時間ずつなので、計24時間行われます。結局、通常授業の96時間と季節講習の24時間を合わせて年間120時間の授業が行われることになるのです。他の予備校、塾と比較するとかなりボリュームのある時間数と言えると思います。

長期休暇で学力が落ちてしまうことを何としても防がなければならない。

このように毎週１回通常授業を受けてもらうのは、せっかく学力がついても、夏休みなどに勉強をしない期間が続くと、学力が落ちてしまうという弊害があるからです。現に、成増塾でも以前は、夏休みには夏期講習しか行わなかったのですが、その時は嫌というほど生徒の学力低下にがっかりさせられたものでした。さすがに受験学年になれば、塾の授業がなくても必死に勉強をする生徒が多くなるのですが、それ以前の学年だと、いったん成績が上がると油断してしまう生徒が多いのが実情なのです。

そんなわけで成増塾では、かなりボリュームのある時間数を生徒にこなしてもらう仕組みを設けているのです。これによって、生徒は塾の授業だけで十分に学力を身につけることができます。どの科目にしても、他の予備校の1.5倍から３倍くらいの演習量をこなすことになります。例えば、英語に関していうと、通常の予備校の授業で扱う長文問題の数が30題程度なのに対して、成増塾では50題から100題以上の問題数をこなしています。

合格者の声



東京外国語大学合格
早稲田大学国際教養学部合格
国際基督教大学合格
柴千織さん
筑波大学付属高校

★成増塾の先生方は誰もが熱意をもって仕事をされています。二次の直前までテストゼミや（容赦ない）記述添削をしていただき、自信をもって二次試験に臨むことができました。結果は満足なものではありませんでしたが「将来こんな風に仕事ができる大人になりたい」と思える人たちに出会えた経験は貴重です。質問や不安なことは、なんでも言ってみれば先生は必ず親身になって対策を立ててくれるはずです。また、結果が思わしくなくてもさっさと切り替えることが何よりも大事だと思います。



上智大学総合人間科学部合格
田村乃愛さん
吉祥女子高校

★成増塾は授業内容が本当に充実していて、緊張感はありながらもアットホームな雰囲気の授業なので勉強は大変でしたが本当に楽しかったです。少人数のため先生との距離が近くどんな質問にも丁寧に答えて下さり、感謝の気持ちでいっぱいです。成増塾に入塾して本当に良かったです。今まで本当にありがとうございました。

成増塾に よく寄せられる質問に お答えします。

ここまでのお話で成増塾はどんな塾なのか、について大体のイメージをつかんでいただくことができたのではないかと思います。以下では、成増塾によく寄せられる質問に対して簡単に説明をさせていただきます。



第1志望の難関大学に合格した卒業生が、しばしば成増塾に顔を出してくれます。

Q. 体調不良や学校行事で授業を休んでしまった場合、フォローはしてもらえるのか。

A. 授業は毎回とても重要な内容が含まれており、私たちとしては極力お休みにならないことをお願いしているのですが、それでも体調不良や学校行事などでお休みになってしまう場合があります。そのような場合には、お休みの次の回に授業にこられたとき、講師がフォローさせていただきます。具体的には、授業時に配布した教材等をお渡しすることはもちろんですが、お休みされた回に扱った問題の解説やノートのチェックなど、休んだことがハンディにならないような工夫をしています。

Q. 塾として全国模試などを受けることがあるか。

A. 成増塾として全国模試を受験することは行っておりません。その代わりに年間３回、特待生試験を行っています。特待生試験は標準レベルの問題が出題されるので、年間３回自分の学力をチェックする良い機会になっています。なお、特待生試験で特待生、準特待生、奨学生に認定されると、授業料がそれぞれ、５割、４割、２割免除されます。

また外部の模試に関しては、例えば駿台、河合、代ゼミ、東進のどれを受ければよいか、東大、医学部、早慶上智を受けるにはどの模試が最適なのか、といったことについては万全のアドバイスをしています。また、自分が受験した模試の結果を持ってきて頂ければ、講師は担当する科目についてアドバイスをしています。

●成増塾では、年間を4ヶ月ずつの3つのタームに分けており、特待生試験は各タームの最初の月（2月、6月、10月）に行われます。第1ターム2月から5月、第2ターム6月から9月、第3ターム10月から1月です。



年間三回行われる特待生試験。試験結果は順位とともに各校舎の廊下にはり出されます。東大や医学部を志望する生徒たちはこの特待生試験を励みに勉強に打ち込みます。受講料はもちろん無料です。

Q. 異なる校舎で異なる科目を受講することはできるのか。

A. 成増塾は１科目から受講することができますので、例えば、数学を成増教室で受講し、英語を高田馬場教室で受講するといったことは可能です。

Q. 授業の予習・復習に自習室を使うことはできるのか。

A. 空き教室がある場合には空き教室を自習スペースとしてお使いいただくことができます。また、それぞれの校舎は自習スペースが設けてありますので、塾が空いている時間帯【月曜から土曜の17時から22時くらいまで】であれば自由にお使いいただけます。

Q. 塾の教材以外でも質問をすることが出来るのか。

A. 成増塾では、受講している科目については担当する講師がすべての質問に対応いたします。成増塾の教材はもちろん、学校の宿題、自習用に買った問題集、自分が志望する大学の過去問等、あらゆる質問にお答えします。



高田馬場校の自習スペースです。門脇講師に質問する生徒の皆さん。成増塾では講師と生徒の座る席に区分がありません。生徒はいつでも自由に同じテーブルにいる講師に質問することが出来るのです。

Q. 保護者が生徒の塾での勉強ぶりを知る機会はあるのか。

A. 成増塾の講師は、自分が担当している科目に関しては、生徒の学力の向上に全責任を負っていると考えています。そのため、講師は授業を行うだけでなく、生徒一人一人と密にコミュニケーションをとり常日頃、生徒の学習態度、勉強方法に関しアドバイスを行っています。
保護者様から進路相談等のご要望があるときには、塾にご連絡をいただければ可能な限り迅速に個別面談をさせていただいております。

合格者の声

巣鴨高校の同級生2人が難関大学に合格!! 成増塾にメッセージを寄せてくれました。



東京大学理科Ⅱ類合格
大島拓也さん
巣鴨高校

★成増塾への入塾が遅めだったので、わからないことも多かったのですが、先生や受付の方がちゃんと説明してくださったおかげで、快適に過ごすことができました。門脇先生の授業はとても和やかな雰囲気で、受けていて楽しかったですし、過去問や良問を授業で扱っていたので、週1回の授業で確実に実力を上げていくとともに、過去問演習まで出来て東大対策までできました。成増塾の授業だけで英語の勉強を済ませることができたので、他の教科に時間を配分することができ、合格まで着実に進んでいくことができました。受験で一番大切なのは自信だと僕は思っています。後輩の方々には最後まで諦めずに頑張ってほしいです。先生方のサポートをフルに活用して合格してください!



東京医科大学医学部合格
鴻野 暁さん
巣鴨高校

★成増塾の自由な雰囲気が良く、先生と生徒との関係が近いのが好きだった。英語を中1から習っていたのがとても良かったと思う。後輩の皆さんは、先生方を信じて頑張ってください!

Q. 入塾までの簡単な流れを教えて欲しい。

A. 成増塾では、基本的には生徒が受講しようと思っている実際の授業を「体験授業」という形でお受けいただきます。英語、数学等、担当講師の異なる複数の講座が用意されている科目については、それらの体験授業をお受けいただき、自分に一番あっている講座を受講していただきます。

Q. 成増塾で、どの科目をどの時期に受講すればよいのか。

A. ごく大まかにいうと、英語、数学に関しては高3の受験学年の前に自分が志望する難関大学の問題を自力で解くことができる基礎力を身につけることが必要です。例えば英語では、東大、医学部、早慶上智の問題を高3になった時点で、自分で読みこなせる力を付ける必要があります。この段階ではまだ入試問題を時間内に終わらせることは難しいもしれませんが「時間をかけて辞書を使えば、なんとかそれらの難関大学の英文を読みこなせる力」は基礎力として不可欠です。数学は、時間をかければ自力で解くことができることが望ましいですが、たとえ自力で解くことができなくても少なくとも「解説を聞けば、それが理解できるくらいの学力」が必要です。これらの学力が難関大学合格のための基礎力だとお考え下さい。

受験学年では、その基礎力を持っていることを前提としてたくさんの演習問題を解き、時間内に合格点をとるレベルまで学力を高める必要があるのです。

Q. 文系、理系、それぞれの科目をいつ勉強すればよいのか。

A. 英語、数学以外の科目については、以下で文系、理系にわけて説明していきましょう。

まず、文系の場合、英語と並ぶ基礎科目になるのが国語です。古典文法や漢文の句法など、古典の基礎は高2で仕上げておく必要があります。成増塾の国語科には、現代文、古文漢文をセットにした「総合国語」と、現代文、古文漢文のいずれかを集中して勉強したい生徒のための「現代文」「古文・漢文」が設けられています。また、慶応大学などの受験対策に向けた「小論文」の講座もあります。

生徒のみなさんはご自分の学習環境や志望する大学と照らし合わせてどの講座を選択するかを決めるとよいと思います。例えば「現代文、古文・漢文をバランスよく勉強したい」という生徒なら「総合国語」をとるべきですし「学校の授業で古文・漢文は充実しているが現代文は物足りない」という生徒なら「現代文」の授業をとる、といった具合です。

Q. 理系の数学についての注意点は。

A. 理系の場合、数学は数Ⅰ A、数Ⅱ B、数Ⅲを高2のうちに一通り学習しておくことは必須です。中高一貫の私立の場合、学校のカリキュラムもそのように進められていくので問題はないのですが、都立高校や国立の付属高校では、数Ⅲを学習するのが高3になってから初めて学習するのが普通です。都立高校や国立の付属高校の生徒は、学校の進度に合わせていると、中高一貫校の生徒にくらべ圧倒的に不利になってしまいます。数学の場合「学校は塾の復習」と位置づけ、必ず数Ⅲまでの内容を３年生になるまでに一通り終わらせてください。

Q. 化学、物理、生物をいつ勉強すればよいか。

A. 理系の受験ではほとんどの大学で理科二科目が必要となります。化学はいわば理系の共通科目ともいうべきもので、ほとんどの受験生は「化学・物理」か「化学・生物」の組み合わせで受験します。「化学・物理」での受験しか認めてい

ない大学が多いので、この組み合わせで受験する生徒が多数派です。もちろん、医学部や生物系の学部、農学部等では「化学・生物」での受験も認めていますが「化学・生物」での受験を考えている生徒は次のような点に注意しなければなりません。

一つは「自分は数学や物理が不得意だが、暗記科目は得意なので覚えることが多い生物なら何とか受験を乗り切ることができるだろう」という考えで「化学・生物」にしている生徒です。生物は確かに暗記が必要な部分も多いですが、難関大学のほとんどは、与えられた資料を元にその場で考えさせる「考察問題」を出題します。この傾向はセンター試験にもあてはまり、暗記だけで生物を乗り切ろうとする生徒は半分程度しか得点することができません。

もう一つは、物理に較べて生物は取り組みやすく見える反面、高得点をとるのが難しいということです。これは上で述べたように生物の問題はその場での思考力を試す「考察問題」が多く出題されることに加え、科目の性質上、教科書や参考書に載っていない、生物学の新しい動向が入試問題に反映されることもしばしばあるからです。生物を選択する生徒は以上のようなことを留意しておくことが必要です。成増塾では化学は高2で基礎固めをしっかり行い、高3で入試問題をたくさん解いていくという方針をとっています。



いつもやる気満々の甲斐講師。楽しい授業でメキメキ英語力が上がります。

Q. 文系について国立大学文系での合否のカギは。

A. 文系の場合、国立文系と私立文系に大きく分かれます。国立大学は文系に進む場合でも数学が必須科目となります。中でも、東大、一橋大などの上位国立大学では、数学の問題が難しく、数学が出来るかどうかが合格出来るかどうかのひとつの目安となりますので、十分な対策を取ることが必要です。

Q. 文系の選択科目、日本史、世界史、地理をいつから勉強すべきか。

A. 現役生の場合、選択科目である日本史、世界史の勉強のスタートが遅れ、受験に失敗してしまうパターンも多く見受けられます。そこでなるべく早い時期にこれらの科目の勉強も始める必要があります。学校の授業が充実している場合は学校の授業を最大限活用してください。ただし、難関大学の場合、学校の定期テストで9割得点できる学力があっても、その学力で難関大学の入試問題を解いてみると3割ほどしか得点できないというのが事実です。これは難関大学では、私立の場合、教科書では扱っていない事項が出題されることが多いからです。また、東大、一橋といった国立大学や早稲田や慶応の一部の学部では300字以上の本格的な論述問題が出されるので自分で過去問を解いて信頼できる指導者に添削をしてもらう必要があります。成増塾では日本史、世界史とも、大変熱心なプロ講師が指導しているので論述問題の対策も万全です。



生徒用の自習スペース。講師への質問も大歓迎です。

講師紹介

塾長がズバリ、講師の特色をホンネで語ります!

成増塾の講師はそれぞれ独自の指導スタイルを持っており、
成増塾で受講を考えている生徒は、実際に体験授業を受けた上で講座を決めることになります。
ここで、どの講師がどんな授業をするかについて、ズバリ、本音で紹介させていただきたいと思います。

英語科

門脇 涉

「東大英語」に絶対の信頼感。

【クラス定員 20 名程度】



門脇涉講師は東大大学院で社会学を研究する学者でもあり大学でも教鞭をとっています。門脇講師の授業はアカデミックでありながら楽しく、いつも笑いが絶えません。

塾長から見た門脇講師。

英語科で最初に紹介するのは門脇涉講師です。この人の講座の特色を一言で言うなら「東大に合格したいならば絶対とるべき講座」ということになります。この人は本当にすごい。入試英語を極めています。特に東大英語の分析にかけては受験界でも最高ランクにいると思います。東大受験をお考えの方は少なくとも、体験授業だけでも受けて頂きたいです。絶対にみなさんの期待を裏切らないと思います。

門脇講師は強烈な個性(カリスマ性?)で生徒をグングン引っ張って行くタイプの講師です。そのカリスマ性は並々ならぬ入試情報の収集、分析、それに裏打ちされた圧倒的な自信から発せられるものです。



いつも明るい笑顔で生徒の質問に答えてくれる門脇講師。どんな悩みも(勉強、学校生活はもちろん、人生相談まで)彼に相談すれば必ず的確なアドバイスを与えてくれるはずです。

彼の入試情報の収集は本当に半端ではなく「受験指導オタク」とも言えるほどです。ちなみに「オタク」といっても彼はいい意味での「オタク」です。性格はかなり明るく、この人がいるだけでその場がぱっと明るくなります。明るすぎてたまにうるさいと感じることもありますが(笑)。この人のクラスは緊張感がありながらも笑いが絶えず、生徒はみんな仲が良い。授業が終わったあとも質問や相談などをする生徒が多く、なかなか帰ろうとしません。さらに成増塾を卒業したあとになっても卒業生たちは門脇講師を囲んで親睦会などをやっています。



門脇講師授業風景。門脇講師に注目。ピースサインを出しています。門脇講師のこんな茶目っ気も生徒からの絶大な人気の秘密なのかもしれません。

彼の入試情報収集における「受験指導オタク」ぶりを少しだけ紹介しましょう。彼は、駿台、Z会、鉄緑、平岡、あらゆる教材や入試情報をつぶさに集めて徹底的に分析し、既存の予備校や塾を完全に凌駕する教材を開発しています。そのカリキュラムと教材の完成度の高さ、緻密さは体験授業を受けていただければ納得していただけるかと思います。



ダンボール箱でうず高く積まれた門脇講師の入試情報。これはほんの一部に過ぎません。門脇講師は駿台、鉄緑、Z会、等、あらゆる教材や模試を集めています。門脇講師はこれらを徹底的に分析し、これらを凌駕する教材を作成しているのです。

さらに、教材がすごいだけでなく本当に親身になって指導してくれます。入試直前には英作文の指導をマン・ツー・マンで行ったり、東大向けの特設講義をボランティアで行ったり「ここまでやるか?」というくらい、受験指導に情熱を注いでいます。また、指導するのは英語だけではありません。すべての科目に関して、生徒一人ひとりのカリキュラムを作成し、スケジュールまで管理してくれます。門脇クラスを受講し、東大、国立大医学部に合格した先輩方は口々に「門脇についていけば間違いない」と絶賛しています。



質問に答える門脇講師。門脇講師は英語だけでなく、すべての科目の受験勉強の方法に精通し、各科目の勉強計画や志望大学の選択、出題傾向などについて適切なアドバイスを与えてくれます。

合格者の声



東京大学理科I類合格
平野真帆さん
豊島岡女子学園高校

★門脇先生はとても誠実で生徒思いの先生です。授業内容は必要なことを効率的に学び、アウトプットできるように考え抜かれていたのに加え、授業以外でも添削や相談などたくさんサポートして頂きました。門脇先生がいなかったら現役合格は到底無理だったと思います。



門脇講師の英語テキスト。東大に合格した多くの受講生たちは「門脇講師の授業を信じてついていけば東大に上位で合格できる」と誰もが賞賛しています。



門脇講師の添削答案。簡潔に生徒の問題点を指摘するコメントが添えられています。生徒はこのコメントをもとに答案を書き直すこともあります。そのような地道な作業によって粘り強い思考力が自然に養われていくのです。

門脇講師の授業をとるべき生徒はズバリ「東大受験を志すやる気に満ちた生徒」です。反対に、向いていない生徒は「基礎力が弱く、英語を苦手としている生徒」です。門脇講師は、授業をする際、クラスの中でも最高レベルの生徒に合わせて行うため、基礎力がないとついていくのがかなり苦しくなります。もっとも、基礎力がなくても、必死で食らいついていく根性があれば、絶対に英語は得意科目になると思いますが…。



授業後に生徒と談笑する門脇講師。生徒は門脇講師との話が楽しく授業が終わってもなかなか帰ろうとしません。

合格者の声



東京大学文科Ⅱ類合格

糸井章悟さん
筑波大学付属駒場高校

★門脇先生の授業を受けていれば間違いないと思います。

▶▶▶門脇講師から糸井さんへ

東大英語特設クラスの第1期生です。高3の11月までバンド活動と文化祭準備に専念しており、とても忙しくしていたことから、無駄な勉強を極力削ぎ落としたスリムな学習計画を立ててあげました。これがかえって良かったのだと思います。東大が求めている学生像にピタッとはまる生徒であることから、「糸井君が受からずして、誰が東大に受かろうか」とボクは心から思っていました。英作文をやや苦手にしていた糸井君のために2学期後半からは徹底的に自由英作文を演習しましたが、これが功を奏しました。今後の東大英語クラス受講生のお手本になるような合格パターンを実践してくれたと思います。



京都大学医学部合格

符 毅欣さん
城北高校

★門脇先生は頭が良かったです。実に論理的に授業を勧めてくれます。少々難しい内容ではありますが、言われたことを実践すればいいだけです。さらに、授業よりも授業外のケアがすごい。授業の質問だけでなく、英語の勉強の仕方、さらには他の科目の勉強の仕方、参考書なども率先して相談してくれます。計画も立ててくれました。

▶▶▶門脇講師から符さんへ

ラガーマンらしく、京大医学部という難関を力強く見事に突破してくれました。この写真は、京大のウェブ合格発表を東大合格発表時に安田講堂の前でいっしょに確認した時のものです。あの歓喜の瞬間は今でも鮮明に覚えています。京大向けに全科目のペースメイクを示し、毎週のように進捗状況を確認していましたが、こちらからの指示を実に忠実にこなしてくれました。京大医学部を受験すると決めた時、担当講師として正直不安を感じていましたが、模試を受ける度に合格判定を着実に上げていましたし、直前期には京大向けの英文和訳と英作文について徹底した個人指導を行う中で、ボクは合格への確信を感じていました。彼の合格は、万全の京大対策による当然の結果だと思っています。



東京大学文科Ⅲ類合格

稲垣香苗さん
桜蔭高校

★高1で門脇先生の英語の授業を受け、その論理的な英文解釈に驚きました。先生の丁寧な授業のおかげで英語が得意科目になりました。また、門脇先生は英語以外の科目でも学習計画を立ててくれ、まったく想像できない夢でしかなかった東大合格がはっきりとした目標になりました。数学では高3の1年で足を引っ張っていた数学を合格レベルにまで引き上げてもらえました。途中で何度もくじけそうになりましたがその都度暖かいお言葉で励ましてくれました。生徒一人ひとりを見てくれる成増塾に通って本当によかったと思います。今まで本当にありがとうございました。

▶▶▶門脇講師から稲垣さんへ

東大合格発表の際、本郷キャンパスでお母様とお話しさせていただいたことを思い返します。ご家庭での意思疎通が合格を勝ち取る上で重要であることを改めて知りました。文系科目は得意、数学は苦手、という典型的な文系女子だった稲垣さんの勝因は、何よりも科目間での勉強の配分にあったと思います。高1から高2にかけて英語力は全国最高峰のレベルにまで達していたので、高3では英語の勉強時間を極力抑えて、その余力を数学に傾注してもらいました。その結果、数学の点数を東大合格者平均にまで伸ばすことができました。稲垣さんの性格と特性をとことん知り尽くしたボクと数学科スタッフ、そして稲垣さんとの信頼関係がなせる業であったことは間違いありません。





東京大学理科Ⅰ類合格

大久保皓理さん
立教新座高校

★私は、高3の1年間、門脇先生の英語を受講しました。門脇先生の授業は、私にとって多少難解で退屈な哲学的な長文であっても、とてもユーモラスで分かりやすく解読してくれるので、いつも楽しみにしていました。また、英語のみならず、他教科の学習のアドバイスもいただき大変お世話になりました。

▶▶▶門脇講師から大久保さんへ

大久保君は高3からの入塾生で、1年間の受講でした。高3からの受講では基礎が欠けていることも多く、授業に付いていくのもなかなか辛かったと思いますが、授業や教材に真摯に向き合う姿勢は見ていて大変心強かったです。毎回実施される授業内演習では成長の跡がはっきり見て取れたため、東大合格への軌跡を明確にイメージすることができました。特に毎回実施される自由英作文では、指導した表現や発想法をひたむきに答案に活用しようとする態度がありありと添削から見て取れました。こういった、授業内容を自分なりに消化し発展的に応用する勉強姿勢は、まさに東大生に相応しい知的態度だと思います。



東京大学文科Ⅱ類合格

橋口達さん
開成高校

★門脇先生の東大英語クラス：先生のすばらしい所は英語の授業は勿論のこと、他の教科とのバランスを考えて、得点を最大限にするプランを丁寧に作り上げてくれる所です。具体的には、僕は数学が苦手でしたが、先生の進めてくれた参考書は成績向上に大いに役立ちました。他にも、世界史から化学に至るまで、先生ほど多岐にわたる情報を蓄えた人はそうはいないと思います。先生はそういった情報を駆使してサポートしてくれましたが、受験生にとってはこの上なく心強いことでした。授業の面では余談を交えながら、楽しい雰囲気で（決してグダグダしているわけではなく）東大英語を攻略するテクニックが身につきました。和訳や英作文などの添削指導には寝る間を惜しんであたってくれました。以上、色々と述べてきましたが、僕自身、英語が早く安定したことで、他の教科に時間をさけました。先生の授業を受けたことが、合格の大きな要因だったのだと、しみじみ感じると共に、先生には感謝の気持ちでいっぱいです。

▶▶▶門脇講師から橋口さんへ

入試直後に合格を確信していた態度を見ていて、非常にたくましく感じたことを覚えています。高2で入塾した頃は非常に少人数だったので、それを活かして、単語、熟語、文法、解釈、英作文といった全範囲の学習進捗状況を毎週こまめに確認することができました。そのおかげで、驚くほど短期間で成績を急上昇させることができました。東大対策としてリスニング指導を徹底できたことも大きかったですね。また、苦手な数学の問題をいっしょに解いていたのもいい思い出です。



一橋大学法学部合格

藤樫亮太さん
渋谷幕張高校

★高1の2月から門脇先生の英語の講座を受講しました。門脇先生の英語では英文を前に戻ることなく理解することを教わり、速読・精読力が飛躍的にUPしました。また、一橋対策として自由英作文を個別に添削していただき、自分が陥りやすいくせを直してもらいました。成増塾の先生方には感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

▶▶▶門脇講師から藤樫さんへ

一橋大攻略のカギとなるのは、精緻な読解力の養成と自由英作文の攻略になるでしょう。英文読解の基本姿勢である「左から右に精緻に読解する」という作業を着実にこなしてくれたことで、難易度の高い一橋大英語を大きな武器にすることができました。また、直前期には自由英作文の個人指導に注力できたことも功を奏しました。英作文は生徒ごとに悪いクセというのがあって、これを徹底した個人指導によって克服できました。書き直した答案を何度も提出してくれた粘りのある姿勢があってこそ、一橋大英語を攻略できたのだと思います。



門脇講師が語る。

はじめまして、成増塾英語科の門脇です。まずは、自己紹介を差し上げます。

東京大学大学院在学中の2003年から成増塾で指導を開始して早18年、門脇講座は、成増塾における東大、京大、一橋大、東工大、国立大医学部、早慶大といった難関大への合格実績のうち、その大半を輩出する塾の大看板講座にまで成長しました。近頃では、おおたとしまさ著『塾歴社会』でも紹介されるなど、首都圏において難関大合格請負人としての地位を確立しつつあるように自身でも実感しています。

経歴を紹介すると、海城中学、高等学校卒業後、東京大学文科III類に現役合格し、文学部を卒業。学部では社会学を専攻していました。同大学院学際情報学府修士課程に進学し、博士課程単位取得退学（学際情報学修士）。東大には計11年間在籍していたことになります。大学院時代には「知識構成」をテーマに文系・理系の枠を超えた学際研究に取り組み、その研究成果をふまえて、現在の独自の指導法を確立しています（専門的に申し上げますと、「構成主義」という学問的立場に立って指導法の在り方を追求しています）。「学生のポテンシャルを最大限に引き出す少人数指導の理想形を日夜追求する」ことをライフワークとしており、徹底した入試研究に基づく教科を横断した受験知識を駆使して、誰しもが確実に最難関大合格を実現するメソッドの確立を目指しています。ただし、本来の指導目標は、受験の枠を超え、世界水準のアカデミズムに通用する知性と英語力の基礎を養うことにあります。これは指導開始当初から今も変わりありません。



門脇講師の小テスト。ただ闇雲に暗記を強いるのではなく、システマティックに最も能率よく知識分野を習得できるように様々な工夫がなされています。受講する生徒たちにとっては格好のペースメーカーになっています。

著書に、『門脇渉の英語正誤問題が面白いほど解ける本』『門脇渉の英語整序問題が面白いほど解ける本』(KADOKAWA)があります。また、成増塾での指導の傍ら、某有名大学で大学講師も務めています。学術系の業績としては、翻訳書や学術論文の執筆、国際会議での発表、学術辞典や大学教科書への執筆があります。

さて、上で述べた「少人数指導の理想形」とは、「学生のポテンシャルを最大限に引き出すこと」を可能にする指導であると考えていますが、以下ではその実現のために私が考案したポリシーとシステムを紹介していきます。ここから紹介する内容は、私の研究と指導経験から生まれた成果であり、他の指導機関や講座ではまず実現しえないものです。現に、このポリシーとシステムを実践することで、全国最高峰の学力を有する学生を毎年多数輩出し、難関大合格をしっかりと実現しています。門脇講座の独自コンセプトをぜひともよくご理解いただき、受講を検討してほしいと願っています。

ポリシー❶
「指導者の役割とは、わかりやすく教えることよりも、学習者の習熟度を熟知することにある。」

志望校に確実に合格する受験生と、受験に失敗してしまう学生。この違いは、受験生自身が勉強の本質を見極められているかどうかという点にあります。学習とは本来、学習者が自分の現状の学力を正しく把握することで課題意識を培い、これを元に次の学習を正しく方向付けていくものであるべきです。ですから、学習者が自分の現状に盲目であってはならないのですが、学習者自身ではこの課題意識を見落としがちですし、その後の方向性を自力で開拓するのも困難です。そこで、指導者は、学習者自身にとっての課題への「気付



パソコンに向かう門脇講師。自分が担当する生徒のデータは全てパソコンに保存し、一人ひとり、学力を最も能率的に伸ばすことができるメニューを提供します。

き」を与え、その後の勉強の方向性を明確に示す責任を有すると考えています。指導者は以上のような学習者の調整役に徹するべきであり、この指導者の役割にとことんこだわっている点が門脇講座の特長です。

さて、「わかりやすい授業」を売りにする講座は多数ありますが、これに対して私は非常に懐疑的です。わかりやすい授業を提供しておけば、本当に学力を最大限に伸ばすことができるのでしょうか？私の答えはNoです。ちょっとした仕掛けをすれば、授業をわかりやすくすることなど容易いものです。わかりやすさを第一に追求するには、授業レベルを下げ、扱う分量を減らして、懇切丁寧に解説すればよいでしょう。そうすれば、おのずと授業そのものはわかりやすくなるはずです。「わかりやすい！」と称している授業の大半が、このパターンにあたります。しかし、それでは飛躍的な成績向上は不可能です。レベルを下げてわかりやすさを追求するのであれば、全国最高峰レベルの学力に到達できるはずがありません。それに、安易にわかりやすさを追求すると、受講生自身はわかったつもりにさせられてしまい、思考作業をおろそかにする懸念があります。ですから、「わかったつもりにさせるだけの授業」は、門脇講座では一切行いません。むしろ、受講生に思考する機会を与えるために、あえてわかりやすさを犠牲にするという場面も、論理的思考力を養うには有効と考えています。**「わかりやすいだけの授業」というのは、百害あって一利なし、というわけです。門脇講座が提供しているのは「確実に成績が伸びる授業」**です。成績に直結する方法論と平素の学習の効率化を徹底した指導を行います。

指導者はわかりやすい授業を提供すればそれでよく、そこからの学習は学生自身の手でどうにかしなければいけない、という考え方にも同調できません。学習者の自学に成績向上の責任を丸投げしてしまうことは、指導者としてあってはならないと考えています。むしろ、指導者として学生の学力向上にどれだけ責任を担えるかが重要ではないでしょうか。もちろん勉強は自分でこなさなければいけないことですが、それでもなお指導者ができる限り寄り添うことで生産的な学習を可能にしてあげることが必要でしょう。

では、具体的に指導者は何をするために存在しているのでしょうか。私の考えでは、わかりやすい授業を提供することは少人数制指導者の責務としては二の次でかまわない、と思っています（わかりやすいことばかりを追い求めるのであれば、昨今のネットで配信されている映像授業でもかまわないはずです）。むしろ、**「生徒の勉強を細心の注意をもって観察し、現状の学力を入念に把握することで、今後の勉強の方向性を正しく導くこと」**こそが指導者の責務であると考えます。

少人数指導と一言に言っても、講師が一方的に話して講義はおしまい、あとの学習は生徒にすべて丸投げ、というのでは、少人数のメリットを何も活かせていません。実際のところ、そのような少人数指導の講座が巷にはゴロゴロ存在しています。そうではなく、双方向で授業が展開する中で、生徒が成果、結果を残してくれる。その成果をふまえて、さらに授業が展開していく。このようなキャッチボールが少人数制指導の理想的なあり方です。生徒が成果を残さないと授業が進行しない授業、と考えてもらってかまいません。生徒の勉強成果が授業のターボエンジンにあたる、といったイメージでしょうか。ですから、受講生が主体的に参加してくれないと授業が進まない仕組みです。主役は常に、講師ではなく生徒というわけです。

システム1
「授業内演習と授業内添削を必修化し、結果にコミットする指導を行います。」

塾の授業というと、先生が生徒に一方的に授業をする、生徒はずっと黙って講師の話を聞き続けているというイメージがありませんか？このようなイメージのまま、自分では授業を聴いてしっかり復習しているつもりでも、一週間後に授業内容が定着していない生徒はとても多いです。本人は頑張っているつもりでも、成績が伸びない。これは一見すると生徒の努力不足のようにも見えます。現に「復習不足のせいだ」と生徒側に帰責する講師も多く存在します。しかし、本当にそうでしょうか？むしろ、受講生の習熟度を把握していない講師の授業運営のやり方にも原因はあるはずです。「授業を受けたら、後は各自復習により自力で定着させなさい」というのでは、先生が生徒の成果にまったくコミットしていません。こ

れは講師の責任放棄であり、怠慢です。門脇講座はまったく異なります。**みなさんの演習と添削を中心に授業を進めていきます。**添削の充実度は、塾内は言うまでもなく、全国を見渡してもトップクラスでしょう。これは、学生の習熟度を常に確認することで学力向上という成果を把握する責任が講師にはある、と考えた末に生み出された指導スタイルです。

他の多くの講座では、先生が一方的に教えた授業内容を生徒各自が復習することで内容の定着を図りますが、これでは「本当に定着しているのか？」という定着度の確認ができず、学生が学力の向上を実感できません。先生が学力向上の責任を生徒に丸投げしているも同然です。そうではなく、門脇講座では、授業内容をふまえた演習を授業内で必ず設け、その成果を授業内で添削することで、定着度を常に確認しながら授業を進めていきます。ですから、授業は、**講義→演習→添削を繰り返す**形で展開します。これであれば、どうやったってできるようになるはずです。

毎回の授業で生徒の学習達成度を測り、その後の勉強指針を明示することが、私が行う授業の最たる目的です。もちろん講義は行いますが、講義と演習、添削が常にセットとなっていて、演習成果を授業内で常に確認できるように努めています。授業中には積極的にコミュニケーションを図り、理解度を問う発問を積極的に行います。また、授業内で演習機会を多く設け、答案を通じて理解度を確認することも欠かせません。それのみならず、授業中の演習にはできる限り添削を行っていきます。生徒が添削を希望する場合に任意に添削を実施するのではなく、授業内添削を必修化しているのが特長です。添削答案を元に講義を行うので、受講生の答案が出てこないと授業が進まない仕組みとなっているわけです。これであれば、否応にも毎回の授業で習熟度を確認することとなります。習熟度がわかっているからこそ、次の授業が展開する。この循環が成立すれば、随時指導者が学習者の学習動向を観察できるので、成績が伸び悩む原因をほぼほぼ取り除くことができます。

以上の仕組みから、門脇講座では添削をとても大事にしています。たとえば、高1の授業では2時間のうち1時間は、もくもくと演習と添削を繰り返す時間帯が設けられています。授業中、私はひたすらに皆さんが書き上げてくる答案と向き合い、添削を続けています。この作業を毎週継続してもらえれば、皆さんの学力達成度を常に確認できるので、今後の勉強を正しくナビゲートできます。また、勉強をしている中で自分の学力の向上を実感することは難しいのですが、添削答案が即座に戻ってくるので、学力達成度を学習者が日々自覚できることになります。これはおのずと、学習へのモチベーションを上げることにつながります。自分の立ち位置を意識することで正しい勉強のかじ取りを行っていけるシステムになっていますから、納得して学習を進めていけるわけです。この点で、授業内演習と授業内添削を必修化するという指導方針は、学習の本質にかなった指導方針と言えるでしょう。

ポリシー❷
「思考と表現に能動的に取り組むことで、問題解決能力は向上する。」

授業を聞いて、復習と称してその授業内容をなぞるだけでは、英語力が劇的に向上するとは到底思えません。目指すべき学力水準は、「わかる」ではなく、「できる」という水準です。つまり人から聞いた説明を聞いて納得する能力ではなく、自力で問題を解決する能力を養成することに授業の主眼があります。そのため、門脇講座では演習の重要性を解いています。自分でしっかり考え、しっかり表現するという、愚直な作業の積み重ねこそが、学力向上のカギとなるのです。



全国の難関大受験生に向けて、門脇先生が二冊の問題集を上梓しました。門脇先生の高い実績と評判を聞きつけた出版社から、執筆依頼があったそうです。難関私大は言うまでもなく、東大や一橋大の英語の急所を突いた内容で、従来の類書をはるかに上回る出来に仕上がりました。

私はよく、「わかったつもり症候群」と呼ぶ症状を指摘します。これは、「勉強とは、人から教わったことを理解すること」と自分で思い込んでいる受験生のことを指しています。そのように思い込んでいまっているのでたちが悪いのですが、実際に問題を解かせてみると、見事なまでに解けていないのです。この「わかったと思い込んでいる」状態は非常に危険です。受験生自身には自覚がないのかもしれませんが、この症状に陥っている受験生は案外多いのです。

この症状を脱するには、不断に演習を積み重ねることで、出来ない自分と向き合う他ありません。そのような演習機会を与えることが講師の務めでもあります。ですから、講義を一方的に提供するばかりの独りよがりな指導ではなく、学習者が考え表現する演習をひたすらに重んじる指導を追求しています。皆さんに問題と取り組む機会を多分に提供しているのは、このようなポリシーによるものです。

システム2
「反転授業を採用することで、思考し表現する演習を十分に確保しています。」

門脇講座で扱う問題の大半は、記述問題です。国公立大は記述問題、私大は客観問題という傾向がありますが、私大志望者であっても記述問題を扱います。客観問題（記号式）ばかりをやっていると、消去法に頼りやすく、まぐれで正解に当たってしまうことも多いため、「自分が何がわかっていないのかわからない」という状態に陥りやすくなります。よって、自分が苦手な部分やできていない部分を自覚するには、客観問題よりも記述問題の方が適していると言えます。

また、自分なりの表現を考え抜くという作業は、思考力の養成ともかかわります。客観問題ではすでに模範解答が出題者によって与えられているのに対して、記述問題では適切な表現を自分で考え抜く思考作業が不可欠です。この思考作業という経験を多く積んでいる受験生は、周りの受験生と学力的に大きな差をつけることができます。

さらに、門脇講座では英作文の作業がかなり多く設けられています。かつての大学受験英語は知識量と読解力の勝負でしたが、近年の英語入試のトレンドは4技能を問う傾向にあり、国公立、私立に関わらずライティングの問題が増加傾向にあります。ですから、ライティング力が合否を決する傾向にあると言えます（特に、東大、京大、一橋大、早慶大看板学部に、この傾向は顕著です）。ライティングは苦手にする学生が多く、対策が後手後手に回りがちなため、周りの受験生に差をつけるためにも、長期的なスパンで添削を通じたライティングの養成を図ります。

以上より、授業内で演習と添削の時間を多く割くため、授業では単元の導入にあまり時間をあてることができません。そこで、オリジナルテキストに書いてある導入部分を予習段階で理解してもらうことになるのですが、テキストを読むだけではわかりにくい部分も特に初学では多いため、同時に導入部分を解説した動画教材を配信しています。

動画教材を用いた授業スタイルは「反転授業」と呼ばれています。反転授業とは、「自宅で予習ビデオによる基礎知識のインプット学習を行い、教室では問題演習などアウトプット学習に取り組む」という授業スタイルのことで、近年にわかに世界的な脚光を浴びている指導法です。反転授業により、導入をスムーズに行うことができることはもちろん、授業では演習時間を十分に確保できるため、授業内演習による基礎事項の定着に大きく貢献します。学力というのは、人から一方的に習っただけでは伸びるものではなく、実際に自分の手と頭を使って試行錯誤することでしか成長しません。インプット以上にアウトプットが大事なのです。そのため、授業内に演習機会をたくさん設けるための工夫として、反転授業が導入されていると理解してください。



担当する生徒が演奏する音楽に耳を傾ける門脇講師。門脇講師は音楽にも造詣が深いのです。

以前より、指導者は学生の自学学習に対してもできる限り深く関与できることが望ましいと考えてきました。そのため、授業時間を終えれば講師の仕事はそれでおしまいではなく、家庭学習に対しても指導

が及ぶ体制を追求してきたのですが、反転授業の採用によりこれも実現されつつあります。門脇講座が目指すのは「授業と平素の自学自習を連携させ、最短距離で確実に志望校に合格する指導」です。授業だけでなく、授業と自学自習をいかに効率よく連動させて勉強を進めていくのか？この問題意識を突き詰めた成果が「反転授業」なのです。

ポリシー❸
「年間で偏差値を最低10上げる!」

門脇クラスでは、**「年間で偏差値を10上げる」**ことを公約としています。といっても、無理な速習や過度な「ガリ勉」は一切不要です。勉強の方法論を間違えることなく地道に継続できれば、必ず達成できる目標です。これは、卒業生たちが毎年結果として証明していることです。

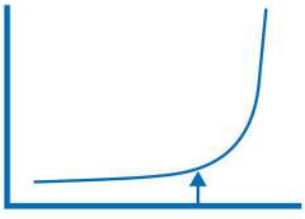
門脇クラスでは、**高1、高2の段階では入塾時の学力を不問**としています。それは、年間で偏差値を10上げられれば、入試を迎える頃には確実に偏差値70を達成しているはずだからです。そうすれば、東大・京大をはじめ、ほとんどの大学入試で高得点をとれるようになるはずです。

毎年、門脇講座には全国100番以内の成績をとる生徒が数名おり、他の受講生たちも、たいていが駿台全国模試で偏差値65、河合塾全統模試で偏差値70をゆうに達成しています。といっても、受講生の全員がもともと英語が得意だったというわけではありません。現に、高1入塾当初には偏差値50を切っていた学生が、高3を迎える時点で駿台全国模試全国100番以内の成績をとるといった成績向上を実現しており、同様の目覚ましい学力向上を多くの卒業生たちが達成しています。

では、なぜこのような学力向上を達成できるのでしょうか？それは、英語という科目特性を熟知した上で対策を講じていることに起因しています。

右のグラフは、英語の成績上昇のイメージです。

英語の勉強というのは、勉強時間と学力・成績が正比例してくれません。むしろ、当面は低空飛行が続きます。これが辛いところですが、一定の時期を過ぎると急上昇する時期（テイクオフ）を迎えます（これは「臨界点」と呼ばれます）。矢印にあたるところがそれにあたりますが、これは基礎を一通り定着させた段階を表しています。**英文読解や英作文では、語彙、文法、読解技術という基礎の3点セットが全てそろわないと、まともに解きこなすことができません。**ですから、これらの基礎が体系化されるまでは、成績は横ばいのままです。しかし、**3つの基礎がそろいさえすれば、成績は一挙に上昇カーブを描きます。**ですから、**「基礎の定着を一年で」などと悠長なことを言わずに、短期間で3つの基礎を網羅する工夫をすべき**なのです。



システム❸
「スパイラルカリキュラムとスモールステップ。」

語彙、文法、読解技術という基礎3点セットを早期に体系化できるよう、カリキュラムについては、高速学習を狙いとして策定してあります。多くの予備校ではカリキュラムを一年かけて一周するのですが、それでは年度の初めに習ったことを年度の終わりには忘れてしまいます。学習で重要なのは、反復学習によって短期記憶を長期記憶に転じる工夫です。ですから、カリキュラムを一周するのに、4カ月とか6カ月といったより短い設定にすることにより、反復学習の機会を増やし、確実な長期記憶を達成するように配慮しています。

門脇クラスは、他のどの講座よりも早くカリキュラムを回すことで、同じ内容に何度も触れる機会を設けているのが特長です。1年間で全内容を1周するペースだと、反復する機会が減ってしまい、様々な事項を忘れてしまいがちです。むしろ、短いスパンで周回数を増やし、反復の機会を増やす方が確実な定着が可能となります。

門脇クラスでは、同じ内容を中長期的に反復する「スパイラル・カリキュラム」を採用することで、学習内容の確実な定着を心がけています。よって、1年間で全内容を1周するというカリキュラムは採用していません。**1ターム（4か月）、もしくは半年で全内容を1周します。**高1（初級英語）で2周、高2前期（中級英語）で1周、高2後期（上級英語）で1周、といった具合です。高1から高2の間に全4周する計算です。このように中長期的にレベルを上げながら内容を繰り返すことで、長期記憶として確実に定着し、知識や技術の体系に

穴ができないように配慮しています。

以上より、4か月もしくは半年という期間から逆算して、毎週の授業内容を設定しています。そのため、**一つ一つの授業内容を定着すれば、最短4か月で入試英語に必要とされる事項を俯瞰することが可能です。**

	英文法・語法	英文解釈	備考
高1第1ターム（3月~5月）初級英語	初級英文法・語法（導入編）	初級英文解釈（導入編）	別途、長文課題、英作文を実施。
高1第2ターム（6月~9月）初級英語	初級英文法・語法（1周目）	初級英文解釈（1周目）	別途、長文課題、英作文を実施。
高1第3ターム（10月~1月）初級英語	初級英文法・語法（2周目）	初級英文解釈（2周目）	別途、長文課題、英作文を実施。
高2前期（2月~8月）中級英語	中級英文法・語法（3周目）	中級英文解釈（3周目）	別途、長文課題、英作文を実施。
高2後期（9月~1月）上級英語	上級英文法・語法（4周目）	上級英文解釈（4周目）	別途、長文課題、英作文を実施。
高3（2月~1月）入試英語実戦演習	知識問題（語彙、文法）、長文読解、英文和訳、要旨要約、和文英訳、自由英作文、リスニングなど、入試で扱われるすべての内容を演習する。東大英語クラスでは、東大の過去問を40年分近く扱う。		

教材については、スモールステップと体系性を重視しています。

スモールステップとは、目標を細分化して簡単な内容から小刻みに達成していくことで、最終目標に近づいていく指導手法です。無理な目標ではなく、大目標から逆算して確実に達成できる目標を細かく設定することで、挫折することのない学習を実現しています。特に、反転授業教材にはスモールステップが色濃く反映させています。

体系性については、現行の入試問題において必要十分な知識と技術を網羅的に扱っている、ということです。他の予備校の授業や他のクラスでは、もっぱら要点だけをかいつまんだ授業が行われることが多いのですが、これでは知識や技術の不足が生じてしまいます。そのような不足が生じないよう、知識と技術を網羅的に体系化した教材となります。要点しか学習していない学生と、知識を網羅的に体系化した学生では、入試結果に大きな差が付くのです。

クラスによっては市販教材を購入して自学を推奨する講座もあるかもしれませんが、門脇講座ではその必要はありません。自学自習も講座のオリジナル教材で十分です。現行の入試問題に合わせた必要十分な質と量のカリキュラムとなっているため、原則的に市販教材は不要です。自学自習時間を満たすのに十分な教材量を提供します。

生徒に市販教材を買わせて勉強させるというのは、私自身はどうしても納得がいきません。そもそも、市販教材に頼るのは講師の怠慢ではないか、と私個人は思っています。まともな講師ならば、自作教材に圧倒的な自信を持っているはずで、市販教材などには頼る必要はないのです。市販教材は門脇講座の教材と比べるとおおむね出来が悪いため、自学を市販教材に頼るのは危険であるとすら考えています。門脇講座の教材を全面的に頼って、受験まで勉強を継続してください。

ポリシー❹
「直読直解による正しい英語運用を通じて、精読と多読を矛盾なく実現する。」

精読と多読は相反するものとして語られることが多いでしょうが、私の意見は違います。文法と語彙を正しく理解していれば、この両者は対立するものではなく、むしろ両立するものとして確立することが可能です。具体的には、「直読直解」（そのまま読んで、そのまま理解する）の技法を習得することで、精読と多読は矛盾なく実現可能です。

昭和の時代より、英文を解釈する際、ピリオドまで読んでから二度読みや返り読みでもかまわないから正確に解釈することが励行されていました。しかし、そのような時代はすでに終わりつつあります。**高速の情報処理を求められる昨今、長文化する中で、返り読みや二度読みでは難関大は攻略できません。**近頃の成績優秀者の間では、「直読直解」はすでに常識となっていて、返り読みや二度読みを実践している上位生はまずいません。現に、門脇講座の受講生たちは、受講開始から半年もすれば、違和感なく直読直解を実践しています。学習当初は難しく感じられる直読直解作業も、正しい理論を学び、適切にトレーニングを積み重ねていけば、誰でもが実践可能なのです。

そもそも、英語は左から右に文章を構成し処理する原理・システムを有しています。ですから、**二度読みや返り読みは、英語を構成・処理する上で本来不要な**

はずです。正しい文法知識をきっちりと有していれば、二度読みや返り読みは一切不要というわけです。文法と語彙の学習は、直読直解のためにあると言っても過言ではありません。裏を返せば、直読直解を否定して二度読みや返り読みに依存する読解手法は、文法理解の欠如を証明していると言ってもいいでしょう。ですから、正しい文法と語彙の理解を手にすることで、一読で英語を理解するスキルを身に付けましょう。

近年の大学入試英語は長文化傾向が進み、速読力が求められる試験へと変貌しています。難関大で求められる速読力は150 wpm(words per minute)です。これを達成するには、英語を語順のままに理解するしかありません。返り読みや二度読みするのではなく、左から右に英語の語順のまま英文を理解する。一読で英文を理解し、ピリオドにたどり着いた時点ですべての意味がとれている。このあるべき姿を目指さない限り、いつまでも速読は実現できません。

直読直解といっても、やみくもに左から右に目を動かせばいいわけではありません。これは文法ルールを無視して、やみくもに単語をつないでいるにすぎません。また、すべて英語のまま考え、思考プロセスに一切日本語を介在させてはいけない、というわけでもありません。この厳しすぎる条件を設けてしまうと、深い理解を妨げることにもなりかねません。難解な英文を深く理解しながら精読する上では、日本語が介在せざるを得ない場面は多いでしょう。ただし、日本語が介在するからといって、決して「二度読み」「返り読み」になる必要はなく、日本語を介在させながらの直読直解は可能です。これを可能にしているのが、文法と語彙を基盤とした直読直解の技法です。正確な文法・語彙の知識と様々な読解技術を駆使しなければ、「正確かつ速く」直読直解することはできません。この知識と技術を体系化する作業が授業のカリキュラムにあたると思ってください。カリキュラムを一通りこなしてもらえば、半年後には違和感なく直読直解できるようになるはずです。

システム4
「精読と多読をシームレスに連動させた復習用教材。」

ろくに理解できてない素材をひたすら多読したところで、英語力を最速で高められるとは思えません。むしろ、精読により語彙や文法、構文への理解を深めた上で、それを繰り返し多読するのが有効です。ここで言う精読とは直読直解による精読であり、ピリオドまで読んでからの返り読みや二度読みのことでは決してありません。「精読＝返り読みや二度読みを許容するもの」という思い込みが一部の指導者にもはびこっていますが、この誤謬はこの際捨て去ってください。

精読を実現しているのが、各学年で配布される「復習教材」です。復習教材では、英文への理解を深めるための解説がこれでもかとばかりにしつこく記載されています。年間の復習教材は膨大な量に膨れ上がりますが、理解を深める上では重要な内容ばかりです。その後に、「アフターケア教材」という白文と虫食い英文が用意されています。これを用いて、多読に励みます。虫食い英文は、ところどころが空欄になっている英文で、英文再現(「復文」とも呼ばれます)をする練習素材となっています。精読用の復習教材と、多読・複文用のアフターケア教材により、精読と多読・復文を支障なく連動させて学習することが可能です。

門脇講座における速読力養成トレーニングについても説明しましょう。速読力を150wpm(words per minute)まで上げたいとしましょう。このとき、長文を60wpmで読んだ経験値をいくら積んでところで、いつまでも60wpmのままです。そうではなく、特定の読解素材で60wpmを150wpmにまで引き上げたという経験値を積み重ねなければ意味がありません。ですから、素材の数をやたら増やすのではなく、限られた数の素材でかまわないので、それを繰り返し何度も多読することが重要です。具体的には、良質な難関大入試長文を100本、繰り返し多読してスラスラ読めるようになれば、たいていの入試は攻略できます。もちろん、100本スラスラ読むまでには、事前の基礎固めが必須ですが、この数値を一つの長期的な目標地点として設定しておきましょう。ちなみに、高3「入試英語実戦演習」では、この目標を確実に達成できるようにカリキュラムが設計されています。

ポリシー5
「読解を中心として、4技能をバランスよく運用する。」

2020年度以降、共通テストでリスニングテストが

拡充され、リスニングの配点比率が上がる傾向が顕著となりつつあります。また、4技能試験による資格取得が入試において有利にはたらく場面も増えていくでしょう。だからといって、4技能試験対策のために4技能を取得すべきだという考え方には、私はやや懐疑的です。4技能試験そのものを目的とするのではなく、むしろ**リーディング力や精読力を高める目的であっても、4技能を併用する学習法が有効**であると考えています。リーディング力を高める目的だからといってリーディングばかりに集中するのではなく、4技能を常に併用することを意識しながら学習に励んでください。

具体的には、リーディングの勉強でも、長文の音源を利用しながら、リスニングとスピーキングを並行しましょう。これは「音源を利用した音読」という手法にあたります。これが有効である理由は、インプットした内容をほぼ同時にアウトプットすることで複数の感覚を刺激し、リーディングだけの学習よりも脳が活性化され、理解した内容が長期記憶に残りやすいためです。ですから、リーディングの勉強においても、音源は常に必須の教材となる、という自覚を持ちましょう（ゆえに、読解素材に音源がつかない授業は、極力忌避すべきです）。



カメラを向けると思わずピースをする門脇講師。いつもサービス精神にあふれてます。

4技能をバラバラにとらえると、英語の勉強負担はとてつもなく膨らんでしまいます。高校生はとかく忙しいのですから、4技能を分けて考えてしまうと、英語の学習負担が膨らみ過ぎてしまい、他科目の勉強にも支障をきたしてしまいます。また、4技能をバラして考えると、何からどのような手順で勉強していいのかもわかりかねることでしょう。ですが、4技能をバラバラにとらえる必要は決してありません。むしろ、**4つは有機的につながっているのであって、同時に活用するものだと理解すれば、負担は少なくなります。**

勉強の中心はリーディングでかまいません。他の3技能のトレーニングに比べて、リーディングの勉強の方が、語彙や文法への理解を効率的に深めることが可能だからです。ただし、リーディングと同時並行で他の3技能を活用すれば、リーディングに続いて他の3技能も自然と後からついてきます。

システム5
「音源配信を行い、音声を併用した読解中心型4技能トレーニングを行っています。」

門脇講座では、**読解系教材にネイティブによる音声教材が付属**します。英文読解の勉強であってもネイティブ音声が不可欠。これは、現在の英語教育界ではもはや常識です。ですから、音声教材を併用しない語学学習だけは、絶対に避けましょう（読解教材を読み上げる音源が併用できない講座は、受講価値ゼロと考えてもよいくらいです）。常に音とともに語学に取り組むように意識してください。重要な点は、リスニングに特化したテキストではなく、リーディング素材に音声教材を備えている点です。読解を中心に4技能を併用する学習スタイルなので、リスニング特化教材を必要とするわけではありません。

復習の際には、ただ授業内容の理解を確認するだけでなく、**音声を利用したアウトプット**に必ず取り組んでください。

具体的には、音声を利用しながら音読をしましょう。やってほしい作業は、以下の3つです。

①オーバーラッピング＝「英文を読む」と「音声を聞く」を並行しながら、音読する。

②シャドーイング＝英文を見ずに、音声を聞きながら、後に続けて音読する。

③ディクテーション＝英文を見ずに、音声を聞いたら、英文を書いて再現する。

以上の音読作業は、語彙や構文、意味をすでに理解した英文を必ず利用してください。まずは、精読によるお膳立てが大事です。復習で理解を深め、その後に音読作業に移行します。音読作業は、頭で理解した英語を自然な英語として身体に叩き込む作業で、この講座では理解中心の復習と区別するために、「アフターケア」と呼んでいます。アフターケアでは、必ず書き込みのない白文の英文を素材に取り組みましょう。書き込みした英文を使用すると、その情報に依存しながら理解するため、自然な英語処理になりませ

ん。よって、授業では必ず白文を提供しています。

音読作業のメリットは、主に3点です。1点目は、音読では返り読みができないため、英語の語順のまま読まざるを得ないという点。音読によって、直読直解を強制するわけです。返り読みを矯正し、直読直解を徹底するツールとして、音源は有効なのです。左から右に自然に英語を処理する習慣を身につける上で、音源以上に有効な素材はないと考えましょう。2点目は、速読力の向上です。ナチュラル・スピードに触れる習慣は、速読力を引き上げるのに好都合です。マラソンのペースメイカーをイメージしましょう。3点目は、リスニング力向上です。正しく発音できない単語については、発音をそもそも誤解しているため、その単語を聞いても理解できないのは当たり前です。ですから、正しい発音を身につけていないと、リスニング力はなかなか向上しないのです。音声併用の音読を通じて正しい発音を身に付けましょう。

言語とは、文字である以前に音なのです。音声を併用した読解学習は、聴解力アップだけでなく、直読直解や速読力向上など、様々な点でメリットを生みます。英語を短期間で飛躍的に向上させる最大のコツが、音声を中心とする学習スタイルなのです。以上より、**読解素材と音源素材は、英語学習の「車の両輪」と考え、いずれも欠かさないようにしたいものです。**今日では音源をスマートフォンやタブレットに入れておくことで、いつでも英語の音に触れることが可能です。ですから、日常生活の中に英語の音を取り入れておく習慣を養ってほしいと思います。何気なく続けている英語との触れ合いが、長期的に見れば大きな成果として結実するはずです。

ポリシー❻
「無機質な丸暗記を不要とする、理解を重視した知識ネットワーク構築を目指す。」

英語が嫌いになる理由の第一位は、「暗記すべき事項が多すぎる」というものではないでしょうか。英語学習において、たしかに暗記という要素は避けては通れません。暗記すべき事項は必ず存在するので、そこは覚悟してください。しかし、すべてが丸暗記だと思われると、英語への苦手意識を克服するのは大変難しくなります。そこで、指導者は暗記負担をなるべく減らすために様々な工夫をこらしています。私も、これまでの指導経験を通じて、さまざまな工夫を開発してきました。たとえば、多義的な前置詞について、それぞれの前置詞がもつコアイメージから多義的な用法を整理する手法が今日一般的になりつつありますが、私は独自に9つの前置詞のコアイメージ同士を関連付けるアニメーション動画によって、前置詞のイメージを脳裏に焼き付ける教材を開発しました。これは前置詞を苦手とする受験生には画期的教材であるとの評価を頂いています。このような、従来見たこともないような教材をさまざまに開発しています。

さて、単語や文法を覚えるときに、日本語への訳し方を覚えて満足していませんか？それでは表面的に単語や文法を覚えたにすぎず、単語や文法を本当の意味で理解したとは言えません。

たとえば、abstractという単語があります。これは「抽象的」と訳されますが、では「抽象的」の意味を正しく説明できるでしょうか？もし、それが説明できなければ、abstractの意味を本当に理解できているとは言えません。また、助動詞のhad betterは「～した方がよい」と訳すと覚えて満足していませんか？この助動詞は、主語が二人称だと警告や脅迫的なニュアンスを含み、高圧的な響きがしてしまいます。そもそも、「それをしないととんでもないことが起きるぞ」といった含意があるため、使用する場面には慎重になるべき表現です。ですから、もっぱら自由英作文などでは使用する場面はありません。このように、表面的に日本語への訳出法を知っていたところで、正しい語彙や文法知識をもっていないと、正しい英語は書けませんし、また深い読解に至ることもできません。ですから、**和訳の仕方を覚えて満足するのではなく、どのような用法や機能をもち、どのような場面や文脈で用いる表現なのかを理解する必要があります。**そして、和訳では表しきれない表現のもつイメージをつかまえておくことが、理解の補助となるでしょう。

語源や由来を知ることで、一見バラバラに見える事項もつながりを持たせて覚えることも可能となります。involveという単語は、in + volveを語源とします。volveは「回転」を表す語根で、revolveやevolveといった単語とつながります。こういった理解を深めていくと、知識は相互につながりをもっていきます。この「知識のネットワーク化」を図ることで、知識を単発

で覚えた場合よりも忘れにくく、長時間持続できる長期記憶を形成することが可能となります。

以上のように、語彙や文法の学習には、丸暗記にならないようにする多様な工夫が必要です。4択空欄補充のような文法問題や単語集による棒暗記など、「文法や語彙は機械的作業だ」というイメージを何とか覆してほしいと願っています。そして、**文法や語彙をリーディングやライティングに積極的に活かす姿勢を養ってほしいものです。**ですから、消去法や丸暗記に頼れば答えが出るような文法・語彙学習ではなく、文法や語彙の正しい理解を深める作業が不可欠です。

システム6
「語彙習得プログラムと文法テキストでネットワークを構築します。」

英語指導者の中には、授業で語彙を体系的にまとめる作業を行わず、語彙学習を生徒任せにしてしまう講師も多いようです。実際、多くの予備校ではそうなっているのが現状で、語彙の勉強法はレクチャーしつつも、実際の勉強はと言うと単語集の学習を生徒に促して、それでおしまい、というのが実情のようです。このような語彙学習を生徒に丸投げさせてしまう英語指導の実態を私は非常に憂慮しています。なぜならば、語彙は英語学習の根幹にあたるからです。

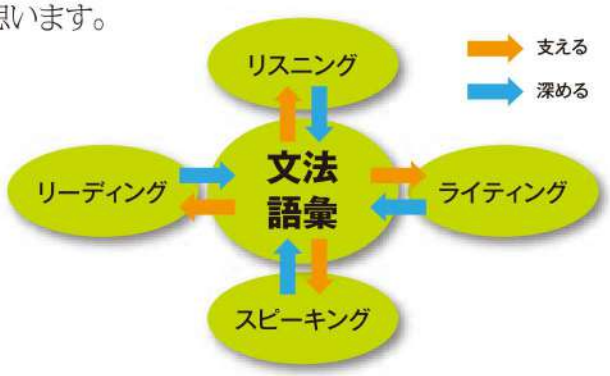
以上の問題意識から、2021年度より「語彙習得プログラム」を開始することとしました。これは、単に単語集で和訳を棒暗記するのではなく、作業・活動を通じて語彙を理解することを可能にするプログラムです。たとえば、絵を描く、文を作る、気持ちをこめて発話する、大げさに身振り・手振りを加える、激しく体を動かすなど、作業・活動をともなう画期的な語彙学習プログラムとなっています。単語と日本語による語義を一対一対応で結び付けるだけだと、表面的な知識にとどまってしまい、深い知識として定着とはなりません。言語を身体イメージや身体活動と結びつけることは、語彙のイメージを身体化する工夫として、理解を深めながら語義のイメージを強く頭に残すはたらきを有します。

決して単語集の存在を否定しているわけではありません。たしかに、学習価値の高い単語集は現にありますし、「ここまで覚えればよい」という指標、線引きを示すことで受験生に安心材料を与える点で、単語集の有用性は大いに認められるべきです。ただし、単語集では実現できない、より確実に語彙を習得するプログラムを実現していきます。

ちなみに、門脇講座3年間のテキストに登場する語彙を丹念に整理していけば、市販の受験用単語集・熟語集の9割は網羅できることがすでにわかっています。

文法についても、『Next Stage』『Vintage』『Scramble』『Upgrade』のような総合問題集を仕上げることばかりが文法学習だと思ってほしくありません。このような総合文法問題集ばかりに依存して文法学習に勤しむと、機械的作業というイメージを払拭できません（無論、単語集と同様に、総合問題集も存在意義を全否定するつもりはなく、覚えるべき水準を示すという意味では十分に意義はあると考えています）。むしろ、文法を深めて理解するためのテキストを用意しています。例文に取り組むことで理解を深め、即座に演習を行うことで、インプットとアウトプットがストレスなく連動するテキストを用意しています。

先述の通り、**「文法」と「語彙」は英語力の根幹をなす**ものです。文法や語彙の指導をないがしろにして、多読や会話のトレーニングに終始している指導機関もありますが、私はこの学習スタイルには懐疑的です。文法と語彙は、高い水準の英語力に最短距離で到達する上では欠かせないツールです。文法・語彙について基礎的な理解が定着しないことには4技能を正しく運用することはできません。他方で、正しく4技能を運用することは、文法と語彙の理解をさらに深めることにもつながります。ですから、4技能を重視する指導といっても、これは文法と語彙を軽視するものではありません。むしろ、「文法・語彙が4技能を支え、4技能が文法・語彙を深める」と考えてください。以下のようなイメージで取り組まれるとよいように思います。



文法と語彙が4技能の根幹にあたるからこそ、長期記憶として定着するように、ヴィヴィドに皆さんの頭に残るような印象的な学習法と素材を提供していきます。

【高1クラス概要】

1年間で高校英語の全体像を把握し、残り2年間の英語学習への順調な滑り出しを図ります。

中学英語以上に語彙、文法ともに広い知識が求められる高校英語では、目下学習している内容の位置づけを見失いがちです。そこで、高校英語の全体像を高1の早い時期に俯瞰し、各単元の位置づけを明確に意識できるようすることで、高2以降の英語学習への弾みをつけていきます。第1タームでは高校英語の重要事項をピックアップして、高校英語で学ぶべき全体像を俯瞰します。第2、第3タームでは、各タームごとに英文法、英文解釈、基本レベルの英単語・英熟語をそれぞれ一周ずつ、計二周かけてレベルを上げながら繰り返しおさえていくことで、文法、語彙、解釈技術といった英語学習の足場を盤石なものとします。また、英文解釈による精読と並行して速読演習、長文演習、英作文演習に取り組むことで、論理的読解力と速読力、記述解答力の強化に励みます。

第2、第3タームでは、2時間の授業のうち約半分の1時間は授業内演習と添削に費やされます。ただ授業を聞いて「わかったつもり」になってしまわないよう、演習と添削を徹底することで、勉強の進捗状況を受講生がしっかり把握できるように努めています。

※同内容を反復するカリキュラムとなっているため、途中入塾者でも学習内容に抜けが生じることはございません。安心してご参加ください。

【高2クラス概要】

高校3年間で英語力を盤石なものにするための最も重要な学年にあたります。最難関大攻略のために必要十分な質・量の講義と教材で、高3上級英語へと接続することを図ります。高3を迎えると、英語以外の科目に勉強時間を費やさざるを得なくなるため、高2の時期に高い水準での英語力を仕上げてもらいたいと思っています。

一年間を、前期「中級英語」と後期「上級英語」に分け、カリキュラムを2周回していきます。

前期「中級英語」では、英語の基礎にあたる、語彙、文法、解釈技術を24回でまとめ上げていきます。毎回、演習と添削を必修化し、重要事項を確実に定着させていきます。並行して長文課題や基礎的な英作文も扱います。

後期「上級英語」では、21回の授業を通じて、「中級英語」で学んだ語彙、文法、解釈技術をさらに高い次元でまとめ直していきます。並行して扱う長文素材も、東大、一橋大、旧帝大、早慶大の出典を扱い、高3の「入試英語実戦演習」を迎える上で十分な英語力を形成していきます。

「中級英語」と「上級英語」はいずれも、難関大入試に余裕をもって対応できるように、現行の難関大学入試で扱われる英語よりも一段階レベルの高い問題を素材としているのが特徴です。これを「高地トレーニング」と呼んでいます。また、知識の定着だけでなく記述力や表現力の養成を主眼におき、オーソドックスな英語長文や英文和訳に加えて、速読演習、要旨要約演習など、多種多様な演習に取り組んでいきます。さらに、読解系教材には音声教材と速読用トレーニングを用意し、精読力、速読力、記述力、発信力、聴解力といった全方位的な学力の養成に努めます。

講座目標としては、中級英語受講終了時点で確実に共通テスト9割を確保し、上級英語終了時点では東大や京大の入試問題でも十分に合格水準の得点をとれるようになることを目指します。

※すべての単元を基礎的内容の確認から扱っていくため、高2からの新規受講者も無理なく受講していただけるようカリキュラム、教材ともに配慮してあります。新規受講生も安心してご参加ください。

【高3クラス概要】

高校英語の総決算として、年間を通じて「入試英語実戦演習」というカリキュラムを実施します。このカリキュラムは、受験英語のすべてをパッケージングした内容となっています。高2までに培った知識と技術、経験を、多岐にわたる入試問題の演習を通じて結実させていきます。扱う単元は、知識問題（語彙、文法）、長文読解、英文和訳、要旨要約、和文英訳、自由英作文、リスニングなど、ほぼ全ての単元に及びます。高2までに習得した知識と技術を前提としますが、高3から新たに受講する生徒を対象として、高2までの

講義内容のダイジェストを提供することで、演習にスムーズに接続できるように配慮しています。

知識問題については、イチから講義することはせず、演習を通じて知識を再確認し、理解をさらに深める作業に尽力します。

長文読解については、30回からなるカリキュラムで、各回決まった講義テーマについての長文を3題ずつ扱います。出典は、一橋大、東工大、難関医学部と早慶大からそれぞれ採用しています（国公立と私大で均等に採用しています）。テーマは人文科学、社会科学、自然科学からそれぞれ10テーマずつを採用し、30回の講義を通じて学術の世界を俯瞰できるような内容となっており、大学入学に向けた基礎教養を培います。大学院時代の研究や大学講師としての経験を活かし、学術の最前線で何が起きているかを紹介しながら、大学教授が学生に対して要求している水準を示していきます。出典の背景知識をまとめることは、長文読解をこなす上で大きなアドバンテージになり、また自由英作文で書く題材にも応用が可能です。「英語を学ぶ」を超えて「英語で学ぶ」を実現したカリキュラムとなっています。

英文和訳については、京大や阪大など、ハイレベルな題材を扱い、主要な解釈・和訳論点を網羅します。

英作文については、和文英訳と自由英作文の添削を、いずれも毎回実施します。オンライン上で答案を回収するシステムを構築しており、受講生の答案を元に講義を行います。基礎的な表現知識を体系化することはもちろん、京大、阪大、一橋大などのハイレベルな題材を数多く扱い、和文英訳ではいかに日本語と英語を架橋するかを、自由英作文では、有効なパラフレーズの手法、テーマに対する柔軟な発想法、論理的なエッセイの構成法などを仕上げていきます。

大学別対策についても余念はありません。東大対策研究については、70年代以降、約半世紀分の過去問素材をほぼ網羅し、東大英語のすべてを知り尽くしていきます。京大や一橋大、旧帝大についても、典型的な出題を数多く扱い、記述対策に万全を期します。私大についても、特定学部を徹底攻略するための研究素材を用意してあります。たとえば、『早稲田大学法学部知識問題30年』『早稲田大学人間科学部正誤問題30年』『早稲田大学人間科学部前置詞問題30年』といった、他ではまず見られない研究素材を提供しています。

夏期以降は過去問演習についての指導を行い、揺るがない自信をもって本番当日を迎えられるように配慮しています。テーマは、「君たちが納得するのではなく、ボク（門脇）が納得した上で入試本番を迎えてもらう」です。受講生の皆さんには、師にあたる私が太鼓判を押した状態で必ず入試へと向かってもらいます。それが指導者の責務であると感じています。

入試英語実戦演習の30テーマ

1	人文科学(1)	近代化論
2	社会科学(1)	民主主義
3	自然科学(1)	環境問題
4	人文科学(2)	比較文化論
5	社会科学(2)	国家論
6	自然科学(2)	動物行動学
7	人文科学(3)	人類学
8	社会科学(3)	福祉社会
9	自然科学(3)	進化論
10	人文科学(4)	言語論
11	社会科学(4)	資本主義論
12	自然科学(4)	生理学
13	人文科学(5)	社会言語学
14	社会科学(5)	グローバル化
15	自然科学(5)	認知科学
16	人文科学(6)	教育問題
17	社会科学(6)	開発経済学
18	自然科学(6)	情報技術
19	人文科学(7)	発達心理学
20	社会科学(7)	移民問題
21	自然科学(7)	現代医療
22	人文科学(8)	科学史
23	社会科学(8)	格差問題
24	自然科学(8)	遺伝子工学
25	人文科学(9)	科学論
26	社会科学(9)	社会ネットワーク
27	自然科学(9)	宇宙論
28	人文科学(10)	哲学・倫理学
29	社会科学(10)	メディア論
30	自然科学(10)	技術論

最後に…

以上が門脇講座の紹介となりますが、門脇講座の最新情報は、noteより発信しています。合格実績やより具体的な講座情報も発信していますので、ぜひとも右のQRコードよりご覧ください。

【座談会】

門脇講師と合格者が語る、コミュニカティブな学びを通じて、憧れの志望校合格を実現する。





高橋 健さん
東京大学 文科Ⅱ類　合格
（海城高校出身）



結城 航さん
東京大学 理科Ⅰ類 合格
（駒場東邦高校出身）

体験授業を受講し、納得したうえで入塾。

――成増塾に通うようになったきっかけを教えてください。

結城　高１の始めから通い始めました。とにかく「受験対策」のための詰め込み型の塾は嫌だったんです。そこで体験授業を受け、アットホームな雰囲気に、直感的に「ここなら続けられそうだ」と確信しました。

高橋　僕は高２の秋からです。仲の良い友人が成増塾に通い始め、突如として英語の成績を伸ばしたんです。それで興味を持って体験授業を受講しました。

門脇　成増塾では、体験授業を受けてから、自分に合った講師の授業を選んで受講します。講師ごとのオリジナル講座なので、テキストやカリキュラムについて一切の妥協はありません。他の指導機関の教材を拝見することもありますが、私の用意している教材の方がどこよりもクオリティが高いと、胸を張って断言できますね。

「英語」を学ぶことを超えて、「英語」を使って学ぶ。

――門脇先生の授業について教えてください。

高橋　門脇先生の英語は、ハイレベルで内容も濃かったですね。印象深いのは、１つ１つの過程をおろそかにせず、理解できるまで説明してくれること。単語を例にとれば、語源を説明してネットワーク化するのは当たり前ですが、「なぜこの文脈ではこの単語でなければならないのか」など理由を明確にしてくれるので、「そうなのか」と納得できる。論理的に英語を学んでいるという気がしました。

門脇　単語一つをとっても、指導に妥協はありません。語源や用例、類似する単語同士の違いに言及するのはもちろんのこと、別の表現であればどう言い換えられるか、といった内容にも話題が膨らむケースが多いですね。これは「パラフレーズ」といって、深い読解と表現を目指す上で不可欠な技法で、難関大入試で差をつけられる内容です。こういった生産的な脱線は多いですね。

結城　読み物としてもおもしろいテキストでした。英文解釈では、返り読みせず、とにかく左から右に読むことを徹底的に指導されました。おかげで、長文読解が全く苦にならなくなりました。

門脇　なるべく知的好奇心を引き出すような出典を揃えています。大学講師をしていることもあり、アカデミックな出典にはどんな塾講師よりも精通しているという自負はあります。ですから、文系・理系の枠を超えて多様な出典を多岐に用意することで、大学への勉強へと架橋する工夫をしています。また、大手予備校では、いまだに返り読みを平気で行ったり、英文を一通り板書して文構造をすべてマークしたりするところもあると聞きます。これは英語の本質を見誤っていますし、時代遅れも甚だしいですね。そもそも、「精読か？速読か？」という二者択一は不毛だと思います。「論理」と「感覚」のいずれもが大事。ですから、授業では、両者を両立した読解の方法論を提供しています。また、文章の背景にある知識についても積極的に言及していきます。背景を理解した上で文章を読むことは大学での学びで

も大切だと思いますね。私が授業で意識しているのは、「英語」を学ぶだけではなく、「英語」を用いて何を学ぶのかということです。

生徒一人ひとりにあわせ受験まで適切にナビゲート。

――授業だけでなく、スケジュール面も指導されているんですよね。

門脇　はい。すべての科目に関して、生徒一人ひとりの勉強計画を総合的に作成し、受験までナビゲートしています。生徒を孤独に勉強させるのではなく、入試まで生徒と講師とが二人三脚で駆け抜けて行くスタイルこそが、難関大合格への最大の秘訣かもしれません。

高橋　「この人についていけば間違いない」と思い、先生を信じてひたすらついて行きました。僕は高３の夏までバスケットボールが生活の中心で、受験勉強のスタートはかなり遅かったのですが、先生の言う通りに全科目を勉強をし始めたら、瞬く間に成績が上昇しました。東大の合格判定もＥからＡに跳ね上がったんです。

門脇　特に部活引退後の追い込みはすさまじかったよね。本当によく頑張ったと思う。インターネット合格発表を教室で一緒に見た時の君の感涙は、一生忘れないな。

結城　必要な時にはいつも適切なアドバイスをしてもらったと思っています。勉強に困って質問すると、必ず適切な答えプラスαが返ってくるので、理解をどんどん深めることができ、最後まで安心してついていきました。僕の性格や趣味まで理解してくれているので、勉強以外でも構えず色々な話ができました。最初は「東大進学なんて無理だ」と思っていましたが、東大を志望校にできたのは先生と密にコミュニケーションをとって着実に実力をつけることができたからだと思います。

門脇　結城くんは、高２まではまあよく遊んでたよね（笑）。でも、常にこちらの目が届いているから、安心して見ていました。勉強とメリハリをつけることが大切で、受験までのスケジュールを立て、本人の自覚を促すよう適宜布石は打ってあったので、大いに遊んでもらっても大丈夫だったわけです。二人三脚で受験にのぞむ指導スタイルだからこそできる芸当です。

コミュニケーションをベースとする理想的な指導環境がここにある。

――振り返って、成増塾の魅力は?

結城　先生が親身になってくれること。質問には納得いくまでつきあってくれますし、生徒の頑張りに柔軟かつ確実に応えてもらい、励みになりました。双方向のやり取りがある学びの場とは、まさにこういう環境のことなのだと思います。

高橋　受験に関する圧倒的な知識と情報量、そして授業のレベルの高さ、「これだけやれば絶対に大丈夫」と思わせてくれる先生のカリスマ性ですね。実際、周りを見ても例外なく成績を上げていたので、ほんとうに驚異的な授業だなあと感じていました。友人たちには口外せずに秘密にしておこうとひそかに思っていたくらいです（笑）。でも、クラスメイト同士や先輩・後輩などのつながりが強いのも成増塾の大きな魅力。「みんなで集まろう」なんて話も出ているんですよ。

門脇　一人ひとりと向き合い、生徒の適性を十分わかった上で指導するのが、私どもの使命です。私の添削指導を例にとれば、一度赤ペンをつけて返却しておしまいではなく、対話しながら何度も答案を往復します。生徒が納得するまでではなく、受験指導のプロである講師が納得するまで答案の往復は続きます。そうすることで、生徒のやる気と真の実力が引き出される。こういった少人数制指導の理想型を実現しているという点で、成増塾はほかの指導機関とはっきり差別化ができていると思っています。もちろん、入試に関する研究にも余念はないので、苦手な生徒から最上位層まで、すべての受験生に信頼してついてきてほしいと思います。生徒との信頼関係を基礎とする強い絆。講師が生徒へ常にコミュニケーションをとれる環境。「志望大学へ絶対に合格させる」という講師の執念。この３つが、成増塾の高い合格実績の原動力です。このポイントを熟知している生徒は、何より授業に来るのが楽しくて、しかもかなりの確率で志望大学に合格してくれています。これからも多くの生徒たちと真正面に向き合い、志望大学合格まで二人三脚でナビゲートしていきたいですね。

英語科

甲斐 英雄

英語が苦手な人でも早慶上智に合格できるクラス。

【クラス定員 20 名程度】



甲斐講師はいつも笑顔を絶やしません。どんなに英語が苦手な生徒でも一人ひとりフォローし、いつのまにか英語を得意科目にしてしまいます。

塾長から見た甲斐講師。

甲斐講師は今、成増塾で一番勢いのある英語講師の一人です。甲斐講師の特徴を一言でいえば「わかりやすく楽しい。しかも英語が苦手な人でも安心して受講をすることができる」ということです。甲斐講師は、現在では大手予備校で早稲田大学の入試問題解答速報の執筆を担当するほどの実力派講師ですが、実は学生のときは英語が大の苦手科目だったそうです。甲斐講師自身、苦手な英語を克服するためにさまざまな努力や工夫をしてきたので英語ができない生徒の気持ちが嫌というほどわかります。だから英語が苦手な生徒も決して見捨てたりはしません。甲斐講師はいつも笑顔の絶えない先生で授業は生徒たちの笑い声に包まれながらも良い意味での緊張感がみなぎっています。楽しくて実力がつく甲斐講師の講座は締切りが続出しています。早い時期に申し込まないと締切りになってしまいますのでご注意ください。



甲斐講師の授業風景。生徒は真剣に授業に打ち込みながらも楽しい雰囲気で進められていきます。楽しみながら学力がどんどん向上していきます。

甲斐講師が語る。

せっかく成増塾へ。それなら、とことん英語を得意にしてほしいと心から思っています。

でもやるからには中途半端な気持ちでなく、本当に最強をめざす気持ちでいてほしい！（実際に過去には、当授業から京都大学首席合格者が巣立って行きました）もしその想いにヒトカケラでも憧れを抱けるなら、君の今の学力に関係なく歓迎します。なぜなら英語は誰でも得意にできます。そして、君のために私が最大限のサポートをすることも、ここで強く誓えるからです。

常に「伸び率NO.1の講座」でありたい。私のそのような授業に対して、いつも心がけている「7つのポイント」をここで紹介します。

[1]授業のねらい

“なるべく英語が苦手な生徒を教えたい”

これが成増塾で授業を始めた理由です。他塾・予備校では学力テストなどによるクラス分けによって、英語を得意とする生徒ばかりを相手にしなくてはならないことに疑問を感じていました。

しかし私自身、受験勉強をやり始めた時、英語が全く出来ませんでした。それが今では難関大学に入ろうとする生徒を教えています。これまでの経験から、**「英語は正しい方法で学習すれば、誰もが英語を得意にすることができる」**と断言できます。

合格体験記が示しているように、合格者の中には、そのスタート段階では英語が苦手な生徒が沢山いま



甲斐講師が編纂した体系テキスト。英語が苦手な人でも知らず知らずのうちに得意になるように様々な工夫がしてあります。

す。それでも、最終的にはいわゆる「トップ大学」の入試問題を、彼らは自力で解くことが出来るようになっています。全く英語ができない生徒を「できる生徒」に変貌させる。是非この事を生徒にも実感してほしいと思います。

[2]授業のスタイル

“底辺（テイヘン）から頂点（テッペン）へ”

本講座は、英語を苦手にしている人、英語の勉強の仕方すらわからない人が早慶上智、または難関国公立大学を目指すための講座です。したがって現段階における学力は問いません。（途中からの入塾の方も、積極的にサポートするので安心してください！）

このガイドブックを読んでいる君が最も痛感している事として**「高校英語と中学英語はまるで別言語みたい…」、「中学までは英語が得意だったのに…」、「もはや高校英語は何から手を付ければ良いのか（どうせ単語も憶えられない）」**ということではないでしょうか？

これは、高校英語が、憶えるべき単語の量があまりにも多いことと、例えば長文の「内容・テーマ」一つにしても、中学生のそれと比べて、とても抽象度が高く、難解なものになっているからです。当然、今までやって来たように丸暗記や勘に頼る方法では絶対に対応することができません。

では、君がこのような「悪状況」陥っているならば、今何をすべきか？

それは**この場で立ち止まる勇気を持つ**ことです。これを別の言葉で言いえば、足下（＝本当に基礎が出来ているか、今までの学習が分かったつもりになっていなかったか）を見つめ直すということです。このことは、これから始まる飛躍のためであり、たとえ受験学年であっても決して変わりません。

実際のところ、本講座は「テイヘン」からということで、本講座は英語が苦手な生徒さんのためにも、中学生レベルから始めることになります。いや、本講座では「君が英文を見たときに、何から考えるか？どの様に脳を動かすか？」等々。そこまで立ち止まって解説をスタート致します。これは「英語」というものを、本当は分かっていないのに、わかっているふりをしているだけの生徒さんも、私の経験上、かなり多いからです。**自分が英語を全くわかっていないことすら気付いていない、それが現実なのです。**



甲斐講師は常に入試問題を研究し、最新の情報を授業に盛り込みます。

“論理的に思考力を伸ばす重要性”

詳しい「英語上達法」は授業で紹介しますが、その核心は「なぜそうなるのか？」を徹底的、論理的に考え抜くことにあります。しかし英語を苦手にしている生徒さんの多くは、英語を学習する際、ついつい「新しい知識」や「答え」だけに注目してしまい、その解答までのプロセスを論理的に思考することに甘さがあるという傾向があります。

また、たとえ解答までのプロセスを思考することの重要性を認知していたとしても、どのようにしてそ



甲斐講師は、大手予備校で早稲田大学入試速報の解答執筆を担当している実力者でもあります。早慶上智の出題傾向を知り尽くした甲斐講師の授業を受けることで多くの生徒が自信をもって入試本番に臨みます。

のプロセスを辿って行けば良いのかわからないという生徒さんも多くいます。(例えば、「なぜ命令文は、動詞の原型から始まるのか?」や「なぜ同じ動詞なのに、自動詞と他動詞の両用法があるのか?」など、ちゃんと答えられるかな?)簡単に言えば、英語を苦手にしている生徒さんの多くは、「正しく英語を勉強する」ということをわかっていないのです。

従って、本講座では「答え」という現象に重きを置くのではなく、そこに至るまでのプロセス、「なぜそうなるのか?」を徹底的に、その論理を解説することに重点を置いた進め方をしております。

★ 英語の苦手な生徒の三つのパターン ★

①解答までのプロセスを論理的に思考することに甘さがある生徒

②解答までのプロセスを論理的に思考することの重要性は認知しているが、どのようにしてそのプロセスを辿って行けば良いのかわからない生徒

③自分が英語を全くわかっていないことすら気付いていない生徒

英語は積み重ねの学問です。しっかりとした土台なしに飛躍はありません。特に上位校の大学入試では、細かい知識を問うというよりも、その土台をどれほど厳密に把握しているかを問う問題が多いのです。それゆえ、解答に至るまでのプロセスや基本事項に対して、徹底的に明確な論理性を伴う学習をすることが必要なのであり、それに応じた授業にしていくように心懸けています。



甲斐講師は、生徒の相談には常に真剣勝負で挑みます。甲斐講師自身、苦手科目だった英語を克服した経験を持っているので生徒の目線に立った実戦的なアドバイスが受けられます。
様々な人生経験を積んできた甲斐講師。一人ひとりの生徒の勉強の悩みにていねいに答えてくれます。「塾講師は自分の天職です」と言い切る甲斐講師は教えることを本当に楽しんでいます。

ここからは、一方通行で私が伝えるよりも、今までの受講者がどのような状況で受講を始めて、そしてどのような道程で英語学習を重ね、合格したのかを紹介したいと思います。私の「受験英語の研究」より、調査している「卒業生のアンケート」で、卒業生に自由に書いてもらった資料からの抜粋となります。

☆☆T.U(早稲田大学政治経済学部)☆☆

1.あなたの受講する前の状況を教えてください。

高3、5月の河合マーク模試での偏差値が45.1でした。

2.英語の勉強について辿ってきた内容、または重要だったと思うことを教えてください。

前半:英単語、文型の理解、英文法

●自分は甲斐先生に教わるまで文型を理解して読むということをまるでわかっていなかったのでまず文型についての理解を深めた。まずは補講や課題や授業の長文を使って文型をわかるようにした。

●長文を読んでいて理解できない文があったら必ず文型などを理解するまで考えた。そしてもう一度読み直してスラスラ理解できるようにした。

後半:長文の文脈ロジック

●英単語、文法、長文問題、英作文、赤本英単語、英文法は前期と同じ勉強を続けた。長文問題は文型も理解できるようになり、授業で何度も言われる「長文の文脈ロジック」を理解できるようになるまで考えた。

☆☆N.A(国際基督教大学教養学部)☆☆

1.あなたの受講する前の状況を教えてください。

長文が全く読めないのは、英単語を覚えていないからだと思っていました。そのため塾に入る前までは文法や英文解釈よりも英単語の暗記に時間を使っていたと思います。模試を受けるたびに英語の成績が下がっているように感じ、今後の英語の勉強法がわからず不安になっていました。

2.英語の勉強について辿ってきた内容、または重要だっ

たと思うことを教えてください。

前半：甲斐先生の授業で、英語の成績が大きく上がったのは、構文を完璧に理解し、どの文でも主述関係に気をつけて読めるようになったからだと思います。どんなに複雑な文でもそれを意識して読めば、簡単に読めるのだと知ってとても感動しました。今までは訳すことに精一杯でしたが、正しい英文解釈の仕方を知り英文を読むのが以前よりも楽になりました。単語を覚えるよりも文法や英文解釈の仕方を正しく身に付けるほうが、英語の学習には一番重要だと改めて感じます。今までの自分の英語の勉強の仕方を反省しました。

後半：授業の復習を忘れないうちにすぐ行うことが一番重要だと思います。理解するまで何回も復習したことで論理的に英文を読む力が次第に身についていったように感じます。正確に早く英文を読めるようになりました。旧情報と新情報の配置や、同じ意味の言い換え部分に注意することで長い英文でも情報を取捨選択できるようになり、苦手だった要約問題も以前より苦にならなくなりました。

上記の二名の**「二つ共通点」**にお気付きでしょうか？

一つ目の共通点は、二名とも受講スタート地点では英語の学習がほとんど進んでおらず、何をしても良いのか分からない状況で入塾してきたことです。彼らが最初に行ったことは、まずは基礎固めとして、**「徹底的に一文一文を正確に読む（正しく英文法を運用しながら精読する）」**ことでした。これは合格していく全生徒に見られる、共通している勝因の一つといっても過言ではありません。

そして二つ目の共通点は**「常に論理的に英語にアプローチ」**することです。これは「英語」は、非常に「文構造」を重視した言語であり、その文法に忠実に従って構成されています。また大学入試の問題は、「客観的（＝論理的）な方法」で、その答えが必ず「一つ」に絞られるように作られています。故に**「いかに論理的思考力を身に付けていくか」**が、成績の向上にはとても重要になっているのです。

要するに、受験英語はその学習スタート地点で、正しく基礎固めをし、論理的に学習して行けば、誰にでも上達できる科目です。「伸び率NO.1の講座」。正しい学習スタートを生徒にさせてあげることと、「論理的な講義」は、私の「得意技」であり、講師として私が掲げている「仕事の核」でもあります。ともに目指すは**「最高のスタート」**、そして、論理という**「知的感動」**を充分に楽しんで行きましょう。

[3]オリジナル教材

“理解度に合わせた完全オリジナル”

①演習用テキスト

②解説編テキスト

③その他資料やサポート教材

授業で最大限の効果を生むためにも、または各自において充実した学習においても、教材には最大限の工夫とこだわりが集約されています。

①演習用テキストは常に良問を厳選した、最高のもの扱っています。最新の入試問題を分析し、今考えられる最高の問題を提示します。かなり「分量」と「幅広いレベル」のものを用意しておりますが、これらは精神的な負担が少なくなるように、「配置」をしております。従って**今まで勉強がなかなか続かない生徒さんも、安心して取り組んでもらえたらと思います。**

さらに生徒の理解度に高めるために、②解説編テキストを提示します。『単元別英文法集』や『語法リスト』など様々な学習補助教材も用意しています。これらは授業で解説した重要事項が、自宅でももう一度ダイレクトに伝わるように、テキスト化したものです。もちろん、**実際に試験場に持っていく生徒もかなりいます。**

また様々な③その他資料やサポート教材を配布するので、それぞれの生徒に合わせた、充実した学習が出来よるようになっています。

これら様々なオリジナル教材は、英語の勉強方法が分からない生徒さんでも、**正しく自立して英語が勉強できるように創意工夫**がされています。

[4]一人ひとりに徹底指導

“いっしょに一歩一歩、着実に”

成増塾の特徴である、少人数制限制であることを最大限利用いたします。それぞれの生徒にきめ細やかに指導していきますので、生徒さんには、もし分からないところがあれば分かるまで質問しに来てください。こちらとしては**生徒さんが納得いくまで付き合っていく**つもりです。

また**「記述式問題の添削」**を行います。「英作文」はもちろん、「英文和訳」、「要約問題」など記述式問題の添削を個別に指導していきます。記述式問題は添削され、自分の間違っているところを個別に指導されないかぎり成績は伸びません。特に国立大学など、入試に記述式問題が出題される大学を希望している生徒はぜひ積極的に利用してください。

※最後に途中から受講される生徒さんにも十分対応していきますので、安心してください。(**最初はかなりキツイだろうけど…がんばれ!!**)

★「君のわからない」は「僕の問題」★

さらに私自身が関東圏の進学校から依頼を受けて、「受験対策講座」の出講を行っていることから、しばしばその現場で「中間・期末テスト」の相談を生徒から受けます。その経験を活かして、その指導もできる限り行う予定なので、「中間・期末テスト」にお困りの方はぜひ相談に来てください。

最後にそれぞれ面談を行う予定です。学習における達成度の確認はもちろん、個人に合わせて「教材選び」や学習計画を立てて行きます。そこで、模試の結果(できれば、本人が辿った解答の根拠を知りたいので、答案用紙があればなお良いです)や演習の達成状況を確認していますので是非ご用意ください。

[5]サポート体制①

“英語の理解は積み重ねだから…”

英語は積み重ねの学問です。英文法の基礎から、正しい方法で着実に積み上げていかなければ、本当の意味での成績向上はあり得ません。この意味では、みなさんが英語を勉強しようとやる気になってはいるものの、英語を難しく感じ、いまいち英語の勉強が進まないのは、その時点で基礎部分が積み上がっていないということが要因として考えられます。

しかしそれゆえに、それぞれの学年において、タームの途中から参加される多くの生徒さんは、「他の生徒は初回から授業に参加していて、どんどん前進しているようなのに、自分が途中から授業に参加しても自分は大丈夫だろうか」という不安を胸に抱えているようです。

当然、最初の授業から参加された方が絶対的に有利であることは決まっています。しかしだからといって、見捨てるようなマネは、私の講師としてのプライドに誓ってあり得ません。常にそれぞれの生徒にあった専用の「バックアップ教材」と十分な「基礎補講」を時間が許す限り行う予定です。途中参加になる方も心配なさらずに、安心して授業に参加できます。詳しくは、私までお気軽にお問い合わせ頂ければと存じます。

[6]サポート体制②

“生徒は生まれながらに個性的だから…”

生徒は一人ひとり違います。**講師はそれを把握し、それぞれの生徒にあった、最良の指導を行っていく責務があります。**

そこで私は定期的に「個人面談」を行い、「個人カルテ」を作成しております。生徒個人の英語学習の進捗情報や手法を把握して、「英語迷子」にならないように、合格まで導きます。

もちろん一人ひとり生徒は違うからこそ、なるべく生徒の学習することから生じる要求や要望に私は個別に応えていく所存であります。お互いcommunicationを積極的にとりながら、ぜひ皆さんも自分一人では解決できない問題の質問や新しい要求や要望を私に伝えてくれたらとても嬉しく思います。

[7]これから出会う君へ

“僕らと勉強”

「なぜ勉強しなくてはいけないのか？」「なぜ大学に行かなければならないのか？」「自分がやりたいことは何なのか？」「もっと別のことがやりたい」…

「青春」という言葉にすら反発を抱いてしまう程、

若さがゆえに生真面目なぐらいに毎日を生きている君は、このような疑問に苦しんでいるものです。

さらに今日の日本社会における受験勉強が持つネガティブなイメージが原因で、このガイドブックを読んでいる君は、本当は「勉強はしたくない！」「勉強なんて大嫌いだ！」と思っているかもしれません。

しかしそれは当然のことです。むしろ正しい方法論なしで勉強をしているのでは、決して勉強を好きになることはありません。「やる気スイッチ」なんて、どこにも見つかりはしないのです。

僕も高校時代、勉強が大嫌いでした。そして勉強している人が大嫌いでした。しかしそのような昔の僕の考えは、大きな間違いであったと現在は自信を持って断言できます。受験勉強は正しい方法論で取り組めば、人生においてとても有意義なものです。受験勉強は実社会においてとても役に立つことを教えてくれます。物事を論理的に考えること、計画的に目標を達成していくこと、どんな成果を生むためにも、それなりの時間と労力が必要であること、そして出来ないものをできるようになる感動…。

まずは授業を通してお互い切磋琢磨しながら、君と僕で受験勉強に対するイメージを変えて行こう。もし君が受験勉強に対して戸惑いを感じているなら、僕はいつでも最大限のサポートをする。それが僕の「成増塾」での仕事です。

そもそも勉強は知的感動を与えてくれる、とても素晴らしいものです。きっと君は勉強に対する考え方が変わり、「勉強する」ということをポジティブに受け止めることが出来るようになるでしょう。その時、君は君なりの素敵な未来へ歩き始めることを、僕は確信しています。

合格者の声



慶応義塾大学文学部合格
山中太輔さん
順天高校

★最初は英語がダメで、特に文法問題は壊滅的でした。ですが、文法を丸暗記させるのではなく、「なぜそうなるのか?」を基本から徹底的に教えて下さったおかげで、入試を迎える頃には英語が最強の武器になっていました。また、先生はいい意味で生徒との距離が近く、添削や志望校の相談などは勿論、受験には関係のない話題も気軽に話せました。先生がいなければ今の僕はありません。

▶▶▶甲斐講師から山中さんへ

君の魅力は、心の奥にある「頑固さ」。普通、人は自信がなければ、どうしても最初の一歩が遅れがちになります。それでも君は、解らない問題に対して、どんどん質問を僕に投げかけてくれました。少なくとも受験では、君の「頑固さ」は、苦しくとも前に進める勇気に変わり、最大の勝因だったと思います。



上智大学総合人間学部合格
S.N.さん
大妻高校

★甲斐先生の授業を体験した際、教えていることの全てが論理的で、絶対この先生に習いたいと思いました。文法は基礎中の基礎から丁寧に体系的に教えて下さり、長文は論理的に、どんな文章でも読み方は変わらないことを教えて下さりました。またどんな質問にも納得するまで付き合ってくださり、先生と話すことが自習するモチベーションにもなりました。2年間1度もきついと思わず、勉強方法を疑うことなく英語を伸ばせたのは先生のおかげです。

▶▶▶甲斐講師からS.N.さんへ

「プライド＝絶対に折れないハート」。君も最初は全く英語が苦手な生徒でしたね。そして合格までは、転んでも（＝模試の点数が悪くても）、必ず立ち上がる（＝復習を行う）の繰り返しでしたね。周りの人にどんなに「無様」に思われても、それが君の「生き様」。早稲田も上智も合格したけど、夢のために上智を選ぶ。本当に君らしくて、素晴らしい選択だったと思います。



京都大学総合人間学部合格
松永 修さん
麻布高校

★甲斐先生に受験直前期に熱心に添削指導をしてもらったおかげで苦手だった京大の英作文を克服できました。

▶▶▶甲斐講師から松永さんへ

英語を全く勉強していない状態で入塾。それでも、君の持ち前の「好奇心」で、着々と知識を吸収していく姿が、まるで自分の事のようにワクワクした事を憶えています。なんと言っても英作文の個人添削。「あーでもない、こーでもない」と議論しながら、最後は京大を首席で合格! 本当に驚きました。

合格者の声



早稲田大学政治経済学部合格
唐仁原潮さん
都立井草高校

★入塾した3年7月の段階で、偏差値が40台で論理的に読むことができなく、ただ単語をカンでつなげているだけでした。初めて甲斐先生の授業を受けた時から、長文の読み方が変わり、論理的でシステマチックに読めるようになり、最終的には偏差値が70近くまで伸びました。この長文の読み方が国語にも使えて、国語も伸びました。

▶▶▶甲斐講師から唐仁原さんへ

礼儀正しいけど、どこかヤンチャな奴。僕の経験上、そのような生徒は必ず頑張ってくれる。君も途中入塾にも拘わらず、一対一での「基礎補講」を本当に頑張り抜いたね。君から「早大の商学部に合格しました!」という連絡に、僕は「まぐれだね」って答えたけど、最終的に「早大を総ナメ」。決して「まぐれ」ではなかったんだね。



京都大学経済学部合格
尾畑艦明さん
駒場東邦高校

★学校の授業を全く聞いていなく、ほぼ一からのスタートだった僕に、英語の正しい学び方や、受験英語の根幹となる構文、論理的な考え方を徹底的にたたき込んでくれました。甲斐先生のおかげで高2のときのセンター同日模試72点だったのが、Max188点にまでになりました。自分でもビックリします笑　いつも甲斐先生は僕にとってはとてもおもしろく、甲斐先生との会話は勉強の息抜きになり、楽しかったです(笑)今までお世話になりました!ありがとうございます!

▶▶▶甲斐講師から尾畑さんへ

「分からないから、やる気がでない」。同日センター模試で72点。始めは英語が全く分かっていなかったけど、少しずつ英語の理解を深めて行き、まさに「努力の鬼」になってくれました。空き教室で自習する君の姿は「目の前の英語を少しずつでも理解出来るようになるからこそ、やる気も出るのだ」と教えてもらいました。



慶応義塾大学文学部合格
窪寺茉莉奈さん
山脇学園高校

★初めて甲斐先生の授業を受けた時、自分の今までの英語の読み方と全く違っていて、本当に理論的で衝撃を受けました。また英作文の対策では、授業後でも徹底的に添削して頂きました。受験本番では、超長文や難単語に圧倒されることもなく、授業で今までやってきた通りに出来ました。受験は苦しいことも迷うことも多いですが、自分がやってきたことに間違いはなかったと、そのように思える授業をしてくださった先生に出会えたことはとても大きかったです。

▶▶▶甲斐講師から窪寺さんへ

とても「素直」な生徒。それが君の第一印象です。英作文の個人添削での君の姿勢が、本当に印象的でした。英作文のコツは「手持ちの知識だけで勝負する、しなやかな発想」です。最初は「表現が思いつかない」と嘆いていたけど、僕が教えたことを「素直に」吸収し、心にあるものを「素直に」発信できるようになりました。教えていて本当に楽しかったです。



一橋大学法学部合格
渡辺陽大さん
麻布高校

★僕はただ単語や例文を暗記、演習するだけで、何が分からないのかも分からず、英語を苦手としていました。しかしユーモアを交えた甲斐先生の授業で筋道立てて英語を読めるようになり、第一志望合格の原動力となるまでの実力をつけることが出来ました。早い時期から甲斐先生、そして成増塾に出会えて本当に良かったです。

▶▶▶甲斐講師から渡辺さんへ

最初は本当にやる気がないと思いました(笑)。しかしそれは僕の勘違いでした。そのマイペースさが君にとってベストな合格の要素の一つだったのだと今は思います。「ゆっくり始めるけど、少しずつ着実に理解を重ねる」。一問一問、絶対に誤魔化さずに進んでいく君のやり方は、「英語がいかに基礎を完璧にすることが大事なのか」を物語っていたのだと思います。



慶応義塾大学文学部合格
塩塚萌夏さん
女子学院高校

★基礎から丁寧に教えてくださるので、言われたことをしっかりとこなせばどんなに英語が苦手でも最後には得意科目にすることができます。授業はわかりやすく、雰囲気も和やかで集中して受けやすいものでした。また、どんな相談にも真摯に載って下さり、英語はもちろんそれ以上の様々なことを教えていただきました。ありがとうございました。

▶▶▶甲斐講師から塩塚さんへ

不器用な程にまっすぐ生きる姿勢は、僕の方が君に教えられることが多かった気がします。三年間、授業を受けてくれたけど、壁にぶつかるたびに、君が僕に真っ直ぐに「不安と要望」を伝えてくれること。そして今度は逆に

僕がそれに「対策案」を出し、君がそれをやり遂げる意思の強さ。最終的には早慶上智を余裕で合格したよね。



早稲田大学教育学部合格
大場梨花さん
豊島岡女子学園高校

★英語が苦手だったのですが、甲斐先生が文法の基礎の基礎から教えてくださったので英語を好きになりました。大手塾では人数が多くてボーっとしてしまっていたのですが少人数の成増塾で甲斐先生に出会えて学力を大きく伸ばすことができました。本当にありがとうございました。

▶▶▶甲斐講師から大場さんへ

とても心配性。でもそれが君の長所だったんですね。その心配性がゆえに本番直前はプレッシャーで倒れそうだったけど、決して手を抜きませんでした。最後のアドバイスで君が「覚醒」したのは、はっきりと憶えています。「早稲田は、時間がない状況でも、冷静な判断をする力を求めている」。不安だからこそ人の話を心から聞けた。誰もがパニックになる状況下でも、心配性の君が一番冷静でした。



東京大学理科I類合格
H.Yさん
城北高校

★僕は高1の冬頃から甲斐先生の授業を受け始めました。通い始めた頃は英語がとにかく苦手で東大など全く考えていませんでしたが、なんとか英語を東大レベルまで伸ばすことが出来ました。英語は 基礎を徹底し、文章の構造(因果関係、代名詞の特定など)を意識して問題を解くことが大事だと思います。特に学習の初期段階で、先生が大事にしていた構文把握の徹底は不可欠だと思います。最後になりますが甲斐先生、本当にありがとうございました!

▶▶▶甲斐講師からH.Yさんへ

君については「本当に思慮深い」というイメージを僕は持っています。それが東大に合格するための「鍵」になっていたと僕は確信しています。確かに君は、入塾当時は全く英語が出来なかった。学習の初期段階では、英文の細部まで徹底的にその仕組みを考え抜き、長文では、文と文の関係性も常に高い意識を持って、その理解に取り組んでいましたよね。きっとそのような学習姿勢は、これから君が大学で行う学問にも、きっと役に立つと想像しています。



東京外国語大学国際社会学部合格
松田凛太郎さん
多摩大学目黒高校

★私が成増塾に入塾したのは高校二年生の冬でした。入塾前は思うように英語の成績が伸びず、志望校と実力の差に焦りを感じていました。学習内容で言うと、ただ強引に英単語を憶えるだけでした。
しかし、成増塾で甲斐先生の授業を受けるようになってからは、英語の本質や長文への向き合い方など多くの事を教えてもらい、単語を記憶することだけに頼っていた頃の私では到底たどり着けなかったレベルにまで成績を伸ばすことができました。結果として、早慶上智の私立型の試験、また東京外国語大学の超長文など、どの問題にも対応でき、志望校へ合格することが出来ました。成増塾を選んで本当に良かったと感じています。

▶▶▶甲斐講師から松田さんへ

人間的な「やさしさ」に多く持ち、そして直向きに頑張れる生徒だったと記憶しています。僕の課題を全て受け入れ、少しも誤魔化すことなく正面から向き合う強さは、周りの人からきっと尊敬されると思います。東京外大では、世界中の人々と触れ合っているようですが、君なら、人種、国籍、宗教とは関係なく、彼らに心から愛されていくだろうと確信しています。



東京慈恵会医科大学医学部医学科合格
九島遼大さん
暁星高校

★「甲斐先生の英語」を受ける前は、単語を覚えられず、そもそも、勉強の仕方がさえわからず悩んでいました。そこで甲斐先生の授業では、毎回、一文一文の構造と、文章全体の構造を重視し、しかもそれがどんな英文に対しても同じやり方で解説されます。自分はそれを「真似る」だけで、少しずつ「何をすべきか」が分かるようになり、意味の分からない単語があっても、文章を読めるようになりました。
高2から受講して、受験直前には1番の得意教科になり、難関私立医学部の問題でも苦なく解けるレベルまで持っていくことができました。

▶▶▶甲斐講師から九島さんへ

君に初めて出会ったときは、外見的に「少し軽そうな奴だな」と思っていました(笑)。
しかしあの「夏の課題」を誰よりも早く終わらせたことには本当に驚きで、本当の君は、責任感が強くて、辛抱強い生徒であると実感しました。
どんな状況でも決してあきらめずに取り組む君の姿勢は、きっと「臨床」でも、患者の方々から信頼を得ることができ、「優しいお医者さん」になれると期待しています。

【座談会 Part.I】
甲斐講師と合格者が語る、『圧倒的に解りやすい』授業のために。





唐仁原潮さん
早稲田大学政治経済学部合格
〈都立井草高校出身〉



小野寺果穂さん
慶応義塾大学文学部合格
〈共立女子高校出身〉

Q.入塾する前はどんな感じでしたか?

唐仁原　競輪の全国大会に出たんで、ずっとその練習ばかりしていました。もちろん普段は勉強を全くしませんでした。英語に関しては、定期テスト前に丸暗記で…、偏差値も45ぐらいでした。

小野寺　高一の秋に入塾しました。それまでは英語は「それほど不得意ではない」と自分では思っていましたけど、いざ入塾してみると、何も分かっていないことに気づかされました。文型とか構造とかは全く考えていないし、文法もただ丸暗記していて、長文でそれらを活かせていませんでした。

Q.実際に甲斐先生の講座を受講し始めてみて、どうでしたか?

甲　斐　唐仁原君は高三の7月に入学して、偏差値45から、早稲田大学を、「総ナメ」で合格するって、本当に凄いよね。「良いことが連続しすぎて、この先が怖い」って言っていたね(笑)。

唐仁原　途中からでも、授業について行けるように、補講やバックアップもやって頂けたし、先生が常に「生徒は英語がわかっていない」ってことを前提に授業を進めてくれるので助かりました。

甲　斐　僕が授業するときに一番心掛けていることは、あくまでも日本人にとって理解しがたい「外国語」、「学問の対象」として英語を解説するということ。つまり、「予め」決定しているnative speakerの感覚や語感などのニュアンス、そして英語長文の題材・テーマなどの「予備知識」などを解答の根拠にして、「答えありき」で解説をしないことなんだ。僕の受講生には自らの力で、「英語のルールのみ」を大事にして、「論理的に」正解を導けるようになって欲しい。

小野寺　「論理、論理」って言いまくってましたもんね。英作文の添削も、論理的に考えることで、和文の言葉を「同義」として言い換えたりすることが、とても楽しかったです。

唐仁原　僕もその「論理的に」考えるというのは、英文法だけでなく、文章全体の構造を掴むためにもかなり役立ちましたし、受験勉強をする上で、自信にもなりました。それで現代文の成績も上がったし、現代文の成績が上がれば、英語の文章構造もつかみやすくなりました。

甲　斐　君たちには本当に僕が授業で言いたいことが伝わっているようだね。結局、英語も日本語も「論理」という点は同じだから、英語をnative speakerの様に理解するのでなく、我々が「日本語」を読んで、それを理解する時と同じように、英文も理解することが大事ってことなんだ。

Q.英語の勉強をして大切だと思ったことありますか?
例えば、自分に「高校生の子供」がいたとして、どのような事から勉強させますか?

小野寺　もちろん基本単語は重要だけど、やっぱり英語を構造的に理解するために、「文型」をやらせるかな…。付属の大学へ行くつもりだったので、私はそもそも大学受験を考えていませんでした。だから、入塾する前は受験勉強をしていなかったけど、文型を理解して、簡単な文章から構造的にやっていけば、だいぶん理解できるようになると思います。

唐仁原　僕は必死に甲斐先生の授業についていくように言います（笑）

甲　斐　ありがとう…気を遣ってくれて（笑）。ということは、小野寺さんが言っている事と同じように、英語を構造的に理解するために、文型からやらせるってこと？

唐仁原　はい、その通りですね。

小野寺　授業を受けていると、英語は、すごく構造的だということがわかって、英文法の理解も、長文も、毎回同じ手順でアプローチして、理解するということが大切だとわかりました。

甲　斐　確かに。どんな英文に対しても、毎回、同じ手順でアプローチすることが大事なんだよね。いくら「仮定法」、「時制」、「準動詞」、「関係詞」…、というように単元別にいきなりやっても、学生は英語を読めるようにはならない。英文の仕組みがどの様になっているか、全体構造を把握する力がないと、英文法の正しい運用はできないんだよね。

小野寺　大学で英語を読むときも、分からないときは、ついつい甲斐先生の授業でやった方法で読んでいるんです。

甲　斐　まぁ、それはこれからも英語に触れる以上、「呪い」みたいなもんだから（笑）。

小野寺　他にも、大学で「法学」をやっていて、条文などに難しい表現が出てくると、先生の授業でやったように、言葉を「抽象化」して、「言い換え」や「対立」を考えながら理解しようとしているんです。こういうことは甲斐先生の授業でやったことが今だに生きていると思います。

甲　斐　英文をチャート化したり、図式化して、板書するのは授業ではいつもやっていることだし、僕自身も物事を考えるときには今でもよくやります。

小野寺　そうですね。それはきっと他の科目でも通じると思います。

Q.甲斐先生の授業で、ここは「他とちがう」ってとことってありますか？

唐仁原　他では授業に出ないか、寝ているかのどっちだったので、あまり比べられません（笑）。でも先生の授業を受けて、初めて、「復習」の大事さを実感できました。授業後に、もう一度、自分で復習をすれば、すごく英語が論理的になっていること分かって、楽しかったです。

甲　斐　そうだよね。毎朝、五時に起きてやっているって言っていたしね。半年の受験勉強で、そこまで出来るようになった生徒は、日本全国でも、まずいないと思います。

小野寺　それまでの他の授業では、先生が単語や熟語を確認しながら、英文の和訳だけ言って、、そして最後にCDを流すだけとは全然ちがいましたね。一つ、一つ論理的に解説してもらえるので、常に頭をフル回転しなくてはならず、かなりハードでしたけど。

Q.後輩へのメッセージってありますか？

唐仁原　大学生活って、おそらく人生で最も自由な時間がある時期で、そこで本人が主体的に行動できるようになるためにも、受験勉強を本気で頑張ることで、自分に自信を付けて欲しいです。そうすれば、大学生活を積極的に良いものにしていけると思います。

甲　斐　なるほど。君は東南アジアの国々に行きまくって、ボランティア活動をしながら世界中の人々と交流しているもんね。もし、受験勉強で学んだことが、少しでもその活動に役に立っていたら、僕は凄く嬉しく思います。

小野寺　私は親によく言われていたんだけど、「受験勉強を頑張れば頑張るほど、大学に入れば、本当に、それよりも何倍も楽しい人生が開ける」って。そのアドバイスをずっと大事にして、受験勉強は人生に意味のあるものだって思って頑張りました。辛かった時も、「慶應に入りたい、入れる」って、プラス思考で頑張りました。

唐仁原　僕の場合は全く状況が反対で、親も大学に行かなくても良いって言われていたし、周りも「どうせお前は受からない」って言われていたので、逆にそれが悔しくて、頑張れました。

甲　斐　それは本当に凄い。本当にかっこいいことだよね。まさに反骨精神ってやつだね。

小野寺　あとは甲斐先生の授業をとにかく受けることだと思います。もちろん、通っているだけでなくて、授業の予習・復習とかを必ず行うこと。分からないことは質問したり、個人添削してもらったりして、とにかく教えて貰ったことを自分のものにすること。それが一番大事だと思います。

【座談会 Part.Ⅱ】
合格者が「今こそ」語る、受験英語の「普遍性」を求めて。

普遍性とは、すべてのものに通ずる性質。『広辞苑』より





九島遼大さん
東京慈恵会医科大学合格
昭和大学、東京医科大学、
東邦大学、聖マリアンナ医科
大学各医学部にも合格
〈暁星高校出身〉



木村涼乃さん
一橋大学社会学部合格
早稲田大学政治経済学部、
国際教養学部にも合格
〈女子学院高校出身〉

座談会 Part.Iでは、唐仁原君と小野寺さんに甲斐講師の授業の「圧倒的な解りやすさ」について語ってもらいました。今回は、「甲斐講師の英語」には、早慶はもちろん、医学部、国立に至るまで、様々な方面への志望者が増えているそうで、もっと大局的に、「英語学習の普遍性」について議論を深めたいと思います。あえて、全く畑違いの学部に進学した九島君と木村さんに座談会に参加してもらいました。

Q.九島君と木村さんが入塾したのは、二年生あたりだったと聞いています。卒塾する頃の偏差値は70前後に二人とも到達していたそうですが、入塾する前は、英語の成績はどうでしたか?

九島　全くダメでした。他の大手予備校に通っていたんですけど、苦手すぎて何からやるべきかわからずに、とても困っていました。

木村　私も九島君と同じです。文型の把握とかも全然出来なくて。中高一貫校だったので、中学生の時に英語の学習を怠けてしまい、英語は全くわかりませんでした。

甲斐　まぁ、「甲斐の英語」ではスタート時点で英語が出来ないのは、鉄板だからね(汗)

九島　それでも、甲斐先生が、僕は途中入塾なのに、補講をして貰い、英語の「ゼロ」から教え直してくださったのは本当に助かりました。

木村　私も途中入塾でしたけど、英語の初歩から教えて貰って本当に良かったです。

Q.ところで、なぜ九島君は医学部に入って医者になろうと思ったのですか? 東京慈恵会医科大学を選んだ理由や、その大学の特徴を教えてください。

九島　一番の理由は両親が医者だったからです。もっと言えば、祖父祖母、叔父、従兄弟も含めて、全員が医者。だから、医者になりたいというより、医者になるという道以外は考えた事すらなかったです。

甲斐　まるで医者になることを運命付けられているようだね。では他の大学の医学部にも合格したのに、なぜ慈恵会医科大学を選んだの?後輩のために、大学の特徴とかも教えてくれない?

九島　慈恵はゆるい!めっちゃ、ゆるいです!

甲斐　それ言っていいの？（笑）

九島　いや、これはとても大事なことですよ！実際に、私立医大の中では、ダントツに慈恵と慶應はゆるいと聞いていて…。

甲斐　えっ、どういう意味で「ゆるい」の？（笑）

九島　慈恵に関しては、小テストもあまり実施されないです。試験も、普通に勉強したら、十分に点数をとれるものばかりです。それで余裕ができた時間に、自分の好きな勉強をしたり、部活動を積極的にやったりして、結果的に様々な経験ができるんです。教授も、「一年生は思いっきり遊んでいい」と認めてくれています（笑）。

Q.一方で木村さんは、併願で早稲田の政治経済学部と国際教養学部にも合格。両者はとても人気がある学部ですが、どうして一橋大学を選んだのですか？また一橋大学に入って良かったところはありますか？

木村　私は国立志望で、そのためだけに大嫌いな社会科目を勉強しました。せっかく勉強したので、一橋に進学しないと損だと思いまして…。

甲斐　なるほど。努力は報われたいからね。では一橋大学に入って良かったところはある？

木村　学部間の垣根が殆どないところです。それどころか、卒業に必要な単位として、他の学部の単位も取らないといけない。その意味で、履修する授業の幅に、自由度が高いところが、一橋大学は凄く良いなと思います。

Q.九島君は医学部、木村さんは、「国立大学と早稲田の併願」であったと言うことですが、受験英語の勉強として、何か特別なことはしましたか？またその勉強方法に違いなどはありましたか？

木村　それは全くないです。実際に、私の場合は、一橋大学の過去問をやり始めたのは、センター試験が終わってからです。

甲斐　それはさすがに遅いような…（汗）。

木村　それまでは、甲斐先生の課題や授業では、早慶上智や東大、医学部から文学部まで様々な英文を課されるので、分け隔てなく取り組んでいきました。大学個別の対策は、基礎が完成してからやるべきだと思うし、逆に様々な大学の問題をやった方が、きっと力は付くと思います。

甲斐　まぁ、確かにそれは言えるね。どこの大学の問題でも、「英語は同じ」というのが、僕の基本的な授業理念。結局は、しっかりとした英文法の基礎がないと、長文問題や文法問題はもちろん、英作文やリスニング対策だって意味のないものになってしまう。

木村　その通りだと思います。とくに私は、最初は志望校がはっきり決まっておらず、甲斐先生に相談すると、「とりあえず、正しく英語の力を上げれば、秋以降であっても、どこの大学の対策でも十分に間に合うよ」とおっしゃってくれたので、受験する予定のない慶應や上智、または医学部の英語にも積極的に触れられました。これは、正しく「英語の力」を身付けると言う点において、本当に良かったと思います。

甲斐　九島君はどう？

九島　僕も木村さんと同じです。僕は医学部志望でしたけど、早慶上智の問題を多く取り組めたのは、本当に力が付いたと思います。「医学部」であっても、秋ぐらいまでは、特別な対策はいらないと思います。

甲斐　と言うことは、二人ともやって来たことは、とりわけ大学別に特別な秘策があったわけではない。「王道的」というか、何処の大学を志望するとしても、英語の成績の伸ばし方は変わらないと言うことだね？その意味では、「志望校別の英語の勉強の仕方がある」と言っても、概ね、受験英語は「普遍的」であると言えると思います。

木村　もっと言えば、国立の英作文であっても、それなりに長文が読めるようになってからやると、すぐに書けるようになりました。長文読解や英作文などの「問題形式」は、大学によって様々であるとしても、やはり「普遍性」があると思います。例えば、「長文読解をちゃんとできる人」は、どの大学の、どの形式の問題でもできますから。

九島　もちろん医学部は、医学系の長文はよく出題されるけど、まずは基礎力がないと、やっても意味がないです。

甲斐　そうだよね。医学部志望者は、医系長文を読むための、特別な「医学の知識」の必要性を気にしているみたいなんだけど、それについてコメントもらえる？



九島　はい。必要なのは単純



に「英語力」であって、とりわけ時間を割いて「医学知識」を習得する必要はあまりないと思います。実際、僕の「医学英語」の長文対策としては、8月、9月以降から始めました。必要な最低限の「医学知識（風土病、生活習慣病など）」は、過去問をやっていく中で、自然と完成されていった感じです。まずは普通に「受験英語」をやるべきです。だから、僕は秋以降も、「医学英語」と「普通の学部の英語」をバランス良くやっていました。

甲斐　そうだよね。確か夏ごろに九島君に面談してみると、一日二題の長文を、医学英語と「それ以外の学部の英語」を一題ずつやっていると言っていたよね。

Q.『英語学習の普遍性』という点では、大学に入っても同じですか?

木村　私の大学は二人のnative speakerの先生がいるのですが、その授業では、みんなと英語でdiscussionをしています。みんな言葉に詰まりながらですけど…。ただみんな受験英語を乗り越えてきたという地盤があり、大学に入ってからの英語もその延長だから、何とか成立しているのだと思います。結局は英文を読めないと、speakingもhearingもできないので。

甲斐　これから様々な受験方式が出てきても、「英語学習の普遍性」は絶対に言える。昔から何も変わっていないんだよね。それがイラスト問題でも、リスニングであっても。もちろん、大学に入ってから「communication tool」としての「英語」であったとしても。

木村　英語の普遍性と言えば、甲斐先生の授業では、英文法はもちろんのこと、文脈の論理にもの凄く拘っていて、それも大学での英語にとても役に立ちます。「経済学入門」の最初の授業では、その資料は全て英語で書かれていました。当然、私は経済学の知識は、全くありません。そこで、甲斐先生が授業中にやっていた「文脈の論理的な捉え方」を、そのまま頭の中で再現して、何とか読み進んでいったという感じでした。

九島　甲斐先生は、英文法を正しく使えるように、よく「状況別」にまとめられるので、その思考の方法が、医学の勉強においても、僕の土台になっていると思います。医学だろうと受験英語だろうと、「手持ちの知識だけを使って、その場で物事に対応する力」が求められます。そのためには日頃から、その知識を「使うべき時に、正しく使えるように」、それらを状況別にまとめておくことと、「木」ではなく、「森」として全体像を見渡す「観察力」が大事だと思います。医学の勉強でも、僕は未だに、そのように知識をノートにまとめているんです。

Q.実際に、「甲斐講師の英語」を受講して、どのような感想をお持ちですか?

九島　甲斐先生の授業に関して言えば、とにかくわかりやすい！甲斐先生に教わって、初期段階で、「文法力」が圧倒的に身に付きました。それも長文をやっていく中で、自然と身についたのは本当に良かったです。「文法力」は英語の成績を伸ばす上で、絶対に不可欠なものだから、早く甲斐先生の授業で「文法力」を高めて欲しいです。

木村　私もそう思います。甲斐先生の授業は、英文法に関しても、文脈の把握に関しても、他の授業では考えられないぐらい、丁寧に、授業後の疑問を全く残さないように教えて下さるので、そこは他とは圧倒的に違うと思います。だから、毎回毎回の授業で、やるべき事を消化しやすかったです。その結果、私は周りの口コミや情報に流されずに、甲斐先生から言われたことしかやらなかったことが、今考えると本当によかった、これから甲斐先生の受講する生徒さんに伝えたいです。

Q.最後に、これから大学受験をする後輩へのメッセージってありますか?

九島　受験当日は、確かに緊張しました。その緊張感の中で、僕は試験中にやるべき事をずっと心の中で確認していました。たとえば、英語だったら、読めないときは英文全体像を見渡して、とにかく視野を広げることを意識しようとか…。そうしている内に緊張していることも忘れていたので、受験生には、緊張したときこそ、やるべきことのイメージトレーニングをやってほしいです。それは受験直前期も同じです。

木村　私は全く緊張しませんでした（笑）。ただ、受験勉強は、経験的にきっと将来にプラスに働くと思うし、第一志望に合格すると、本当に大学は楽しいところになります。だから受験生には、一生で一番勉強すべき時に、一番頑張って欲しいと思います。



英語科

中島ひろや

1人ひとり全員としっかりと寄り添い、全員伸ばす!!

【クラス定員 18 名程度】



授業中も常に笑顔を絶やさない中島講師。世界中を旅行し、多くの経験を積んでいます。この笑顔があるからこそ、生徒は厳しい受験期を乗り越えていくことができるのです。

塾長から見た中島講師。

中島講師は2014年から成増塾で指導を開始しましたが、グングン人気が上昇している若手実力派講師です。中島講師の授業の特色はズバリ「面倒見の良さ」です。ほかの塾ではあきらめてしまうような基礎力の弱い生徒でも個別の補講を取り入れてめきめき基礎力をつけ、最終的には英語を得意科目にし、志望大学に合格させてしまうのです。中島講師の講座をとった生徒は本当にその指導の丁寧さに満足しています。中島講師のクラスは全員の英語の成績を伸ばし、志望大学に合格させることを目標においており、しかもそれを見事に実現しています。そのおかげもあって、中島講師のクラスは志望大学に合格した生徒からの口コミが口コミを呼び、今では成増塾の中でも押しも押されもしない人気講座になりました。私が絶対的な信頼をおいている若手講師の一人です。

中島講師が語る。

【講座の特徴】

「半個別で、結果を出す!」

こんにちは！英語科の中島です。成増塾には良い講座が沢山ありますが、その中でも、私の講座は絶対的な自信があります！その理由は「半個別」で行う授業スタイルと、それによる受け持った生徒の「合格率」です！しっかりと１人ひとりと寄り添い、結果を出す！上記においては絶対的な自信があります！

【簡単な自己紹介】

英検１級を長文満点で取得後、学校の教員から予備校講師へと転身。大手予備校で３年で全国映像授業を担当させていただき、進学塾から補習塾までありとあらゆる生徒を担当。自分が１００%いいと思うものが提供できる現環境にて受験関連学年専門（高２、高３、高卒生）限定指導。

【大切にしていること】

「コミュニケーションと結果」

色々な授業がありますが、私が大切にしているのは、「コミュニケーション」と「結果」です。一人一人状況と志望校が違うので、しっかりと毎週１人１人の進捗を確認しながら、それぞれに合った課題や指導をしていきます！「しっかりと進捗を毎週確認してほしい。」「自分に合った指導が受けたい。」そういった人は間違いなく私の講座がお勧めです。

【対象】

「どんなレベルの志望校・生徒でも大丈夫です!」

「自分の志望校に合うか不安。」「レベルが高そうで不安。」よくいただく質問ですが、私は１人１人の状



中島講師の授業は基礎力の確立を重視します。しかも一人ひとりの弱点に応じた勉強を中島講師自らが丁寧に指示していきます。英語に自信の持てない生徒でも中島講師が指導をすれば、本人も周囲も驚くほど成績を伸ばすことができているのです。

況と志望校に応じて指導をしていくので、今の状況は心配する必要はありませんし、志望校に合わせて指導をしていくので大丈夫です。担当する生徒のレベルも、旧帝大や早慶、医学部から、GMARCHなど幅広く、心配する必要はありません。「個々に見てほしい。」「自分に合った指導をしてほしい。」という生徒は特にお勧めです！

「英語が得意です。」

素晴らしいですね！ただ最初の体験授業の際に１人１人と話すと、どこかしら抜けはあります。まずはしっかりと基礎に抜けがないよう盤石な状態にし、なるべく早期に英語は完成させて、受験が近づくにつれて他教科になるべく回しつつ、英語は各自の志望校に特化した対策をしていきましょう！

「英語が苦手です。」

そういう生徒は個人的にすごく良いです！毎年英語で足を引っ張る子はほとんどいないので、英語さえ仕上げれば合格するというのは私にとってすごく楽です。英語が苦手な生徒は概して基礎に大きな抜けがあるので、まずはしっかりと個別課題にて基礎を徹底的に固めていき、状況と志望校に最適な教材課題で、毎週仕上げていきましょう！

以下よくある質問に答えていきます。



授業中も生徒一人ひとりの質問に丁寧に答える中島講師。丁寧で分かりやすい説明で生徒の疑問に的確にこたえていきます。

「単語が覚えられません。」

よく聞くのが、「単語が分からないうちに長文を読ませられる。」「単語テストが苦痛で仕方ない。」いきなり単語帳の丸暗記はきついです。受験で必要な単語だけを使って小説を書きました。その小説を何度も音読してくれれば、受験で必要な単語はある程度定着します。基本的な単語が終わった後は、毎週個々の状況と志望校に合った単語帳のテストを、個別で行っていきます！

「文法が不安です。」

文法に抜けがあると、長文に入った際、何となくでしか読めず、伸びが止まってしまいます。逆に文法を万全な状態へと仕上げることで、その後の英語の伸びが変わってきます。文法は抜けがあってはいけません。私は文法は分からないところは分かるまで、個別で指導をする必要があると思っています。また基礎を学んだあとは志望校によっても最適なものは違うので、個々の状況と志望校に合わせて毎週確認していきます。

「英語を雰囲気で読んでいます。」

単語と文法を駆使して、1文1文正確に読む精読という作業があります。「中学まで英語は出来ていた。」「文が長くなると分からなくなる。」「模試でなぜか点が引かれる。」こういった生徒は、１文１文正確に読む精読の訓練をすることで劇的に変わる場合が多いです。しかし精読は学校によってしっかりと行う学校と、行わない学校と、はっきり分かれてしまっています。個々により理解度が全く違うので、しっかりと個別課題・個別対応にて、１文であれば読めるという万全な状況を作っていきます！

「長文によって、読める長文と読めない長文があります。」

長文の悩みで多いのが、「途中で何を言っているか分からなくなる。」「読める長文と読めない長文がある。」など本当によく聞きます。その場合は、１文が出てきたら和訳をし、また１文が出てきたら和訳をする「和訳マシーン」になっている可能性が高いです。



平成25年より成増塾での指導を開始。オーストラリアやアメリカなど7ヶ国を一人旅した経験を持つバイタリティ溢れる若手講師。英語を母国語としない人向けの世界共通の英語教授資格TESOLを取得しており、その英語指導の実力は高い。

長文全体の構造をとらえながら、強弱をつけて読む。一歩立ち止まって深い理解が求められる硬い文章の読み方など、どんな長文でも読めるよう徹底的に鍛えていきましょう。

「志望校の問題が解けるか不安です。」

「英語が読めれば、英語の入試問題は解ける」と思っている人も多いです。確かに偏差値６０くらいであれば当てはまる場合が多いです。しかし難関大となってくると、英語が読めるのが前提で、そこからそれぞれの志望校に応じてやることが変わってきます。「英作文は大丈夫ですか？」「文意に基づく和訳になっていますか？」「記述はしっかりと答案に反映できていますか？」「マーク式を適当に解いていませんか？」英語が読めても、最後の答案や正答率に反映されなければ合格できません。私の授業では、設問アプローチや個々の記述の確認を徹底的に行っていきます。志望校に向けて万全な状態に仕上げていきましょう！

「授業はどのように行われますか?」

私の授業は「個々の状況と、個々の志望校に最適なものを」という考えのもと行われるので、状況や志望校によって最適なものを学習していきます。授業日に最低２時間～４時間来てもらい、それぞれの生徒にとって最適な教材を半個別で行います。体験授業で一連の流れは分かると思います。

「たくさんの合格者の手書きの声。」

パンフレットにも合格者の声を載せていますが、載せられているのは本当にごく一部です。この他にも国公立や早慶など、数えきれないほどの合格者による手書きの声があります。もちろん中にはGMARCH第一志望や、それ以下が第一志望の生徒もいます。「自分に合った最適な指導が受けたい」そういう生徒には絶対的にお勧めです。

「私の授業が合っていると思う生徒。」

・個々にしっかりとみてもらいたい生徒
・どうしても合格したいという気持ちがある生徒
・英語を何から勉強していいか分からず苦しんでいる生徒

「私の授業以外の方がいいと思う生徒。」

・大人数の授業が好きな生徒
・一方通行の授業が好きな生徒

「出講日数と質問受け。」

私は受験関連学年限定で高校２年生から指導しているため、常に塾にいるわけではありませんが、万全なサポート体制のもと指導しています。具体的には、生徒からの質問受けは24時間365日行っています。（生徒とはLineやメールで連絡を取れる環境をつくっています）私の教材はもちろんのこと、学校のテスト勉強中わからないところや、英語に関する質問であれば、基本24時間以内に全て返しています。写真＋文字で質問をしてくる生徒が大半です。また和訳や英作文などの添削も、３日以内には返却しています。「２４時間個別の先生がついている。」そう思っていただければと思います。またテスト前などで休む



授業に向けて準備に予断のない中島講師。この日々の積み重ねが生徒との信頼関係をより深めています。

場合は、課題をテスト明け自宅で進めてもらい、翌週個別で確認＋指導します。もしくは翌週長時間滞在してもらえればと思います。

「親御様へ。」

体験時に生徒に一通り具体的な講座説明等はしますが、疑問点等あればご連絡いただければと思います。また実際に指導開始後も何かございましたら遠慮なくご連絡いただければと思います。必要であれば電話や面談も行っております。何卒宜しくお願い致します。

「最後に…」

世の中には色々な授業があり、それぞれの授業に良さがあるので、絶対的な正解はないと思います。私の授業スタイルも年々変化する過程で、ある種いろいろなものを捨ててきました。「１人１人に最適なものを！」「結果にこだわる！」

上記を意識してきたので、これらの考えに合う生徒には、私の授業は絶対に合うと思います。逆に、大人数の一方通行型が好きな生徒は私の講座でない方がいいと思います。「１人１人にしっかりと寄り添い、結果にこだわる」そういった授業が合っている人はまずは私の体験授業にお越しいただき、合うようであれば一緒にがんばっていきましょう！

今回ご縁がなかった方も、今後の英語学習がうまくいくよう願っています。最後までご覧いただきありがとうございました！

合格者の声

東京外国語大学
言語文化学部・英語学科合格
松本隼さん
淑徳高校

★苦手科目だった英語を得意科目へと中島先生は変えてくれました。他校でも英語を受講したことがありましたが、数か月ほどでやめて先生一本にしたほど素晴らしい授業でした!

▶▶▶中島講師から松本さんへ

英語が苦手な状況から入ってきてくれて、見事東京外国語大学の英語科以外にも、早稲田国際教養学部やICU、上智の外国語英語学科など、圧倒的に英語で突き抜けたことを誇りに思います!合格おめでとう!



一橋大学経済学部合格
村木俊一さん
城北高校

先生が生徒一人一人に合わせて出す課題をまじめにやれば自然と英語の成績は上がっていきます。先生のサポートをとても感じられるのでどんな子にも向いていると思います!

▶▶▶中島講師から村木さんへ

「受験英語は1年で完成させる!」高2で入ってきてくれて、予定通り高2で英語は完成させ、高3からは英語は最小限に抑え、数学と社会に回せたのが大きかったですね!英語講師としては理想の受かり方です!合格おめでとう!



生徒の皆さん1人ひとりとコミュニケーションを密に取りながら授業は進みます。時にはこんな真剣な表情も…。



笑顔が絶えない、合格祝賀会より。中島講師を囲む、志望校に合格した皆さん。



京都大学農学部合格

上田直毅さん
海城高校

★入塾した時、英語は好きであるにも関わらず、苦手科目でした。集団授業の中でも、個人との面談を欠かさず行い、生徒一人一人の状況に合わせてアドバイスや、やる教材を教えて頂いたお陰で、最後にはむしろ得意科目になりました。本番ギリギリまで添削して頂いたのも力強い励みでした。中島先生にはとても感謝しています。

▶▶▶中島講師から上田さんへ

上田くんはやるべきことを実直に熟していく素質があったので、間違いなく京都大学の英語で貯金を作れる自信がありました! 実際に英語でしっかりと稼げたようで良かったです! また直前期は全体のバランスを考え、英語にあまり時間を割かず、他教科に回せたことも非常に良かったと思います。英語に関しては直前期繰り返した個別の添削で、確実に合格を手繰り寄せることが出来たと思います! 合格おめでとう!!!



早稲田大学文化構想学部合格

岩川日和さん
都立小山台高校

★高校受験の知識しかなく、学校の英語の授業では何も得ていない状態の私に、それこそ単語から個別に見てくださり、「単語→文法→精読→長文→設問」という段階的な学習・長文音読のご指導を親身になってしていただき、一番苦手だった英語を得意科目に出来ました。

▶▶▶中島講師から岩川さんへ

岩川さんが、卒業生の紹介で入ってきてくれたことを昨日のように思い出します。同じ大学に入れてよかったですね! 入ってきた時は、苦手だった英語が、本当にみるみるうちに伸びていきました! 英語は正しいことを、正しい順番で勉強していけば、必ず伸びるのですが、一番必要な資質、素直さが本当に岩川さんにあったように感じます。あれだけ信じてついてきてくれたので、当然の結果と言えば当然の結果ですが。大学生活楽しんでください! 合格おめでとう!



早稲田大学法学部合格

千葉亮太さん
本郷高校

★的確に、今の自分に何が必要かを指示して下さいました。その結果、無駄のない勉強ができました。先生がやさしい。

▶▶▶中島講師から千葉さんへ

千葉くんは早稲田のほとんど全ての学部を、無駄のない勉強で最短最速で合格していったと思います。早稲田は各学部により全くアプローチが異なります。また適切に対策したのとしていないのとでは結果は全く変わってきます。勉強量自体は突出して多くはなかったと思うのですが、適切な対策をし、英語でかなり稼ぎ合格していってくれました! 本人自身も早稲田の各大学への対策がいかに重要かということを、芯から理解し、適切な対策をしていったことが、今回の圧勝の要因だったのではないかと思います。合格おめでとう!!!



昭和大学医学部合格

小塩媛子さん
雙葉高校

★中島先生の授業は凄くバランスが良いです。単語、文法、長文読解、リスニング、全てを全てを漏れなくサポートして頂き、英語が得意科目になりました。(偏差値75まで上がりました)個々に合わせて課題を出して頂いたり、勉強面以外でも相談にのっていただいたり、中島先生には本当にお世話になりました。

▶▶▶中島講師から小塩さんへ

僕は非常に個々の生徒とは密にコミュニケーションを取るのですが、特に小塩さんは自分からも積極的にコミュニケーションを取ってくれました。医学部は大学によって大きく出題傾向が異なり、しっかりと各大学ごとに対策をたてていかなければ受かりません。
また英語だけではどうにもならず、全科目での総合的な視点が不可欠です。前述したとおり小塩さんは医学部を目指す上で、コミュニケーションを自分からも密に取ってくれたので非常に指導しやすかったです。素敵なお医者さんになってください!



上智大学外国語学部・英語学科合格
齋藤航平さん
麗澤高校

★英語はわりと得意だったのですが、周りの生徒の実力も高く自分の知的好奇心を満たせる授業でした。また、個別対応がとても親切でした。

▶▶▶中島講師から齋藤さんへ

齋藤君はもともと英語が得意でしたが、やや雑なところがありました。何度も何度も授業中に指摘しながら、精読がしっかりと定着した後、盤石な状態が出来ましたね! まさに上智の看板学部に入るべくして入ったという感じです! これからもどんどん英語を使っていってくださいね! 合格おめでとう!



早稲田大学政治経済学部合格
曽根佑太郎さん
学習院高等科

★長文読解がかなり良くなったと思います。全ての設問に根拠をもって解くクセができたので本番の緊張の中でも落ち着いて解くことができました。長い受験勉強の中で一番つらいのは何をやったらよいかわからないことだと思います。
中島先生は何をやったらよいかを示してくれるので穴のない勉強ができると思います。

▶▶▶中島講師から曽根さんへ

早稲田大学、慶應大学ともに最難関の看板学部合格おめでとう!!
曽根君はやるべきことをしっかりとやっていってくれるので、正直当然の結果だと思っています。
大学生活楽しんでください!



早稲田大学社会科学部合格
山本佑輔さん
都立駒場高校

★英語力に関しては何十倍も伸びたと思います。入塾当初は部活引退後で何もかも分からない状態でしたが、中島先生の教材に触れて自然と英語力が上がりました。良かった点は生徒1人1人に親身になってくれるところです。それぞれの大学のことを分析されていて自分もそれに助けられました。中島先生ほど親身になってくれる先生はいないからぜひ一度受講してみてください!!

▶▶▶中島講師から山本さんへ

合格おめでとう! 部活引退後に入ってきた時は、正直何もわかっていない状況でしたが、見事受けた早稲田は全部合格してくれました!早稲田は学部ごとに問題傾向が全く違い、個々の学部への対策を言った通りに行ってくれました。大学生活楽しんでくださいね!!



筑波大学理工学部合格
有馬純孝さん
駒場東邦高校

★壊滅的だった英語が、なんとか太刀打ちできる程度になりました。センターも1年前の同日試験で69点でしたが、本番は158点まで上がりました。本当はもう少し取れたと思います。精読や文構造をとることが特に出来るようになりました。1年間ありがとうございました。

▶▶▶中島講師から有馬さんへ

高3の始まりに偏差値40ほどで入ってきた日のことを、今でも覚えています(笑)大逆転での筑波大学合格おめでとう!合格者平均点も超えていたみたいなので、合格者の中でも英語は高得点だったのではないでしょうか。1年間で本当に伸びましたね!!合格おめでとう!!

慶応義塾大学文学部合格
N.Yさん
吉祥女子高校

文型により重きを置いた解き方が出来るようになりました。それによって今まで感覚で解いていた問題も根拠をもって答えられるようになったと思います。また、長文や難しい文章に多く触れることが出来たので、試験問題を前にしても落ち着いていられました。英語が伸び悩んでいたり、英語を最重視する大学を目指す人にはおススメです!

▶▶▶中島講師からN.Yさんへ

合格おめでとう!英語の配点が高いところには絶対の自信はありますが、Nさんは見事英語力を伸ばし、慶應大学に合格してくれました! 慶應文学部は記述が多く、毎授業記述の出来を確認できたのも要因ではないかと思います!合格おめでとう! 楽しい大学生活を送ってください!!

【座談会】
中島クラスから
憧れの早稲田大学に合格した3人!





田中英智朗さん
早稲田大学社会学部合格
〈東京都市大学付属高校出身〉



馬場貴也さん
早稲田大学商学部合格
〈都立高島高校出身〉



小林瑞季さん
早稲田大学商学部
〈区立九段中学高校出身〉

中島　今日は忙しい中を集まってくれてありがとうございます。
君たち３人は今年の春、見事志望大学に合格したのだけど、合格に至るまでの経験をこれから受験に臨む成増塾の後輩たちに語ってほしいと思います。
まず、最初にみんなに聞きたいのは「受験を経験していちばん良かったことは何か」ということです。田中君、いかがでしょうか

田中　そうですね。早稲田に合格してつくづく感じるのは、本当に自分は今、最高の環境にいるんだ、ということです。受験という試練を経て早稲田に集まった仲間は本当にみんな素晴らしいし、話が合います。いい仲間ができた、と毎日感じています。早慶戦なんかを観に行くと盛り上がり方が凄くて「ああ、自分も早稲田の一員になれたんだな」と強く感じます。

中島　田中君は現役の時はGマーチを受けて全滅だったんだけど、現役でGマーチに行くのと、一浪で早稲田に行くのとどちらがいいと思った？

田中　それは絶対に浪人して早稲田に行った方がいいと思います！

中島　そうか！そう思えるだけのものが早稲田にはあるんだね！本当に良かったね！
馬場君はどうかな。

馬場　僕は、受験を経験して忍耐力が付きました。今までの自分の人生で初めて「やり切った！」と感じることができました。

中島　そう言い切れるのはすごいね！

馬場　ええ、僕は中学、高校時代はサッカーやテニスなどのスポーツに打ち込んでいたのですが、どちらも「やり切った感」がなくて不完全燃焼だったような気がしていたんです。だけど、受験勉強をやり切って、第一志望の早稲田に受かり「自分でもここまで出来

るんだ！」という気持ちを持つことができたんです。

中島　うん、君の１年間の様子を見ているとホントに完全燃焼したって感じがするよ。
小林さんはどうかな。

小林　私は、受験勉強を経験して「自分で考えられるようになった」と思います。

中島　それは具体的にはどういうこと？

小林　受験というのは、結局は、自分が１年間やっていたことがすべて結果になって自分に返ってくるものだと思うんです。すべて自己責任だから後悔がないように１日１日を大切に過ごしました。

中島　確かに小林さんの勉強ぶりを見ているとそんな感じがするね。
ところで、世間では早稲田・慶応とGマーチの間には壁があるといわれているけど、みんなはそう思う？

田中　僕は過去問をやっていてそれはすごく感じました。

馬場　僕もそう思います。Gマーチは素直な問題が多いんだけど、早稲田・慶応はやはり一筋縄ではいかないというか、本当に考えさせる問題が多いような気がしました。

中島　なるほど。では次の質問に移りましょう。もし君たちが受験時代の自分にアドバイスできるとしたらどんなアドバイスをしてあげますか？

田中　僕は１か月遅れの５月に別の塾から移ってきたんですが、最初から成増塾に来ればよかった！ってことですね。

中島　あはは！田中君は僕の最初の面接を受けた時に「絶対に早稲田に受かりたいから成増塾に移ってきました」って言ってたよね。君は早稲田を本気で狙っていて、合格スレスレじゃなくて、さらに上の、上位合格を目指していたからね。
でも、そういう考え方は大事だと思う。早稲田・慶応に合格することは、ここ数年は以前よりさらに難しくなっていて、「スレスレでも合格できればいいや」って思っている人はみんな不合格になっている。「上位合格してやる！」くらいの意気込みがなければ早稲田・慶応に合格することは難しいのが現実だと思う。

馬場　僕は本当にぎりぎりのところまで努力していました。これ以上できないというところまで頑張っていました。だから、受験時代の自分にアドバイスするといっても「がんばれ！」といったことくらいでしょうか。

中島　うん、君の勉強への取り組み方を見ていたけどすごい気迫が感じられたよ。

小林　私は、受験校をどうするかですごく迷っていて二転三転していました。

中島　そうだったね。いろいろ悩んでいたよね。ところで、小林さんは慶応の経済と、早稲田の商学部と秋田の国際教養大のすべてに合格したんだけど、なんで早稲田の商学部にしたの？

小林　早稲田の校風が私に合っていたのと、留学しやすい環境が整っていると思ったからです。

中島　なるほど。小林さんは大学に入ってからのことまで考えて、自分の夢を一番実現できそうだという基準で入学する大学を決めたんだね。それにしても早稲田、慶応、国際教養大学に全部合格して、選べる状況になったなんてほんとにぜいたくな悩みだよね(笑い)。
次に、みんなが「一番つらかった時期」はいつか教えてもらえるかな。

田中　僕の場合は、成増塾に移ってくる前、別の塾で勉強していた時ですかね。宿題を指定されて淡々とこなしていくのですが、「こんなことをやってて本当



に合格できるのか」という疑問を持っていました。講師の先生は「これで受かる」と言っているのですがどうも信じ切ることができませんでした。その時を振り返ると「自分で判断すること」も大事だなと思います。

中島　それは大事なことだよね。僕も、課題を出すときには本人の考えを十分尊重している。やはり、自分で納得できなければ本当にやる気にはなれないからね。

馬場　僕は4月から11月まで毎日が本当につらかったです。なかなか成績も伸びなかったし。

中島　うん、馬場君は最後になって本当に成績が伸びたけどそれまではつらかっただろうと思う。どうしてつらい勉強をやり続けることができたの？

馬場　実は兄が浪人して合格できたのが中央大学だったので、兄に負けないようにという気持ちがすごく強かったです。

中島　ある意味、お兄さんがいいライバルだったんだね。モチベーションを維持するためには、ライバルがいることは大事だよね。

小林　私は、逆に、浪人の１年間は勉強だけやればよかったので気が楽でした。現役の時は学校の勉強と両立させなければいけなかったので、そっちの方が大変でした。センターでは思ったように点数が取れなかったのですがあまり落ち込むこともありませんでした。

中島　センターで失敗したのに落ち込まなかったんだ！メンタル強いね！

小林　ええ、もう済んだことは仕方ないし、淡々と自分のやるべきことをやったって感じですかね。

中島　それは凄いね。受験ではメンタル面が凄く大事だけど、小林さんみたいにいい意味で鈍感になることも大事なんだね！

じゃあ、次に、合格した時の喜びについて語ってもらいます。受験でみんなが一番うれしかった時のことを教えてください。

田中　僕は、早稲田の社会科学部に合格した時ですね。家でボーっとしてた時だったんですが、合格を



知ってほんとにうれしかったです。思わずガッツポーズをとりました！

中島　それは忘れられない思い出だね。

馬場　僕は立教に受かったときです。というのも、去年は立教も含めてすべての大学に不合格だったので立教の試験の時もすごく緊張していました。それで立教に受かったときは「もう浪人しないでいいんだ！」と思いました。それでかえってすごくリラックスして早稲田の試験に臨むことができたので良い結果が出たのだと思います。

中島　なるほど、リラックスして臨んだのがよい結果につながったんだね。

小林　私が嬉しかったのは慶応の経済に合格した時ですね。本当は秋田の国際教養が本命だったんですが、慶応の経済は自分の中では一番難しいと思っていたので。

中島　うん、慶応の経済は本当に難しいからね。

次に後輩たちへのアドバイスに移ります。お勧めの勉強法があれば教えてください。

田中　僕はやるべきことを「to do リスト」にまとめて計画的に勉強を進めていきました。過去問を軸にして自分がやるべきことをあぶりだし、足りないところを問題集で補っていきました。また、たくさんの問題を解くことで自分の知識を血肉化することができました。この点、成増塾の高卒部は自学自習の時間をとるためにあえて授業時間が少なくしてあるので助かりました。多分、他の予備校に通っている受験生の3倍以上の問題をとくことができたと思います。

馬場　やっぱり量は大切ですよね。僕もたくさん問

題を解いて初めて自信を持つことができるようになりました。

中島　うん、「量は裏切らない」よね！英語は問題を解けば解いた分だけ力がつくからたくさん問題を解くことは本当に大事だよね！

馬場　それと、国語は山下先生に対抗しようと思った。僕は授業中に自分の答案を見てもらった時、山下先生に、けちょんけちょんにけなされたので。

中島　山下先生にけちょんけちょんに言われたの？山下先生はそういうキャラじゃないと思うんだけど。

馬場　もちろん、僕の答案がそれだけ、ひどかったのだと思います。だけど先生に徹底的に答案の悪いところを指摘されることでかえって「今度こそは完璧に答えてやる」という闘志がわきましたね。

中島　なるほどね。じゃあ、ある意味で国語は山下先生がライバルだったっていうことだね。

小林　私も今考えるとたくさんの量をこなしたことがすごくよかったって思います。どこを受けるにしても英語が必要なので英語には特に力を入れてたくさんの英文を読みました。量をこなすには成増塾の自習室が凄く効果的でした。成増塾の自習室は凄く集中できて完璧でした。

逆に小論文はあまり量をこなせませんでした。私は「国語」が苦手だったので何か書けば点数が取れる小論文の方が自分には向いていました。

中島　小林さんは本当に自習室を使いこなしていたよね。

じゃあ、次は、受験を振り返って「やらなくていい勉強、やってはいけない勉強」があったら話してもらえますか。

田中　そうですね、過去問は難しい問題もあるので、自分が持っている参考書や問題集で基礎を十分に身に着けてからやった方がいいと思います。

中島　過去問の研究はいつから始めたの？一般には10月くらいからやればいいといわれているけど。

田中　過去問は科目によってそれぞれ得意不得意があると思うので三科目を一斉に始めなくてもいいと思います。例えば、英語が得意で日本史ができてなかったらまず英語のみ過去問を解いてみるとか。ただ、僕自身は夏休みが終わってから全科目を解けるように、基礎固めを夏休みまでで終えた方がいいと思います。

馬場　僕は「行き当たりばったり」の勉強はしない方がいいと思います。計画も立てずに勉強すると学力にムラができるのではないでしょうか。だから僕は毎日、やるべきことを、淡々と、一年間同じペースで勉強しました。

小林　英語に関して言うと、現役の時は文法と単語がきちんとできていなかったのでそれをつめてやることが大切だと思います。あと、馬場君が今言ったように毎日の勉強を淡々と続けることは本当に大事だ



憧れの早稲田大学に見事合格して、3人は合格の秘訣を熱く語ります。

と思います。

中島　うん、それは大事だよね。Gマーチの英語なら単語・熟語をきちんとやっていなくても何となく読めちゃうんだけど早稲田・慶応だとそうはいかないからね。

次に、合格できた一番の要因は何か、後輩の諸君に伝えてあげてください。

田中　誘惑に負けないことですかね。僕の場合、ケータイを使う時間を減らすことを心がけました。スマホをみるのは時間を決めて１日1回にしました。

馬場　僕は基礎固めを徹底してやったことが合格できた一番の要因だと思います。例えば古典は気合い入れて復習しました。山下先生の教材が素晴らしかったので。

小林　私の場合は、自分がやると決めたことはちゃんとやったことが合格できた要因だと思います。

中島　僕の授業への印象を一言ずつ言ってもらえますか。

田中　中島先生は合格最低ラインを示してくれて、しかも、そのラインをかなり超える目標を立ててくれたのですごく安心して勉強を進めることができました。あと、授業ではすごく集中できる雰囲気があったので授業に来たときは本当に知識が身についている感じがしました。

馬場　中島先生は生徒みんなにちゃんと声をかけてくれるので僕もコミュニケーションをとることができました。

小林　中島先生は私の学力の現状を把握してくれて、その学力に応じた課題を出すなど、常に適切な指導をしてくれました。授業の雰囲気は「みんなできるなー」という感じでした。

中島　小林さんは、精読はきちんとできていたけど、読むスピードが遅かったから、とにかくたくさんの英文を読むようにアドバイスしたよね。あと、授業ではみんながリラックスして勉強できるような環境を作ることを心がけています。人間はリラックスしているときに一番集中力を発揮できるからね。僕の講座はどんな人に合うと思う？

田中　英語を本当に得意にしたい人は絶対取るべきだと思います。ただ、基礎固めができていないとついていくのはきついかもしれません。

馬場　課題が多いので中島先生を信じてついていけることが大切だと思います。成績が上がらない時期もあると思うのですがそれでブレないことが大事です。僕はすべて中島先生にお任せしました。

小林　何をやったらいいかわからない人はとりあえず中島先生の講座をとるべきだと思います。

中島　では、最後に、言い残したことがあったら一言ずつ言ってください。

田中　他の予備校はパックで無駄が多かったけど成増塾は単科なのですごく助かりました。

馬場　自習室がよかったです。椅子は長時間座っていても疲れないし、冷蔵庫もあるし、教科書や参考書を置いていけるので次の日にもすぐに勉強をスタートすることができました。

小林　自習室が朝9時から夜22時まで使えたのが凄くありがたかったです。

中島　今日は本当にありがとう。これからも大学生活を大いにエンジョイしてください。



終始和やかな雰囲気で進行した座談会でした。終了後は同席した早稲田大学OBの高島塾長を交えて、笑顔の記念撮影を行いました。

英語科

高島 穣

難関大学医学部、早慶上智に強い実力No.1クラス。

【クラス定員 12 名程度】



高島講師のクラスでは、毎年、英語が不得意な生徒が短期間で得点力を伸ばしています。その秘密は、読解の基礎を完全に固めたあとで通常の予備校の三倍の量の英文を多読させる「高島メソッド」にあります。特に、3年生は夏休み明けから、週一回、授業時間以外に演習を受け、本番さながらの緊張感で五カ月間に及ぶ実戦的トレーニングを積むのです。

東大、医学部、早慶上智に合格する十分な学力をつけたい、という人に是非とって欲しい講座です。特にこのクラスには医学部を目指す生徒が多数在籍し毎年、難関大学医学部にコンスタントに実績を出しています。この4年間をとっても、医学部関連では、慶応大学医学部に1名、千葉大医学部に3名合格、自治医科大学（東京都の２名の地域枠）や順天堂大学医学部（東京都10名の地域枠募集）にも合格しています。医学部以外にも一橋大学経済学部、早稲田慶応上智に多数合格しており、国立、私立問わず、どの大学にも堅調な合格実績を残しています。

このように高島クラスから、国立、私立、を問わずどの大学にも堅調な合格実績を出せているのは、英語の基礎固めを徹底的に重視した上で、たくさんの英文を読ませるというオーソドックスなスタイルの授業を徹底していることが大きな理由です。３年生の夏休み以降は、正規の授業以外に週１回、２時間程度の演習の時間を設定しており、生徒はそれぞれ自分の志望大学の問題を本番同様の緊張感あふれる状況で解き、添削指導を受けることができます。また、クラスの定員を低く設定してあり(12名程度)、少人数であることのメリットが最大限に活かせる授業を展開しています。



高島講師の秘伝書「英文解釈の鉄則」。ここに書かれているルールをマスターすれば、どんな複雑な構造をもつ英文も自分の力で正確に読めるようになります。受験参考書で有名な大手出版社からの出版要請を断り、成増塾の生徒だけに伝授しています。



高島講師は現役の講師であり、、さらに塾を運営する塾長を兼任しています。毎日の多忙な活動を通して、生徒の皆さんと直にコミュニケーションを取ります。



個別指導をする高島講師。成増塾の多くの講師は入試本番前になると、生徒一人ひとりの志望大学に応じて、個別指導をします。生徒にとっては自分の弱点を知り尽くしている講師がまさに入試本番の一番大事な時期に『最強の家庭教師』になるのです。

合格者の声



千葉大学医学部合格
林 計企さん
聖光学院

★成増塾の高島英語の授業は質、量、ともに十分なもので英語を得意科目にすることができました。厳しい受験を乗り切ることができたのは成増塾のおかげです。ありがとうございました。



自治医科大学医学部(東京都地域枠)合格
順天堂大学医学部(東京都地域枠)合格
須藤篤史さん
巣鴨高校

★僕は高島先生の英語のみを受講していました。この授業で良かったのは、志望校別にクラス分けされていたので、少人数で授業が受けられたこと、そして、自分のペースで受験勉強に取り組めたことです。普通は受験直前期にもなると過去問対策に追われるものですが、私は高島先生の授業のおかげでその頃にはかなりの量の過去問を解いていたので英語については安心していられました。このことは僕にとっては一番助かった点でもあります。直前期は他の科目の対策に時間をかけたかったので週1回でも授業の中で集中して英語の過去問を解けたことが本当に役に立ちました。また、わからない箇所はすぐに質問できたこともよかったです。試験本番で落ち着いて解くことができたのは絶対にこの授業のおかげだと思います。



早稲田大学文化構想学部合格
中村美紀さん
大妻高校

★私は、高1の冬から成増塾に通い、受験最後まで高島先生にお世話になりました。高島先生が繰り返し基礎を確認してくれたおかげで、苦手で嫌いだった英語に自信を持つことができました。夏休みには、特別に授業をしていただいたり、通常授業で欠席した時は、補講を行ってもらい、本当に感謝しています。直前期に過去問を添削していただいたおかげで、本番でも早稲田の文化構想で有名な一文英訳を焦らずに取り組めました。ありがとうございました。



東京工業大学第7類合格
田牧輝久さん
早稲田高校

★高島先生の英語講座は、1人1人の答案をきちんとチェックする少人数制を生かしたものでした。おかげで、記述が必要な「東工大」に対応できました。僕のように国立大を目指す人にお勧めです。



慶応義塾大学医学部合格
村上諒典さん
暁星高校

★私は、成増塾で高島先生の英語と押川先生の物理の授業を受講していました。お二人とも、生徒一人一人に親身に対応してくださる本当に頼れる先生です。英語の高島先生の授業では、徹底した構文理解と単語・熟語暗記によって、合格に必要な英語基礎力をしっかりと身につけることができました。どちらの先生の授業も、それ無しでは合格できなかったと思います。本当にありがとうございました。



東京大学文科Ⅲ類合格
柳　春菜さん
女子学院高校

★成増塾では、高島先生の英語を受講していました。連続して英文和訳などの英文解釈をし、その解説を受けることができたので、気がつくと、英文を読む力が安定していました。高1の時は苦手だった英語も、今では得意教科です。本当にありがとうございました。



インターネット授業で講義をする高島講師。初めて学習する人にもわかりやすく丁寧に授業を進めていきます。

高島講師が語る。

【基本方針】

私の授業の目標は「文法・作文力、読解力、リスニング力のすべての面であらゆる入試問題に対応できるオールラウンドの英語力を形成すること」です。以下、それぞれの分野ごとに私が指導において心がけていることを説明していきましょう。

(1)文法力・作文力　「構文500」で「無敵の基礎力」を作る。

文法力と作文力は別々に養成すべきものではなく、同時に高めていくべきものです。

私の授業では**「構文500」という準拠教材を完全にマスターすることで文法力・作文力の基礎を早期に形成することに特徴があります。「構文500」は入試問題を解くのに必要なあらゆる構文をコンパクトにまとめた良書で、しばしばそこに出ているのとそっくりな英文が入試問題の作文、文法問題などに登場します。**毎年、志望大学に合格した生徒から次のような報告を受けます。「先生、英語の試験中、笑いをこらえるのに必死でした。だって、作文の問題がほとんど『構文500』の問題と同じだったんですから」。

これは誇張ではありません。早稲田大学の条件作文の問題など、私が見ても「構文500から出題されているのではないか」と思えるほどそっくりな問題が出されることもしばしばです。つまり、『構文500』を完全にマスターすれば作文、文法問題に関しては「入試問題の解答集を頭の中に持っているのと同じ」だと言えるのです。私は『構文500』に関して生徒に常々次のような話をします。

「君たち『構文500』を見ながら試験を解けば作文、文法の問題で満点をとれるのは当然だよな。だけど試験中に『構文500』を見ながらやったらカンニングで捕まるだろ。だから、カンニングで捕まらないように頭の中に入れておけばいいんだよ」

『構文500』は、条件作文等で役に立つだけでなく本格的な和文英訳問題、自由英作文で高得点をとるためにもゆるぎない基礎力を形成します。私の授業では文法・作文、読解の授業でも常に『構文500』を参照し基本事項を確認します。また、毎回の小テストで『構文500』を自然にマスターできるようにしてあります。生徒たちは『構文500』を完全に暗記し、最終的にはどこに何が書いてあるかを完全に覚えてしまいます。

これだけで、通常の国立大学の標準レベルの作文はすらすら書けるようになります。京大のような本格的な和文英訳、一橋大のような比較的長い自由英作に関しては別に練習が必要になりますが、『構文500』でゆるぎない基礎力が形成されていれば京大、一橋大で出題されるような問題も短期間でマスターすることができます。これらに関しては別に徹底的な訓練をします。

(2)読解力　「精読から多読へ」

入試問題のほとんど【７割以上】が読解問題、特に長文問題によって構成されている現状を前提とすると、**ゆるぎない読解力を身につけ、『日本語のように』自由自在に英文を読んでいく力こそ、私たちが最終目標とすべき英語力の中核**になることには言うまでもありません。

読解力に関し、私が念頭に置いているのは「精読から速読へ」ということです。

この点について詳しく説明しましょう。英語教師の中には「入試問題は長文がほとんどだ」という現状を前提とし、「長文をたくさん読めば自然と英文は読めるようになる」と考えている人がいます【ちなみに成増塾の講師の中にはこのような間違った指導をしている人はいません。ご安心ください】

しかし、そのようなやり方では決して真の読解力は身につきません。それは、次のようなことを考えれば納得していただけるでしょう。どんなに英語が苦手な人でも中学生の教科書レベルの英文であればスラスラと相当の速度で読めるはずです。ですが、中学生レベルの英文をいくらスラスラ読めたとしても大学入試レベルの英文には手も足も出ないというのが現実です。では、大学入試レベルの英文をスラスラ読

めるようになるにはどうすればよいか。もちろん、その答えは大学入試レベルの英文に取り組むことです。

では、どうやって取り組めばよいのか。ここが重要です。この点、上で述べたように一部の英語教師は「分からなくてもいいから、大学入試レベルの英文をたくさん読め。そうすれば自然と読めるようになる。」と指導している人がいるのです。このようなやり方では、どんなに勉強をしてもほとんど英語の読解力は身につきません。ではなぜ、そのような勉強法では大学入試の英文を読む力が身に付かないのでしょう。

それは**「スラスラ読める（速読）のためには、まず正確に読める（精読）ことが前提となっている」**からです。このことをはっきりと認識しない限り、英語の力は決して伸びていきません。つまり、「やみくもに英文を多読していれば読解力は自然に身に着く」と考えている人は、この前提を無視した勉強をしていることになるのです。

これに対して「だって、ネイティヴの人はどんな英文でも自然に読めますよね。あれってたくさんの英文を読んでいるからじゃないんですか」という疑問を持つ人がいるかもしれません。ですが、そのような疑問を持つこと自体が間違いです。ネイティヴも決して、やみくもに多読をしたから読解力が身についた、というわけではありません。私は、帰国子女と言われる人たちを指導してこのことを痛感します。帰国子女の人たちは、日常の英語のコミュニケーションでは不自由しません。また、センターレベルの英文では高い点数をとることもできます。ですが、難関大学レベルの英文、中でも東大レベルの英文解釈になると全くできない人がいるのです。これは、先ほどの例でいえば「中学生レベルの英文がスラスラ読めても大学入試の英文は読めない」ということです。センターレベルの英文はネイティヴのレベルでいうとせいぜい小学校高学年レベルです。ですが、東大や早稲田、慶応といった難関大学の英文はネイティヴの人たちにとっても「教養のある大人の読むレベルの英文」です。「ただなんとなくわかる」といったレベルでは太刀打ちすることはできないのです。



高島講師は常に現在担当する生徒の学力を正確に把握したうえで授業を展開するので一人ひとりの生徒は、最も的確なアドバイスを受けることができるのです。

絶大な力を発揮する「英文解釈の鉄則」による精読トレーニング

以上で、難関大学レベルの英文を読むには、まず正確に読むこと、つまり精読力が前提となることがお分かりいただけたと思います。では、その精読力をいかにして養成するか。私の授業では、「英文解釈の鉄則」という「読解のためのルール」を使用しています。

「英文解釈の鉄則」は複雑な構造の英文を自力で読み進めることができるさまざまなルールをまとめたもので私が長年の指導で編み出したものです。私の授業を受講する生徒はこの「英文解釈の鉄則」を使用することで短期間に東大等の英文を自力で読み進める読解力を身につけています。また、授業では同時に「重要語法暗記リスト」というオリジナル教材も使用します。**この「重要語法暗記リスト」は、大学入試で必要な語法をすべて網羅したリストです。生徒は毎回の授業で「重要語法暗記リスト」を参照することで自然に文法、作文、読解で必要な基本事項を身につけています。**

以上のように「英文解釈の鉄則」で正確な読解力を磨いた上で、「重要語法暗記リスト」「構文500」で基礎知識を身につければ難関大学の入試問題もスラスラ読めるようになります。

精読をマスターした上での速読、これで「鬼に金棒」です。

あとは練習あるのみです。ここから「速読」のための「多読」が始まります。**私の「上級クラス」では国立大学の問題を1回の授業で1年分読み進めていきます。これは、普通の予備校の2倍以上の量です。十分な「精読」のトレーニングをした生徒が「多読」によって「速読力」身につければ、まさに「鬼に金棒」といった状態になります。**

実際、私の授業の「上級英語」のクラスの生徒は東大の下線部解釈の問題でも極めて容易に解くことができます。東大模試など、平均点が5割に達していない問題でも普通に8割前後といった上位合格レベルの得点をとることができます。一橋大を始めとする上位の国立大学の問題であっても制限時間の半分くらいの時間で解き終えることができるようになります。まさに、普通の大学の英語の問題など、日本語を読むように軽く解いてしまいます。

(3)語彙力

私のクラスでは「リープ英単語」(数研出版)「構文500」から範囲を指定し、毎回小テストを行います。小テストの答え合わせは、全員の答案を私がチェックしつつ、関連事項なども解説し楽しく、自然に難関大学に必要な語彙力を身につけていきます。

(4)リスニング力

リスニングの秘訣とは、日頃から沢山の英語を聞くことです。私の授業ではYouTubeからお勧めの無料教材を選んで生徒全員にLINEで配信しています。

詳しくは授業でお話しします。

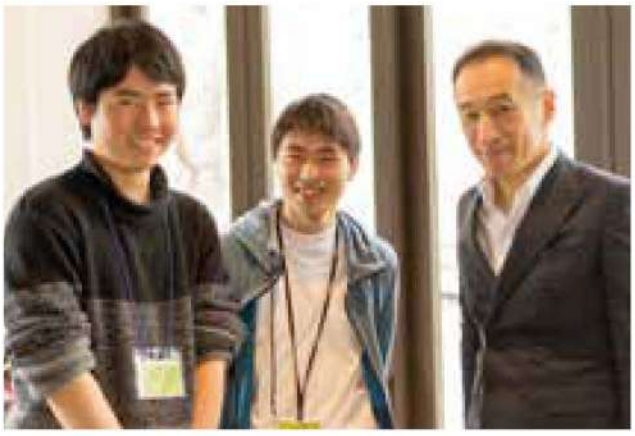
【授業のやり方とクラスの定員】

私の授業では、「一人ひとりの生徒の学力を把握した上での指導」を徹底して行います。具体的にいうと、解釈、作文、小テスト、すべてにおいて一人ひとりの答案をコピーし、生徒の理解度、間違っている箇所をチェックした上で授業を進めていきます。

授業をする際に、生徒の理解度、間違った箇所を私が完全に把握しています。生徒のノートをチェックして、間違っている箇所、理解が十分でない個所は質問し徹底的にただしていきます。このような授業の仕方を徹底しているので、生徒がすでに理解していることに多くの時間をかけたり、理解できていないところを飛ばして説明するということがありません。私はこれが少人数クラスの最大のメリットであると考えています。そのため、**クラス定員は最大でも12名前後に限定させていただいています。**12名を超えるとどうしても一人ひとりの学力を把握した授業を行うことが難しくなるからです。



高島講師と教え子たちの集い。高島講師の授業を受けた生徒は志望大学に合格した後も成増塾をしばしば訪れてくれます。生徒たちとの交友関係は生涯続くものになります。



合格祝賀会より、高島講師と東大理科Ⅱ類に合格した大島拓也さん(中央)と東京医科大学医学部に合格した鴻野暁さん(左)。

英語科

真島信雄

英文構造を解明することが英語を得意にする第一歩!

【クラス定員８名程度】



真島講師の授業は明快で疑問点を残しません。英文の論理構造を丁寧に解きほぐしていく緻密な授業は多くの生徒から絶大な支持を得てきました。

塾長から見た真島講師。

真島講師は都内有名塾で長年教鞭をとってきましたが2016年より成増塾で指導を開始しました。真島講師の授業は非常に論理的であいまいな点を残しません。英文の論理構造の解明を自力でできるようになった生徒は正確に速く、自分で英文を読み進めていくことができるようになります。

真島講師が語る。

人は呼吸する。だが、その無(・)意識の呼吸の「メカニズム」を、意識して理解している人は少ない。英語学習も同じです。

生まれながらの活動(ネイティブ)と異なり、幼児期を過ぎてからの第二言語としての英語学習では、意識的に、「頭の動きを自覚し体系的に」学習することが不可欠です。

英語は、社会の現象に対して、言語を用い、理解し、運用していく学問です。そのため英文を読む際、頭の中でイメージし、英語で言語化する訓練が必要になってきます。

現状、英語の授業において、文法公式を丸暗記させ問題を解かせる授業が多く、そのような授業ではマークシート形式の入試には対応できても、英文構造の読み解きを必要とする難関私大、国公立大、医歯系大の入試問題には対応できません。

単語さえわかれば、英文の読解はできるというのは詭弁です。「英文の構造が読み解けなければ、英文読解は出来ない」。これが私の得た帰結であり、合格者のみが実感した現実です。

英文の構造を把握する勉強法なら、英語の実力は飛躍的にUPします。

従来、多くの学生が陥りがちであった間違った英文読解の捉え方を図式化すると、以下です。

英文→単語の意味の積み重ね→文の意味がとれない

これは、単語力にモノを言わせ、力技で、英文の意味を作り上げる方法で、「何となくこんな意味だろう」という訳になります。それで何とか正解できた気になっている人は残念ながら、合格は遠のいてしまいます。

もう学生は、こうした"暗記型学習"に傾斜した勉強法とは決別し、"構造型学習"に切り替えてもらいたい。構造型学習とは、一見、難解な英文を見ても、その構造を分析し、「この英文は、こういった構造ゆえ、この解釈しか考えられない」と、根拠をもって答える学習法です。

以下が、この考え方の図式となります。

英文→文の構造理解→内容理解

この読み方がしっかり身につけば、急に視野が開け、英文の本質が理解できるようになり、英文が読めます。またこれまで嫌々やっていた文法の本当の重要性も、どんどんわかってきます。断片的な知識が、頭の中で結合し、「英文がわかるとはこういうことか」と実感します。

この段階に入るとテストの点も飛躍的に上がるし、難関校合格も手の中となります。

本授業ではただ公式を丸暗記するのではなく、１つ１つの英文の構造をしっかりと理解・咀嚼し、自分で導けるようになることで、英文読解に興味を持ち、その構造を自分で応用して使う文法力を養っていきます。

暗記を増やすのでなく、知識に論理を与える事が、英語力向上のカギです。最後まで考え抜いていきましょう。そのため身近にある社会の現象を頭の中でイメージし、その現象を英語で言語化する訓練が必要になってきます。

英語科

竹内John啓介

英語の楽しさに目覚めさせてくれる授業!

【クラス定員10名程度】



竹内講師はイギリス、アメリカでの生活も長く経験し、ネイティヴ感覚を生かした授業で生徒の読む、書く、話す、聞く、力を総合的に伸ばしてくれます。

塾長から見た竹内講師。

竹内講師は有名塾での指導経験も長く、エネルギッシュで、本当に楽しくわかりやすい授業をしてくれます。授業では生徒とのコミュニケーションをとりながら生徒の英語力を総合的に伸ばしてくれます。イギリス、アメリカでの生活も長かったのでいろいろなお話も聞かせてくれます。生徒は知らないうちに英語学習の楽しさに引き込まれ、しっかりとした英語の基礎力を身に着けることができるはずです。

竹内講師が語る。

【はじめに】

はじめまして！講師の竹内John啓介です！気軽に「ジョンさん」と呼んでくださいね！

ところで成績の上げ方って知ってますか？学校の授業はつまらない、買ったけど手をつけてない参考書がたくさんある、塾に通っても予習・復習なんてしない、映像授業や通信添削の教材はたまる一方…それがかつての僕でした。そんな無駄な時間とお金はもったいない！本来、学ぶことは楽しいことなのです。楽しいから勉強する、勉強するから成績が上がる、成績が上がるから楽しい。この快感はクセになります。あなたの成績、必ずあげてみせましょう！

大学受験では、他の科目と比べて英語の配点が大きくなります。それゆえ、他に得意科目があっても、英語の点数が悪いと受かりません。さらに、皆さんが大学受験に挑む頃には、従来の「読む」ことを中心とした問題に加え、「聞く」「書く」「話す」の４技能を総合的に問われる問題になることが濃厚です。入試問題の移行期間に受験をむかえる皆さんは、場合によっては、４技能問題の初受験者として、過去問がまだない入試を受けることになります。この入試を乗り越えるためには、小手先のテクニックや付け焼き刃の勉強では太刀打ちできません。早い時期からレベルの高い対策をし、本物の語学力をつけてきた人が受かるシステムへと変わろうとしているのです。

【高校1年生：そろそろヤバいかな…と思い始めた君へ】

高１の授業は主に文法の解説・演習を中心に進めていきます。３月から授業は始まり、年末までには中学・高校で習うで全文法事項を網羅することになります。

このカリキュラム構成にはねらいが二つあります。

一つは「英文法の体系的な全体像の俯瞰」です。中高一貫校の進学校ではカリキュラムの消化ペースがとても早いです。日々の授業はどんどん先に進んでしまうので、目の前の定期テストを乗り切るのに必死、前の学期に習った範囲などまったく思い出せない、となりがちです。その結果として、あらかじめテスト範囲が与えられている定期テストでは点数が取れるけど、純粋な英語力を問われる外部模試ではなかなか成績があがらない、という症状が散見されます。そういう人はこの授業を通じて、英文法にはどん

な単元があるのか、という目次を頭の中に作っていきましょう。そうすることで初見の問題を前にしたときに、どの単元から出題されているのか、その単元で気をつけなければならないことはなにか、と冷静に対応できるようになります。

もう一つのねらいとしては「今までに習った文法事項の総復習」です。つまり、ズバリ、中学校の英語に自信が持てない君のためです。中高一貫校には高校受験がないので遊ぼうと思えばいくらでも遊べてしまいます。部活に遊びに学校行事にと、学校生活は意外と忙しいですよね。しかし、そんな君が今これを読んでいるということは、きっと君もそろそろ変わらなきゃと思っているのでしょう。この授業では、先に書いたとおり、中学・高校の6年間で扱う全ての文法単元を一気に学んでいきます。中学生のときに勉強していなかった人は全力でついてきてください。文法とはその名が示すように「文のルール」です。これを理解せずに長文を読むことは不可能です。この一年で全て身につけてしまいましょう。

また、多くの学校で高1の後半に文系・理系の選択を迫られます。これは君の一生に関わる問題です。しかし、大人は「自分の進路について真剣に考えなさい」とは言うものの、進路をどう考えるかまではきちんと教えてくれません。目標が定まらないのに勉強し続ける、というのはなかなかの苦行ですよね。そういった悩みを一緒に解決していくために、僕は長期休み期間に全学年・全生徒と個別面談を行っています。進路や勉強状況をはじめとし、英語以外の科目や学校でのことなど、ありとあらゆる相談にのります。

高校2年生になるまでに英語力の基礎とも言える「文法」と「単語」を身につけ、高2以降は長文読解や英作文、リスニングの対策に専念できるようにしましょう。

【高校2年生：高3にあがるその前に】

高2の授業テーマは「読んで、読んで、読みまくる！」です。

高2になると徐々に模試が増えてきますが、そこで必ず出る悩みが「時間が足りなくて最後まで読みきれない」です。この時期、生徒からもよく「どうやったら速読できますか？」と質問されます。しかし、待ってください。「速く読む（速読）」ことばかりに気をとられがちですが、そもそも「正しく読む（精読）」ことは本当にできていますか？単語の直訳を強引につなげてなんとなく和訳していませんか？言語の習得順序として、まず「正しく読む」ことができるようになり、その鍛錬の先に「速く読む」ことがあるのです。その逆は絶対にありえません。高2の授業ではこの「正しく読む（精読）」力を磨くことに主眼をおきます。実際に過去の入試で出題された難しい文章を使い、いかに内容を把握するか、和訳するときの注意点はなにか、などを細かく見ていきます。

本授業では高2の三学期時点でセンター試験で最低8割、理想9割を目指します。これはGMARCHの英語なら十分に戦えるレベルでもあります。なぜ高2のうちにセンター試験で9割を目指してほしいかというと、高校3年生になると理科・社会などの英語以外の科目にどうしても時間をとられるからです。言い方を変えれば、高3の英語では実践的な過去問演習に専念できるように、高2のうちに英語の下地を整えておく必要がある、ということです。これを達成するために、上記の「正しく読む（精読）」の練習と並行して、文法問題や長文読解の演習を宿題として出します。生徒一人ひとりの弱点にあわせてやるべき教材を提案できるのも少人数授業の強みです。（僕はなかなかの参考書マニアなので、英語以外の教科でも教材に悩んだら積極的に相談してくださいね。）

また、途中入塾される方には別途課題を出しています。本カリキュラムに途中から合流するにあたって多くの生徒が特に感じるのが単語力の不安です。スポーツに例えると、英語を学ぶ上での単語力は、筋トレのようなものです。高1から筋トレを続けてきた人とそうでない人とでは基礎体力に大きな違いが

あります。この基礎体力である単語力は高３にあがる前に絶対に強化しないといけないものです。授業と同時並行で単語力を養っていきましょう。

【高校3年生：最後の瞬間まで走り続ける覚悟を】

高３の授業について書くには紙面が足りないので、まずは体験授業を受けてください。受験本番までの残された時間、志望校合格までの最短ルートを全速力で駆け抜ける覚悟がある人のみ、入塾を歓迎します。

君の本気を、僕は決して笑わない。熱い一年にしよう。

【一言メッセージ】

英語はたんなる「科目」ではなく、世界中で使われている「言葉」です。クラスで友達と話すのが楽しいように、本来「言葉」は楽しいものなのです。僕はアメリカとイギリスに住んでたこともあって、「言葉」としての英語が大好きだし、君たちにもそのおもしろさを伝えたいと思って教壇に立っています。

英語ができると君の視野が広がるし、一生役に立つ。世界中に友達ができる。日本語の美しさに気付くようにもなる。いいことだらけだね！

受験英語で終わらない真の英語力を身につけて世界に羽ばたけ！





夏休みを利用して短期留学に挑戦した生徒から送られてきた絵葉書。「受験英語」の枠にとらわれず、英語そのものを好きになる生徒が多いのも本授業の特徴です。

合格者の声



早稲田大学政治経済学部 政治学科合格

倉重 水優さん

富士見丘高校

★学校名で偏差値などを検索してもらえばわかることですが、私の通う高校はいわゆる「自称」進学校でした。大量の課題を出すだけの学校には不信感しかなかったので、私なりに考えて自分で勉強を組み立てていました。自分のやっていることが正しいのか、定期的にジョン先生にチェックしてもらい、自分では気づけなかった視点ややる気をもらっていました。今ふりかえって特に思い出に残っているのは、2月の受験期真っ最中、プレッシャーに押しつぶされそうになったときにジョン先生が「誰よりも勉強してきたでしょ。ここで勝負を降りてしまったら、最終的に受かる人たちの思う壺だよ」と真剣に言ってくれたことです。結果、最後までやりきって出願した全大学・学部に合格できました。高校生活いろいろありましたが、ジョン先生の学部の後輩として、これからの大学生活を誰よりも楽しみたいと思います。



早稲田大学文学部合格

金枝 大輝さん

芝高校

★ジョン先生の授業は中3の夏ごろからとりました。僕は中学受験が終わってからまったく勉強していなかったので、最初の頃はbとdの鏡文字を直されるレベルでした。正直な話、本格的に勉強に集中し始めたのは高2の夏前ぐらいでした。ジョン英語では春・夏・冬の講習に面談の時間があるのですが、その面談でジョンさんと「高2のセンター試験同日模試（※現・共通テスト同日模試）で英語8割」という目標をたてたことでスイッチが入り、単語帳からやりなおしました（授業で毎回やってたはずなのに…笑）ジョンさんに指定してもらって、高校入試レベルの問題集から徐々に問題集の難易度をあげていきました。高3でも学校では下位のクラスに所属していましたが、むしろ全力で内職できてよかったです笑。ジョンさんは「先生」っていうより「アニキ」って感じの人で話しやすいのがありがたかったです。

英語科

今村 尚

医学部に強い、贅沢な超少人数クラス。

【クラス定員6名程度】



今村講師は医学部受験指導のキャリアが長い「医学部合格請負人」です。誠実で温かみのある人柄、様々な工夫が施された楽しい授業で受験生から厚い信頼を得ています。今村講師は、生徒一人ひとりの特性にあった指導をすることを揺るがない方針としています。

塾長から見た今村講師。

今村講師は、医学部英語に精通する医学部英語のエキスパートです。都内の有名医学部受験塾や医学部専門の個別指導塾長年の指導経験があります。単語、熟語、構文、文法、すべての分野をシステマチックに、楽々と暗記させてくれます。生徒がどこでつまずいているかをしっかりと確認した上で、その生徒に一番あった指導方法を考えてくれます。今村講師は人格もすばらしく、卒業した生徒からも慕われています。

今村講師が語る。

1 難関大に求められている英語力とは何?

医学部、国立大学、早慶上智、G-MARCHのような難関校、有名大学の受験の英語は、大学によって出題傾向や形式は違うものの、様々な知識を発展させたり、組み合わせて解くものが目立ちます。長文では、日本語訳を見ても頭に吸収しにくいような、高度な読解力を要する多様な分野の題材を扱うものだったりします。このような問題に、1回勝負で確実に高得点を勝ち得るには、英文法全体を頭に入りやすい順番や流れで体系的に学んだり、ボキャブラリーを生きた長文の中で習得し、様々なジャンルの題材に対応できる知識をバックボーンにした英文読解力を身に付けなければなりません。そして、当然ながらその準備には、2年・3年といった期間を使って、知識の拡充や長文に必要な思考力、読解力を磨きあげて行く必要があります。

2 英語力を最も効果的に身に付ける手だてとは?

英語の学習プロセスは、大きく3つに分けて考えてみると次のような流れになります。

3 合格メソッド!!イマムラの授業のオリジナリティーはこれだ!

3つの段階をリンクさせて、完成させた形の英語力を自主学習で実らせるのは大変です。まして、限られた時間の中で、他教科の勉強もおろそかにできません。そこで、私の授業では1クラス数人の少人数制を生かして、文法の説明の時間以外は、個人の状況に合わせて指導や対策をし、個々に問題点や質問に応じるスタイルを取り、そしてその中で、上記のプロセスの達成のフォローを、手厚く丁寧にさせて頂いております。

学校の定期テスト対策も、個々に問題を作って対応するなど、3年時からは、一人一人の受験校の過去問をマンツーマンで、単語熟語の習得も個人的カリキュラムで対応しています。

テキストは大手予備校に提供したり、塾用教材として編集作成されたオリジナルテキストを中心として、実践力に最も必要な演習問題数も、文法・語法問題だけでも5000問以上は取り組めるようになっています。医学部予備校、早慶専門クラスを始め、多数の予備校での指導経験豊富な、オリジナリティー満載の私の授業に是非仲間入りして頂き、皆様の第一志望合格へと一緒に邁進しましょう!

英語科

安藤勝美

基礎力を万全にするから英語を得意科目にすることができる!

【クラス定員8名程度】



安藤講師は大手予備校で長年教鞭をとってきました。長年の指導経験をもとに作られたオリジナルプリントで生徒の実力は短期間で伸びていきます。

塾長から見た安藤講師。

安藤講師は、大手予備校での教授経験も長く、教え方が非常にうまい先生として知られています。また、誠実で温厚な人柄で一人一人の生徒を丁寧に指導することで生徒、保護者から絶大な信頼を寄せられています。

安藤講師が語る。

●経歴と教育理念●

ご縁あって平成元年より教壇に立たせて頂き、教えた生徒数は29,000人を優に越えます。元生徒の中には医師や弁護士だけでなく、東大や医大で教えていたり、日本を代表して海外で活躍している方や女優・天気予報士もいます。

少人数制の塾だけでなく、最大手予備校においても20年ほどの講師経験があり、英語が不得意な生徒を難関大へと数多く導いてきました。

32年に及ぶ講師経験から断言できるのは「学ぶべきことを習得して活用すれば、成績は必ずアップする！！」ということです。その学ぶべきことを責任感を持って教え、志望校合格へと導きます。

大学入試に直結することだけでなく、今後の人生に役立つような情報や知識も伝えていきたいと考えています。

「大きな成功には、小さな成功体験がその背景にある。」

大学受験の成功が小さいとは言いませんが、それをきっかけに将来の大成功を築いて欲しいです。

●授業内容●

1コマ2時間の中で、英文法・語彙語法・英語構文・英作文・英文読解を、基礎から丁寧にバランス良く教えていきます。

量質共に難関大合格に必要かつ十二分な授業を展開し、理系・文系、私大・国公立大のすべてに対応できる、本物の実力をつけられるよう指導します。

毎回の授業で実力がアップするのを実感してください。その先に第一志望校合格が待っています！！

●テキスト●

英文法・語彙語法・英語構文・英作文・英文読解のすべてにおいて、オリジナルプリントを中心に用います。

中学レベルの英語でつまずいてしまった生徒も短期間で早慶上智レベルの難関大合格に導いた実績がある教材を改良したものが、授業で用いるテキストの核を成します。

合格実績がある教材で、確実に実力をつけていきましょう！！

●生徒指導●

授業内容や進路などの質問や相談はいつでも受けます。特に試験直前にはニーズに応じて英作文の添削も一人一人丁寧に行い、受験が終わるまできちんと指導します。

●すぐ始めよう●

成増塾の体験授業は予約制です。授業に興味を持ちましたら、お電話で予約してください。

途中入学される方には個別面談にて相談にのり、学習指導します。安心してください。

では、教室でお会いしましょう！！

加藤剛史

1年で全国マーク模試の点数が50点から183点(133点アップ⤴偏差値30アップ⤴)に上がった授業!偏差値40からでも国公立・早慶上智・医学部に合格する!

【クラス定員8名程度】



加藤講師は、ていねいで分かりやすい板書で授業を展開していきます。

塾長から見た加藤講師。

加藤講師は週に 2回運動などで気分転換をしていますが、四六時中熱心に教材や過去問を研究しています。空き時間や空いてる日程に通常授業とは別の補習授業を行うなど非常に面倒見が良いです。ユーモアがありメリハリをつけた楽しい授業で、英語に苦手意識がある人でも得意にし、英語好きにしてしまいます。

加藤講師が語る。

●私のプロフィール●

早稲田大学政治経済学部・経済学科卒業。大学3年の時、アメリカカリフォルニア州立大学に1年間学部留学後、塾・予備校指導歴は20年以上に及びます。最初の9年間は英語だけでなく国語講師としても教壇に立ち、現在はその国語指導を基にして、パラグラフ毎の要点を鋭く見抜き、文章全体での筆者の主張を的確に掴む論理的な英語長文読解法を確立しました。全国最大手家庭教師センターでプロ家庭教師をする一方、都内の2つの有名医学部予備校でも指導し、医学部合格者を多数輩出しています。

現在まで、基礎クラスから最上位クラスまで学年も幅広く担当し、基礎クラス(平均偏差値43)からも早稲田大学(教育)合格者を出した経験があります。ある受講生(偏差値58の公立高校に在籍)の全国マーク模試での偏差値が40.5(5月)から62.5(10月)に上がったこともあります。下高井戸のある中3受講生は4月半ばから受講開始2ヶ月で学年順位が180人中94位から36位に上がり、それから4ヶ月後には17位に上がりました(77位アップ⤴)。また、下高井戸で受講開始2ヶ月後に全国マーク模試の点数が46点上がった(偏差値11.8アップ⤴)高3生もいます。ある医学部予備校では「今までで1番わかりやすい!」と言う多浪生も現れ、個別指導で指名する生徒が一年中続出しております。ある高2生は高3の8月までに、1年で全国マーク模試の点数が50点から183点(133点アップ⤴偏差値30アップ⤴)に上がりました。

●授業スタイル●

私の授業では単語・熟語テスト、復習テスト、文法・語法を重視することはもちろん、文構造を掴むための素早く丁寧な板書を徹底しています。生徒さんに発問しながら文構造を一緒に分析して和訳を考え、その後に構造を書き込んだプリントを配布します(生徒さんは板書を無駄に写す必要はありません)。「書く」という作業は頭を働かせる上で重要ですが、解説を聞きながら板書を書き写してしまうと構造を把握する過程が頭に残らない可能性が高いので、そうならないように常に配慮します。

授業中の発問内容は普通に授業を聞いていれば答えられるものばかりなので安心して下さい。英作文も状況を見ながら文法・語法、読解の間にバランス良く組み込んでいき、答案の添削を徹底します。

単語については接頭辞・接尾辞を利用した覚え方を、熟語についてもなぜそういう意味になるのかをアドバイスしていきます。リスニングについても随時助言します。質問があれば気楽に尋ねて下さい。授業中に質問しづらい生徒さんにも授業前後を使って確実に対応します。

また、パラグラフ毎の筆者の主張を捉える読解法は当然ながら、**音読を非常に重視します。テキストの文章に合わせたネイティヴの音源を自宅や外でも聞けるように用意**して音読課題を出して、スラスラ音読して訳せるかを翌週にチェックします。まず一文一文をじっくり確実に精読出来る力をつけて、扱う英文は徐々に徐々に長くしていきます。**文構造と意味を意識しながら毎日10分以上音読することで発音・アクセント問題に余裕で対応出来るようになり、単語・熟語も文脈の中で記憶に定着し、英語を左から右に無意識的に直読直解する力が必ずついてきますので楽しみにしていて下さい!!**

学校の教科書も、覚えてしまう位に普段から音読しておけば、定期試験前に慌てて英語をやる必要がなく他の科目に時間を使うことも出来ますよ!

英語科

中山洵一

英語のスペシャリストが
楽しくわかりやすく教える。

【クラス定員8名程度】



授業の構成…①復習の英文和訳　②復習の和文英訳
③文法の新単元
↓
①文法問題　②英文の精読(or長文読解)
③和文英訳・英文和訳
↓
①入試演習と解説
②和文英訳・英文和訳・自由英作の
演習とフィードバック

宿題の構成…①復習課題(簡単なドリル)　②問題の解きなおし
↓
①問題の予習　②問題の解きなおし

塾長から見た中山講師。

中山講師は東大で言語文化を専攻した語学のスペシャリストですが、生徒一人ひとりの心情をつかみ取り、一人一人に寄り添って丁寧に指導を進めていく優しい講師です。

中山講師が語る。

進度…高1の前半で高校の基礎文法を修了します。そこから共通テストレベルの英文精読(英文解釈)とGMARCHレベルまでの文法問題の演習を行います(基礎固め期間)。高2中盤から旧センター試験～私大個別試験くらいの長文読解、比較的簡単な和文英訳と英文和訳に移ります(多読期間)。高3では私大・国公立大の過去問演習、自由英作文、比較的難しい和文英訳と英文和訳を行う予定です(仕上げ期間)。



文法、和文英訳、英文和訳の三つを基本に据えた授業です。一年生の最初から記述の練習を行うので、記述式の問題を出す大学を目指す生徒におすすめです。中学英語の基礎にはあまり触れないので、そこまでの復習は生徒に任せています。

☆想定レベル…1年生のうちは基礎を徹底します。最終的に旧帝大の和文英訳・英文和訳の問題、そこに早慶を含んだ長文読解の問題の過去問演習を行う予定です。

※2021年3月～の高3クラスは進度が半年分遅れています。

【プロフィール】

1992年台北生まれ。15歳までアジア各国を転々と過ごす。母国語は日本語。大学卒業後、しばらく脚本家を目指しつつフリーターに。やがて講師業に本腰を入れるようになる。2019年から成増塾にて出講。英検1級、TOEIC980点を取得。



渡辺兼盛

アメリカの最新の教授法で英語を得意科目に!

【クラス定員6名程度】



色分けされたわかりやすい板書が理解を助けます。

塾長から見た渡辺講師。

渡辺講師は大学で教鞭を取られた経験もある実力講師ですが、授業はとてもわかりやすく生徒の目線に立って教えてくれます。

渡辺講師が語る。

問からのスタートあるいは「鎖国からの開国」へ

はじめまして、講師の渡辺です。私の講座のテーマはとにかく点を取ることです。合格点を取るために必要なことはこの授業ですべてお伝えします。そのために、私の授業では問へのアプローチ方法に徹底的にこだわります。

簡単な例を挙げてみます。電車で目的地に向かう際、どこの駅で、どの電車に乗り換えるのか、事前に調べますよね？そうしないと、現地で迷ってしまったり、時間を無駄にしてしまったり、精神的にも落ち着けなかったりすると思います。

同じようなことが長文読解問題でも起きているのです。つまり「問をきちんと読む＝乗換え、時刻を調べること」なのです。たとえば、Howから始まる問は、そのHowの品詞を考えることから始める必要があります。Howが副詞の場合、正解には副詞が入らなければなりませんよね？「今日のご夜飯は何が良いか」と問われて「19時が良い」と答える人はいませんよね？こういった言われてみれば当たり前だけれど、意外と意識できていない人が多いところを、きちんと意識できるようにすることが最初の目標です。

Dominant MotionとScrapping

私の授業の核となる概念としてDominant Motion（以下DM）とScrappingがあります。DMとは、西洋の知識人の間では常識なのですが、日本の英語教育の中では教えられることが全くない概念です。しかしながら、この概念を理解することができれば英語の実力は飛躍的に向上します。また、大学のレベルが上がれば上がるほど、DMについての問が増えていきます。それは入試問題を作成する大学の教員が知識人だからです。私自身大学で教員をしていた経験がありますので、この当たりのことはよく知っています。DMを簡単に一言でいうと「大切なこと（主張）は形を変えて繰り返される」、その際の主張の読み取りのルールがDMである、ということです。

一方、Scrappingは「一貫した本文に一貫した問が設定されるのであれば、問自体も一貫している」という考え方に基づき、問から本文を予測し、あるいは解答まで予測してしまおうというものです。こういう話を聞くと怪しげなテクニックだと疑われるかもしれませんが、アメリカでもっとも売れているテスト対策本を記しているDR. Garry Gruber（http://drgarygruber.com/）の方法論をわかりやすく応用したものになっています。この方法を身につけてもらえれば、大学入学後にTOEFLや国連英検などでも活用できます。

各学年の目標

1年生（予習不要）

読解：①1文1文がきちんと読めるようになること、②50行程度の英文に抵抗がなくなること。

文法：すべての文法項目について必須項目はすべて身につけてもらいます。

2年生（予習前提）

読解：①DMのマスター、②Scrappingの入門編をこなすこと。

文法：演習を通して標準レベルの知識の確認、発展レベルの知識を伝達します。

3年生（予習必須）

読解：生徒の志望校に合わせて、How toを徹底的に身につけてもらいます。

文法：正誤問題などの各形式への対応法を伝授します。

数学科

押川定夏央

人気・実力ナンバーワン。
授業はフレンドリーで超楽しい!

【クラス定員 20 名程度】



押川講師の授業はわかりやすい上に面白く、体験授業を受けた生徒の大半は受講を決めてしまいます。

塾長から見た押川講師。

成増塾、数学科講師人気ナンバーワン！フレンドリーな雰囲気の授業ですが、体験授業を受けた生徒のほとんどが受講してしまうほどわかりやすい授業をされる人気講師です。パワフルな授業は圧倒的にわかりやすく、一人ひとりの生徒への気配りも本当に丁寧です。受講している生徒たちはみんな仲がよく、授業後も遅くまで質問や相談でなかなか帰ろうとしません。現在、特待生試験では押川クラスの生徒がもっとも多くの上位者を出していることからも、クラスレベルは非常に高いことがわかります。物理の講師も兼任する理系のエキスパートなので数学・物理セットで指導を受けることもできます。

押川講師が語る。

【上位大学で求められるもの】

試験時間にそれなりの制約がある以上、まずは典型問題を素早く正確に解く能力・知識が必要となります。しかし、上位大学の入試では、合格者層の受験



数学の質問に答える押川講師。生徒は模試の問題が分からずに質問にやってきました。押川講師は即座に適切な解説を始めます。数学の問題であれば成増塾の授業で扱った問題以外のものでも全て教えてくれます。

生達は典型問題に関しては間違いなく解いてくるものなので、典型問題を解けるというだけでは合格の決め手にはなりません。上位大学では、典型問題に基づく「考える問題」を解くことが、周りの受験生に差をつけるために重要となります。

【使える学力」の構築】

受かるための数学の勉強には、様々な段階を踏んでいく必要があります。

①定義・定理・公式を知り、使い方を学ぶ。(基礎知識の構築)

②典型問題と基礎知識の関係性から「解法」を学ぶ。(典型問題の習得)

③なぜその解法を用いるかを考え、「使える学力」を身に着ける。(論理性の養成)

まずは、ドリルのような繰り返しの演習により、基礎知識を構築します。定理や公式が正確に使えるようになったところで、典型問題に対する解法を学びます。ここまでの事柄をなるべく早く終わらせる必要があり、この部分に関しては講義で扱うのと同時に、テストや宿題・自習課題で徹底的に鍛えていきます。③に関しては、多くの参考書でも扱っていない事柄であるので、自学で習得するには膨大な問題量をこなし体系化していく必要があるため、多大な時間を必要としてしまいます。

問題に対し定理や公式を当てはめることまでは大

体手がつきますが、その使った定理・公式が正しいプロセスであるとは限らず、正解にたどりつけるかはわかりません。「難問」と言われる問題の記述解答に多いのは、その問題で使うべきでない考え方をしているため、数行程度記述して力尽きているというものです。そのような答案では当然点になりません。この部分を突破することが周りに差をつけるために必要となり、そのために数学では「なぜその解法をとるのか・なぜその解法では解けないのか」を考えていく必要があります。数学には様々な公式・定理が存在し、解答の方向性を決めることが難しいため、この点を講義で重点的に扱うことで「使える学力」を身に着けていきます。

《数学IAⅡB》

高１では主に①②の部分を扱い、高２では②の繰り返しの演習、高３では②の確認をしながら③の学習をします。③に関しては高１からも下地を作っていきますが、まずは解法までをしっかりと理解し使えるようにならないと定着させることは難しいので、実際には高３で主に扱っていくことになります。

《数学Ⅲ》

高２の１年間で①②を身に着け、高３で②③を扱います。ⅢC分野では①②の力が最重要となります。



数学の授業をする押川講師。この写真撮影時、すでに授業終了時間を30分以上過ぎています。成増塾の講師の中には定刻になればすぐに帰ってしまうような人はいませんが押川講師は特に熱心な講師のひとりです。生徒からの要望があれば納得がゆくまで説明を続けます。

合格者の声



東京慈恵会医科大学医学部合格
九島遼大さん
暁星高校

★膨大な量の独自のプリントが凄かったです。すべて解くのはキツイ位の量ですが解説もあるのですべてやれば伸びると思いました。テスト形式での演習もあるので実戦対策もできよかったと思います。雑談も楽しく数学、物理以外の知識もつきます。



慶応義塾大学医学部合格
村上諒典さん
暁星高校

★私は、成増塾で高島先生の英語と押川先生の物理の授業を受講していました。お二人とも、生徒一人一人に親身に対応してくださる本当に頼れる先生です。押川先生は、物理が大の苦手だった私に、一から物理の考え方を教えてくださいました。結果、偏差値も30近く上がり、合格を引き寄せた最大の勝因になったように思います。直前期には、数学の講習でもお世話になりました。どちらの先生の授業も、それ無しでは合格できなかったと思います。本当にありがとうございました。



慶応大学医学部合格、村上諒典君と押川講師【数学】。村上君は第一志望の慶応大学医学部以外にも、千葉大医学部、順天堂医学部、慈恵医大医学部等、受験した大学すべてに合格しました。
慶応大学医学部の合格発表のあと、お母様と塾に報告に来てくれました。

数学科

高橋直人

数学科実力派講師、丁寧な指導でぐんぐん力が伸びる。

【クラス定員12名程度】



誠実な人柄、わかりやすい授業で多くの生徒に支持される高橋講師。開成、東大数学科卒という超エリートでありながら生徒の面倒見の良さはピカイチです。本当に頼りになる先生です。

塾長から見た高橋講師。

成増塾の数学科、実力派講師の一人です。ご自身、開成、東大数学科出身の数学のエキスパートでありながら一人ひとりノートの書き方からチェックするなど非常に丁寧な指導をしてくれます。医学部専門の個別指導塾での経験も長く、本当に頼りにできる講師です。

高橋講師が語る。

少人数形式の授業で、生徒一人一人に対して徹底的に面倒を見ていきます。

私の授業は、成増塾最大の特徴である、**少人数形式のメリットを最大限に生かした授業**を行っております。塾や予備校の場合、30人以上の広い教室で授業を行うことが多いのですが、その場合、講師が一方的に話すだけで、個々の生徒の様子が把握しにくくなります。ある生徒は計算が得意だが図形問題は弱い、別の生徒は計算が早いがミスも多い、など生徒によって得意不得意はまちまちです。それを画一的な授業で行ったとしても、大きな効果は得られません。

私は医学部指導塾や少人数形式の塾で成果を上げてきた経験が豊富で、ノウハウも数多く持っています。演習中は生徒の様子をすべて見て回り、**弱点を個別に指摘しながら、最善のアドバイスをしていきます。**生徒の学力に応じて、演習問題の内容を何パターンか用意することもあります。

一方で全体に情報を共有化させたいときは、ホワイトボードで解説します。数学では思考力を養うことが重要なので、生徒に考えさせるために発問をどんどん行ない、生徒同士で議論させたりします。ときには生徒に前に出てきてホワイトボードで説明させることもあります。生徒参加型の授業となるので、積極的に発言して、楽しみながら授業を受けて頂きたいと思います。

国公立大学や医学部を中心とした難関大学を目指す生徒を徹底的にサポートしていきます!

成増塾は、東大や東工大・一橋大、国公立大医学部などの一流大学に大きな実績をもった塾です。私自身、成増塾で受験生を指導して、上記の難関大学に合格する実績を出してきました。以下はその一例です。

《 2017年現役生入試結果 》

A君　東大理I、慶応大理工、早大建築　合格
B君　東大文II　合格
C君　東工大(5類)、早大基幹理工　合格
D君　東工大(1類)合格
E君　一橋大経済、早大商　合格
F君　徳島大(医)、日本医科大　合格

他、合格者多数

国公立大学や一部の難関私立大では、記述問題がメインとなっており、白紙の状態から答案をきちんとまとめられる能力が必要となります。答案の作り方については、各生徒の特長(長所・短所)を見ながら、1人1人に合わせて指導しております。また、疑問があれば授業前あるいは授業後に、時間の許す限り対応しますので、どんどん質問して頂ければよいかと思います。

近年は医学部を目指す受験生が多いですが、私は長年、医学部専門塾で受験指導を行い、高い実績を上げてきました。**医学部特有の入学システムも熟知しておりますので、医学部を目指す受験生の方もぜひ成増塾に来ていただければと思います。**

難関大学に合格するために必要なこと。

数学は、難関大学入試の中で大きなウエイトを占めています。数学の成績向上に必要なものは、「知識」・「計算力」・「数学的思考力」です。このうち知識と計算力は練習量を重ねることで向上していきますが、数学的思考力については、なかなか向上せずに伸び悩んでいる生徒も多いと思います。**とくに東大・京大や国公立医学部のような超難関大学では、教科書や参考書にあるような典型問題を解くだけでは全く太刀打ち出来ません。**未知の難問に遭遇したときの対応の仕方が問題になるわけです。

私の授業では、そのような問題に遭遇したとき、どのように考えたらよいかを１つ１つ有機的に分解し、**誰もが実践できる形で解説します。**高度な問題ではひらめきも要求されまが、問題文を正確に読み取り、論理的な思考力を身につければ、必然的に正しい発想が得られるわけです。大学に合格するために必要なことは、**正しい答案をいかに大学の先生方にアピールするかです。**大学の先生が「これはウチの大学に来てほしい！」と思えるような答案作りをすれば良いのです。私は長年、大学（東京大学）や大学院で数学の研究をし、ＴＡとして大学で学生の指導をした経験もありますので、大学側が受験生に何を求めているかが良くわかります。

私の授業では、**小手先のテクニックではなく、大学に入ってからも授業にきちんとついていけるような教え方をします。**積分であれば、その根幹から教えて、いくらでも応用が利くような授業を展開します。数学の本質をしっかりと理解し、ぜひ第一志望の大学に合格して頂きたいと思います。



高橋直人講師の授業風景。１人ひとりノートの取り方、答案の書き方から指導します。このようなきめ細かい指導は少人数クラスでないと不可能です。



生徒からの質問に答える高橋講師。高橋講師のクラスは生徒一人ひとりの特性に応じた授業をしたいという高橋講師の強い希望がありクラスの定員は12名程度にしてあります。

合格者の声



東京大学文科Ⅱ類合格
菅沼修祐さん
私立武蔵高校

★3年に渡り、数学を基礎から教わりました。模範解答を示しつつも、生徒の答えも尊重するスタイルが僕に合っていたと思います。そのおかげで数学は大きな得点源となりました。数学で合格したと言っても過言ではありません。ありがとうございました。



日本医科大学医学部合格，徳島大学医学部合格，帝京大学医学部合格
内田裕大さん
暁星高校

★中学1年生から高校2年生まで、長い期間、お世話になりました。先生の授業は基礎をかなり深く理解でき、演習を積むことで応用的な難問をすらすらと解くことができるようになりました。また、発展のプリントをくださり、生徒一人ひとりにあったカリキュラムを与えてくださるので、とても順調に成績を伸ばすことができました。授業外での質問などにも親切かつ丁寧に教えてくださり、数学を楽しく、早く完成させることができました。



島根大学医学部合格
戸田有紀さん
都立青山高校

★授業が少人数だったので気軽にわからないところを質問できてよかったです。

数学科

安田成来

数学が不得意な人でも必ず得意にする熱血授業。

【クラス定員 20 名】



数学の安田講師が指導にかける気迫はそばにいるだけで伝わってきます。どんなに苦手意識を持っている生徒でも安田講師の指導についていけば必ず数学を得意科目にすることができます。安田講師はまさに「数学が苦手な生徒の救世主」であると言っても過言ではありません。

塾長から見た安田講師。

押川講師と人気を二分する講座です。数学が不得意だけど、得意にしたいという生徒を大歓迎の講座です。安田講師は本当にパワフルです。授業前に、宿題をきちんとやってあるかどうかのノートチェックを先生が直々にすることから始まります。近くで見ていると「君、この問題は来週までに絶対できるようにしてきてよ」という感じで、ちょっと恐い感じもするのですが(笑)、そのスパルタ指導(！？)についていく生徒は必ず数学を得意科目にすることができています。まさに「授業で泣いて、合格発表で笑う」を体現する講座です。そのオリジナルプリントの量は全分野を合わせるとなんと2000ページを軽く越えるくらいです。ですが、この授業についていけば絶対に数学を得意課目にすることができます。中には「安田講師の授業のおかげで、苦手だった数学が得意になり、直前の慶応SFCの模擬試験では全国１位をとることができました。」という人(大妻高校出身　慶応大学環境情報学部合格、長澤茉由恵さん)もいるくらいです。受験学年にもなると、授業時間を大幅に延長し、終電近くまで生徒の指導に付き合うほどの熱心さ。数学以外でもかつてはロックバンドでプロのミュージシャンを目指していた「熱い兄貴」といった感じの講師です。

安田講師が語る。

大学受験において「数学」という科目は非常に重要な科目です。避けて通ることもできますが、得意にできればこれ以上の武器はありません。当て勘でもある程度の点数が取れる他科目とは異なり、数学はマーク式の問題であっても当て勘が当たる可能性は極めて低く、数学が得意であれば他の受験生に対して圧倒的なアドバンテージを獲得することができるのです。実際、「数学しかできなかったけれども大学に合格できた」という例は少なくありません(私もその一人です)。

しかし、数学を得意にするのは容易なことではありません。大学入試においては教科書のレベルを遥かに凌駕した問題が出題され、全体像の見えづらい、網羅性に欠ける、論理性が希薄な学校や他塾、参考書の授業で数学を得意にするのは極めて困難と言えるでしょう。学校や他塾、参考書で勉強していて、「勉強しているのに、全然数学力が上がらない」といった経験をした生徒さんは多いのではないでしょうか？それは生徒さんの責任ではありません。勉強の仕方が悪いのです。私の授業では、以下の特徴により、

生徒の皆さんに最良の勉強法を提供、
合格への最短経路を提示

していきます。

●思考回路の重視

数学の問題は無数に存在し、問題の数だけ解答が存在しますが、利用する考え方には限りがあります。１つの考え方を完璧に習得すれば、その考え方を利用して多くの問題を解くことが可能です。私の授業では＜問題→解答＞の流れではなく、＜問題→考え方＞の流れを重視します。これにより、習得すべき解法や覚えるべき事項を最小限化できるのです。

●体系的授業

習得すべき解法、覚えるべき事項を最小限化しても、大学受験全体で必要になるそれらの量は膨大です。むやみやたらに頭に入れていっても成功しません。私の授業では数学１ＡⅡＢ範囲を以下のように分解し、問題のタイプの判別法からその解法、必要となる公式等を１つ１つ丁寧に解説していきます。

第1章　数列
第2章　整関数とグラフ
第3章　いろいろな関数
第4章　関数・方程式・不等式への帰着
第5章　積分
第6章　ベクトル
第7章　場合の数・確率
第8章　整数

※各章は§に、さらに§はテーマに分割されます。
これにより、生徒の皆さんは、

問題が出題される→これは第○章§△[△ー□]の問題だからこの解法を使おう!

といったように、例えるのであれば整理された本棚（頭）から本（解法）を素早く見つけるかのごとく、素早く問題を解くことができるようになるのです。また、この体系は全て緻密な計算の基に成り立っており、必ず＜基本→応用＞の順番で学習できるように構成されています。前に学習した考え方を利用して後の学習を進めていくため、効率良く学習を行うことが可能です。

●授業は全て自作のオリジナルプリントで行います

多くの塾では、市販の参考書、またはその塾共通の教材を使い、ノートに板書させる形で授業を行っているようですが、この形式では、板書の時間が無駄、教材とノートが分かれていて復習しにくい、教材とノートの整合性が取れない等、多くの問題点が生じます。こういった問題点をクリアするため、私の授業では、

全て自作のオリジナルプリントを利用

して授業を行います。演習に用いる問題集もこれに合わせてオリジナルで私が作っているものを用いるので、自宅学習に至るまで、授業との完璧なマッチングが実現されます。反面宿題は多くなり、また宿題の監視も行うため他塾に比べて生徒さんにとっては大変な授業になるとは思いますが、頑張ってこちらの提供する内容さえこなしてもらえれば、確実に現役合格に足る実力を付けることが可能です。

昨今は、利益優先で生徒さんの合格を目的としていない塾がほとんどです。宣伝のみに力を入れ、授業は講師の学歴任せ。

重要なのは塾や予備校の大きさではなく、
授業、授業で提供される教材のクオリティー

です。是非一度体験授業にお越しください。他塾では実現できないクオリティーをお約束します。



数学科

石川 学

大学でも教鞭をとる実力者。
圧倒的な指導実績。

【クラス定員 12 名程度】



温厚な人柄、高度な内容を丁寧でわかりやすく教える授業が生徒から高く評価されています。

塾長から見た石川講師。

石川講師は、東京理科大学などの大学でも教鞭をとっており、数学の講師たちからも慕われている数学のプロフェッショナルです。順天堂大学等で数学入試の採点官をつとめた経験をもつほどの実力者です。大学レベルの踏み込んだ内容でも当然しっかりと質問に答えてくれます。温厚、誠実な人柄で本当に丁寧に指導をしてくれます。生徒にじっくり考えさせるタイプの授業で本当に思考力がつきます。数学が苦手な人から得意な人まで幅広い生徒層から大きな支持を得ています。



合格者の声



東京農工大学合格
北里大学獣医学部合格
藤田翔伍さん
芝高校

★授業で問題を丁寧に教えてくださった上、わからないところを一つ一つ教えてくださった。気軽にどんな質問もすることができた。



東京大学文科Ⅲ類合格
廣瀬翔太さん
海城高校

★私は石川先生の数学の講座をとりました。石川先生の授業はとても活気があり、最後まで楽しく効率的に学ぶことができました。少人数の授業だったため、様々な疑問にも丁寧に答えていただくことができ、数学の力を大いに伸ばすことができました。成増塾には本当に感謝しています。



東京大学理科Ⅱ類合格
防衛医大医学部合格
巽 厚都さん
立教新座高校

★僕は中3の時から成増塾で数学をとり、途中から物理もとりました。成増塾の先生方は数学の石川先生を始め、みな熱心で授業の質はとても高かったです。また、質問も気軽にすることができ、大学レベルの踏み込んだ内容にもお答えいただきました。これは、大手予備校では決してできないことだと思いました。4年間もの間お世話になり本当にありがとうございました。本当に感謝しています。



東京外国語大学合格
早稲田大学国際教養学部合格
国際基督教大学合格
柴 千織さん
筑波大学付属高校

★基本を丁寧に教えてくださったことでどんな問題でも足掛かりをつかめるようになるまで成長しました。また、センターや二次の直前まで何度も対策をしていただき、自信をもって試験に臨めました。

石川講師が語る。

はじめまして、数学担当の石川学です。

最初に、私の数学に対する考えに基づき、授業のポリシーやスタイルについて説明します。

私は、数学の学習の基本は

「定義や定理、公式を正しく理解し、正しく適用する」

であると考えます。歴史に名を残している科学者が述べている通り、発想やアイデアは論理的に説明がつくものばかりではありませんが、やはり正しい理解なしには発想やアイデアは望めないと思います。そのために、原理や大事なところには時間をかけて丁寧に証明や解説(場合によっては大学の内容に踏み込んだり、歴史的な話にもなります)をし、準備をしっかりしてから問題演習に臨むというスタイルで授業を展開します。そして、論理的に大事なところは特に詳しく解説したり答案の書き方を細かく指導することにより論理力をつけてもらい、また、最後までしっかり計算をやりきってもらうことと量をこなすことにより計算力をつけてもらいます。このように「論理と計算」を両輪として、どちらかに重点をおくということなくバランスよく学習していきます。石川クラスは、「数学が絶対にできるようになりたい」という積極的な気持ちで取り組める生徒におすすめです。そして、原理を含め根本的なことからしっかり理解しそれを基に数学力を完璧にしたい生徒には「特に」おすすめです。

次に、各授業について説明します。

数学ⅡB(1年生)

高校1年生の文理共通クラスです。定義や性質を丁寧に述べたあと、基本～標準問題を解くことにより大学受験へ向けての基礎固めをしていきます。数学ⅠAの未学習分野があっても、数学ⅡBに必要なことはすべて授業内(場合によっては授業外の補習)で説明や確認をしていきますから安心してください。独自のカリキュラムで進め、高校授業の補習にするつもりはないので、高い目的意識を持って授業に臨んでほしいと思います。

数学IAⅡB演習(2年生)

高校2年生の文理共通クラスです。数学ⅠAⅡBの主要範囲を、基本事項の説明や復習から始めて標準問題を中心に演習していきます。最初は、様々な分野で用いられる必須手法を習得することを目標とします。必須手法に重点をおくため、広く浅く全体を俯瞰する感じの授業になると思います。そしてその後は、各分野について深く追求し、主要範囲の標準問題を自力で解けるようになることを目標とします。

数学Ⅲ(2年生)

高校2年生の理系向けクラスです。数学Ⅲにおいては計算力がかなりのウエイトを占めるため、計算だけならば最上位校の問題でも容易に解けるぐらいの計算力をつけることを最低目標とします。そのために、教科書などの初学者的な計算方法ではなく、大学以上でも通用する計算方法で徹底的に計算力を鍛えます。しかし、計算だけできればいいというわけではないため、基本事項の証明や図を使った丁寧な解説などで内容も完全に理解できるように工夫して授業します。

数学IAⅡB演習(3年生)

高校3年生の文理共通クラスです。基本事項の確認や標準問題を中心に演習することから始め、そのあと発展問題やテーマを絞った演習も含めることによりワンランク上の学力を身につけることを目指します。そして最終的には総合演習やテスト形式で仕上げる予定です。また、センター試験については普段の学習で内容的には完全にカバーできますが、内容の割には時間が短いですから、要領よく時には穴埋めであると割り切って解いていかなければなりません。どの問題に何分かけるかやどの問題で時間の短縮をするかなど具体的な対策は時期を見て実施する予定です。

数学Ⅲ演習(3年生)

高校3年生の理系向けクラスです。2年生の数学Ⅲで仕上げたゆるぎない計算力を土台にして、計算に至るまでの論理や手法を習得し、さらには大学の教養レベルまで踏み込むことにより入試問題を上から眺めるくらいのレベルまで仕上げる予定です。最初はひと通り標準問題を確認し、途中からは発展問題や融合問題が中心となります。そして最後はテスト形式で仕上げます。数学Ⅲの勉強を始めたばかりであるとか計算に不安がある場合でも、補習授業と数百題の計算演習プリントがあるので、「追いついてやる」という気持ちがあれば心配いりません。

私は、大学受験さらには大学進学後も見据えた授業を受験生のみなさんに提供しサポートしますので、ぜひ受験生のみなさんは高い目的意識を持って授業に臨み、ゆるぎない数学力を習得して先のステージへと進んでいって欲しいと思います。

数学科

今城 一

「生徒を必ずできるようにする」という内に秘めた情熱で、全幅の信頼をおける若手実力派講師。

【クラス定員12名程度】



物静かな外見だが、「生徒の学力を絶対に伸ばす」という熱意は誰にも負けない。奇をてらうことのない正攻法の解法をマスターさせ、生徒一人ひとりの着実な学力向上を実現してくれます。

塾長から見た今城講師。

今城講師は、物静かで温厚そうな外見を、いい意味で裏切ってくれる、熱いハートを持った真のプロ講師です。彼は生徒の成績向上のためには努力を惜しみません。常に生徒のことを考えています。本当に熱心な指導で瞬く間に成増塾数学科講師の中でも頭角を現すようになりました。私が全幅の信頼をおいている講師の一人です。



今城講師が語る。

【受験対策の基本方針】

(1)難問は、やらない。

5割くらいは、解ける問題、解説を読めば、簡単に終わる問題からはじめて、量がこなせるようにする。

(2)定期試験勉強は、やらない。

目先の結果に照準を合わせない。そもそも、学校の定期テストは、各生徒のレベルにあわせていない。

(3)手を動かす。

自分から、化学に向かわないと、成果は出ない。

【化学の受験対策1日目にやること】

(1)志望大学を決める

志望大学の合格点、化学の配点などを調べます。

(2)志望大学の過去問を用意する

問題の形式、解答の形式を調べます。

(3)受験対策のツールを決める

大体で良いので、受験対策のための参考書、問題集、塾を決める。

コロナに負けない1年にしましょう。



張ヶ谷守晃

丁寧でわかりやすい授業で数学の真の実力がつく!

【クラス定員8名程度】



いつもやる気にあふれたエネルギッシュな授業で、生徒を引っ張ります。

塾長から見た張ヶ谷講師。

張ヶ谷講師は、長年有名予備校や医学部専門予備校で数学を教え、抜群の人気と実績を持っています。特に早慶や医学部への合格実績は群を抜いています。「早慶理系数学完全攻略」「受験数学のテクニック50」(ともにエール出版)など著書も多数あり、近年は最大手の教科書出版会社で動画による解説授業を依頼されるなど、この業界ではかなりの有名人です。

張ヶ谷講師が語る。

【偏差値が上がる瞬間は?】

数学の偏差値が上がる瞬間は分かりやすい解説を聞いている時や解法のエレガントさに感動している時ではありません。問題を予習している時「あーでもないこうでもない」と悩んでもがいている時です。1時間以上も悩んだ挙句何も生産できなかったなんてことは数学ではよくあります。今の時代は効率を重視するあまり無駄を嫌います。結局無駄になるのなら結論だけ教えてほしいと考えるのです。だから本当の学力が付かないのだと思います。まず私たち講師の一番の役割はそうした考える習慣や悩む時間をしっかり確保することです。苦しんで悩み時には失敗をして成長をするものです。そうした体験が出来るよう教師は教えすぎずにしっかり見守ることが大事だと考えます。楽して解ける方法はありますが楽をして合格する方法はありません。かなりハードなものになります。やったふりをするだけのまやかし授業はエリートを目指す皆さんにはすぐに見抜けるはずです。本物の授業を行います。

【少人数制のメリットは?】

少人数制授業のメリットは「生徒のペースに先生が合わせてくれる」とウリにする塾予備校があります。たしかに大人数の授業ではレベルやペースが外れてしまう確率は高くなります。だからと言って生徒のペースに先生がいちいち合わせていては進度が遅れるだけで、生徒自身の甘えを助長することにも繋がります。教えるべきことは普遍的なことです。あなたの学力が足りなくて志望大学を変えることはあってもその大学の偏差値は変わりません。1対1でも1対100で教えてもその内容を生徒が習得しなければいけないことは変わるはずありません。少人数制のメリットは「たくさんの失敗を先生と共に体験できること」その一言に尽きます。初めて補助輪なしに自力で自転車に乗れた時を思い出してください。私は、何度も転んでようやく乗れるようになりました。確かに大人は正しい自転車の乗り方を隣で一生懸命理屈っぽく教えていたと思います。その理屈は正しいですしその通りやれば確実に乗れます。でもそんな理屈よりも転んで初めて何がいけなくて何をすればよいか身をもって経験しながら自力で乗れるようになりました。私はそんな授業を行います。ですから課題は多いです。教えてもほとんど次の日には忘れているという前提で復習課題と確認試験を行います。

【授業のウリ】

①解けた偶然を排除して解ける必然を獲得する

なぜそうするのか解法の必然性を追求します。自分一人の力で解けるのかを徹底的に追求します。いま解説されている問題と同じ問題はおそらく入試には出ません。形が変わっても対処できるには何が必要かを追求します。すぐに答えを言いません。なんとか自分の力で前に進めるよう授業中ではしつこく検討していきます。

②何をしたらよいか迷わせない

何の教材をいつまでにどのくらいやるのか具体的な指示を個別に出します。「多くて課題が終わらない」というストレスと「何もすることがない」というストレスどちらも嫌ですが、前者のストレスは多少なら許容してください。本当に不幸なのは何をしたらよいか分からず路頭に迷うことです。

③出来なくさせる阻害要因を取り除く

ある程度勉強を進めると壁にぶつかります。そして悪い癖を身に付け、しまいには自分でもコントロールできなくなります。そういった出来なくさせている要因を添削課題やレポート提出、補講などで各個人の癖を見抜き、矯正していきます。

数学科

大北鑑哉

数学の楽しさを教えてくれる
とっておきの講座。

【クラス定員10名程度】



塾長から見た大北講師。

大北講師は生徒がつまずいているところをいち早く見抜き、その部分にまで立ち戻って教えることができる素晴らしい講師です。一人ひとりの疑問点に納得するまできめ細かな対応をしてくれます。

大北講師が語る。

【自己紹介】

東大や医学部を目指す生徒を中心に様々な予備校で数学を教えてきました。

レベルの高い生徒の指導ができるのはもちろんですが、私立高校で非常勤講師をしていたこともあり、そのときは九九さえ怪しかったり、分数の足し算が出来ない高校生も教えたことがあります。

その経験から数学が苦手な生徒の指導も得意です。

【数学について】

数学に必要なことはまず「定型解法」を定着させることです。

受験数学は公式や定理だけを覚えていればいいかと言えばそうではなく、それ以上に覚えなくてはいけない定石のようなものがたくさんあります。私はこれを「定型解法」と呼んでいます。

数学の苦手な生徒はこれの定着が出来ていない生徒がほとんどです。もちろん丸暗記すれば良いというものではありません。

定着させる過程でしっかりとした理解が必要です。チャートのような網羅系参考書を繰り返せばそれが身につくという誤解が世間に蔓延していますが、それとは少し違います。大手予備校の模試で偏差値60に届かない生徒は単純にこの部分が出来ていないだけだと思ってください。

次に東大や医学部のような難関大学で合格点を取るためにはそれに加えて「数学的思考力」が必要です。

それはしばしばセンスのようなものだと勘違いされていますが、そうではありません。私はこれを「普遍性」と「必然性」で説明します。

見たことのない問題に出会ったときにどう立ち向かえば良いか、普遍的な取り組み方があるのです。そして、どの解法を用いるか、そこには「必然性」があるのです。それを意識的に身に着けさせます。

私の授業を受ければしっかりとした「数学的思考力」が身に着きます。「定型解法」の定着と完全に分離したものではなく、「定型解法」の定着の段階でも「数学的思考力」が身に着くような授業を行います。

【授業スタイル】

生徒には一人ひとり個性があります。

勉強法にも向き不向きがあります。

そこで、生徒に密着し生徒一人ひとりの勉強計画を立て、最適な教材を考えます。市販の参考書や自作のプリントを用います。必要であれば生徒一人のためにプリントを作成します。やる気がある生徒を見捨てないのは当たり前ですが、やる気のない生徒も見捨てません。

私自身、受験生時代はかなり不真面目な生徒でしたし、多くの不真面目な生徒を見てきました。

そういう生徒は頑張りたいと思っていても努力が

続かなかったりモチベーションが上がらなかったりと悩んでいることを知っています。

どうすればモチベーションが上がるか、一緒に必死で考え、勉強のシステムを構築します。

それゆえ、今まで上手く頑張れなかった、成績が伸びなかった生徒も積極的に参加してほしいと思います。

【具体的な授業の進め方】

授業は主に寺子屋式で行っています。生徒が座って自習しているのを巡回しながらみていくスタイルです。

1. 宿題のチェック
2. 本日やることの確認
3. 質問対応

という流れです。生徒が質問のあるところだけでなくやってあるところを一通り目を通すのでわかったつもりになっているところを見抜き、記述の仕方を指導したりもします。

自分のレベルに合ったことができ、集団授業より早いペースで学習が進むことが多いのがメリットです。ひとりひとりに十分な時間を割くことができるようにクラス人数は上限を設定しております。

具体的な進め方としては、少ない問題を何周もやって完璧にし、それをもとに応用問題を解くという流れです。

1. 定型解法インプット（周回）
2. 確認テスト
3. 入試問題演習
4. の順に進めます。学校で配られる傍用問題集や青チャートなどの網羅系参考書は分量が多く挫折する生徒が非常に多いです。それに対して、私のプリントは知らなくては思いつかない定型解法のインプットは最低限にとどめ、そこからはそれをもとに問題を考えていくというスタンスです。

インプットは本当に重要なもののみを厳選していて問題数が多くないので、数学が得意でない生徒でも挫折することなく必要事項が身に付きます。それでいて到達度は高いです。必ず周回して出来るようになったことを確認してから、さらに確認テストで他の問題も解けるようになっていることを確認します。

しっかりとしたチェック体制があるので、なんとなく塾に通っているという状態にならず、確実に力がつきます。

また、必要に応じて市販の参考書を併用します。

基本的には薄くて解説の詳しいものを用いることが多いです。

ただ有名なものを用いるのではなく、本当に良いものを使用するため、私自身、市販の参考書はほぼ全て目を通しています。そのうえで生徒にあったものを使うようにしています。

テスト前や体調不良時には振り替え（翌週まで）も可能です。

TwitterやnoteでTwitterや勉強法の紹介をしているのでよかったらご覧ください。

twitter　akiyaokita

note　akiyaokita

気になったかたはまず体験授業に来てください。前後には面談をし、具体的にどうすれば成績が伸びるのか、志望校に合格できるのかをお話ししたいと思います。

数学科

岳野雅継

数学が苦手な生徒でも みるみる成績が上がる授業!

【クラス定員8名程度】



岳野講師は、有名医学部予備校で長年責任者を務めたトップレベルの講師です。

塾長から見た岳野講師。

岳野講師は一人ひとりの生徒にとことん真剣に向き合います。長年の経験に裏付けされた授業は高い評価を得ています。

岳野講師が語る。

【はじめに】

数学を担当しています岳野です。受験指導を開始して15年が経ち、非常に多くの、様々なタイプの学生の指導を行ってきました。その中で指導上最も気を配っていること、工夫をしていることを中心に私の講座の説明をさせていただきたいと思います。まず、私の指導の根幹にあるのは**高度な内容やテクニックを伝える指導ではなく、難関大学合格に必要な学力を身に付けてもらい、合格してもらうということです。ですので、伝えた内容がきちんと定着されているかのチェックを多角的にかつ徹底的に行うということに、最も注意を払っております。**

【クラスの大まかな特徴】

実際に自分の力で難関大学の問題を解くために必要なことは何か。それは、**基礎的な概念を完璧に理解することです。**ただ、その表現は易しく見えて、実行に移すのは難しい。その方法が分かっている上で自学自習を行っている生徒はやればやるほど学力は伸びるのですが、数学の勉強をやっているつもりになっている生徒が圧倒的に多いのです。そこで、私の講座では**学校では習うことのできない数学の本質が知りたい。そして、東大や医学部をはじめとする最難関大学に合格したい方**が対象となります。

そのために、学校で習ったことの補習や、ただただ難関大学の過去問題を解説していくといった授業は行いません。また、いかに効率よく問題を片付けられるか、いかに楽をするかといった方法を伝えるような授業も行いません。繰り返しますが、私の授業では、問題を解くうえで必要で、他で学べないような基礎概念の徹底的な指導が中心となります。

私の講座では、数学の知識を増やすとか解ける問題を増やすことよりも**多角的に、深く理解し、身体から蒸発しない数学の基礎概念が身に付き、それをもとに難関大学の問題が自分の力で解ける**ようになるということが最終目標となります。

そうやって学習したことは定理、公式、解法を覚える必要がなくなるのです。

以上の、目標を達成するために実に多くのことに工夫を凝らします。その一部をご紹介いたします。

【指導上工夫していること】

①小人数であることにこだわりますで、**クラス定員は12名**までとさせていただいております。

②生徒の反応をよく観察し、**生徒に説明させるなど、理解がきちんとできているかを常に確認しながら慎重に授業を進めます。**また、毎回、**理解度確認テストをやってもらい、生徒がどのくらい理解・定着できているのかを把握しながら授業を進めます。つまり、inputとoutputのバランスに最大限に注意を払い、指導いたします。**

③授業前後に生徒一人ひとりに面談や個別指導を行うことで、生徒の計算ミスの癖や、理解がまだ曖昧な部分を完全に把握し、正しい勉強法を説明し、**間違った方法を常に修正します。**

④授業は講師でなく、**生徒が主体となる形**で行います。つまり、常に生徒に考えてもらい、生徒自ら正答を出すように指導をします。

⑤難関大学で頻出な単元、生徒が苦手とする単元には他の単元以上に解説時間を割くようなカリキュラムで進めます。

⑥授業に**全員がついていけるように**常に気を配っております。**ここに私は特にこだわっております。**

⑦**完全オリジナル教材**を用いて、効率よく全単元の学習ができるように工夫しています。なお、教材は(1)予習教材(2)授業教材(3)復習プリント(4)演習プリントなどで構成されています。さらに、**生徒に応じて苦手単元を完全に克服するための教材**を個々人に作成しております。



〈予習教材〉

⑧どのように表現するか、つまり、入試の記述対策として、**添削教材**をレベル別、大学別に用意しています。その教材の問題を指定された解答用紙に解答してもらい、それを**1字1句添削**いたします。できない問題に関しては小刻みにヒントを出し、何度も再提出を求め、自力で解答してもらいます。15年ほどその指導を続けており、受験生がどのような部分で記述しにくいのか、間違えやすいのかを熟知しておりますので、それをトレーニングするための教材を多く開発しております。

⑨学校の試験の補習は授業内では行いませんが、それが必要な生徒は授業外で行うこともあります。

最後になりますが、私の授業のレベルを一定の水準に保つため、以下の制限を設けさせていただきます。

【受講の条件】

・現段階の成績・学力・通っている学校は問いません。どうしても、数学の本質を学び、数学を得点源にしたいという**意識の高い**生徒が対象です。

・中間/期末試験前後にかかわらず必ず毎週出席できる生徒

・授業だけでなく授業前後の面談を行っても可能な生徒

・授業以外の課題・添削指導を受けることができる生徒　＊教材費、面談費用、個別指導、添削指導の料金は一切かかりません。すべて頂いた月謝の中で行わさせていただいております。

・授業に無断で出席しない、遅刻をする、居眠りをする生徒は受講できません。

・途中入学者には、授業以外でフォローを受けていただきます（必須）

【受講の流れと注意】

まずは、私の授業を受けてみたいという方は成増塾までご連絡ください。1回目の授業前あるいは後に個人面談を行います。生徒の一人ひとりの苦手部分、得意にしたい部分などをできるだけ把握して授業を行うためです。授業だけ受ければ学力が伸びるという期待を持った方は受講を再考下さい。授業、面談、課題、個別指導がセットで、常に生徒が主体的に課題、復習をやってくることを厳しく要求させていただきます。もちろん、その復習方法や勉強方法の細かい指導を行います。

【さらに】

指導する上で気を付けていること工夫していることは紙面上ですべて表現できません。お話を聞きたい方、ご質問がありましたら成増塾までお問い合わせください。納得できるまでご説明させていただきます。

数学科

数学

富澤陽介

きめ細かく丁寧な授業で 数学が苦手な人も安心!

【クラス定員8名程度】



塾長から見た富澤講師。

富澤講師は、独自の宿題プリントなど、様々な工夫をこらし、すべての生徒が「入試問題を実際に解ける」レベルまで学力を高めてくれます。

富澤講師が語る。

【指導方針】

①「わからないをわかるへ」

数学を学ぶ上でまず，最初に立ちはだかる壁が「わからない」です。

・先生が何を言っているのかわからない
・参考書の解説がわかりづらい
・僕/私はこう思うのだが，なにが違うのか

こういった経験は，よほどセンスが良くない限り，誰しもが経験することです。当たり前ですが，数学教育における講師の役割は，「わからない」を「わかる」に変えることです。できるだけわかりやすく，わかるまでとことん指導します。

②「わかるをできるへ」

数学という教科は，他の教科と違い，「わかる」と「できる」が，自分の思っている以上に離れています。「よし、わかった！」と思って自分でやってみても，思うように手が動かず，「どうやればいいんだっけ？」となることが往往にしてあります。どんなにいい授業を聞いて，納得した気になっても，自分で手を動かさない限り，それは自分のものにはなりません。授業を自分のものにしてもらうために，その日の内容を踏まえた宿題プリントを配布します。

③「できるを合格へ」

できるを積み重ねていけば，合格レベルの力がつくわけではないのが，数学という教科の面白いところであり，難しいところです。実際，旧帝・早慶などの難関大学では，教科書レベルの問題は出題されません。基本問題は解けて当たり前という出題です。ほとんどが初めて見るような問題であり，そういった問題で問われていることは，「本質的な理解」と「正しい思考力」です。授業では，「学校では教えてくれない内容」と「参考書には書かれないその行間」にこだわり，「本質的な理解」と「正しい思考力」を獲得できるよう指導します。

【最後に】

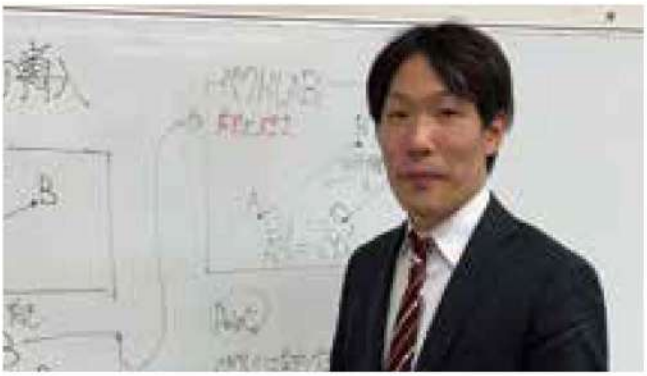
果たしてどれほどの大人が，実際に数学を使っているのかと考えることがあります。身の回りに溢れる工業製品からサービスまで，そのほとんどに数学が使われていますが，そんなことは知らなくても，十分に暮らしていけます。社会に出れば，２次不等式が解けることなんて，なんの意味もなく，日常生活で使う数学のほとんどは小学校で習う算数で足ります。「大学入試で必要だから」という簡単な答えは，認めるとして，青春の大事な時期に，数学をやっている場合ではないのではないかという立場とは矛盾した考えを私は持っています。それでも，数学を学びたいと集まってくれた生徒のために，私にできることは何かを常に考え，真摯に，情熱的に指導させていただきます。一緒に頑張りましょう。

数学

平岡 晃

数学の本質を理解し、応用問題にも対応出来る、真の実力が身に付く。

【クラス定員8名程度】



塾長から見た平岡講師。

平岡講師は都内の複数の予備校で教壇に立たれた経験があり、授業の分かりやすさには定評があります。公式の丸暗記ではない、数学の本質から説き起こす授業で、数学を得意科目にすることができます。

平岡講師が語る。

【自己紹介】

学部と大学院で数学を専攻してきました. 統計学を専門にしていましたので, 数学が実用的に何の役に立つのかという視点を最重要として勉強, 研究をしてきました. 人と関わる仕事がしたいと思い, 以降複数の予備校での指導を経験しています。

【指導方針】

どの学年でも, 公式や定理の成り立ちや仕組みを理解して, できれば説明できるようになってもらいたいと思っています。公式を丸暗記して計算問題ができるだけでは, 本質を理解しているとは言えませんし, 応用問題に対応できません。

基本的には生徒の人数や状況に応じて臨機応変になりますが, 単元の講義問題を載せたオリジナルプリントでの講義と演習が中心になります。こちらの一方的ではなく, 双方向の形式が理想です。

本人にやる気と, 数学ができるようになりたいという気持ちがあれば, 理解して, できるようになるまで面倒を見ることをお約束します。

他にも, 皆さんをサポートする工夫が様々ありますので, 是非お気軽にお尋ねください。



国語科

国語総合

山下翔平

短期間で見る見るうちに国語が得意科目に!

【クラス定員10名程度】



塾長から見た山下講師。

山下講師は、都内有名予備校で人気講師でしたが、2016年より成増塾での指導を開始しました。山下講師は本当に指導熱心で常に教材研究をされています。毎年、国立、私立大学の入試問題をほとんどすべて自分で解いておられます。本気で国語が得意になりたいと思っている生徒に対してはとことん付き合ってくれます。現に、山下講師の授業を受けた結果苦手科目だった国語が短期間で得意になった生徒が続出しています。成増塾で国語講師として私が自信をもって皆さんにお勧めできる講師の一人です。

山下講師が語る。

【自己紹介・受講資格について】

私の授業の受講資格は**本気であること**。その定義は、**【予習を行い、複数回の復習をかかさないこと】**です。その代わり皆さんご自身にその意志があるならば、現状の学力と志望校との差がどんなにあっても構いません。高校1年生の内容からさかのぼり、受験までに志望校合格に必要な学力を身につけます。本気の生徒の皆さんには最大限のお手伝いを一切惜しみません。皆さんの第一志望合格へ向けて、皆さんの可能性を最大限に開くためのお手伝いを全力でさせていただきたいと思います。

私自身、部活しかしなかった高校時代は**学年440人中434番**でした。現役時代はそもそも勉強の仕方自体が分かっていなかったため、無駄な勉強が多く全国偏差値で50までしか伸ばせませんでした。しかし、問題点を修正した浪人時は、最終的に**全国11番**まで成績を伸ばすことができました(自分でもびっくりしました)。みなさんには私が犯した間違いを未然に防ぎ、現役での合格を確実に達成していただきたいと思います。

【授業内容】

●東大クラス

東大国語120点満点中90点以上の取得を目指すクラスです。以前までの東京大学では国語で高得点を取るのは難しく、文系でも英数に時間を割くという戦略が効果的でした。しかし、2017年からこの傾向が大きく変わり、**国語の小問が減り難易度が易化したことで90/120点以上取ることが国語においても十分可能になりました。**実際2019年入試では以前までは考えられなかった90点以上取る生徒が相当数出ました。つまり、国語をしっかりと対策するかしないかで20点程度の開きが生じうる問題になっており、今までのような**国語軽視の受験戦略ではまず合格はおぼつかないという状況が生まれました。**

そうは言っても、東大は英数の比重が高いことに加え、地歴2科目の負担も大きく、国語に割いている時間的余裕が多くありません。そこで東大国語においては、基本的にすべて授業内で完結するようにカリキュラムを組んでおり、受験生の負担を最小限に減らす工夫をしております。成増塾の2時間の授業で現古漢を行う方針とも相まって、**他の予備校とは一線を画する形での効率的な学習を可能としています。**

また東大国語の特徴として「問われる知識自体は基本的だが、結果として問われる答案は大学側の要求水準と受験生の間で相当な差異がある」ことが挙げられます。それが国語の合格者平均点が他科目に比べかなり低いことにつながっています。その国語で90点以上を取得するためには、語彙、文法といった基礎学力に加え「**採点者の要求を見抜き、それを表現する力**」を身に着けることが必要です。そのため、授業の直前に解答を提出してもらい、あるべき形を模索しつつよりよい解答を探っていく訓練をしていきます。最後までこの姿勢を貫き、東大合格を確実にする学力を養成します。

●早慶クラス

2020年度から始まった入試改革の影響もあり、たとえば一言で早稲田と言ってもその学部ごとの問題は「違う大学ではないか？」というほどに傾向が異なります。そこで**毎年のテキストを受験生の志望学部に合わせて刷新**しております。これにより、カリキュラムが数年間固定している他の予備校と比して、**はるかに効果的な過去問演習**を可能にしています。

さらに、毎年私大志望の生徒のみなさんは、現代文につい

て適切な教材が少なく演習量の不足を感じている生徒が多くいらっしゃいます。そこでweb上で解説付きの演習教材を作成いたしました。これにより年間100問もの圧倒的な演習量をこなすことが可能となり、余力のある生徒はさらに上を目指せる体制が整いました。

古文漢文においても基礎から始めるので、個別的な課題はこなしていただきますが、古典文法があやふやな生徒でも本気の意志があれば参加していただいて構いません。ただし、在籍生徒の40%以上は早慶上智に、80%程度はMARCHに合格を収めるクラスですので、基礎的がおぼつかない生徒は急ピッチで課題に取り組んでいただく必要があります。詳細は後述の現役生の座談会をお読みください。

●高2クラス

もしみなさんが東大や早慶を目指すなら、2年生のうちから国語をやっておくことを強くお勧めします。事実、2020年の入試結果では、2年生から継続して受講していただいた方の東大京大一橋、早慶志望者は全受講者のうちほぼ8割に迫る勢いで合格しています。**特に古文において定期テストを教科書ガイド等の全訳の暗記で乗り切っている生徒**は(かつての僕です 笑)、**高校3年生まで実践で使える古典知識がほぼ身につかないという恐ろしい状態になってしまいます。**そこから東一早慶を目指しても、現役合格を勝ち取るためには尋常ではない努力が要求されます。

英語や数学の暗記量に比べると高校2年生までの国語は、暗記量は相当少なく、塾の授業さえ確実にこなせば大手予備校の模試偏差値70付近までもっていくことは十分に可能です。完全に0の状態だとしても、主体的に学ぶ意志さえあればトップレベルを目指していけるクラスとして位置付けています。

●基礎クラス

2021年度から、新たに国語が苦手な生徒に向けた「基礎クラス」を開講します。開講の経緯ですが、現在予備校の授業では、「生徒に基本的な読解力があることを前提に、解答のプロセスの解説を重視する」授業が主流です。しかし、昨今スマホ等の影響によって、**「そもそも本文が読めない生徒」が急激に増加しています。**しかも、質の悪いことに、他の生徒の読解力が見えるわけではないため、読解力が乏しいことの自覚が難しいのです。たとえば、①「係り受け」がどういうものかわからない。②日本語の10種類の品詞が答えられない(双方とも中学で学習する内容です)。というようなことであれば、**ほぼ確実に日本語を「なんとなく」読んでおり、**複雑な文章ではごまかしながら読んでしまっている可能性があります。

基礎クラスでは、語句と語句との関係である係り受け、日本語の品詞理解、短文要約といった基礎的なところから始め、徐々に文量を増やしていき、最終的には入試問題に十分取り組める基礎力を付けていきます。現代文の基礎は古文にも大変に役に立ちますので、現代文を中心に古文読解にも対応していきます。「なぜか国語の点が取れない」、「気が付いたら国語が苦手科目になっていたけど、原因も改善策もよくわからない」という生徒には特におすすめのクラスです。

●慶應小論文クラス

主に慶應を中心とした小論文の演習を重ねています。紙面の都合で詳しくは書ききれませんが、私自身、大学院試験、国家総合職試験(旧国家Ⅰ種試験)ともに小論文で合格しており、センター英語134点の生徒でも小論文で慶應に合格させた実績があります。どのように出題者の意図に答えていくかについて高いレベルでの授業を展開していきます。そうはいっても事前知識は全くいらないので、気になる方はまずは体験授業に参加してみてくださいね。

【サポート体制】

もしみなさんが「とりあえず予備校での授業を受けられればそれでよい」と思っているなら、わざわざ少人数の(ちょっとお金も高い)成増塾を選択しなくてもよいのかもしれません。受験においては、**努力、戦略、選択**の3点が重要です。まず受験生が行う**日々の勉強という努力**。これが難関大合格の最低条件として必要です。しかし、いくら努力をしても北海道へ行くのに南へ向かったら地球を一周しなければなりません。そうならないように、受験から逆算し**自身の弱点がどういった点にあり、いつまでにどういった学力をつけるのかを描く戦略、その戦略を達成するためにどんな参考書や課題に取り組むのかという選択**の3点が欠かせません。

そしてそれは極めて重要な要素でありながら、生徒や入試問題を知り尽くしている講師ではなく、チューターやバイトが担当してしまっているケースが多く見られます。私のクラスでは、**1対1で弱点の分析を行い、戦略と選択を描き出すこと**を大切にしています。

体験授業の際にも必ず1:1でお会いし面談をしたうえで体験授業に入っていただいております。体験授業はいつでもお待ちしております。私自身がとことん成果にこだわり、全力でみなさんの学力を最大化できるお手伝いをさせていただきたいと思っています。

合格者の声



慶応義塾大学文学部合格
寺本百花さん
成蹊高校

★現代文　山下先生の国語は、解答の導き方を明確に示して下さるために、国語でやりがちな「雰囲気で答える」ということを全くせずに確信を持って正解を出せるようになりした。現代文では、答えを知っているからできる解説をするのではなくて、問題文を読むところから私たちと同じ状態に立って一緒に答えまでの頭の使い方を教えてくださるので、自分がどこで考え方を間違えたかの分析もしやすかったです。古漢文についても、まずこれを覚えるべきというものを提示してくれるので、基礎をしっかり作ることができました。問題一題ごとをマスターしていくというよりかは、どの問題にも使える考え方や頭の使い方を教えて頂いてそれを活かしていくといったスタイルで、着実に実力をつけることができました。また、質問に行った際には正解を押し付けるのではなく、わたしの答えに至ったロジックをしっかり聞いてくださった上でどこで間違えたのかを指摘してくださいました。先生自体も気さくな方で、受験期間中の小さな悩みやもやもやもよく相談させて頂いていました。

★小論文　そもそも小論文とはどういった点で評価されるのか、私は山下先生の小論文をとるまでそんなことについて考えたことはありませんでした。山下先生の小論文はそういった点からしっかり説明して下さり、その上で限られた字数の中でいかに得点を取るかのノウハウを教えてくださいました。その際に必要となる、知性の見せ方の一つとして、覚えるべき情報やデータなども提示してくださったために、「小論文対策って何をしていいのかわからない」と言う悩みを解消して下さいました。小論文に正解はないという考えのもと、生徒一人一人の得意なテーマを一緒に見つけてくださり、その人の中でより高得点を出せる方法を見つけてくださいました。わたしのお勧めは、頭の良い人の文章を真似することです!私は、山下先生の、具体例の使い方などをたくさん吸収していろんな問題に活用していました。ある問題における自分の考え方を書く中で知性を示していく小論文において、山下先生の小論文は頭の良い人の物事の考え方を吸収する絶好の場だと思います!

▶▶▶山下講師から寺本さんへ

寺本さんは今までの担当した生徒でも一番強く「慶應文学部に行きたい!」という信念を感じた生徒さんの一人です。寺本さんは僕が作った答案を何度も読み込み、僕の解答を次回以降の課題の自分の意見としてまとめていました。本番でも直前にやった小論文対策の内容とほぼ同じテーマが出て、試験後「先生の解答を上手く活用できました!」と喜んでいた姿が今も目に焼き付いています。結果は見事合格!センターを失敗してしまい直前期は「これで慶應に受かるのか?」と自問自答する日々が続きましたが、よく最後まで頑張りぬいてくれました。最後まで頑張り抜ける寺本さんは私の自慢の生徒の一人です。



東京大学文科Ⅱ類合格
伊藤優志さん
麻布高校

★山下先生の授業の最大の魅力は、「解答を知る」ことではなく「解答を作る」ことが授業中に行われることだと思います。全ての問題で先生と生徒の間で対話が行われ、どうすればベストな解答になるのか、生徒の解答をブラッシュアップしながら考えていきます。すると問題や自分の解答に対する詳細な分析が可能になり、そのおかげで、解答プロセスが次第に体系化されていき、初見の問題をとくときもそのプロセスに従って自信を持って解くことができます。

授業のレベルが高いのは確かですが、「本気で」取り組めば取り組むほど、実力がつく、そして楽しい授業だと思います!

▶▶▶山下講師から伊藤さんへ

伊藤君は高校1年生のころから授業を受けてくれ、更に東大クラス1期生という僕にとって大変思い入れが強い生徒です。1年生で既に基礎を終わらせ、2年生なのに3年生のクラスに参加していた強者です 笑。英数国の主要科目をしっかり固め、その演習を行いつつ3年生で地歴を伸ばすという東大合格の王道を地で行ってくれました。本番での英語の失敗を総合力でカバーできたのは、1年生から努力を続けた成果の賜物です。



慶応義塾大学法学部法律学科合格
濤岡星里奈さん
豊島岡女子学園高校

★私はもともと国語を受講する予定はなかったのですが、成増塾の説明会でお話しされていた山下先生の熱意と人柄に惹かれ、山下先生の国語を受講することに決めました。山下先生の授業を2年間受けたことによって現代文で文章をた

だ漫然と読むのではなく文のつながりを意識し、常に根拠を探しながら文を読むことを学ぶことができました。これは大学に入ってからも大きな強みとなっているように感じます。また、私は当初は漢文や古文の基本さえも危うかったのですが、先生の授業はすべて古文漢文の基本から始まり、受験で特に重要な知識を繰り返し説明してくださるのがありがたかったです。授業内でたまにしてくださる雑談もとても面白くて、塾に行くのが楽しみなくらいでした。
国語が苦手な人、先生の授業を受けやるべきことをきちんとやればきっと国語が得意になると思います!

▶▶▶山下講師から濤岡さんへ

「授業中の重要事項は次の授業までにアウトプットできるレベルに仕上げておく」という早慶合格を習う上での基本を忠実に実践してくれました。その意味で星里奈さんは、他の生徒にもよいお手本となる存在でした。2019年に早慶クラスからの高い合格実績を出せたのも、星里奈さんの存在が大きかったです。慶應全勝という素晴らしい成果を出せたのも必然だったと思います!



上智大学総合人間科学部合格

S・Nさん
大妻高校

★先生は熱くて本気で受験生の経験を踏まえて様々なアドバイスをして下さります。それゆえ厳しいことをおっしゃることもありますが、すべてにおいて筋が通っています。古文、漢文は本当に基本から始め、文章に出てくるたびに復習し、覚えるべきことをまとめ、入試問題を研究しつくして新しい知識を追加して下さり、きちんと授業の解き直しをしていれば困ることは絶対にありません。こんなに素晴らしい先生の授業を少人数で受けることができて本当にありがたかったです。

▶▶▶山下講師からS・Nさんへ

いつも楽しそうに、それでいて熱心に授業を受けてくださいました。復習を怠らず、追加の課題も僕の想像を上回る速さで演習を重ねてくださっていました。当初は知識が抜けていた部分もあったかもしれませんが、受験期には9割程度は安定して取れるほど得点源となっていましたね。これはすべてS・Nさんの素晴らしい努力のたまものです。おめでとう!また、僕は授業中厳しいことではなく、本当のことを言うだけですよ 笑



早稲田大学社会科学部合格

田中英智朗さん
東京都市大学付属高校

★国語の成績を伸ばすために必要なのは徹底的な基礎学習と適切な演習です。文中の前後関係・並列関係・論理関係を掴めなければ入試問題は解けませんが、この力を独学で身に着けるのは限界があります。山下先生の授業では上記の学習を徹底的に行ってくださいました。比較的解きやすい問題をピックアップしている参考書での学習とは異なり、授業では現実の受験国語の難易度、自身の国語力の無さに気付かされるでしょう。しかし、山下先生の授業にしっかりついて行くことさえできれば、絶対的な国語力を習得でき志望校への確かな基盤となるのは間違いないと思います。自分は英語をかなり失敗してしまったのですが、山下先生の国語で鍛えたおかげで逆転合格することができました。
【英語】26問正解/47問中…55%【国語】16/20…80%【日本史】29/40…72.5%
【総合得点】…88.5/130 68%
2019年　社会科学部　合格最低点:85.5/130 65.7%

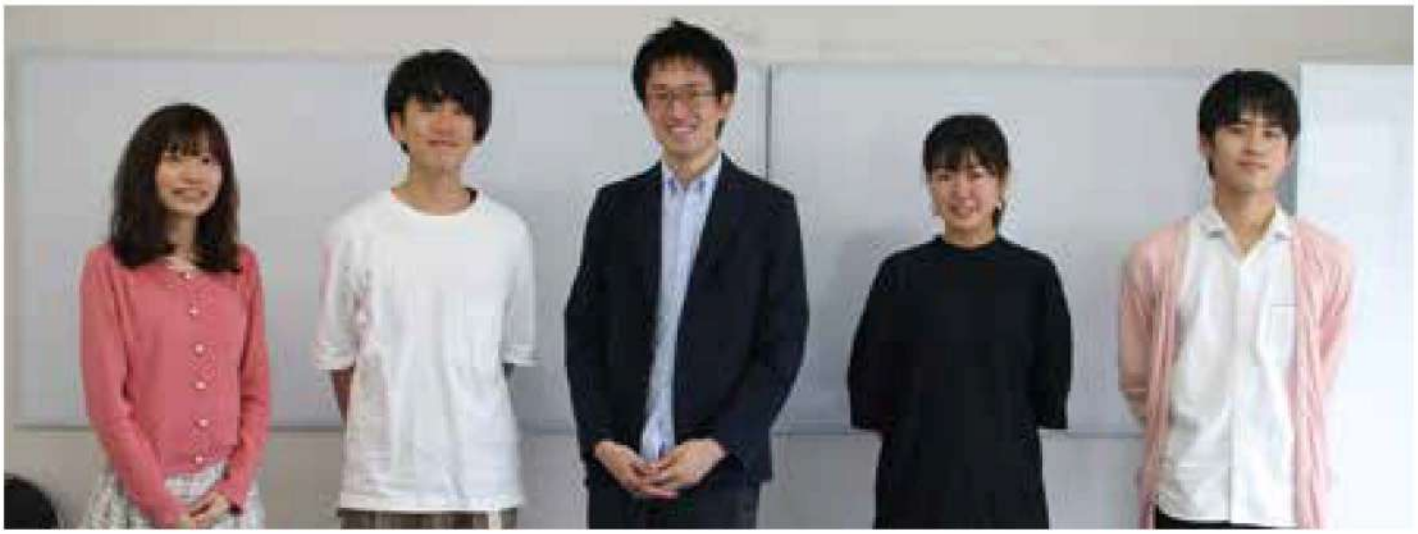
▶▶▶山下講師から田中さんへ

田中君は現役で明治大学に合格していたにもかかわらず浪人し、6月に他予備校から成増に移ってきた、非常にガッツのある生徒です。特に現代文では「どんなに難しい問題でも自分なりに考え抜き、解答根拠を捉えて授業に臨む」という予習の姿勢が素晴らしく、早稲田でもトップレベルで戦える実力を培ってくれました。心の底から望んでいた早稲田合格という結果を、不断の努力で手繰り寄せた田中君に対して私も深い尊敬の念を抱いています。本当におめでとう!



【座談会】

山下講師と合格者が語る、『答えを出すまでの先生の頭の中…思考のプロセスを再現してくれる授業。』





中下乃栄さん
早稲田大学教育学部
社会科地理歴史専修 合格
（都立新宿高校出身）



星野維吹さん
上智大学外国語学部
英語学科 合格
（都立青山高校出身）



濤岡瀬里奈さん
慶応義塾大学法学部
法律学科 合格
（豊島岡女子学園高校出身）



伊藤優志さん
東京大学教養学部
文科Ⅱ類 合格
（麻布高校出身）

山下　今日は集まっていただいてありがとう！それでは座談会をはじめましょう。まず皆さんに塾に来る前、勉強がどういった状態だったのかお聞きしたいと思います。まず最初に中下さんからいきましょうか。中下さんが僕の授業を受けたのは2年生の2月(新学期が始まった当初から)でしたよね？

中下　そうです！でも塾に来る前は本当に勉強してなくて、偏差値も５０～５５くらいで全然ダメでした。古文は高3なのにはじめは助動詞すらもあやふやな感じで…

山下　そうでした？そんなことなかったですよ。



山下 翔平講師

中下　いやいや私授業中に助動詞覚えてなさ過ぎて、授業中に先生に怒られましたよ！（笑）

山下　そんなこともありましたか。

中下　まあ私は怒られないと全然やらないタイプだったので、それをきちんと言ってくれる先生でありがたかったんですけど 笑　とにかく最初は早稲田とかは夢のまた夢でした。

山下　よくそこから頑張ってくれました。では塾に入る前どうでした？星野くんは部活の関係で3年生の早慶クラスに6月まで出席できず、それまでは**3年生だけど2年生のクラスに参加してた**んですよね。

星野　そうなんですよ。僕は**国語に関しては本当に終わっていて、古文も漢文も完全に0でした。**そもそも早慶クラスに所属できるのかどうかすら心配してたくらいです 笑。ですから、先生が授業中に毎回フォローしてくださったのは本当にありがたかったですね。

山下　僕のクラスは**主体的に努力する意志さえあれば誰でも入れますよ。**勉強面ではたしかに星野くん、最初は本当にさっぱりでしたね 笑。2年生の課題にプラスして、6月に早慶クラスに参加するときスムーズに入れるように、3年生の課題も2年生の課題とは別に渡したんですよね。よくがんばってくれました。

星野　4カ月近くもお時間を割いていただいて恐縮でしたが、本当に心強かったです。その最初の4カ月で基礎が強化できたことが国語で合格点を取れたことに繋がっていると思います。

山下　でも星野君はたしかに古文漢文は苦手だったけど、現代文はできましたもんね。早慶上智クラスを狙うなら「古文漢文が苦手」っていうのは全然巻き返せるんですが、「現代文が全然できません」っていうのは、少し大変です。なぜなら現代文は17～18年の積み重ねがあるので、1年では間に合わないケースがあるんですよね。そういう生徒は2年生から鍛えないといけないのですが、星野君は現代文に関してそこまで苦手でなかったので十分早慶上智を狙える素質はあると思っていました。

それでは次は濤岡さんにいってみましょうか。濤岡さんは2年生の当初から授業に参加されていましたね。賢くてとても優秀で、当初から「この子は出来るな～」という印象しかなかったですね。

濤岡　いやいや私も最初は全然ダメでしたよ。最初の方の授業で**「花咲かぬ」と「花咲きぬ」の違い分からなかったですもん。**（笑）

山下　まあ2年生の最初はみんなそんなもんですよ。2年生の最後の方が駿台記述で英語が偏差値78、国語が偏差値75くらいありましたもんね。学校の先生も2年生の終わりには東大を勧めておられたみたいですが、濤岡さんは慶應に興味があって慶應にしたんですよね。

濤岡　そんなこともありましたね。でも高1の時は同じ模試で国語は60もいってなかったです。先生の授業を受けて伸びたんですよ。（笑）

山下　そうですか？べつに無理にお世辞は言わなくても大丈夫ですよ。（笑）　正直に思っていることを言ってくれた方がしっかり受験生には伝わるので…（笑）

それでは、最後は伊藤ちゃんにいきますか。伊藤ちゃんは1年生の時から2年生のクラスに参加してくれてましたよね。そういえばそもそもなんで成増塾に入ったんですか？

伊藤　中学受験をしていた塾の特待生で、中学まではほぼ無料で塾に行けてたんですよね。でもお金もかかってないし～ということで遊びまわっていました。また中学までは基本的にバスケ部の部活ベースで生活していたので、全然勉強してなくて…「そろそろやるか～」みたいな感じで成増塾に入りました。

山下　そのとき結構勉強は遅れてた感じだったんですか？

伊藤　勉強がみんなに比べて極端に遅れていたわけではなかったのですが、**東大を目指すにあたって「これではいけないな」という危機感は感じていました。**

山下　そうなんですね。でもなんで成増塾に入ろうと思ったんですか？僕もちょっと失礼な言い方ですが、予備校講師一年目のときに大手予備校を受けて落ちて、それから塾を探してはじめて成増塾知ったんですよね。その後、その予備校も受かってしばらく

出講してたんですが、成増の方が納得のいく授業できると思って結局成増に集中するようになったんですが。

伊藤　僕は基本的に少人数が良くてそれで大手も含めていくつか体験授業に行って見たんですが、講師の距離の近さなどが一番成増塾が自分に合ってたと感じたので、成増塾に決めました。

山下　そうだったんですね。ほかのみんなは何で成増塾に通おうと思ったんですか？

中下　私は高田馬場が通学路だったんですが、その時塾の看板が見えて「通いやすいかも」と思ったので…（笑）

星野　僕は兄も成増塾に通ってて。兄は慶應に合格したんですけど、そのせいもあってか母が「あんたも成増に行きな」って。（笑）

濤岡　私は家から近かったので成増塾にしました。最初は英語しか取る気なかったんですけど、山下先生が説明会で話してて「なんかすごく面白そうな人だな」って思ったので。（笑）

山下　そうなんですね。説明会は保護者の前でお話しする機会が普段ないので、毎年何を話していいか分からずとても緊張するので、そのときもきっと慌てふためいていたのでしょう。（笑）

みなさん色々お話していただきましたが、単刀直入に成増塾に入って成績伸びましたか？別に「国語は伸びなかったけど英語でカバーした」とかでもいいので。

中下　たぶん…伸びました！

山下　たぶんなんですね。

中下　早慶模試が二回あって1回目は同じ学部の志望者の中で７位だったんですよ！でも2回目で最下位近くまで落ちてしまったので…結局上がったか上がらなかったかよくわかりません。

山下　早慶模試は相当癖が強いですからね。他の模試はどうでした？

中下　河合塾とかは65くらいだったと思います。

山下　そうなんですね。それではおそらく中下さんは受験の最後に伸びたのかもしれませんね。早稲田は合格者を絞った関係で河合の65程度だと少し厳しくなっていて、70弱程度は欲しいところです。もちろん模試はあくまで目安であって過去問が一番大切ですけどね。星野君はいかがでした？

星野　数値とかはちょっとそこまで覚えていないんですけど、**塾塾に入る前は現代文はほぼフィーリングで解いていました。**先生がよくおっしゃってる解答根拠なんて全然考えていなかったです。**でも先生が授業中にほぼ全問解答根拠を精密にとって解いてくださったので、それを真似しているうちに現代文の成績がかなり安定してきたなっていう実感はあります。**

山下　そうなんですね。授業中も言いましたが、**特に上智は選択肢が細かく消去法ではほぼ対応できないですからね。それ以外の早稲田やMARCHなどの選択肢がある私大でも「自分で解答根拠を探す態度」がないと点数はまず安定してこないんですよ。**

濤岡　私もそれはすごく実感しました。国語はなんかいつもテキトーに解いていて安定してなかったんですけど、解答の根拠をしっかり取るようになってからは特にセンター模試で170～180で安定してきました。

山下　それはすごいね。センター国語は文系科目の中で一番難しいですからね。

濤岡　特に評論文でほぼ落とさなくなりました。早慶模試はイマイチだったんですけど…

山下　早慶模試はね…そもそも早稲田だけ、慶應だけで見ても学部ごとに「違う大学」と言っていいほど傾向が違います。ですから「早稲田模試」でもちょっと無理があるんですよ。その2つをくっつけて「早慶模試」なので、どうしても実力が反映されにくい部分はあるんですよね。問題も非常に難しいですからね。

伊藤　僕の場合は国語は一番模試とかでは不安定でした。数学や英語はある程度安定していたんですが、国語はちょっと波が激しかったですね。最初に実感したのは学校の模試でしたね。国語の授業に参加し始めてしばらくした後の高校2年生の模試とかで「解けるな」って実感し始めました。

山下　模試で安定すると自信になりますよね。

伊藤　ただ、東大模試はなんとも言えない感じでしたね。夏の東大模試は河合でC判定の駿台A判定で自分もどっちの成績を重視すればいいかちょっと困りました。

山下　東大模試は各予備校によって、出題や採点の特色がかなり色濃くありますからね。東大の解答速報を見比べても相当に解答がブレているので模試基準で自分の実力を測るのは難しいですね。あくまで過去問を基準にするのがよいですよね。

伊藤　ただ、終盤までいくと**演習をかなり積んだこともあって自信がかなりついてきました。**自分ができるようになっている」っていう感覚があったので、**本番ですべることはないなっていう確信**は受験前にはありましたね。（東大本番の国語は78点の高得点）

山下　たしかに伊藤ちゃんは終盤は授業中の発言も鋭かったので、僕も勉強になりました。**国語は「自力で根拠を取れるようになること」が死活的に重要**だということですね。**その力は一定の方法論を常に持って問題にあたる→フィードバックを得て修正する形での積み重ねでしか成しえません。**成績が伸びたみなさんはみなそういう姿勢が自然と身についている人ですね。

さて、それでは僕の授業の良かった点と悪かった点を聞かせていただけると嬉しいですね。特に悪かった点は僕の授業の改善につながるので、是非聞かせていただければと思います。

中下　先生の良かった点は、設問について「どうしてそういう答えにしたの？」っていつも聞かれるので、なんとなくで選べなくなったことですね。答えがあっていてもプロセスが曖昧だとしっかり修正してくれるので、**ごまかさずに解答根拠を取る癖がついた**のがすごくよかったです

山下　現代文は解答に至るプロセスが一番重要だからね。そこを鍛えて初めて成績が安定するよね。

中下　古文は基本的な知識を授業中に何度も繰り返してくれたので、助動詞や敬語の用法が自然と覚えられたことですね。多分20回くらい同じことを繰り返していたので、さすがに骨身にしみて理解できました。（笑）

山下　英語や社会と比べて古文は日本語と似てるところがあるからどうしても、日々の生活のなかで知識が薄れていくのが早いんですよね。大事といっても**国語という科目の一分野だから受験生は英語や社会ほど時間を割くわけにもいかないので。**ですので、**授業中で古文の基本事項は繰り返しに繰り返して誰でも覚えられるようにするというのは僕の一つのモットーですね。**

中下　ただ改善点というか要望は現代文の授業は基本週に1回で、問題集も解答のプロセスに納得できない問題も多かったので、もう少し現代文の演習を増やしてほしいな～とは思いました。

山下　そうなんですね。それに関しては実は既に手を打ち始めていて、**YouTubeで演習用の教材を作って投稿しています。40講の予定なのですが、そうすれば、通常授業の60回と演習教材の40回を合わせて100問になります。**これは他の予備校の2倍以上の演習量ですので、あとは私大文系なら英語と社会に回していただければと思います！

星野　良かった点は古文を十分にやってから漢文をしていただいたのがよかったですね。古文の基礎的な力を付けた後に漢文に移行してもらえたので、僕のような両方全然知識がない人間にとってはありがたかったですね。学校は同時並行だったんですけど、古文の知識がないと漢文も読めないので…

山下　そうですね。古文の学習をまずしっかり行うのが漢文においても重要ですよね。

星野　困った点は、先生の授業は大体早慶上智の過去問ベースじゃないですか。でも自分でGMARCHの問題解くときは初見の問題で、後半の方はあまり授業でも扱わなかったので解きなれなくて。そういった意味では中下さんとちょっと被るんですけど、GMARCHレベルのペースメーカー的な問題集は欲しかったかもしれないですね。

山下　なるほど！やはりお2人ともその要望ってことは現代文の問題演習は受験生に需要があるのですね。ありがとうございます。濤岡さんはどうですか？

濤岡　私も先生が授業中に質問してくださって絶対プロセスを答えさせようとしてくれるのがとてもよ

かったです。さっきも言ったかもしれませんが、結局フィーリングで解いてしまう癖がなかなか取れなかったんですが、先生がしつこく何度も聞いてくるので、プロセスを考える習慣が自分の中で身に付きました

山下　プロセスの確認がしつこい点ですね。現代文は英語や社会のように同じ用語がいつも聞かれるわけではないので、**現代文力の根幹は解答に至るプロセスの充実にある**と考えています。受験生の多くがなんとなくで解いてしまっている現状があるので、その改善のためには指導者が何度もしつこく聞くことで思考の癖をつけるのが効果的だと考えています。

濤岡　改善点としては、私も先生が古文や漢文の知識を何度も繰り返してくれるのはすごくありがたかったんですけど、テキストの下のスペースが少なかったので、書ききれないことが度々あったので、もう少し大きくしてくれたらうれしいです。

山下　そうでしたか。それは失礼しました。ではスペースはもっと広めに取るように修正します。(濤岡さんのご指摘を受けて、今まで6cmだったテキスト下部のスペースを7.5cmに増やしました)

濤岡　あと現代文とは別に古文漢文の演習教材も欲しいかもしれません。古文は市販の参考書でもよいかもしれないんですが、漢文はあんまりそういったものもなくて、最後の方はやるものがなくなっていました。

山下　たしかに古文は結構市販の参考書も充実してるけど、漢文は少ないですよね。分かりました。それについても準備しますね。伊藤ちゃんはいかがですか？

伊藤　僕が先生の授業で良いと思う点は「先生が自分の解答を絶対視しせず、多角的に検討している点」だと思います。もちろん十分に自分の解答は示されていましたが、そのうえで他の予備校や出版社の解答も並べて受験生に多角的な視点を持たせようとしていたのがよかったですね。

山下　**生徒との議論がなければ、少人数制の国語の強みを生かせない**と考えています。現代文は全ての受験科目でもっとも思考力に依存する科目ですからね。逆に言えば教師の誤りが最も生じやすい科目という怖さがあるんですよね。だからこそ、議論を通じて**「予備校講師の答案を批判的に検討できる力」をつけるのは必要になってきます。**講師のいうことを素直に聞いているだけでは太刀打ちができなくなってしまいますね。

伊藤　改善点はたぶん昨年は先生が毎週飛行機出張で忙しすぎたことと関連してると思うのですが、たま～に授業中に行う解答の修正が多いときもあったなあと。(笑)

山下　その点については本当に申し訳ありませんでした。これは完全に言い訳ですが、たしかに飛行機出張が毎週あるっていうのは予想以上に体力的につらかった時期もありましたね…伊藤ちゃんの言う通りかなり授業中に修正が入ることもありましたもんね…。今年度以降はもう出張もないので、その点についてはご安心ください。

伊藤　ただ先生の授業は演習の負担を出来るだけ抑えつつ、効果がある勉強を狙ってくださっていたので、そこはありがたかったですね。どうしても東大は英・国・数に加えて社会2科目なので、演習効率はものすごく重要でした。どうしても英語と数学に大半の時間を割くことになるので。そこのところを意識していただけたのはありがたかったですね。

山下　そうですね。**東大の場合配点こそ英語と国語が一番大きいですが、どうしても英語・数学の2教科に一番時間がかかります。**科目の性質として英語や数学は得意な生徒なら7割超えは十分狙えますが、国語は高得点が取りにくく、英数に比べ、1割程度取得できる点数が下がります。であれば、国語は70点程度取れるならば取り合えず後は他科目に回すという戦略を取る必要があります。

また私大文系の場合も英語が圧倒的に重要です。英語の勉強時間が全体の50%程度必要で残りを社会、国語に振り分けていくイメージですね。**受験は各科目のバランスが最も重要です。**そこには十分配慮した上で演習教材のセレクトを行っています。

星野　たしかに僕も最初国語は全然ダメでしたが、国語をやりまくったという感覚はないですね。特に僕は外国語学部志望で、やはり英語に時間を割く必要があったので。先生の授業を受けているうちにいつの間にかできるようになっていたという感じです。

山下　私大文系の場合は古文・漢文が０の状態から早慶上智を狙う生徒は多いですからね。そういった０からでも成増塾の60回授業の特性を生かして早慶トップレベルまで引き上げるカリキュラムを組んでいます。

星野　そうですか。これは個人的な興味があって先生に質問したいんですが、合格する人と落ちる人との違いはどこにあるんでしょうか？

山下　「主体的に勉強ができるかどうか」ですね。それが圧倒的に重要です。勉強に限らず困難に挑戦する際の最低限の要素として、**努力、戦略、選択**であると思っています。講師は生徒一人一人の学力を見て、**大きな枠組みとして志望校合格に最適な勉強戦略とどんな教材を使うべきかという選択**を提供するのが最低限の仕事です。しかし、努力は生徒にしかできません。たとえば早慶は三教科においては東大と変わらない学力をつける必要があり、なんとなくの勉強で早慶まで行く確率は限りなく低いです。逆に主体的に勉強する意志がある生徒であるなら、大手予備校とは一線を画する高い確率で志望校まで導ける自信があります（現役クラスの早慶上智志望生のうち2019年の合格率は44％）。

東大に関しては、東大を目指そうという生徒でなんとなく勉強しているという方はほぼ考えられないので、そこは心配していません。科目数が多いので、2年生のうちから英数国の主要教科はある程度のレベルにまでもっていってほしいということはありますが。

星野　ありがとうございます。

山下　いずれにしても、受験に向かう生徒のための最適なカリキュラムと学習環境を整えるのが講師側の仕事です。そのうえで、**「生徒が持っている可能性を最大化する」**お手伝いをさせていただきたいと思っています。そのためには講師である僕が学び続ける必要があります。今日はお忙しい中集まっていただき、様々な示唆を得ることができました。ありがとうございます。大学生活はぜひ楽しみながら学び、様々なことに挑戦してください。それが社会人になってさらに人生を楽しめる力につながってくると思います。それではみなさん本日はどうもありがとうございました！



国語科

国語総合

岡村勇作

丁寧かつ論理的、きめ細かい授業で国語力UP間違いなし!

【クラス定員８名程度】



塾長から見た岡村講師。

岡村講師は柔道で鍛えた堂々たる体格の持ち主ですが、わかりやすく楽しい授業をしてくれることで定評があります。岡村講師の授業についていけば必ず国語を得意科目にできるはずです。

岡村講師が語る。

[授業の流れ]

授業冒頭で前回の内容と宿題の定着度を確認する小テストを実施します。軽めのテストですので満点を目指してみましょう。もちろん多少のミスはあるでしょうが、白紙回答などあまりにもメッセージ性が強い場合は、授業後、教育的指導を行います。楽しくお喋りでもしましょう。

授業中は難関大学の過去問を使い本文と設問の解説を行います。予習必須です。みなさんが何をどのように考えて答えたのか教えてください。授業中指名されると緊張するでしょうが、「難しかった」「悲しい気持ちになった」程度の感想でも(最初のうちは)十分ですし、「三段落目で意味がわからなくなった」「選択肢①と選択肢②の二択になったけど、違いがわからないから③を選んだ」くらい言えたら上出来だと思います。国公立や早慶に合格するような生徒でも、学び始めはかなり低い水準からスタートするものです。

宿題は①授業の復習②次回の予習③単語・漢字などの暗記物④その他、を出します。「量より質」と言いますが、実際は「まず量。そのあと質。さらに量」が真理だと思います。柔道部で唯一学んだことです。

【現代文】

現代文は「論理的に考えれば解ける」とよく言われますが、本当でしょうか。たとえば「ある三角形の内角Aが５０度、Bが４０度だった場合、内角Cは何度であるか」という問いに対して「９０度！」と答えたとします。これは論理的ですか？たぶん論理的です。「三角形」とは「内角の和が１８０度である」という性質を持った概念であり、そうである以上「９０度」以外の答えが許されないからです。

次の例です。「僕は毎日マクドナルドで昼食をとっている。どう？」という男の問いに対して、「君はハンバーガーが好きなんだね」と答えたとします。これは論理的でしょうか。もちろん論理的とは言い難いです。マクドナルドにはハンバーガー以外の商品もありますし、マクドナルドの商品が嫌いでも食事はできます。三角形の例と決定的に異なるのは、原理的に、質問に対する答えが無限に成り立ってしまう点です。

では、「君はハンバーガーが好きなんだね」と答えた人は、「君の発言は全くの没論理である。話にならない。やり直し」と責められるのかといえば、そうでもないはずです。厳密に論理的とは言えないものの、「好きでもなければ毎日食べないだろう」という推測は常識的な判断だからです。

現代文は、この「常識的な判断、推測」を高い水準で行う科目です。くれぐれも勘違いしないでほしいのですが、「現代文は答えが一つにならない」「なんとなくで解ける」と言いたいわけではありません(マクドナルドの例は現代文としてとらえると当然間違いです)。そうではなく、「論理」という言葉にすがって現代文の難所から目をそらさない方がいい、ということです。

ややこしいことを言ってしまいましたが、勉強すれば必ず点は伸びます。一緒にがんばりましょう。

【古文・漢文】

とにかく単語、文法、文学史、和歌の修辞法、古文常識、句法などをしっかり覚えましょう。基礎知識が不足していると考える糸口すら生まれなくなってしまいます。少なくとも宿題で指定された範囲は覚えてしまうように。

入試では古文・漢文ともに、多くの設問が現代語訳や本文の内容にかかわるものです。極端な話、現代語訳のプリントを持ち込めば間違いなく合格点は取れます。そこで、授業ではまず現代語訳を正確に行えるような力を養っていきます。特に、「主語の補完」と「単語帳にのっていない単語の訳」、「和歌の解釈」で相当苦労すると思いますので、じっくり取り組んでいきましょう。

古文・漢文

大友美知雄

古文・漢文はこの講座でOK!

【クラス定員６名程度】



塾長から見た大友講師。

駿台予備校で教鞭をとるなど、長い指導経験がある講師です。生徒の理解度を確認しつつ基礎から高度な内容まで短期間でマスターできるきわめてわかりやすい授業を行っています。

合格者の声



東京農工大合格
明治大学農学部合格
立教大学理学部合格

水澤朱音さん
國學院大學久我山高校

★1年間かけセンターの問題を30年分やって頂いたことで本番では8割を超えることができました。ありがとうございました。

大友講師が語る。

[授業方針]

早いスタートが高い学力の伸長につながります。本講座は、高校２年ないし３年でじっくりと学力を育てていくことを基本方針としております。特に入試問題で最も問われる、古文・漢文における長文読解力を養うことに重点を置いています。基礎的な入試問題を素材に、古文は文法・単語・文学史の修得と長文読解力の錬成を目指し、漢文は句型・単語・文学史などの修得と読解力の錬成を目指します。東大・京大などの国公立文系および、早稲田・上智・同志社・立命館などの私立文系最上位校を目標とする人向けの講座です。

[古文を学習するとは]

古文を教えていていつも思うことは、多くの生徒が、きちんとした勉強をしていないということです。古文の入試問題で八割くらいは読解力を問う問題です。ところが多くの生徒諸君は、この問題に手をつけられずにいます。どうやったら読解力が伸びるのか分からず、漫然と問題を解いているだけで、単語や文法・文学史を覚えることに時間を費やし、結局読解力をつけないまま入試に突入してしまいます。確かに読解力を伸ばすという作業は、具体的な手ごたえが少なく、文法問題などに比べると時間ばかりかかり、学力が伸びているかも分からず、つい後回しにしてしまうのも理解できなくはありません。中にはこんなことを考えている方もいないでしょうか。「文法と単語を覚えれば、現代文の偏差値と同じくらいのレベルまで古文ももっていけるだろう。だから長文問題など解くのは時間の無駄だ」と。それは明らかな間違いです。何故なら、古文には古文独特の文構造があるからです。

本講座では、まず現代文と古文の文章の違いとして「1.主語判定　2.省略の補完　3.係り受け」の関係をおさえ、それから総合的な読解力の養成に取り組んでいきます。文章全体を読む「4.段落分け」、文の流れを接続詞・係助詞・接続助詞を梃子にとらえる「5.文脈」、助動詞の働きから「6.時　7.空間」を古代人がどう捉えたかを学習し、副助詞などから「8.含み」の読み方を、助動詞などの働きを中心に作者の「9.表現意図」を捉え、修辞技法の働きから「10.歌」について学習していきます。

なお、前期には文法を、後期(10月～)からは文学史を勉強し、単語テストも毎週行っていきます。その上で、少人数クラスの利点を生かして生徒一人一人に合った指導を行います。参考として、昨年度において希望者には週に二問ずつ長文を宿題として出し、授業で長文70問、宿題で100問を解きました。



駿台予備校等で長い教授歴がある古典担当の大友講師。生徒の弱点をいち早く知り、最も効果的なアドバイスを与えてくれます。

国語科

現代文

山田芳明

細かい添削指導で現代文は記述・論述まで完璧。

【クラス定員６名程度】



山田講師。生徒からのどんな質問にも真剣に答えてれるたよりになる先生です。

塾長から見た山田講師。

山田講師は本当に面倒見のよい講師です。私は山田講師が生徒のために授業時間をいつものように延長する姿を見ています。山田講師の説明はとてもていねいで、わかりやすい。記述・論述問題をひとりひとりていねいに、見てくれるので、現代文は山田講師の授業を受ければ、絶対に得意になります。

合格者の声

慶応義塾大学文学部合格

大竹純平さん

城北高校

★私は成増塾で山田先生の現代文の授業を受けていました。山田先生の授業でどこに着目しどう考えればよいかを学び、春先には55前後だった国語の偏差値は2学期の中ごろには67まで伸びました。成増塾に通えて本当によかったです。1年間ありがとうございました。

慶応義塾大学環境情報学部合格

鈴木雅人さん

京華高校

★山田先生の授業はとても親切でした。マンツーマンによる授業のおかげで最初わからなかった問題も最後には理解できるようになりました。また、小論文の添削をしてもらっていました。夜遅くまで教えていただくこともしばしばありましたが、自分の納得行くまで教えていただけたことには本当に感謝しています。

山田講師が語る。

現代文は高3・高2共通の講座となります。

授業は演習形式が中心ですので、授業に集中し、そこでしっかりと自分の頭で考えることが大切です。難関大学突破のカギは、どれだけ自分の頭で考える時間を持てたか、という点に集約することができます。

この点が、いわば、現代文の"体力"にあたるものです。

特に、東大や一橋などの国立大学を目指すためには、この"体力"をつけることがどうしても必要です。高２の秋から意識的にそうした時間を作り、積み重ねていくことが、現代文を大きく伸ばすポイントになるのです。

現代文のもう一つのポイントは、設問に対応する力です。

これは現代文の"技術力"にあたるわけですが、そこには様々なものが含まれます。大まかに言って、設問から出題者の意図を理解する力、問題を解くための方針を立てる力、文章を組み立てる力、自分の解答を批判的に検討する力などがこれに含まれます。こうした"技術力"はどれだけ効果的なトレーニングを積んだかによって大きく差がつくところです。

こうした意味で、高２のうちからトレーニングを始めることは非常に大事です。

特に、国立大を目指す人は早めスタートが不可欠だと考えてください。

１０月からの授業では、国立大・私立大の過去問に取り組みます。冬期講習はセンター対策を集中的に行うことを予定しています。良質な問題を多く解いていくことによって、センター・国公立・私立のどんな試験にも対応できる実力を養成します。また、漢字テストも２週に１回のペースで実施し、細かい部分の弱点を潰していきます。前年度とは教材が重ならないようにしますので、2年から始めて3年の入試直前まで、継続して受講することが可能です。



現代文、小論文を担当する山田講師が生徒の質問に答えています。山田講師は6名定員の小クラスで記述、論述問題の答案を一人ひとり細かくチェックしていきます。山田講師の目の行き届いた授業を受けることで、生徒は東大をはじめとする難関大学の記述、論述問題に絶対の自信を持つことができるようになるのです。

理科

物理

押川定夏央

数学とセット受講で物理を究める。

【クラス定員 20 名程度】



数学同様、押川講師の物理は大人気の講座です。

塾長から見た押川講師。

数学科講師と兼任。数学同様の人気講座です。物理で扱う様々な現象を本質的な部分から解きを起こし、鮮やかに難問を解いてくれます。それだけでなく、生徒は着実に力がつき、東大合格者からも絶賛されています。

合格者の声



東京工業大学AO入試 物質理工学院合格
辺見桃音さん
東京学芸大学付属国際中等教育学校

★教科書レベルの私を入試レベルまで持ち上げてくれました。先生の教材は全部ちゃんと「自分のもの」にすれば必ず結果がついてくるようになっていて本当に知るべきものが詰まっています。受験勉強のスタートが遅くて心配でしたがとても効率よく勉強できたので何とか間に合いました。先生がよくおっしゃっていた「復習して!」というのは本当にその通りだと思います。物理も数学同様完璧に研究された教材で嫌いだった物理が嫌いでなくなりました。押川先生神です。

押川講師が語る。

【「物理的思考」とは】

よく「数学と物理は似ている」という言葉を耳にしますが、物理の研究から現代数学の基礎の必要性が生まれたことを考えると、その点は間違いのないことであるのかもしれません。しかし、受験数学と受験物理では、考え方の根の部分はまったく違うものです。

数学は、定理や公式の多様性から、どの解法が適切であることを考えることが必要となります。例えば、図形をテーマとした問題があるとき、用いる可能性のある知識の属する分野は平面幾何、三角比・三角関数、微分・積分・2次関数、図形と方程式、ベクトル等が考えられます。解くことのできる考え方はいくつかあり、この中のどの解法が最も効率がよいのかを考えていく必要があります。

これに対し物理は、各関係式や法則が成立するための条件があるため、各式が使える場が限られています。そのため、どのようなときにその式や法則を使えるのかを学び、なぜ他の式は使えないのかを考えていくことが重要です。各分野・条件で使える式は2～3個程度なので、使える・使えない条件さえ理解し設問の状況をつかめれば、方針の選択で迷うことはありません。では、何が物理を難しくさせるのか ― それは、状況把握と各式の使い方です。

【求められる学力】

力学分野において、物体に働く加速度を求めるには、力の書き込み・加速度や未知の力の設定・正方向の設定・運動方程式の立式・式の連立というプロセスを踏みます。一つの式を使うまでに様々な設定をする必要があるため、数学のように公式を覚えてすぐにそれに当てはめるということはできません。式の性質を学び、使い方を身に着けていくことが重要となります。

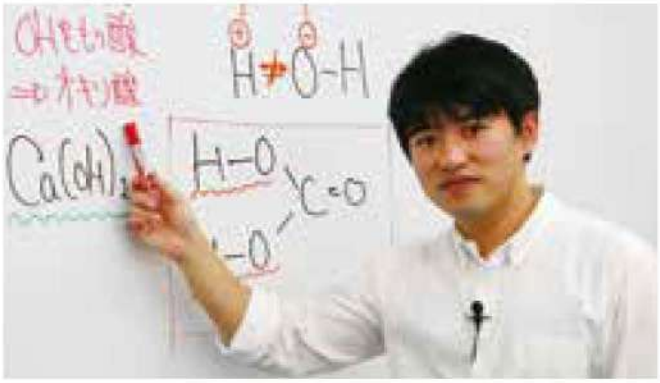
入試を見据えた物理の勉強は、主に問題演習が中心となっていきます。それ自体には間違いはありませんが、問題を解くだけでは実際の物理状況の把握能力は身につかず、実験の意味を理解するには至りません。物理の入試問題は有名な実験を元にしているものが多く、実験の目的・方法・プロセス・結果、そして結果に基づく考察・応用を理解していることが重要となります。講義では、この点を重点的に扱っていきます。

理科

化学
森本恭彰

化学の勉強が好きになる、楽しくてわかりやすい授業。

【クラス定員12名程度】



本当に楽しく、わかりやすい授業をされます。知らず知らずのうちに「森本ワールド」に引き込まれ、いつの間にか化学が大好きになってしまいます。

塾長から見た森本講師。

森本講師は、有名予備校で教鞭をとってきた経験も豊富で、授業がとてもわかりやすく、教えるのが非常にうまい講師です。何よりも教えることを心から楽しんでおられるのでそれが生徒にも伝わってきます。わかりやすい授業をすることはもちろんですが、さらに生徒が授業内容をマスターするために演習時間を取り入れるなど、様々な工夫をしておられます。私が絶対の自信を持ってお勧めできる講師の一人です。

森本講師が語る。

【化学入試で求められているもの】

大学入試の化学では，何をどれだけ覚えているかを試す問題だけでなく，問題に対する発想力を試そうとするものが多く出題されています。また，出題に工夫をこらし，「難問」と呼ばれるものも出題されます。そこで，同じテーマの問題でも少し違う観点で出題されたら手が出ない，という状態では困ります。こういう状態にならぬよう，化学原理を習得し，そこで得た道具の使い方や考え方を身につける，これこそが応用力です。この応用力を自分のものにするためにも，化学的思考力を磨くことが何よりも重要です。

【学習法】

化学で高得点を目指すには，何が必要でしょうか。ただただ問題演習しようと，何冊もの問題集に触れている生徒や，ときには自分のレベルを超えた難しい問題集を使用している生徒がよく見受けられます。しかし，この学習法は非効率的で，解法の暗記になりがちです。化学の学習において最も重要なことは，知識や現象を暗記するのではなく，「化学現象の本質を掴むこと」です。これがマスターでき，絶対におさえておきたい定石問題の解法が理解できると，ほとんどの問題が同じ解法で解けるようになります。そのため，授業では「どのように問題文を読むか」「どのように考えるか」を学びとることが大切です。その後，復習するときに，その問題に対して“どういうプロセスで考えるのか”を大切にして欲しいと思います。もし，復習をおろそかにすると全く同じ内容の問題が出題されても解けないでしょうし，その解法を他の問題に利用することも難しいかと思われます。短期間で化学的思考力を磨くためには，復習をおろそかにせず，繰り返しトレーニングを徹底することが重要です。

【授業スタイル】

［授業前半］　まず，前回扱った内容の確認テストからはじめていきます。成績が芳しくない場合は，残ってやり直しをさせる場合もあります。次に，その日に扱う新しいテーマの基礎の確認をします。基礎とは，決して簡単な問題というわけではありません。「基本用語や化学反応式が原理から説明できること」から「定石問題を正しく解けること」までを「基礎」と考えております。これは化学の根幹となるものです。そのため，初回の授業では，化学計算の基本である「原子量」や「物質量モル」とは何かという議論から始めます。このように，授業では化学基本知識や理論の暗記ではなく，化学用語や現象の奥底にある原理を研究し，「これだけは知っておきたい」という定石問題の解き方・考え方を伝授していきます。

［授業後半］　授業前半で確認，もしくは習得したことを確認するために問題演習を行います。おそらくこの段階ですべての問題を解ける生徒はほとんどいません。用語や現象を頭に入れたとしても，解けない問題がでてきます。そこで「何故解けないのか」の原因を追究して，その一問だけではなく他の類似問題にも活かせるような解法を伝授していきます。前期では，定石問題が自力で解けるよう，後期では，前期で得た知識を応用問題にどのように活かしていくかを実際に応用問題にどんどんチャレンジすること会得していきます。次回の授業で，前回分の授業の確認テストを行うときに，毎回合格点できるように，何度も繰り返しトレーニングしましょう。
(授業内容の理解が不十分なときには，基礎レベルの動画を用いて補うことも可能です。)

【高3カリキュラム】

ⅠタームとⅡタームでは，化学全範囲の基礎習得となる化学論理を伝授していきます。この内容を疎かにすると，教科書レベルの問題が解けても，入試レベルの問題につまずくかと思われます。そのため，「基本用語や化学反応式について説明できる」よう徹底していきます。それから「定石問題の解法を理解する」ことまでを「基礎」と考えており，この習得に全力で挑みます。Ⅲタームでは，Ⅰ・Ⅱタームでの化学論理や問

題の考え方を中心に行った授業とは異なり,「わかる⇒できる」をモットーに演習中心の授業を展開していきます。特に受講者が苦手とする分野では,「内容は理解したが,問題は解けない」という声をよく耳にするため,前期の内容を確認しつつ,頻出問題から応用問題まで数多くの問題に触れ,前期で学習した道具をどう使っていくのかという部分を伝授していきます。

[Iターム]	理論化学(濃度,結合と結晶,中和,酸化還元,気体,溶解度,熱化学など)
[IIターム]	理論化学(平衡,希薄溶液の性質),無機化学,有機化学
[IIIターム]	高分子化合物,総合演習(小問集合演習,テーマ別発展演習,過去問研究)

Iタームのカリキュラム例

1	結合と結晶	11	酸化還元Ⅱ
2	結合と結晶Ⅱ	12	酸化還元Ⅲ
3	原子量と同位体	13	金属のイオン化傾向と電池
4	物質量計算	14	電気分解
5	濃度計算	15	気体Ⅰ
6	酸・塩基	16	気体Ⅱ
7	酸・塩基Ⅱ	17	気体Ⅲ
8	中和滴定Ⅰ	18	溶解度
9	中和滴定Ⅱ	19	熱化学Ⅰ
10	酸化還元Ⅰ	20	熱化学Ⅱ

【高2カリキュラム】

化学基礎分野の完全習得を目指します。「モル計算」の分野は,計算問題の考え方の根幹になりますし,「酸・塩基や酸化還元」の分野は,化学反応式をつくるときの根幹になってきます。Ⅰタームでは,この内容を習得することに重きをおき学習していきます。Ⅱターム以降では,Ⅰターム学習した化学の基礎を元に化学全範囲(高分子化合物を除く)の基礎確立を目指します。難問よりも,化学論理や問題の考え方の習得することを徹底的に繰り返し,高3の入試演習授業へスムーズに移行できるようにします。また,大きなテーマが終了すると,その内容の中間テストを実施し,理解度を確認して定着させていきます。

[Iターム]	化学基礎(モル計算,結合と結晶,中和滴定,酸化還元など)
[IIターム]	無機化学,理論化学(気体,溶解度,熱化学,平衡など)
[IIIターム]	理論化学(平衡,希薄溶液の性質),有機化学(合成高分子を除く),I期とII期の演習

【個別対応】

このようなスタイルで授業を進めていく上で,どうしても基礎から発展へステップアップしていく際に,授業の理解度が不十分でつまずいたり,演習量が不足をしたりする生徒が出てきます。そのときは,とことん生徒の疑問点を解消するために,万全のフォローを行います。また,常に生徒と双方向に情報をやり取りしたり,小テストの結果から,演習量が足りていないと思われる場合には個別に課題を出したり,あるいは必要に応じて別途時間を設けて補習を行ったりする場合もあります。

合格者からの声

東京工業大学4類合格
稲垣慧さん

★初めは苦手で偏差値40台だった化学でしたが、最終的には一番の得意かつ好きな科目になり、偏差値も70を超えるまでになりました。森本先生の授業はとにかく板書が分かりやすく、授業後にノートを使って何回も復習しました。また、授業後に疑問点を質問に行った際に、親身に対応してくださり、とてもありがたかったです。



東北大学工学部合格
石塚慧人さん
早稲田高校

★先生の授業は内容の理解だけでなく、模試や入試本番で点数が取れるような授業、演習を行ってくれてとてもありがたかったです。

国際医療福祉大学医学部合格
八尾万由さん

★基礎の大切さから応用の仕方まで順序立てて授業の中で教えていただけました。また、授業外での問題演習の提供や勉強方法でのアドバイスなどのお陰で化学に関しては自信を持って受験に望むことができました。



東京医科歯科大学 歯学部歯学科合格
森山直哉さん
私立武蔵高校

★体系化された板書と演習が分かりやすく、質問にも丁寧に対応してくださいました。先生の基礎を大切にする授業のおかげで、本当に苦手だった化学が自信を持って2次試験に挑める科目に変わりました。

合格者からの声



北海道大学水産学部合格
飛田祥太さん
宝仙学園理数インター

★問題を解くスピードが遅いことが課題でした。森本先生は様々なパターンの問題を一つ一つ丁寧に解説してくださるので定着が早く、問題を見てすぐに解法を思いつくようになりました。



秋田大学医学部合格
高原美治さん

★かなり助かったこと
•毎授業の復習テスト
•理論の計算ポイント
•構造決定の手順
•直前期の正誤問題プリント集

特に復習テストは"復習"なので9割以上を採れるようにしていました。



日本歯科大学 歯学科合格
佐藤有華さん

★先生の授業は私にとって決して簡単ではありませんでした。でも授業に参加するのが楽しくて、テストが悪くても次頑張ろ!と思えるような空気感のクラスでした。団体授業の利点を活かしつつ、個別指導のように一人一人の生徒を大切に扱ってくれました。受験の時、なんどもなんども相談に乗ってくださって本当にありがとうございました!!!

東京学芸大学教育学部合格
矢作建太さん
城北高校

★高2のときに偏差値40だった化学を森本先生の原理から考える授業のおかげで，高3の1年間で偏差値60後半まで上げることができました。入試で問題が解けたときの快感は忘れられません!

順天堂大学医学部合格
福井 彩華さん

★森本先生の授業を通して、化学を暗記ではなく理屈で理解できるようになりました。また毎回の授業はとても楽しく、化学が自然に得意科目になりました。質問や相談にも親身になって聞いてくださって、とても感謝しています。

順天堂大学医学部合格
酒井大樹さん

★各単元で入試テクニックを教えてもらえるのでタイムマネジメントができるようになり、苦手だったはずの化学が入試までには得意科目になっていました。また、私大医学部対策を直前にしてもらえるので要点の整理ができて、似た問題が出てきた時に焦らずに解くことができました。



大阪大学基礎工学部 システム科学科合格
R.H.さん
渋谷教育学園渋谷高校

★高3のGW明け頃に入塾しました。最初は酸化還元と酸塩基の区別もつかない程でしたが、森本先生の授業のおかげで結果的には化学が得点源になり、感謝しています。



島根大学医学部合格
戸田有紀さん
都立青山高校

★センターレベルから二次対策まであらゆる問題を解くことができました。



横浜国立大学理工学部合格
半澤美玖さん
雙葉高校

★私は復習の習慣がなかったので前期中にあった毎回の授業の復習はとてもためになりました。また、森本先生が繰り出す授業はとても丁寧で、嫌いで不得意だった化学を好きになれました。



慶応義塾大学理工学部合格
四釜快弥さん
芝浦工大柏卒

★現役の時に一番苦手な科目で、センター試験でさえ4割を切るほどでした。しかし、先生の丁寧で楽しい授業のおかげで8割近くまで伸ばすことができました。

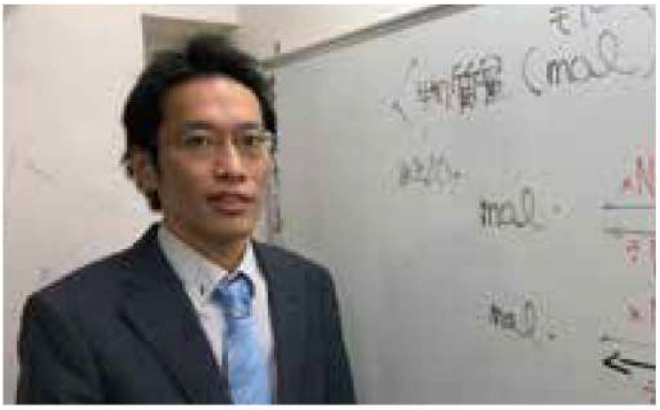
理科

化学

斉藤浩司

化学の本質を知り、
体系的に学んでいくことで
面白さがわかる授業。

【クラス定員８名程度】



塾長から見た斉藤講師。

斉藤講師は化学を本質からわかりやすく教えてくれます。ご自身が受験勉強で苦労された経験もあるので化学に苦手意識を持つ生徒も安心して受講できます。

斉藤講師が語る。

化学は単純に問題をたくさん解けば良いもではなく，どう解いたかが大切です。そのためには本質を知り体系的に学んでいくことが重要です。

そのことは授業を通して伝えていきます。

授業ではまず各単元内容を学んだ後，実際の入試問題にチャレンジしてもらいます。化学の勉強法の詳細は一人ひとりに丁寧にお話ししていきます。

あと授業中だけでなく化学を学んでいるときは，既知の知識にもなぜかという疑問を常に持ち続けてほしいです。そうすることで，新しい気づきや発見があるものです。

このような繰り返しによって，化学の問題が解けるようになっていきます。少なくとも自分が受験生のときはそのように学びました。それによって，理系最高峰の大学に合格することができました。みなさんにも志望校に合格してもらうためにお手伝いをさせてもらいたいです。

それと一生使える化学の本質や面白さをお伝えしますので，期待していてください。自分が卒業した高校は低偏差値というのもあり，難関国立大学や医学部を目指している生徒だけでなく，勉強が全くできない生徒にも的確にアドバイスを伝えられると自負しております。

ただ皆さんには合格したいという熱い気持ちをもってきていただきたいです。

ぜひ教室でお会いしましょう。



理科

生物

中嶋 寛

受験界の第一人者が成増塾で生物を教えています。

【クラス定員８名程度】



中嶋講師は生物講師としては受験界では知らない人がいない程の有名人です。

塾長から見た中嶋講師。

中嶋寛講師は長年大手有名予備校で生物講師の第一人者として教鞭をとってこられた超有名講師ですが2015年から成増塾でも教えていただいています。中嶋講師の授業はわかりやすく面白いことは言うまでもないのですが、教えることに対する情熱も並々ならぬものを感じさせます。生徒が納得するまで豊富な具体例を用いながら説明してくださる真摯な姿勢に多くの受験生が大きな信頼を寄せています。生物を選択する生徒にとってはまさに救世主のような存在です。

中嶋講師が語る。

専門は，分子生物学.
それ以上に，生態学や動物行動学は大好き！
自分の生の経験をもとに講義を行う.

皆さんの中にもそうゆうヒトがいるでしょうが，私は小さい頃からとにかく動物が好きで好きでたまりませんでした. 結局，そのまま大人になってしまいました.

ですから，仕事も生物の教師を選びましたし，趣味も生物の観察と撮影に関係することばかりをやっています. バードウオッチングを含む，アニマルウオッチング，また大学生の時からスキューバダイビングをずーとやっていて，水中写真もたくさん撮ってきました. とにかくガラパゴス諸島やギアナ高地など世界の秘境とか言われるところまで含めて，自然の残っているところにいる生物を自分の目で数多く見てきましたので，学校と言われるところや本で学習しただけではなく自分の生の体験を通した本当の生命現象も予備校の授業では紹介しています。

Ｓｔｕｄｙ ｉｎ ｎａｔｕｒｅ ｎｏｔ ｂｏｏｋｓ.

時間のない受験勉強にたずさわる受験生たちは，Ｓｔｕｄｙ ｉｎ ｂｏｏｋｓ しかできないからこそ，我々教師が本物の生物も見つめ続けていくことがとても大事だと思っています。

大学では，発生を中心に分子生物学をやってきました. 現代の発生学の実験材料としてよく使われるアフリカツメガエルの飼育も担当していました.

遺伝子工学など分子生物学は今最先端の分野ですね. 現在の生物学は，生態学などを除いて分子生物学を柱に組み立てられているので，この分野を専門にしてきて仕事の上ではとても良かったと思っています.（特に予備校の模擬試験の問題作成ではね.）

でも，生態学などで扱う自然の環境に，すなわち，本物の生物達にいつも会いに行き続けています。
最近は以前のめり込んでいたルアーフィシングを再開し，主に渓流や湖にトラウト狙いで通っています。

また，自分でも異常と思えるほどのイヌ好きで、イヌの香りなんか嗅ぐとたまんなくなちゃうんですよ. ちょっとあぶないかなあ？「今は，黒柴のチロ二世と暮らしています」



熱意あふれる中嶋先生の授業に、知らず知らずのうちに引き込まれてしまいます。

社会科

地理

尚光基政（ひさみつもとまさ）

初級者にも「わかる」、上級者も「頷く」授業。

【クラス定員８名程度】

塾長から見た尚光講師。

尚光講師は地理の第一人者として受験界では有名な人物です。説明は本当にわかりやすく、論理的・分析的な授業を聞くと「そういうことだったのか！」という驚きと納得を経験できます。人柄も温厚で本当に一人ひとりの生徒の理解を確認しながら授業を進めてくれます。

尚光講師が語る。

【概　要】

地理を学ぶ上でいちばん大切なのは、「論理的な考え方」ができるようになることです。「論理的な考え方」とは、与えられた条件から正しい結論を導く考え方の筋道のことです。もう少し具体的にいえば、「どうしてそうなったのか」「その理由はなぜか」を考えること、すなわち、地理的事象の成り立つ原因や理由を考えることです。

センター試験における出題の場合は、「○○の理由について述べた文のうち最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ」となります（より一層考えさせる出題を目指すとする共通テストも同様でしょう）。

また、東京大学における出題の場合ならば、「このような違いが生じた理由として考えられることを、下記の語句をすべて用い、2行以内で述べなさい」となります。当然、選択型に比べて東京大学の論述文章作成型のほうが難易度が高くなります。しかし、両者とも理由を問う内容は同じです。

そこで、本講座では、地理学習に必要な「なぜ」を具体的に、わかりやすく説明することによって、地理分野における論理的思考力を受講した皆さんが身につけることに加え、総合的な考察力や分析力の養成を目標としています。

【前期の内容】

系統地理分野を中心に展開します。まず基礎からよくわかること、「よくわかった」上に論理的思考力を積み上げて、ハイレベルな実力を養成します。自然環境と生活（地形・気候）や資源と産業（第1次産業・第2次産業）に加え、交通・通信、消費と余暇活動など、近年出題頻度の高まった分野も含めて徹底的な対策を行います。

【後期の内容】

人口問題、村落・都市の機能と都市問題などの系統分野の学習を終え、系統分野で学習した事柄を、地域別・国別地誌分野の学習へと発展させていきます。地域の特色を多面的な視点から体系的に分析できる力や、より高度な論理的思考力の養成を目指します。さらに、高得点獲得に必要な図表や統計資料からの分析力を完成させます。

【受講生へのメッセージ】

散歩のついでに富士山頂に立つことはありません。日本一の富士山に登ろうと心に決め、山頂に立つための計画を立てて準備をし、自分の足で歩き続けた人だけが、富士山の頂上に立つことができます。途中、昨夜の雨でぬかるんで、滑って転んで膝を擦りむいて、痛い思いをして泣くかもしれません。でも、そこで立ち止まってしまっては山頂に立つことはできません。泣きながらでも歩き続けた人が山頂に立ち、周りを見下ろす、最高にすばらしい景色を自分のものにすることができるのです。

私の仕事は、歩き続けると心に決めた若者と共に歩くことです。青春の夢に忠実であれ。

社会科

日本史

寺越慎介

本物志向の生徒を満足させる授業。

【クラス定員８名程度】



寺越講師は徹底した入試問題の分析をし生徒に実戦力をつけさせる授業をすることで定評があります。

塾長から見た寺越講師。

寺越講師は、本当に生徒思いの講師です。真剣に学べば日本史を必ず得意科目にすることができるはずです。

寺越講師が語る。

【日本史という科目について】



ここに一つの立体があります。「これは何という形ですか？」と問われたとして、「三角形」と答えたら不正解です。「円錐」が正解です。これは、見る方向によって△にも○にも見え、「△」「○」の解答はいずれも部分的には間違いとも言い切れないものの、全体像を捉えていないという意味で正解にはなりません。

日本史の勉強は、多角的な視点によって歴史の全体像を捉えることが求められます。例えば、1945年までの日本はどうして戦争に向かい敗れたのかという重厚なテーマがあった時に、日本の国内の状況と外国の状況の双方を踏まえることが必要です。国内の中にも政治やその主導権争い、憲法などの仕組み、経済、産業、民衆の動向など多岐に渡る視点があります。そして、外国と言っても多くの国があってそれぞれの政治体制や経済事情などの諸問題があります。その上で、日本と諸外国がどのような関わりを持っていくのかを捉えながら、複合的に見ていくことによってようやく歴史の全体像が見えてきます。一方向からの見方では、本質が理解出来たということにはならず、それでは大学合格にも結び付けられません。

合わせて、歴史を見る時にはミクロとマクロの双方を見ることが必要です。細部と全体のどちらも捉えるということです。受験生は一人の勉強になるとこの勉強が出来ないことが大半です。大抵、細部は見ようとするものの、その細部が全体の中でどこに位置するか、その捉え付けが出来ません。

【当講座の指導・授業方針】

そこで当講座では、まず各時代の全体像を最初に捉えてもらっています。例えば、明治時代の中でいくつかの期間に区切って「ここからここまではこういう期間」というまとまりを最初に捉えてもらうことによって、多くの知識を容れる上での整理棚としておきます。それを踏まえて細部に入っていくことで、それぞれの知識を相応しい場所に容れていき、各事項ごとの繋がりを捉えながら理解に結び付けてもらうという手順を踏んでもらいます。

次に、勉強はinputだけでは駄目で、outputが必要です。inputの中心は授業です。それを踏まえて授業後にinputの続きとしての復習をどのようにやってoutputとしての演習をどの手順でやるかなど、勉強の手順を一つ一つ詳細に言っていきます。テキスト・演習教材ともに全てオリジナルになり、演習教材は主に用語問題と正誤問題に分かれます。まず、用語問題に取り組んでもらうことで基本用語を定着させ、「幹」としてもらいます。その後に正誤問題に取り組んでもらって幹を盤石にさせながら「枝葉」を付けてもらいます。

これら段階を経てもらうことで、特にここ数年の指導では、初学者・成績下位者であっても、受講者全員、一人の例外もなく確実に成績の上昇に結び付けてもらっています。日本史を圧倒的に伸ばそうと思うなら成増塾です。成増塾は講師の持ち駒を全て発揮出来る環境にあります。大手の予備校は優秀な先生方が多くいるものの、その全てを出すことは制約によって叶いません。大手予備校を圧倒する質の授業と教材、対応、盤石なレール、総合的な情報量を提示し、現実に志望校合格へのお手伝いをさせて頂くことをお約束します。

合格者の声



早稲田大学国際教養学部合格
木嶋航章さん
浦和西高校

★寺越先生の授業は、何をどのように覚え、どのように入試に使うのかが非常によく体現されています。これは入試問題を解く段階で、嫌になるほど実感したことです（笑）。また、先生ほど面倒見の良い先生はいないです。受験はかなりきついですが、その時に頼りに出来る先生がいるかいないかでは大きく違ってきます。寺越先生には直前期にはほぼ毎日メールで論述の添削をしていただきました。

早稲田大学文化構想学部合格
藤本智暉さん
本郷高校

★寺越先生の特徴は“授業&テキストの分かりやすさとその濃密さ”です。先生の生徒に対する面倒見の良さは世界一と言っても過言ではありません。過去、いくつかの塾を転々として来ましたが、先生ほど授業前後のケアや間違えた問題に対する処方などもこと細かく指摘してくれる先生は他にいませんでした。国立志望の人にはしっかり論述対策もやってくれます!先生に頼りっきりでもいいのでは?という位サイコーでした。



学習院大学法学部合格
芦田泰志さん
明徳義塾高校

★自分は先生との信頼関係が非常に大切だと考えており、その観点から本当に理想の先生でした。先生の提示する「まず構成・全体像をとらえてから細部に入る指導」「水を入れるための容器づくりから始める指導」というのは革命的であったと言えます。こうした日本史の勉強が他教科に大いに活きました。あと、今まで自分たちが習ってきた歴史とは違った視点からの提示があるので、非常に面白く、興味が湧いてきて日本史を好きにさせてくれました。独学では決して味わうことのできない奥深さを教えてくださいました。

日本女子大学合格
足立葵さん
都北園高校

★日本史は1人でできると思いがちですが、それでは穴が空きまくりです。むやみやたら覚えようとすれば時間もかかるし結局とびとびの知識になってしまう可能性大です。日本史には重要かつ筋の通った勉強法があります。それは1人では完成できません。寺越先生の指導のもとで絶対勝てるようになります!先生は個人に合わせた学習状況の把握や志望校対策など幅広くサポートしてくださいます。そして、魂がこもったテキスト達!解説も細かくてすごいです!これらを使いこなし授業を吸収した人は伸びないはずはないです。

早稲田大学教育学部合格
岡本泰崇さん
都立山吹高校

★寺越先生は授業の中で、受験知識のみならず教養として一生持っていけるような日本史も教えて下さります。また、生徒をとても大切にして下さり、一人一人とことん向き合って最適な指導をしてくれます。丁寧で、毎回配られる演習は本当に最高の教材だと思います。きちんとこなせば、めちゃめちゃ力がつきます。そんじょそこらの演習教材とは比べものにならないと思います。受講して本当に良かったと思います。



一橋大学商学部合格
岡本壮馬さん
筑波大学附属高校

★まず授業が分かりやすいです。分かりにくい分野も図を使ったりして分かりやすく、かつ記憶に残りやすいよう教えてくれます。また、生徒一人一人と真剣に向き合い、志望校対策も徹底的に付き合ってくれます。自分は普段の一橋の添削だけでなく、授業が終了した後にも慶應・経済の添削をして頂いたり、対策のプリントを頂いたりしました。先生についていけば、必ず志望校の日本史で他の受験生と差を付けられるようになると思います。

社会科

世界史
落合真也
図解を駆使し、歴史を楽しく学べる。

【クラス定員 8 名程度】



世界史を担当する落合講師。落合講師は事務スタッフでもあり塾長代理として成増塾の事務を統括する責任者でもあります。

塾長から見た落合講師。

落合講師は成増塾事務統括リーダーという重責を担いながら、世界史の講師も務めています。彼の授業の特色は、ふんだんに図解を使いながら時代の大きな流れを理解させることです。実のところ、落合講師は世界史を教えることを生きがいにしています。落合講師は生徒の質問に答えるとき本当に目を輝かせて生き生きと教えているのです。「水を得た魚のよう」とはまさにこのことだと思います。生徒のどんな質問にも喜んで答えてくれるのはもちろん、論文の添削指導など本当に熱心にやってくれます。私がぜひオススメしたい講師の一人です。

落合講師が語る。

◆世界史という科目

受験生の皆さん、世界史の勉強は進んでいますか。英数などの主要科目で手一杯になり、世界史まで手が回っていない方、まだ本格的に世界史に取り組んでいないという方、あるいは既に苦手意識を持ってしまっているという方もいるでしょう。高2生までは勉強の重心を英数科目に置くというのはごく当然のことで、あまり世界史に時間を割いてもいられないという人も多いことと思います。また、その限られた時間の中で膨大な量の暗記知識を前にして、次第に嫌気が差して苦手意識を持ってしまう、ということも比較的ありがちなパターンです。特に世界史では、単に情報量の多さというだけにとどまらず、多くの地域の歴史を同時進行的に把握する情報管理能力が求められますので、闇雲に丸暗記しているだけではすぐに限界を感じることになるでしょう。

では、どのように効率よく情報を覚え、定着させ、そして有機的に活用/運用し、さらなる応用へと発展させるのか。

そもそも歴史というのは「人の営み」の集積です。農耕民には農耕民の、遊牧民には遊牧民の生き方・考え方があります。民族だけではなく、歴史に登場する諸国家、諸王朝、諸政権は、結局は人間が運営しているわけで、それら人間の諸集団(または個人)によって歴史は動かされてきたわけです。ということは、それら人間の諸集団(や個人)が、どのような性格を持っていて、どのような考えに基づいて行動しているのか、なぜその戦争を起こしたのか、なぜその政策や法制度が必要だったのか、そしてその生き方や考え方の中からどのような文化が生まれてくるのか、そうした人間の行動原理の核心部分に迫ることで、今まで無機質な情報の羅列にしか見えなかった戦争や事件や制度や政策や文化というものに、人間の血肉や神経が通って見えてくるはずです。なんの関連性も見いだせないような、単なる年号や歴史用語といった情報の羅列をひたすら暗記しようとするのは本当に苦痛です。が、このように情報と情報をつなぐ「回路」を構築し、知識と知識を有機的に「体系化」することで、**覚える**効率は飛躍的に向上しますし、また忘れにくい強靭な知識へと**定着**していきます。

さて、入試問題を解く上で、知識の集積と定着だけで十分でしょうか。難関大学であればあるほど、多角的なものの見方を受験生に要求してきます。「こんなテーマを、こんな切り口で出題してきたか」と唸らせるような出題をしてきます。教科書や授業で習得した世界史は、ごく一般的で標準的な、ある一面から見た世界史に過ぎません。もちろん、まずは世界史のベースとして「標準的な世界史(いわゆる"通史")」を構築するのが先決ではありますが、しかし、そこから入試問題が要求するレベルで多角的に活用/運用するところまでもっていかなければなりません。それにはやはり実践的な**問題演習**がどうしても必要となってきます。おそらく問題演習で経験値を積むにしたがって、自分が覚えきれていなかったこと、見落としていたこと、忘れてしまっていたこと、あるいは誤解していたこと、そして新たな発見に気づいたこと、などなど様々な刺激を受けるでしょう。そのようにして弱点を補強する一方で、新たな武器を身に着けること、そうした訓練を積むことで、入試でどんな切り口で出題されても適切に情報を**運用/活用**できる術を身に着けることにつながるのです。

◆講座の目的と授業の特色

本講座では、学校の授業では難しい「横の世界史」というものに重点を置き、時代ごとに**世界史の全体像を俯瞰する視点を身につけること**を主な目的として構成しています。学校の授業では、1コマの授業時間が短い上に、細かい暗記知識もある程度は拾っていかなければならないため、どうしても世界史を、多地域間にまたがるような「大きな視点」で捉えるまでには至らず、各地域・各時代がぶつ切り状態で扱われて終わってしまいます。これは世界史という科目の特性上、ある程度仕方ないことではありますが、ただ、せっかく授業で仕入れた知識も、細切れ状態のままでは入試の答案用紙上で上手く活用することはできません。時系列で歴史の因果を紡いでいく「縦軸」に加え、同時代の多地域間の関連性や背景を繋げていく「横軸」の視点を身に付けること、そしてバラバラに断片化した知識を有機的に体系付けて、**「多地域の歴史を、同時に、そして動的に把握する力を磨く」**ということが本講座のねらいです。これは特に共通テストや難関国公立大の論述問題などを解く上で必須のスキルと言えますし、私大の入試でも難関大学であればあるほど有効です。

◆授業の進め方

このように、世界史の全体像を俯瞰する上で必要な基礎知識はもちろん授業内でも拾っていきます。が、重箱の隅をつつくような細かい暗記知識や受験テクニックの追求には固執しません。歴史用語の知識を覚えることと、歴史のロジックを理解することはまったく別次元の話です。イメージとしては、学校の授業で仕入れた知識を、本講座の授業で体系付けて把握し理解を高める、といったかたちが理想型です。授業は、受講生の理解度をはかるため、適宜、質問や発問を行いながら基本は講義形式で進めていきます。講義では触れられなかった用語・知識などについては、授業内で練習問題演習や確認テストを実施したり、あるいは必要に応じて課題プリントなどを出すなどして、知識のチェックと定着をはかります。

また、国公立志望の方には必要に応じて論述対策を講じます。論述問題は、①問題文を精確に読み取る**読解力**、②主題の意図を見抜く**問題分析力/把握力**、③主題に関する**知識力**および必要十分な知識の**取捨選択能力**、④必要十分な知識を機能的に使う**論理構成力**、⑤日本語を正しく扱う**文章力**、など様々な能力を駆使して総合的な問題解決能力が問われる類の問題です。問題文章の読解や構想メモの作り方から解説し、そして実際に書いてもらった論述を提出してもらって、一人一人に対して添削指導を行います。その答案の良い点や、逆に改善すべき点をプリントにまとめて個人ごとに返却いたします。この繰り返しによって、出題者の要求をいかに把握するか、自分の文章のどこが不足し、どこが余分なのか、どうすれば答案のレベルが上がるのかを体得させていきます。

まずは高3の秋頃までは横の世界史に重点を置きつつ"通史"を進めますが、通史が一通り終わった後は、多角的な見方を身に着けるため周辺地域史でもう一周、文化史でもう一周し、計3周ほど世界史を回すことになります。無闇な暗記に行き詰まりを感じている方、世界史の全体像が上手く掴めないという方は、ぜひこの講座にご参加ください。

◆カリキュラム(予定)

前近代(2月～4月頃)

第一章(2月) Ⅰ文明と文化 Ⅱ古代文明
Ⅲ鉄器と思想宗教の誕生
第二章(3月) Ⅳ東西の世界 Ⅴ西のローマ、東の漢
第三章(春期) Ⅵ民族移動期 Ⅶ第二次民族移動
第四章(4月) Ⅷ分権化の時代
Ⅸ農業革新と国際商業の時代
Ⅹモンゴル帝国と世界の一体化
Ⅺ中世の終わり

近世/近代(5月～7月頃)

第五章(5月) Ⅰ中世の終わり・近代の始まり
Ⅱアジア・イスラームの帝国
第六章(6月) Ⅲヨーロッパの膨張
Ⅳアジア・イスラームの転換点
第七章(7月) Ⅴ植民地抗争の時代
Ⅵアジア・イスラームの後退
第八章(8月) Ⅶウィーン体制 Ⅷイギリスの時代

近現代(8月～9月頃)

第九章(夏期) Ⅰ帝国主義 Ⅱ列強の衝突と世界分割
第十章(9-10月) Ⅲ第一次世界大戦
Ⅳヴェルサイユ=ワシントン体制と世界恐慌
第十一章(10-11月) Ⅴアジア・イスラーム諸国の民族運動
Ⅵ第二次世界大戦
第十二章(11月) Ⅶ東西対立と冷戦
Ⅷ冷戦終結とグローバリゼーション

周辺地域史・文化史(10月～1月)

第十三章(12月) Ⅰ朝鮮・ベトナム Ⅱチベット・雲南
Ⅲ東南アジア Ⅳ北アジア
第十四章(12月) Ⅴ東欧 Ⅵ北欧 Ⅶバルカン半島
Ⅷ中南米 Ⅸアフリカ史
第十五章(冬期) Ⅹ文化史1(古代ギリシア/古代ローマ/ヘレニズム/古代イラン/インド)
Ⅺ文化史2(イスラーム/中世ヨーロッパ/近現代欧州/中国)

※1月は志望校対策か、または苦手とするテーマ等で個別に課題設定します。

スタッフ

成増塾の５つの校舎には、受付係を兼ねたスタッフが勤務しています。
生徒の皆さんが、より良い環境で学習出来るように応援サポートする頼もしい存在です。



事務スタッフ
三浦久恵

パソコンのインストラクターの経験もあるキャリアウーマンです。丁寧でフレンドリーな対応でどんな相談にも応じてくれます。



事務スタッフ
内河祐子

いつも笑顔の絶えない元気いっぱいの内河さん、頼りになるお姉さんです。



事務スタッフ
落合真也

事務統括チーフの落合真也さん。誠実な人柄と正確な仕事ぶりでみんなから信頼されています。落合さんは世界史の講師も兼任しています。



事務スタッフ
加藤悦子

塾生にいつも優しく対応してくれる加藤さん。心強い味方です。



事務スタッフ
齊木友美

イラストレーターとしても活躍の齊木さん。仕事の正確さには定評があります。成増塾のガイドブック表紙等にも齊木さんのかわいらしいイラストが使われています。



事務スタッフ
田端優美

仕事熱心でどんな仕事でも笑顔で対応してくれます。成増塾各校舎には塾生の合格を祈願した田端さんたちの作った千羽鶴が飾られています。



事務スタッフ
高橋千晶

どんな仕事もテキパキとこなしてくれる明るくてエネルギッシュな高橋さん。とても頼れるスタッフさんです。



成増塾各校の受付では、今日もスタッフが笑顔で生徒の皆さんを迎えます。右写真は、各校舎に飾られている、スタッフ手作りによる“合格祈願”千羽鶴。





スナップ写真で綴る

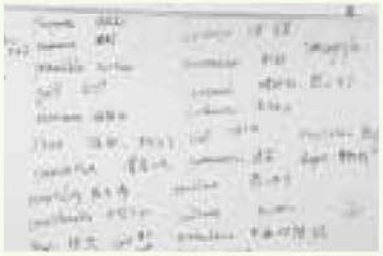
成増塾アラカルト



高田馬場本校の入り口靴置き場。成増塾では生徒がリラックスして学習できるように、まずは全員がスリッパに履き替えます。



英語科 甲斐講師の人気の秘密を探るべく、“成増塾マスコットキャラクター”が授業に潜入!?



受験シーズンの自習室のホワイトボード。塾生が暗記必須の重要事項のまとめに活用しています。



受付の三浦さんと談笑する生徒の皆さん。女子会トークでおおいに盛り上がっていました。



成増塾の照明はすべてLEDです。蛍光灯のようなチラつきがなく長時間勉強しても目が疲れません。



高田馬場本校の自習スペース。生徒は授業のない日でも何時でも自由に使うことが出来ます。



成増塾名物の『疲れた時の息抜きキャンディ』。生徒はこれを自由にとることができます。糖分を補給し、頭の働きを回復させます。



年に3回、成増塾の生徒は特待生試験にチャレンジするチャンスがあります。特待生試験の緊張した雰囲気の中で、生徒は本番の試験会場の雰囲気に圧倒されない、強い精神力を培うことができるのです。



特待生試験の採点は成増塾のスタッフにとって重要な仕事です。採点はミスがないように複数のスタッフによって二重、三重にチェックされます。

合格者の声

【2009年~2020年合格者より】

**成増塾に在籍して
難関大学に合格した
先輩たちからのメッセージ。**



合格 東京大学

川合 淳也さん
東京大学理科I類合格
都立戸山高等学校

公立高校で部活の引退も遅く、最後の模試の結果も最悪でしたが門脇先生の英語にとどまらない全教科にわたるアドバイスのおかげで現役で合格することができました。本当にありがとうございました。

高木 友貴さん
東京大学文科I類合格
お茶の水女子大学附属高校

門脇先生の授業はテキスト、授業の解説含め全ての点でハイレベルで、先生の教養あるお話しも非常に面白かったです!門脇先生の授業だけしっかりこなせば東大英語の対策は十分です。

小林 知奈さん
東京大学理科II類合格
桜蔭高等学校

事務の方々に優しく話しかけていただき、嬉しかったです。ありがとうございました。受験は定期テストとは違い、長期戦です。焦って無理に睡眠時間を削っても1年続きません。時間を有効利用すれば成績は上がるはずなので、自分に最適なペースで頑張ってください!

菅沼 修祐さん
東京大学文科II類合格
武蔵高等学校

正しい方法で、必死に努力すれば、自ずと実力はついてきます。成増塾の先生方についていけば間違いありません!

杉山 紗弥佳さん
東京大学文科III類合格
都立小石川高等学校

とてもアットホームな環境で、楽しみながら勉強することができました。また、自分の勉強スタイルを全く変えずに塾に通うことができたため、利用しやすかったです。後輩へのアドバイスとしては、「A判定は20%の確率で落ちる」ということと、「どこに落ちても第一志望を見つめる強さを持つこと」です。受験終われば暇なので、それまで自分のベストをつくして下さい!!

藤井 達也さん
東京大学理科I類合格
城北高等学校

門脇先生の英語には大変お世話になりました。入塾前は苦手だった英語が、一年後には平均点を取れるどころか、多くの点数を稼げる程得意になりました。英語は文理問わず、出来ると非常に有利な科目です。難関大学(特に東大)を目指す方にはぜひオススメの先生です。

合格 国立医学部

内田 裕大さん
日本医科大学医学部合格
暁星高等学校

英語は文法、解釈、長文読解の全てが、上手くカリキュラムに組み込まれていて、受験において最大の武器になりました!物理は高3の4月に偏差値が40台でしたが、センター試験では9割を超えられるくらい素晴らしい授業でした!中1から6年間本当にお世話になりました!

北村 謙太さん
筑波大学医学群医学類合格
立教新座高等学校

成増塾には最高の先生や仲間、そして環境が揃っていると思います。目標を高く持って最後まで諦めずに頑張ってください。

合格 一橋大学

志賀 俊希さん
一橋大学商学部合格
早稲田高等学校

成増塾の授業の質は相当高いと思いました。自分は成増塾以外の某大手予備校にも通っていましたが、成増塾の方が断然質が良いです。ですので、その質を活かすも殺すも受講者次第だと思います。授業の予習・復習をしっかりやれば十分に力をつけることができ、どんな難関大でも闘っていけると思います。本当にありがとうございました。

合格 京都大学

上田 直毅さん
京都大学農学部応用生命学科合格
海城高等学校

入塾した時、英語は好きであるにも関わらず、苦手科目でした。集団授業の中でも、個人との面談をかかさずに行い、生徒一人一人の状況に合わせてアドバイスや、やる教材を教えていただいたお陰で、最後にはむしろ得意科目になりました。本番ギリギリまで添削して頂いたのも、力強い励みでした。中島先生にはとても感謝しています。

田中 美帆さん
京都大学総合人間学部合格
豊島岡女子高等学校

クラス分けがなかったのが嬉しかったです。私はモチベーションが上がりました。難しい内容の(教え方は分かりやすかったです)授業を受けて分からないなりに必死についていくことで私の場合は効果があった部分もあると思います。受付の人も話しやすくて居心地が良かったです。ありがとうございました。



2019年合格祝賀会より志望校に合格した卒業生の皆さんと、世界史・落合講師との喜びのショット。







合格 私大医学部

田村 健吾さん
日本医科大学医学部医学科合格
筑波大学附属高校

大学進学以降も様々な場面で使うことになる英語を、単に試験で点数を取るための力としてだけではなく、今後にも活かされ発展される力として教えてくださいました。また、他教科の勉強法なども指導下さり、合格に欠かせないものでした。

奥村 優さん
北里大学医学部医学科合格
立教新座高等学校

学校の友人に勧められて受講しました。授業の質、他教科の勉強法等、何を取っても門脇先生は素晴らしいと思いました。そして何よりも推薦入試の時の全く勉強してこなかった小論文、面接の対策、志望書の添削、担任に丸投げされた推薦書のカバー等本当に助けられました。門脇先生には感謝してもし切れません。

北村 夏陽さん
杏林大学医学部合格
宝仙学園高等学校

先生の教え方は、英語を学ぶ上で最も近道だったと思います。授業もおもしろく、試験関係なく、英語が好きになりました。受験後も受け続けたい授業です。また、1人1人に合ったアドバイスをして下さいます。本当にありがとうございました。

合格 東京工業大学

古賀 千晶さん
東京工業大学第四類合格
お茶の水女子大学附属高等学校

成増塾は1クラスの人数が少ないため、先生と生徒の距離が近く、すぐに質問できるのが魅力だと思います。石川先生は、質の高い問題を多くこなし、その後に一つひとつ丁寧に解説していく授業スタイルで、演習授業でも生徒のミスを的確に分析して下さるので、非常に良かったです!!

鍋島 未萌さん
東京工業大学 第3類合格
広尾学園

分かりやすくて楽しい授業でした!毎回多くのことを学ぶことができました。ありがとうございました!!まわりのみんなの意識や集中力に刺激を受けて成長することができたと思います。ありがとうございました!

合格 東京学芸大学

須藤 崇匡さん
東京学芸大学教育学部合格
成城高等学校

すごく面倒を見て頂きました。面倒見の良さが非常にウリであると思います。また、文法や精読のプリントを出して頂き、助かりました。化学は基礎から発展までを手広く扱いました。講義の所が原理に基づいた説明で本質を理解できました。

合格 早慶上智

松永 卓さん
早稲田大学商学部
武蔵高等学校

ただやみくもに勉強するのではなく、自分は今何のための勉強をしているのか、自分には今、どんなことが足りていないのか常に考えながらがんばってください!!

平松 大武さん
慶応義塾大学理工学部合格
攻玉社

成増塾では本当に色々とお世話になりました。今城先生は「先生」というよりかは勉強における先輩という感じでたくさんの有効な勉強法を教えてもらいました。また最後の最後までずっと面倒を見てくれ、本当に感謝しています。高橋先生の授業は高1の頃からとっていましたが、宿題の重さがいつもちょうどよく、授業の進行スピードも絶妙でした。先生のおかげで基礎もわからなかった確率が得意科目になりました。

磯部 真緒さん
早稲田大学創造理工学部合格
豊島岡女子学園高等学校

大変良かったのは高島先生の英語、長谷川先生の化学、押川先生の物理です。特に英語と化学は先生方のおかげで「得意科目」になり、本当にお世話になりました。(特に東大)を目指す方にはぜひオススメの先生です。

塩谷 晴香さん
慶応義塾大学文学部合格
國學院高等学校

成増塾に入ったからこそ慶應義塾大学に入学することができました。中学の時の経験からあまり塾のことは好きではなかったのですが、下高井戸校の受付の方、先生方は皆温かく見守って下さり勉強する楽しさを知ることができました。本当に感謝の気持ちでいっぱいです!

安納 美紀さん
慶応義塾大学法学部合格
渋谷教育学園渋谷高等学校

数学の安田先生の授業を受講しました。高3の春からだったけど、一気に成績が伸びました。ありがとうございます。他の講座と比べ宿題が多くスパルタだという話しですが、そんなこと知らずに受け始め、実際宿題もそんなに辛くなかったです。楽しかった。

黒田 カンナさん
慶応義塾大学経済学部合格
豊島岡女子高等学校

成増塾の自習室が大好きでした。先生方が部室にいらっしゃるのでだらけずに勉強することができました。すぐ横に友達が勉強しているので良い刺激にもなります。受付の方とのちょっとした雑談がいやしでした。成増塾には他の塾とは良い意味で変わっている所がたくさんあります!

直筆でお伝えする、合格者の声

先輩達の喜びが直接伝わる、熱きメッセージです!



村上さんは、第一志望の慶応大学医学部以外にも、千葉大医学部、順天堂医学部、慈恵医大医学部等、受験した大学全てに合格しました。左から、押川講師、村上さん、高島講師の喜びの3ショットです。

■受講講座:英語／高島講師
■受講講座:物理／押川講師

私は成増塾で高島先生の英語と押川先生の物理の授業を受講していました。お二人とも生徒一人一人に親身に対応してくださる本当に頼れる先生です。

英語の高島先生の授業では徹底した構文理解と単語熟語暗記によって、合格に必要な英語基礎力をしっかりと身につけることが出来ました。

そして、押川先生は物理が大の苦手だった私に一から物理の考え方を教えてくださいました。結果、偏差値も30近くあがり、合格を引き寄せた最大の関因になったように思います。直前期には数学の質問でもお世話になりました。

どちらの先生の授業を一つ欠けても合格できなかったと思います。

本当にありがとうございました。

慶応義塾大学医学部合格
村上諒典さん
暁星高校



■受講講座:英語／中島講師
国語／山下講師
世界史／落合講師

少人数制の授業がとても合っていて私にぴったりでした。

先生方もすばらしい方達で、私の合格に導いてくれました。

とにかく環境がよく、この1年、勉強面以外でプレーになることはありませんでした。本当にありがとうございました。

後輩達へ　先生方を信じればきっと大丈夫です。がんばって!

早稲田大学商学部合格
馬場 貴也さん
高島高校



■受講講座:英語／門脇講師
国語／山下講師

成増塾は授業内容が本当に充実していて、緊張感はありながらアットホームな雰囲気の授業なので、勉強は大変でしたが本当に楽しかったです。少人数のため先生との距離が近くどんな質問にも丁寧に答えて下さり感謝の気持ちでいっぱいです。成増塾に入塾して本当に良かったです。

今まで本当にありがとうございました。

上智大学
総合人間科学部合格
田村乃愛さん
吉祥寺女子高校

一橋大学商学部合格
志賀 俊希さん
早稲田高校



■受講講座：数学／押川講師

授業のレベルが高く、最初はついていくことができるか不安でしたが、予習・復習をしっかりすることで数学が得意になり、一橋の数学も苦にすることなく、実力を発揮できました。

■受講講座：英語／甲斐講師

S、V、O、C も分からなかった自分に基礎から丁寧に教えていただき、最終的には平均レベルまで引き上げていただき ありがとうございました。

早稲田大学 創造理工学部合格
高橋 立さん
芝高校



■受講講座：英語／門脇講師
数学・物理／押川講師
国語／山下講師

先生方が明るくてとても楽しく勉強ができた。

勉強に時間がかかってしまったときでも質問をあと快適だった。

授業自体はどの先生も工夫をしてくださり、いろんな方法で勉強することができた。

一年間お世話になりました！

京都大学 医学部合格
符 毅欣さん
城北高校



■受講講座：英語／門脇講師

僕が受けていた授業は最初の門脇先生と途中の木下先生の授業を受けていました。木下先生はもうお辞めになってしまったので門脇先生の授業についてです。門脇先生は頭が良かったです。実に論理的に授業を進めてくれます。少し難しい内容でありますが、分かったことと定着がよいんだけです。

さらに、授業以外の授業外でのケアがすごい。授業の質だけではなく、英語の勉強の仕方、さらには他の科目の勉強の仕方、参考書なども早急して相談にくれます。門脇先生の授業と木下先生の授業を受けた経験から、全科目の対応も上手くてくれます。門脇先生の話はこのくらいにして、僕がこの空間なんだが圧倒的なthankな思です。本当感謝しても感謝しきれないです。スリッパはほけたり、授業が忙しくていねぐいても自習できたり、先生にまるこんな思い、先生と話していて疲れたことはなかったです。

ていい、何よりたて言れる支持は教室を楽しくしてくれます。

かしよう、最後に先生方、事務の方、たて皆ありがとうございました。

東京大文科三類合格
杉山 紗弥佳さん
小石川高校

■受講講座：世界史／落合講師

テキストのフローチャートがわかりやすく、それを写真を撮る形で頭に残せば"結構問題の解き方"がわかります。授業の準備にしっかりしているので質問するととても詳しく答えてくれます。

■受講講座：数学／石川講師

1つの問題を原理まで掘り下げて解説してくれるので、問題のイメージを頭の中で形成しやすかったため、応用もすんなりやすかったです。長期休暇には沢山問題をいただけます。

合格祝賀会にて。志望校に合格し、門脇講師に喜びの報告をする卒業生の皆さん。



直筆でお伝えする、合格者の声

先輩達の喜びが直接伝わる、熱きメッセージです!



合格祝賀会にて。高橋講師を囲む生徒の皆さん。志望校に合格し誰もが笑顔で今日の良き日を迎えました。講師にとっても長年の苦労が報われる瞬間です。

順天堂大学 医学部合格
大橋 伸裕さん
武蔵高校

■受講講座:数学IAIIB発展:物理発展／押川講師

「心・技・体」全てが高められる最高の授業。

■受講講座:国立英語／門脇講師

質的にも量的にも偏差値が10も違くた為でも脱法の授業。

■受講講座:数学III発展／高橋講師

「数学の楽しさ」も学べてる上に高精度の声にも答える為の一番。

■受講講座:化学発展／森本講師

開講がキーポイント。絶妙な量と内容で飽きと隙に割り込まれるプランの授業。

慶応義塾大学 経済学部合格
山田 千隼さん
東京都市大学付属高校

■受講講座:英語／中島講師

受験直前の添削のおかげで自信をもって本番にのぞむことができました。早慶のいくつかの学部では2時間目の英語に合格したと思えるくらいには実感がわきました。

■受講講座:国語／山下講師

国立の問題を解くことで身につけた論理的思考力は私大の問題だけでなく、英語・数学などの他教科にも活かすことができました。

■受講講座:世界史／落合講師

速答授業のおかげで世界史が武器になりました。早慶上智の世界史で予測もつかないことは全くなく、むしろ世界史が成長しました。質問のたびに丁寧に答えてくださいました。

上智大学法学部合格
野田 崇大さん
日本大学第二高校

■受講講座:英語／中島講師

精読や音読といった課題をこなしていくことで、点数が安定するようになりました。

■受講講座:国語／山下講師

苦手だった古文を丁寧に勉強することで国語を得点源にすることができました。

■受講講座:日本史／寺越講師

基礎から学ぶことで日本史を最強の武器にすることができました。

東京大学理科I類合格
矢島 康平さん
武蔵高校

成増塾のおすすめポイント3点

① 先生との距離が近く、楽しい雰囲気で授業が受けられる。

② 授業が体系化されていて授業をこなすだけで学力が自然につく。

③ 自習の個別にある程度勉強の仕方が任されているので、自分にあった勉強ができる。

合格実績

東大・医学部・早慶上智・難関国公私立大学に圧倒的な強さを誇ります!

【2009年~2020年合格実績】

●東京大学
- 文I……4名
- 文II……14名
- 文III……12名
- 理I……27名
- 理II……11名

国立大学医学部
- ●京都大学……2名
- ●千葉大学……8名
- ●東京医科歯科大学……4名
- ●神戸大学……1名
- ●広島大学……1名
- ●秋田大学……1名
- ●横浜市立大学……1名
- ●岐阜大学……1名
- ●東北大学……2名
- ●新潟大学……2名
- ●北海道大学……1名
- ●徳島大学……1名
- ●浜松医科大学……3名
- ●信州大学……3名
- ●山梨大学……2名
- ●防衛医科大学校……5名
- ●福島県立医科大学……1名
- ●島根大学……1名

私立大学医学部
- ●慶応義塾大学……3名
- ●東京慈恵会医科大学……8名
- ●順天堂大学……14名
- ●日本医科大学……11名
- ●国際医療福祉大学……4名
- ●東邦大学……9名
- ●自治医科大学……1名
- ●昭和大学……14名
- ●東京医科大学……3名
- ●日本大学……3名
- ●獨協医科大学……2名
- ●福岡大学……1名
- ●北里大学……8名
- ●帝京大学……5名
- ●埼玉医科大学……5名
- ●東京女子医科大学……6名
- ●杏林大学……4名
- ●金沢医科大学……1名
- ●東北医科薬科大学……1名
- ●東海大学……2名
- ●聖マリアンナ医科大学……4名

その他
- ●一橋大学……28名
- ●東京工業大学……43名
- ●東京農工大学……4名
- ●お茶の水女子大学……4名
- ●千葉大学(医学部以外)……3名
- ●筑波大学……1名
- ●東京学芸大学……1名
- ●大阪大学……4名
- ●京都大学(医学部以外)……11名
- ●早稲田大学……227名
- ●慶応義塾大学……166名
- ●上智大学……65名
- ●東京理科大……89名

その他、多数合格。

特報 2020年合格実績!

昨年は単年度で東大8名、医学部31名計39名を合格させました!!

<国公立(医歯薬除く)>
●東京大学
- 文I……2名
- 文II……1名
- 文III……1名
- 理I……4名

●京都大学……1名
●一橋大学……2名
●東京工業大学……3名

<医学部・薬学部>
●東京医科歯科大学(国立)…1名
●神戸大学(国立)……1名
●広島大学(国立)……1名
●秋田大学(国立)……1名
●浜松医科大学(国立)……2名
●東京慈恵会医科大学……2名
●順天堂大学……2名
●日本医科大学……2名
●昭和大学……2名
●国際医療福祉大学……4名
●東邦大学……2名
●東京女子医科大学……2名
●聖マリアンナ医科大学……1名
●獨協医科大学……2名
●北里大学……1名
●杏林大学……2名
●福岡大学……1名
●帝京大学……1名
●東海大学……1名

<難関私大>
●早稲田大学……39名
●慶応義塾大学……31名

その他、多数合格。

入会金・授業料 ※オンラインでの受講も同額です。

入会金

30,000円（＋税）

科 目

英語、数学ⅠA、数学ⅡB、数学Ⅲ、現代文、小論文、古文、漢文
世界史、日本史、物理、化学、生物

授業時間・授業回数

各科目とも１回２時間、月４回（各タームとも１回２時間の季節講習が４回追加されます。）

校 舎

成増校、高田馬場校、下高井戸校、西葛西校、白金台校、計５校があります。
最寄りの校舎をお選びいただけます。

授業料

１科目授業２０回（＝１ターム分）につき**100,000円（＋税）**。

- 授業料は原則としてターム単位でお支払いいただきますが、ターム途中での入塾の場合には受講回数に応じてのお支払いとなります。
- 特待生、準特待生、奨学生に認定されると授業料はぞれぞれ5割、4割、2割の減額となります。
- 個別指導をご希望の方は成増塾講師による個別指導を受けることができます。1科目授業4回ごとに**80,000円（＋税）**です。
- 教材費は各ターム**15,000円（＋税）**です。（途中入塾の場合、月単位でお支払いいただきます。）
- 授業の曜日に関しては詳細は成増塾発行の時間割りをご覧ください。詳しい日時に関しては成増塾までお問い合わせください。

成増塾では予約をすれば常に授業を体験することができます（ただし英語、数学は、体験の前に実力診断テストをお受けいただきます）。

- 実力診断テストをお受けになる際は、必ずご予約下さい。
- 授業を体験したい方は、成増塾までお気軽にお問い合わせください。
- 各クラスとも定員になり次第締め切らせていただきます。

特待生制度

「東大、国立大医学部合格率100パーセント」を目指します。

２００５年より始まった成増塾の特待生制度。この制度は「東大、国立大医学部合格１００パーセント」を目指してスタートされました。

２０２０年までの入試の結果は特待生制度の「東大、国立大医学部合格１００パーセント」を裏付けるものとなりました。

準特待生、奨学生の中にも国立大医学部、一橋大、東工大などに合格する者が多数含まれ、成増塾の特待生制度のレベルの高さを実証しています。

★特待生試験で特待生、準特待生、奨学生に認定されると授業料はそれぞれ５割、４割、２割の減額となります。

★ちなみに成増塾から千葉大、筑波大、北海道大、横浜国大、首都大、等の上位国立大学、早稲田、慶応、上智、理科大、私立医大に合格している生徒のほとんどは一般生です。

2020年合格実績

特待生3名中――東大理I:2名、東大文I:1名合格(100%)

準特待生3名中―東大文II:1名、東大理II:1名、東京医科歯科大学:1名合格(100%)

奨学生2名中――東大文II:1名、神戸大医学部:1名合格(100%)

2019年合格実績

特待生3名中――東大理I:2名、東大文II:1名合格(100%)

準特待生2名中―東大理I:1名、東大理II:1名合格(100%)

奨学生2名中――東大文II:1名、千葉大医学部:1名合格(100%)

2018年合格実績

特待生3名中――東大文II:1名、東大理I:2名合格(100%)

準特待生3名中―東大理I:2名、東大理II:1名合格(100%)

奨学生2名中――千葉大医学部:1名、岐阜大学医学部:1名合格(100%)

2017年合格実績

特待生3名中――東大文I:1名、東大理I:1名、徳島大学医学部:1名合格(100%)

準特待生2名中―東大理I:1名、東大理II:1名合格(100%)

奨学生3名中　　東大文II:1名、東大文III:1名、東大理I:1名合格(100%)

2016年合格実績

特待生3名中――東大理I:2名、東京医科歯科大:1名合格(100%)

準特待生2名中――東大理I:1名、東大理II:1名合格(100%)

奨学生3名中――京大法学部:1名、名古屋大学医学部:1名、横浜市立大学医学部:1名合格(100%)

成増塾 高卒部のご案内

国立大コース **早慶上智コース** **私大医学部コース**

成増塾で多くの生徒たちから絶大な支持を得ている、
人気講師のみが専属で教える高卒部が２０１４年よりスタートしました。
大手予備校には絶対に真似のできない、志望校別に３つのコースを設定。
きめ細かな徹底指導を受けることが出来ます。

成増塾　高卒部の理念

成増塾では高卒生を対象とする特別コースを、設置しています。少人数制指導を熟知したこれまでの成増塾のノウハウを凝縮して、最高の指導環境を高卒生へも提供しております。

首都圏の高卒生の多くは、現役時に通塾を経験しているか、または高校でレベルの高い授業内容に触れていることが多く、すでに一定水準の学力に達している場合も少なくありません。このような生徒が大手予備校の高卒生クラスに入学した場合、大手予備校の講座は一から講義を始めるために、現役時の学習と多くが重複することとなり、無駄の多い学習を強いられることになります。また、高校時における個々の学生の習熟状況はそれぞれに大きく異なるため、高卒生にとって大人数授業は、現役生以上に、望ましい環境とは言えません。実際のところ、このような「ムダ」はこれまで多くの高卒生対象講座において放置されてきました。少人数制を望む高卒生や、宅浪しているが単科でサポートを必要とする高卒生のニーズに対して、高い指導水準で応えている指導機関はほとんどないのが現状です。そこで、私ども高卒部では、高卒生の高い期待に添ったコース設計を用意しております。成増塾の少人数制のノウハウを活かし、塾生の現役時の成績や習熟状況に合わせたきめ細かい指導を行うことで、徹底的に「ムダ」を解消した最もパフォーマンスの高い講座を実現しています。

成増塾はこれまで、合格実績だけでなく、講師と生徒の信頼関係、そして校舎のアットホームな雰囲気についても保護者や生徒からの絶対的な信頼を勝ち得てきました。高卒部においても、このメリットを引き継ぎながら、講師と生徒との緊密な信頼関係を構築し、距離の近い指導を実施しております。少人数制クラスと個人指導を併行する予備校も一部には見られますが、少人数といってもそれなりに多くの人数を抱えており、また集団授業と個人指導を別の担当が受け持つことが普通です。私ども高卒部では、より理想的な指導環境として、集団指導と個人指導とを分け隔てない形の少人数指導を展開しております。まず、1クラス16名前後という少人数にこだわります。次に、少人数指導と個人指導を同じ担当講師が受け持つことにより、より高い学習効果を発揮できるようにクラス運営を行います。自学自習の計画も、担当講師が生徒ごとに個別に相談して決定していくため、授業と自学とが有機的に結合した学習が可能です。

さらに、生徒からの質問にも、時間を気にすることなく、生徒と講師がともに納得するまでとことん対応いたします。弱点や疑問点は、毎回の授業の中で徹底的に解消していきます。自学自習に関しても、自習室を午前から夜まで開放し、集中して自習に取り組める環境を用意しています。このように、年間を通じて、講師と生徒の信頼関係をベースとして、充実した少人数指導、質問対応、自学自習を徹底することで、志望校合格がおのずと現実のものとなるはずです。

担当講師一同、他の指導機関ではありえないプレミアムなコースをご提供できるものと自負しております。高卒生の皆さんと、受験勉強の苦労と合格の歓喜を共有していきたいと願ってやみません。第一志望に必ずや合格しようと考えている高卒生の方は、ぜひともお問い合わせ下さい。

入会金

30,000円（＋税） ※高校部に在籍していた方は、免除となります。

専用自習室年間利用料

150,000円（＋税）



授業料

１科目につき、**年間300,000円（＋税）**

※前期、後期での分納が可能です。年間一括であれば、料金を1割引きにいたします。

各科目、年間教材費**45,000円（＋税）**。

★2018年度より成績優秀者には特別割引制度が設けられました。
（学費5割、4割、2割減額）

成増塾高卒部　授業日程･授業時間･授業回数

4月第1週開講予定

●前期【４月～８月】、後期【９月～１月】の二期制です。

●１講座につき、半期２０回、年間４０回の授業を行います。

●講習会はありません。高卒生は年間を通して一定のペースを保ちながら学習を行うことが重要なため、季節講習会は設定しておりません。

●１科目につき、授業は週１回、３時間です。 １限 ： ９時～１２時　２限 ： １３時～１６時

校 舎

高田馬場校のみとなります。

●現役生コースと同様、特待生制度が適用されます。

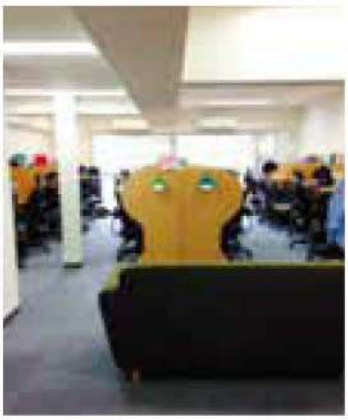
●詳細につきましては、高田馬場校までお問い合わせください。



高卒部での押川講師による指導風景。生徒は押川講師と同じテーブルで勉強しています。講師と生徒が常に至近距離にいることで、生徒はいつでも講師に質問でき、講師の目が一人ひとりに行き届くという理想的な学習環境を実現することができるのです。



高卒女子用自習室



高卒男子用自習室

生徒の皆さんは、各自お気に入りのコーナーがあるようです。いつも静かに勉強している姿に心打たれます。

成増塾OB会&講演会

成増塾OB会、それは、生涯に渡って大きな力を与えてくれる人脈、友情を育むことができるネットワーク。

今年、創立25周年を迎える成増塾では10年前に、塾としては珍しいOB会を結成しました。
現在のOB会長は、成増塾卒業生で現在、監査法人を経営している公認会計士の坂本亮さんです。
若くてバイタリティーあふれる坂本さんのリーダーシップの下、
成増塾を卒業したOBは一年に数回、講演会や親睦会で交流を深めています。

【OB会の目的】

●多様な人的ネットワークの活用により、個々の価値を向上させること。

●成増塾の今後の発展に貢献すること。

【OB会の特徴】

ＯＢ会のメンバーは以下のような特徴があります。

◉それぞれが異なる高校・大学、または異なる職業に就いているという多様なバックグラウンドを持っていること

◉全員が難関大学を目指して自身を鍛え上げた経験を持つ人材であること

こうしたメンバーによるネットワークを持ち、生かすことができれば、メンバーそれぞれにとって大変心強い存在になるはずです。また本会では、このネットワークを自身のために役立てることはもちろんのこと、受験という人生の重要な転機において多くのサポートをしてくれた成増塾に対しても還元をしていきたいと考えています。

そのためＯＢ会では以下のような活動を通じて、ＯＢ同士や塾との交流を持ち続けることにしています。

▶懇親会の開催、合格祝賀会への参加。

▶成増塾の各種企画への協力。
（成増塾ニュースレターの取材協力など）

▶講演活動への参加。
（受験のコツ、志望校の選び方についてなど）

成増塾の卒業生の皆さん、ぜひOB会活動にご参加ください。そして一緒に楽しみましょう！

OB会会長：坂本 亮さん（現公認会計士）



プロフィール
慶応義塾大学在学中に公認会計士の国家試験に合格。39歳の現在、監査法人の社長として活躍中。今の自分があるのは成増塾のおかげと、今でも塾への感謝を忘れない、素敵な3児のパパです。



かつて成増塾で学んだOBの皆さんも、今では立派なパパ、ママになり家族連れでの参加も珍しくありません。親子2代に渡る交流も、今後増えていくことでしょう。

【OB親睦会】

成増塾ＯＢ親睦会は年に一回行われます。毎回、坂本さんを中心にＯＢが様々な情報を交換し、親睦を深めます。



毎年行われる成増塾の合格祝賀会のあと、坂本さん自らＯＢ会の説明をします。成増塾出身のＯＢは坂本さんを中心に生涯続く交友関係を築いていくことになります。

また、OB親睦会には、成増塾の現役生徒たちも招待されOBとの交流の場にもなっています。先輩、後輩の強いつながりがあるのも成増塾OB会ならではの魅力です。



成増塾設立間もない頃の卒業生、一村君とその奥さまに囲まれる高島塾長。一村君は慶応大学卒業のあと、現在外資系IT企業で活躍しています。OB会に美しい奥様と一緒に遊びに来てくれました。



記念すべき第1回OB親睦会の2次会でのスナップ写真。久々に仲間と再会して、思い出話に花が咲きます。

２０１９年ＯＢ親睦会は、表参道のイタリアン・レストラン「Ｃａｓｉｔａ Ｌｏｕｎｇｅ」で開催されました。毎回、厳選された有名店で行われるのも、参加者の皆さんの楽しみのひとつです。



素敵なお店と美味しい料理。懐かしい顔ぶれが揃い、参加者の会話も弾みます。



成増塾の各種イベントには医学部に合格したOBの皆さんも気軽に遊びに来てくれます。



現役の生徒達もOBの皆さんから大学生活のナマの情報を聞くことが出来ます。



成増塾卒塾生に囲まれる高島塾長。社会人になったばかりのＯＢ達との会話も弾みます。社会人になっても、ＯＢの方々が親睦会に参加し、活躍している様子を伝えてくれることは何よりの喜びです。



高島塾長、自ら企画し司会も務めるOB親睦会恒例の『チーム対抗クイズ大会』。
2019年は20歳以上のOBを対象に高級ワインの銘柄当てクイズで大いに盛り上がりました。



Topics　高島塾長、母校・早稲田大学の鳥山恭一教授を訪問!



高島塾長がＯＢとして、早稲田大学法学部教授の鳥山恭一先生の研究室を訪問しました。訪問の目的はズバリ！「成増塾から早稲田大学への入学者を増やすこと。」早稲田と慶応に両方合格した生徒は、慶応に入学することが多いのですが、早稲田出身の高島塾長としては早稲田の魅力を知ってもらい、もっとたくさんの成増塾卒生に入学して欲しいと考えています。

そこで、とりわけ早稲田を愛する鳥山先生に「成増塾から早稲田の法学部に合格したあかつきには塾生を是非よろしくお願いします！」と強く要請。鳥山先生からは「もちろんです。」という頼もしいお言葉をいただくことができました。



「日経ビジネス」教育特集号より、成増塾OBが取材を受けました。当日は門脇講師も交え、終始和やかなムードの中で成増塾の魅力について語ってくれました。



成増塾では定期的に講師陣とスタッフによる、親睦会も行われます。そこでは普段は多忙な講師同志、スタッフとの貴重なコミュニケーションの場となります。

【第1回・OB講演会】

２０１２年度ＯＢ講演会では、「先輩たちは受験をどう乗り切ったのか～気になる大学生の実態とは？！～」というテーマで、現役大学生６人によるディスカッション形式の講演を行いました。その様子をお知らせします。

講演会では６人が受験勉強中に使用していた年季の入ったノートや単語帳も展示され、保護者の方が熱心に見入る姿も見られました。２時間の講演会終了後のアンケートでは、「大学生活について聞くことで具体的なイメージをつかむことができた」「受験勉強へのやる気が出てきた」など、多くの意見をいただきました。ＯＢ会にとってこうした活動が、現役の受験生の役に立てたなら幸いです。この講演会はUSTREAM配信を行いましたので、試聴いただけます。ぜひご覧ください。

http://www.ustream.tv/recorded/26814786

成増塾ＯＢ会では、社会人から大学生まで異なる年代の人々が成増塾というつながりで集い、塾に貢献したいという思いで活動しています。今後の活動としては、ＯＢによるキャンパスツアーを計画中です。ＯＢならではの、学生ならではのできることをしていきたいと考えています。今後の活動にも奮ってご参加ください。

【文】OB会編集委員 石原瑞季

▼参加者



巽 厚都さん（東京大学薬学部）

★大学に入って高校時代と違うことは、“自由”が増えたことです。お金にも時間にも余裕ができて、やりたいことは何でもできるようになりました。一方で、何もしなくても漠然に時間が過ぎてしまう不安があります。大学受験は泣いても笑っても人生に一度きり、それなら思いきりやってやろうと頑張りました。競争を勝ち抜いたという自信もついたし、勉強したことは今の大学の勉強につながることもあります。



富岡大樹さん（東京理科大学数理情報科）

★高校時代から疑問に思ったことはずっと考える癖がありました。巽くんの話とは逆に、高校までの勉強と大学の講義では全く別物になっていることもあります。たとえばベクトルは必ず図と一緒に出題されていると思いますが、いま僕が大学で学んでいるベクトルには一切図が出てきません。授業についていけないこともしばしばありますが、それはそれでおもしろかったりします（笑）。



儀部真緒さん（早稲田大学創造理工学部建築学科）

★私はとにかく建築を学びたくて受験をしました。受験勉強では、単語帳をノート代わりにして科学のノートをまとめて常に持ち歩いていました。大学に入ってからは、毎週課題が出て課題をこなすので精いっぱいです。イス100個書けとかあったり（笑）。だけどみんな楽しそうにしてるんです。みんなで協力して一緒に課題をやったり、遊ぶときは遊んで、やりたいことができていて本当に楽しいです。





ＯＢ講演会のあとのスナップショット。この日も色々な方面に進んだＯＢが塾生、保護者を前に受験本番に向けての心構えやキャンパスライフについて生き生きと話してくれました。

【第2回・OB講演会】

２０１３年度ＯＢ講演会は下記の３名の方々を招いて行われました。

▼参加者



廣瀬翔太さん（東京大学文科Ⅲ類）

★日本史が大好きで、受験勉強中は自分で意識しないと、息抜き代わりに日本史を勉強してしまっていました（笑）。東大を選んだのはオープンキャンパスで図書館を見学して、研究環境が整っていると感じたからです。オープンキャンパス以外にも東大出身の人から話を聞くなどして情報を集めました。大学では高校時代と比べて、自分の時間をカスタマイズできるところが良いなと感じています。



高橋侑希さん（慶応義塾大学経済学部）

★知り合いの慶應生に学生街に連れてってもらって、自然と学生の雰囲気を感じて、僕に合っていると思ったので、慶應を志望しました。入学当初はサークル活動に参加したりしていましたが、海外に留学してから生活が変わったように思います。最近ではいろんな友達と積極的に会って語り合うことが楽しくて。大学では高校まで学んだこともないような講義を受けたり、セミナーに参加できるので、多くのことを学べて充実しています。



石原瑞季さん（早稲田大学文化構想学部）

★周りの早稲田出身の大人たちがみんな母校を誇りにしているのがうらやましくて、早稲田に入りたくて受験しました。私はスポーツ新聞を作るサークルに所属し、その活動に力を入れています。サークルは部活のように強制力はないし、入っても入らなくてもいいので人それぞれの関わり方ができます。また、バイトでは早稲田だけでなく他大学の人や大学に行っていない人もいて、そうした今までなかった人との出会いがとても楽しいです。



森川笙子さん（慶応義塾大学文学部）

★慶応のオーケストラ部でチェロを演奏しているそうです。成増塾時代に築いた英語の基礎がとても役に立ったそうです。



高橋侑希さん（慶応義塾大学経済学部）

★現在、内閣府主催の海外学生派遣プログラムで実行委員長を務めています。



須藤篤史さん（自治医科大学医学部）

★東京都地域枠で合格した須藤君は学費全額免除生です。地域医療に貢献したいと将来の夢を熱く語ってくれました。体育会水泳部に所属し一段と逞しくなりました。





OB講演会開始前の控室にて。成増塾の塾生、保護者を前にした講演前の最後の打ち合わせで、OBの皆さんにもやや緊張の様子が見られます。



OB講演会終了後も生徒達が個別にOBの皆さんに質問タイム。最も身近な先輩から得る情報は貴重なひとときです。

【第3回・OB講演会】

2017年10月15日(日)、成増塾 高田馬場校にて下記4名の皆さんにご参加いただきました。



▼参加者



友田英里さん(日本大学医学部、京都大学薬学科)

★成増塾の自習スペースを毎日のように使っていました。わからないところはいつでも先生に質問できるので、本当に助かりました。成増塾には本当に感謝しています。



榎本誠也さん(早稲田大学理工学部)

★成増塾の先生にはいつもパワーをもらっていました。受験前は毎週終電近くまで質問につきあってくれた事に、本当に感謝しています。



S.N.さん(上智大学総合人間学部)

★上智大学合格は長年の夢でした。成増塾の先生方の熱心な指導で、夢を実現することが出来ました。成増塾の先生方を信じてついて行けば、皆さんも必ず合格できます。

S.T.さん(東京大学文科1類)

★私は大手予備校に在籍しながら、不得意科目の数学だけ成増塾で押川先生の授業を受講していました。押川先生は合格までの具体的なプランを私のために作ってくれました。お陰で最後は数学に対する苦手意識も無くすことが出来ました。



OB講演会では、熱心な生徒、保護者の皆さんからの質問が殺到します。毎回、司会を務めてくれる坂本OB会会長も大忙しです。

【第4回・OB講演会】

2018年8月12日(日)、成増塾 高田馬場校に今回も超満員の参加者を集めて行われました。



▼参加者



小野寺果穂さん(慶応義塾大学文学部)

★慶応大学文学部に合格。慶応大学は夢にまで見た志望大学だったとの熱い想いを語ってくれました。



矢島康平さん(東大理科I類)

★東大理科I類に合格。東大受験の具体的なノウハウをわかりやすく説明してくれました。



平野真帆さん(東大理科I類)

★東大理科I類に合格。東大に合格した多くの才能ある人達と勉強していることに毎日刺激を受けているそうです。



曽根佑太郎さん(早稲田大学政治経済学部)

★早稲田大学政治経済学部に合格。成増塾で英語の成績が急上昇したことが合格の決め手になったそうです。



福田智代さん(広島大学理学部)

★広島大学理学部合格。数学が苦手だったそうですが、沢山の練習問題を解き最後は得意科目にすることが出来たそうです。



医学部志望の生徒がOBの皆さんに熱心に質問をします。

【 特 報 】
医学部を目指す生徒、保護者の皆様の熱い要望にお応えして『医学部セミナー2019』開催!!

近年ますます人気が高まり、難化が進む医学部に合格するにはどうすればよいか‥‥!?
成増塾が熱い要望にお応えして企画・開催した『医学部セミナー』が
2019年8月11日(日)成増塾 高場馬場校にて開催されました。



参加者は、
左から高島塾長、
現役医師の友利 伸也さん、
数学/化学担当の森本講師、
日大医学部の友田 英理さん、
慈恵会医大の九島 遼大さん、
司会でOB会長の坂本 亮さん。

高島塾長の挨拶で始まった「医学部セミナー2019」。第1部は数学・化学担当の森本講師による講演です。



【第1部 森本 恭彰講師 講演】

医学部合格に向けて
最新の傾向と対策について
そしてより具体的な入試問題の分析。

【主な内容】

- 国立か私立か？受験内容の違いについて
- 国立大学医学部のセンター得点率は東大、京大と同レベル
- 国立私立併願と国立専願では異なる勉強の仕方
- 私立大学医学部の受験について
- 大学の入試日程を考慮した受験をすることが重要
- 私大医学部受験は体力も考慮する必要がある
- 過去問の分析が入試の成否のカギを握る
- 偏差値の低い大学の問題が易しいとは限らない
- 受験校を決めるのは問題との相性も大切
- 英語が得意でも問題との相性が大切
- 化学の問題はクセが少ない
- 過去問研究はいつからするべきか
- 多浪生でも合格する大学はある

森本講師による熱気溢れる講演は、当日ご来場いただいた医学部合格を目指す中1生から高卒生までの生徒さんと保護者の皆さまに大好評をいただきました。

【医学部セミナー2019 第2部】
成増塾OBの現役医師が座談会に参加。医学部合格から医学部での6年間の道程。



●出席者
左から
九島 遼大さん
（東京慈恵会医科大学医学部）
友田 英里さん
（日本大学医学部）
友利 伸也さん
（帝京大学医学部）

●司会・進行役
坂本 亮さん
（成増塾OB会会長）

成増塾から医学部を目指す1人でも多くの生徒に合格して欲しいという熱い気持ちで、3名のOBの皆さんが座談会にかけつけてくれました。現役の医師と現役の医学部生がそれぞれ歩んだ道程を語ります。

坂本　こんにちは！今日はお忙しい中をお集まりいただきありがとうございます。私は2000年に成増塾を卒業した坂本と申します。現在会計士事務所を経営しております。また、成増塾の卒業生が入会するOB会の会長を務めさせていただいております。

今日は成増塾出身の３人の医学部合格者に来ていただき医学部を目指す皆さんのために役に立つ情報をお届けすることができればと思います。では最初に３人の方に自己紹介をしていただきましょう。

友利　私は2012年成増塾を卒業しました。帝京大学医学部に入学し、現在は松戸の病院で初期研修をしています。私は、本日は医学部に合格した後、医師になるまでの話をさせていただきたいと思います。

友田　こんにちは。私は2016年に成増塾を卒業した友田と申します。現在、日本大学医学部に在籍しています。今日は、医学部はどんなところか、という話をさせていただきます。

九島　こんにちは。私は2019年に成増塾を卒業し、慈恵医科大学に合格しました。私はまだ今年受験を経験したばかりなのでそれについてお話をさせていただきたいと思います。

坂本　はい、ありがとうございます。では、早速ですが、九島さんにお尋ねしようと思います。九島さんの得意科目はなんでしたか。

九島　はい。英語と化学が得意科目でした。

【医学部を目指したきっかけ】

坂本　いつから医学部を目指されていたのですか？

九島　そうですね、僕の場合、両親が医者ということもあり、実は、将来は医者になることしか考えていませんでした。僕は中高一貫校の暁星というところに通っていたのですが、周囲の人たちも医学部志望者が多く、自然と医学部を目指すよう

になりました。

坂本　なるほど。そうなんですね。ところで、医学部といってもたくさんの大学があると思うのですが、学校選びはどのようにされたのですか？

【なぜ慈恵医大を第一志望にしたのか】

九島　僕の場合、高３の５月まで部活をやっており、受験まで時間があまりなかったので国立大学は諦め、最初から私立専願で行きました。私立の中で、現役で行ける一番レベルの高い大学にしようと思いました。

坂本　そうなんですね。それで結果的には第一志望の慈恵医大に合格することができたのですね。いま入試を振り返ってみた時、入試ではどの科目が一番重要だと思いましたか？

【英語の学力が合格の決め手】

九島　僕の場合はやっぱり英語ですね。英語の配点が高い大学もあり、英語ができないとそれだけで志望校からはずれてしまうと感じました。また、英語は数学と違って高得点を安定してとることができるのでその意味でも重要だと思います。

坂本　なるほど。では、逆に苦手な科目は何でしたか？

【勉強時間の配分】

九島　そうですね。数学が苦手で最後まで足を引っ張られたかなと思います。ただ、数学は難しい問題は、解ける人があまりいないのでそれほど差がつかなかったのではないかと思います。

坂本　九島さんは私立専願なので受験に必要な科目は英、数、理科２科目ですよね。これらの科目に使った勉強時間の配分はどんな感じでしたか？

九島　僕の場合、先ほども言ったように英語が得意科目でしたので英語は高３の夏くらいまでには実戦形式で勉強できる学力がついていました。そこで夏休み中は、英語は朝の２時間くらいを使って長文問題を解くといったことしかやりませんでした。残りの時間は数学と理科にあてました。受験直前の時期には理科を集中的に勉強していました。

坂本　なるほど。それらの科目の時間を比で表すとどんな感じになりますか？

九島　そうですね、夏休み中は英語、数学、理科の配分が、2:4:4という感じだと思います。それが直前には2:2:6くらいになりました。

【過去問分析について】

坂本　ありがとうございます。ところで受験において過去問分析が大事だ、とは昔から言われていることだと思いますが、過去問分析はいつごろから始められましたか？

九島　英語は夏に２年分くらいを解いてみました。他の科目は12月中旬の学校のテストが終わってから始めました。直前のその時期には勉強時間の大半は過去問を解くことに充てていました。

坂本　そうなんですね。過去問の分析は本番では役に立ちましたか？

九島　はい、とても役に立ちました。入試問題の過去問は、よく言われていることですが「志望大学に合格するために一番いい問題」なので過去問分析は本当に徹底的に行いました。過去問を分析してその大学の問題に慣れることはとても重要だと思います。入試問題の出題傾向や出題される問題の範囲は決まっているのでそれを、身をもって確かめることはとても重要です。過去問を解いて自分に足りないところを発見できたのでそれをきっかけに弱点を補強することもできました。

坂本　なるほど。過去問の大切さを九島さんは身をもって経験されたのですね。それはとても貴重なお話ですね。受験勉強で身につけたことは大学



緊張気味のOBの皆さん。司会を務めた成増塾OB会会長の坂本さんのさわやかな笑顔が3人をリラックスさせます。

で役に立っていますか？

【英語は医師になってからも重要】

九島　はい、入学して１年目はいわゆる教養科目が多いので役に立っています。ただ、今後のことを考えると、数学の問題を解く学力はあまり問われないと思うのですが、英語に関しては論文を読んだり書いたりするのに直接役に立つと思います。医師である両親を見ていても英語の論文を読んだり書いたりしていますのでそれがよくわかります。

坂本　受験で勉強したこと、特に英語はこれからもずっと役に立つんですね。

ありがとうございました。

では、次に友田さんに医学部生の毎日の生活について聞いてみたいと思います。

友田さんは今２年生ですが医学部ではどういったことを勉強されているのですか？

【医学部生の毎日】

友田　はい、医学部での勉強内容は私が在籍している日大の場合は１年目に基礎科目、２年目に「人体がいかにして正常に動くのか」という正常値の働き、３年目に病気の話、４年目に実習といった感じです。

坂本　週に何日大学には通われているのですか？

友田　週５日です。私の毎日は高校生の時とほぼ変わらなくて、朝９時から始まってふつうは３時ごろまで、遅い時には夕方の５時半くらいまで授業があります。お昼休みは一時間くらいです。

坂本　課外活動は何かされているのですか？



現役医師の友利さんは医師としての日常をこの日のために自ら作ったパワーポイントで説明してくれました。

友田　はい、私は弓道部に所属しています。また救急救命の資格取得に向けたACLSという部活もしています。

坂本　それはどのような活動をするのですか？

友田　人が倒れた時などの心肺蘇生や心臓マッサージの方法を身に着けていきます。全国大会もありそれに向けてみんなで活動を行います。部活動はそれほど大変ではありません。

坂本　そうなんですね。医学部に入ってよかったことは何でしょうか？

友田　医学部は他の学部とは異なり医学部に在籍する130名全員が同じ授業を受けて試験を乗り越えていくので友達ができやすいです。

坂本　130名なんですね。友利さんの大学は１学年何人ですか？

友利　僕のところは160人くらいでした。ただ、僕の大学は留年する人も多く２０-３０人が留年していました。

坂本　留年が多いんですね。学年を超えた絆ができるかもしれませんね（笑）

九島さんのところは何人ですか？

九島　慈恵医大は110人です。留年はほとんどないですね。

坂本　他大学との交流はありますか？

友利　僕はソフトテニス部に所属していました。他大の医学部の人と大会等で交流することはあります。

【医学部での６年間について】

坂本　なるほど。友利さんは現在病院で初期研修をされているとおっしゃっていましたが、医学部生の６年間について簡単に説明していただけますか？

友利　はい。僕の大学の場合、１年から３年までで、教養科目、基礎医学、臨床医学を学びます。４年になると病院実習に出るための試験であるCBTやOSCEといったものを受験することになります。CBTはパソコンで行う試験です。またOSCEは模擬患者を使って行います。４年時は見学型の臨床実習があります。そして５年になると

参加型臨床実習というものがあります。６年時には選択の臨床実習があり、初期研修の研修先の病院を決めるマッチングというものも行われます。その後卒業試験と国家試験があります。医師国家試験にも予備校がありみんなで協力して乗り越えていくという感じです。国家試験に合格すると研修先の病院に配属されることになります。

坂本　試験がかなりたくさんあるんですね。卒業試験や国家試験に落ちてしまうとどうなるのですか？

友利　国家試験に落ちると決まっていた研修先の採用も取り消されることになります。

【医師に問われる資質】

坂本　そうなんですね。友利さんに一つお聞きしたいのですが、医師に向いている性格とか向いていない性格といったものはあるのでしょうか？

友利　そうですね。臨床に行く人は患者さんや患者さんの家族とのコミュニケーションが重要になりますので勉強以外でもそういう能力が必要になるとは思います。また、医療の世界は日々進歩していますので絶えず勉強をし続けることも求められると思います。

【高校時代を振り返って】

坂本　高校生の時の自分を振り返って、何をやっておけばよかったと思いますか？

友利　入試で合格するためには基礎的な学力を早いうちに身につけておくことはもちろんですが、高校生の時は部活や旅行などをして見聞を広めておくことも大事だと思います。

坂本　医師になってよかったと思うのはどういう時ですか？

友利　ある時、救急搬送されてきた患者さんがいました。僕たちのチームの判断がよかったためその患者さんの家族の方から感謝の言葉をもらえた時は凄く嬉しかったです。僕はまだ研修医ですが、毎日そういう経験ができます。

【医学部を目指すみなさんへのメッセージ】

坂本　そうなんですね。医師は人の命を預かる職業だから責任も重い反面、やりがいもすごくあるということですね。では、最後に３人に医学部を目指す生徒さんのために一言ずつメッセージを頂けますか？

九島　僕は夏休みの60日間集中して勉強することでかなり合格に近づけたと思います。その意味で「夏を制する者は受験を制する」という言葉は正しいと思います。夏休みに頑張れば秋以降の勉強にもつながると思うので是非、夏休みを大切にしてください。

友田　私は受験の前には自分が受かることを信じることができず、すごく不安な気持ちになっていました。ただ、それを乗り越えて合格することができました。皆さんも苦しい状況を乗り越えることができればその後の人生にもきっと役に立つと思って頑張ってください。

友利　医学部は１年から６年まで毎日勉強が続きます。医学部受験の時に勉強の習慣を身につけることはとても大切だと思います。

坂本　ありがとうございました。今日の３人のお話が医学部を目指す皆さんに少しでも役に立ってくれればうれしいです。



現役医師と現役医学部生の体験談と日常を知ることは、医学部を目指す生徒の皆さんには大変興味深く、参加者全員が話しに聞き入っていました。

合格祝賀会

毎年3月、成増塾では合格祝賀会を盛大に開催します!
晴れて志望校に合格した卒業生の皆さん、満面の笑顔です!!



表参道の素敵なパーティー・スペース「キハチ 青山本店」で開催された、合格祝賀会の模様を紹介いたします。

受験を終え、新しい生活への準備が始まる忙しい時期にも関わらず、多くの方々にご参加いただきました。

美味しい食事に、楽しいゲーム、そして感動と笑いのスピーチの数々・・・参加した卒業生の皆さんは満面の笑顔に満ち溢れておりました。



高島塾長自ら企画・司会を務める"恒例チーム別ビンゴクイズ大会"は毎年大好評!



用意された数々の美味しい料理が"真昼の饗宴"を彩ります。



大好きなワインを片手に満面の笑みを見せる門脇講師。苦労を共にした講師陣も最良の日を迎えました。



森本講師と押川講師に囲まれて思い出話しに花が咲きます。

【成増塾 特別講演会】

成増塾では、様々な分野で活躍する一流の方々を招いて講演会を行っております。過去には統合医療の分野の第一人者である東京女子医大教授、川嶋先生、数学者のピーターフランクルさん、建築家の手塚貴晴さんらをお招きしました。



川嶋先生からは医学部を目指す生徒達に「医者の仕事は大変だが、多くの人の命を救うことができ、それだけやりがいもあるので頑張ってほしい」と励ましのエールをいただきました。



世界を舞台に活躍する有名な建築家、手塚貴晴さんと、早稲田の建築科で勉強している礒部さんとのツーショット。

合格者の皆さんからのメッセージ動画も掲載!!



ホームページも是非ご覧下さい。 成増塾 検索

インターネット授業

成増塾では、体験授業を受ける前に授業がどんな様子か知りたい、という方のために授業のダイジェスト版をインターネットで提供しております。インターネット授業は現在のところ一部の講師の授業のみ視聴できますが、今後、講座数を増やしていく予定です。



▲インターネット体験授業の様子。ホームページからいつでもご覧になることができます。

各メディアで高い評価を受ける、信頼と実績。

成増塾が長年に渡って築きあげてきた信頼と実績の数々がマスコミを通じて、各メディアに紹介されています。





日経BP社　「東京ストーリー　教育特集号」より

『東大にいちばん近い教室』として紹介されました。

「進学塾という選択」（日経プレミアシリーズ）より





日経BP社　「メディカルストーリー　教育特集号」より

その他、近年成増塾に関する記事が多数、各誌面を賑わしています。

各校舎とも必ず電話で予約してからお越しください。●電話受付：月曜日～土曜日 17:00～22:00

※予約なしにお越しいただいても、担当者不在のため十分な対応を致しかねる場合があります。



成増校

TEL.03-5997-7512

〒175-0094 板橋区成増2-17-10タカスビル4F

東武東上線 成増駅南口から徒歩3分。
東京メトロ有楽町線 成増駅2番出口から左へ、2軒目のビル。



高田馬場校

TEL.03-5285-0554

本校：〒169-0075 新宿区高田馬場1-28-3 工新ビル3F

JR山手線・西武新宿線高田馬場駅 戸山口から徒歩1分。
「すき家」の隣のビル、2Fは「赤門クリニック」。



下高井戸校

TEL.03-3324-6466

〒168-0073 杉並区下高井戸1-1-6 第15通南 ビル2F

京王線・東急世田谷線 下高井戸駅から徒歩1分。
下高井戸市場入口より進む。
1Fは処方箋薬局。



西葛西校

TEL.03-3804-4584

〒134-0088 江戸川区西葛西3-15-9 共栄ビル8F

東京メトロ東西線 西葛西駅北口から 徒歩1分。



白金台校

TEL.03-6409-6357

〒108-0071 港区白金台3-14-4 LBビルディング3F

都営三田線・東京メトロ南北線 白金台駅1番出口から左へすぐ。

ホームページもご覧下さい! 成増塾 検索

2021_1